

琵琶湖博物館 年報

第 25 号

2020 年度（令和 2 年度）

滋賀県立琵琶湖博物館

2021 年（令和 3 年）10 月

ごあいさつ

琵琶湖博物館にとって 2020 年度は大きな節目の年でした。それは、博物館の第二次中長期基本計画である「新琵琶湖博物館創造基本計画」の最終年だったからです。この計画は、2014 年 3 月に策定されたもので、その副題は『博物館の「木」から地域の「森」へ』となっていました。つまり、幼木から始まった琵琶湖博物館は、研究・調査や交流を通じて成木へと徐々に成長してきましたが、将来の「湖と人間」のあるべき社会を地域の人々と共に考え、築くためには、1 本の「木」としての博物館があるだけでは不十分であり、地域で活躍する人々や機関と連携した「森」となる必要がありました。

このことを目指して、第二次中長期基本計画では、博物館自体を充実させる展示・交流空間の再構築や、外部の多様な主体との連携強化など、7 つの柱となる方針と 66 の具体的な目標を持って活動を行ってきました。

展示・交流空間の再構築では、3 期 6 年に及ぶ常設展示室の全面的なリニューアルや、新たな展示室「おとなのディスカバリー」の設置、屋外空間に樹冠トレイルの建設などを行いました。こうした、リニューアルの原動力となったのは、開館以来、地域の方々や他の研究機関の方々とも行ってきた調査や研究の蓄積です。調査に伴って収集されたり、ご寄贈いただいたりした資料は、現在では 140 万点を超える量となりました。

また、リニューアルにあたっては、県の予算以外にも 260 以上の企業や団体、また個人の方々からの多大なご寄付等を頂戴して、ようやく計画を成し遂げることができました。このようにして新たに生まれたり、深まったりした関係性の中で、企業や団体の方々と希少種の保護活動、生物調査、博物館施設を活用しての展示会、製品の共同開発などの様々な活動も増えてきました。このことは、中長期基本計画の目標のひとつでもある「多様な主体との連携の強化」を進めることにもなりました。

こうしたリニューアルの完成を祝うグランドオープンの式典は、7 月に行われる予定でしたが、新型コロナウイルス感染症に伴う年度初めの臨時休館などの影響で、10 月にずれ込むことになりました。また、その臨時休館が終わり再開した後にも、感染症対策として、入館者制限、予約システムの導入、観察会や講座の中止、企画展示の開催の延期などが続き、博物館の利用者の方々には多大なるご不便をおかけした年度でもありました。

こうした中、2021 年度からは、琵琶湖博物館の第三次中長期基本計画が開始されました。感染症の流行を契機に利用が拡大しているオンラインのコンテンツの増加、発展する ICT 技術の活用、観光や持続可能な社会と博物館を結びつける動きへの対応、災害への備えなどを意識しながら、さらに人々が出あい、学びあい、利用しやすい博物館となるよう、これから 10 年の活動を地域の方々と共に進めていきたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

2021 年 10 月 20 日

滋賀県立琵琶湖博物館
館 長 高橋 啓一

リニューアルグランドオープン オープニングセレモニー



テープカット



地元子ども達によるお祝いの手作りロケットの打ち上げ



セレモニー終了後の様子



三日月大造滋賀県知事による挨拶



高橋啓一館長による挨拶



来賓のみなさまと記念写真

目 次

ごあいさつ	1
リニューアルグランドオープン	2
I 博物館機能の強化	
1 資料が活用できる博物館	
資料整備活動	
(1) 収蔵資料	6
(2) 資料の活用	11
(3) 資料の保管	15
2 研究を進めて活かせる博物館	
研究推進	
(1) 総合研究	17
(2) 共同研究	17
(3) 専門研究	18
(4) 研究審査委員会	19
(5) 研究助成を受けた研究	19
(6) 研究員の受け入れ	22
研究発信	
(1) 公表された主な研究業績	23
(2) 新琵琶湖学セミナー	29
(3) 研究セミナー・特別研究セミナー	29
(4) 琵琶湖博物館ブックレット	31
研究交流	
(1) 協力協定に基づく連携	31
(2) 研究機関との連絡活動	32
(3) 海外活動	32
研究部活動	
(1) 研修	32
(2) 薬品類の管理	33
(3) 研究備品の管理	33
3 新たな参加と発見ができる博物館	
展示活動	
(1) 常設展示の主な更新	34
(2) 企画展示・水族企画展示	43
(3) トピック展示等	48
(4) 連携展示	49
展示室における新型コロナ対策	50
展示交流	
(1) コロナ禍における展示交流の構築	55
(2) ディスカバリールームのイベント	56
(3) デジタルサイネージ	56
博物館連携	
(1) 滋賀県博物館協議会	57
(2) 烏丸半島活性化連携事業	57

4 体験と交流を促す博物館	
一般利用者へのサービス	
(1) 観察会・見学会等	58
(2) 講座	58
(3) 体験教室	58
(4) 体験学習	59
学校連携	
(1) 学校団体	60
(2) 教育指導者等研修	62
企業連携	63
研修・実習	
(1) 国際交流	63
(2) 視察対応（国内）	63
(3) 博物館実習	63
5 対話と応援ができる博物館	
利用者主体の事業	
(1) フィールドレポーター	65
(2) はしかけ制度	66
地域交流活動への支援	
(1) 博物館内での支援活動	87
(2) 地域での支援活動	87
(3) 質問対応	88
(4) びわ博フェス 2020	89
琵琶湖博物館環境学習センター	
(1) 環境学習に関する相談対応・情報提供	89
(2) 環境学習の交流の場づくり	90
情報発信活動	
(1) 地域発信！参加型移動博物館	91
(2) インターネットを利用した館外への情報提供	91
(3) 印刷物	92
(4) コンテンツの Web 発信	92
II 新琵琶湖博物館の創造	93
III 環境の整備	
1 拠点としての施設整備	
(1) 利用者用施設の整備	94
(2) 情報システムの整備	94
(3) 来館者アンケート調査	94
2 柔軟な運営組織	
(1) 組織	99
(2) 職員	100
3 社会的支援と新しい経営	
(1) 利用状況（2020 年度入館者数）	104
(2) 広報活動	106
(3) 予算	121
(4) 寄付など	121
4 存在基盤の確立	
(1) 琵琶湖博物館協議会	122
(2) 企画・計画	122
IV 2020 年度をふり返って	
1 研究部	124
2 事業部	125
3 総務部	126

I 博物館機能の強化

1 資料が活用できる博物館

資料整備活動

琵琶湖博物館では、「琵琶湖とその集水域および淀川流域」を中心として、その全体評価に関わるもの、博物館のテーマである「湖と人間」に関係する日本やアジア、世界の湖沼とその周辺地域における自然・人文・社会科学等に関する過去から現在までの資料を収集し、それらの整理、保管を行い、活用することで博物館活動の充実に努めている。

それらの資料は、実物資料のほか、生魚などの生体資料、映像資料、図書資料および博物館業務に必要な資料があり、博物館職員や参加型調査による収集、受贈、受託、提供、交換、購入、製作などの方法によって受け入れられる。また、それらは必要な時に利用できるよう、各資料の体系に従って整理し、次世代へ引き継ぐために、長期間にわたって安全に良好な状態で保管する活動を行っている。保管や利用にあたっては、各資料に関する専門の学芸職員のほか、図書資料については、司書資格をもった職員が対応にあたっている。

以下に、2020 年度の資料整備および利活用の状況を示す。

(1) 収蔵資料

収蔵資料は、地学標本、動物標本、植物標本、微小生物標本、水族資料（生体資料）、考古資料、歴史資料、民俗資料、環境資料、図書資料、映像資料の 11 分野にわたる。

登録資料数とは、琵琶湖博物館情報システムの収蔵品データベースに登録されているものの総数をいい、収蔵概数とは、登録資料数と未整理な資料を含めた収蔵全体数である。

2020 年度末現在で、博物館登録資料は 675,189 で、収蔵概数は 1,434,691 となった。これらの収蔵資料は、保存に影響を与えない範囲で、展示、閲覧および貸出等に利用している。

1) 収蔵資料数

2021 年 3 月末現在

	登録資料数	収蔵概数	2020 年度登録数	2020 年度受入総数
地学	95,365	116,690	8,736	2,624
動物	191,452	367,401	551	5,010
植物	90,585	191,641	621	13
微生物	13,054	74,582	1,039	30
水族（生体）	13,557	16,382	9,621	12,885
考古	1,004	1,473 箱と 875	1,004	0
歴史	292	227	0	0
民俗	6,795	6,925	74	1,915
環境	0	45 箱と 770	0	0
図書	149,272 と 7,125 タイトル	154,000	2,172	3,119
映像	113,813	505,198	32,071	72,052
合計	675,189 と 7,125 タイトル	1,434,691 と 1,518 箱	55,889	97,648

【各分野別の詳細】

地学標本	2020 年度							累 積	
	登録数	採集数	寄贈数	購入数	提供数	受入総数	整理状況・作業内容・公開など	登録資料数	収蔵概数
化石	1	0	2,264	0	0	2,264	データベースの各アイテムへの入力作業中	43,356	50,270
岩石・鉱物	615	0	300	0	0	300		12,593	23,600
堆積物	8,114	0	60	0	0	60		38,159	40,160
プレパラート	6	0	0	0	0	0		1,257	2,660
小 計	8,736	0	2,624	0	0	2,624		95,365	116,690

動物標本		2020 年度							累 積	
		登録数	採集数	寄贈数	購入数	提供数	受入総数	整理状況・作業内容・公開など	登録資料数	収蔵概数
脊椎動物（魚類除く）		31	16	0	0	11	27		3,702	4,051
内 訳	哺乳類骨格標本	9	0	0	0	0	0	新規登録 9 件	911	911
	哺乳類乾燥標本	0	0	0	0	0	0		154	154
	哺乳類（その他）	0	0	0	0	1	1	標本受入（未登録）	818	819
	鳥類骨格標本	4	4	0	0	0	4	骨格標本 4	248	248
	鳥類乾燥標本（巣、卵、レプリカ等含む）	11	12	0	0	3	15	本剥製標本 4 仮剥製標本 7 部分剥製標本 4	1,048	1,064
	爬虫類骨格標本	0	0	0	0	0	0		43	43
	爬虫類剥製標本	0	0	0	0	0	0		10	10
	爬虫類液浸標本	3	0	0	0	3	3		47	47
	爬虫類（その他）	0	0	0	0	0	0		44	91
	両生類骨格標本	0	0	0	0	0	0		7	7
	両生類剥製標本	0	0	0	0	0	0		0	0
	両生類液浸標本	4	0	0	0	4	4		355	355
	両生類（その他）	0	0	0	0	0	0		17	302
魚類（淡水魚類）		479	1	0	0	40	41		58,412	87,417
内 訳	乾燥骨格および アクリル包埋標本	0	0	0	0	0	0		2,678	2,678
	DNA 分析用標本	5	0	0	0	5	5	標本受入と作成. 新規登録 5 件	3,723	3,723
	その他の液浸標本	474	1	0	0	35	36	新規採集, 寄贈標本および未登録標本の整理など. 新規登録 474 件	52,011	81,016
昆虫		0	0	4,790	0	144	4,934		102,480	242,846
内 訳	昆虫液浸標本	0	0	0	0	0	0	未登録標本の整理	12,512	31,074
	昆虫乾燥標本	0	0	4,790	0	144	4,934	滋賀県産標本の整理、布藤コレクションの登録作業	89,968	211,772
貝類		41	8	0	0	0	8	未登録標本の整理. 新規登録 41 件	14,497	18,030
昆虫と貝類以外の無脊椎動物（甲殻類、寄生虫など）		0	0	0	0	0	0		12,361	15,057
小 計		551	25	4,790	0	195	5,010		191,452	367,401

植物標本	2020 年度							果 積	
	登録数	採集数	寄贈数	購入数	提供数	受入総数	整理状況・作業内容・公開など	登録資料数	収蔵概数
さく葉標本	621	0	0	0	13	13	登録・ラベル貼付・収蔵・管理・ 低温処理・燻蒸庫燻蒸	90,585	190,301
植物液浸標本	0	0	0	0	0	0		0	0
菌類乾燥標本	0	0	0	0	0	0		0	121
水草包埋標本	0	0	0	0	0	0		0	57
プレパラート標本	0	0	0	0	0	0		0	1,162
小 計	621	0	0	0	13	13		90,585	191,641

微生物標本	2020 年度							果 積	
	登録数	作成・撮影	寄贈数	購入数	提供数	受入総数	整理状況・作業内容・公開など	登録資料数	収蔵概数
微小生物液浸標本	1,039	0	0	0	0	0		7,697	7,697
微小生物プレパラート	0	0	0	0	30	30		3,965	3,995
珪藻プレパラート	0	0	0	0	0	0		1,392	1,397
珪藻顕微鏡写真フィルム	0	0	0	0	0	0		0	25,324
珪藻顕微鏡写真 デジタルファイル	0	0	0	0	0	0		0	25,251
微小生物顕微鏡写真 デジタルファイル	0	0	0	0	0	0		0	10,052
微小生物動画ファイル	0	0	0	0	0	0		0	866
小 計	1,039	0	0	0	30	30		13,054	74,582

水族資料 (生体)		2020 年度							果 積	
		登録数	採集数	提供数	購入数	繁殖数	受入総	整理状況・作業内容・公開など	登録資料数	収蔵概数
脊椎動物		8,999	889	60	4,775	3,276	9,000		12,497	12,497
内 訳	哺乳類	6	0	6	0	0	6		92	92
	魚類	8,989	886	52	4,775	3,276	8,989		12,326	12,326
	両生類	3	3	1	0	0	4		42	42
	爬虫類	0	0	0	0	0	0		28	28
	鳥類	1	0	1	0	0	1		9	9
無脊椎動物		622	3,540	0	345	0	3,885		1,060	3,885
内 訳	昆虫類	0	0	0	0	0	0		0	0
	貝類	460	115	0	345	0	460		847	460
	甲殻類	162	3,235	0	0	0	3,235		211	3,235
	扁形動物	0	190	0	0	0	190		2	190
小 計		9,621	4,429	60	5,120	3,276	12,885		13,557	16,382

考古資料		2020 年度			果 積	
		登録数	受入総数	整理状況・作業内容・公開など	登録資料数	収蔵概数
土器・石器等(コンテナ数)		0	0	資料写真のデジタル化 考古データベース公開準備	0	1,394(箱)
松原内湖遺跡木器等 (コンテナ数及び点数)		1,004	0		1,004	44(箱)と 847
礎石・大型木製品等(床置き数)		0	0		0	19
展示用保管資料等(コンテナ数)		0	0		0	14(箱)
展示用大型資料		0	0		0	6
瓦・金属製品		0	0		0	21(箱)と 3
小 計		1,004	0		1,004	1,473(箱)と 875

歴史資料	2020 年度						累 積	
	登録数	購入数	寄贈数	提供数	受入総数	整理状況・作業内容・公開など	登録資料数	収蔵概数
古文書、絵図、絵画等	0	0	0	0	0	旧 B 展示で展示していたレプリカを収蔵庫に撤収した	292	162
二次資料 (レプリカ、模写、模造)	0	0	0	0	0		0	46
その他	0	0	0	0	0		0	19
小 計	0	0	0	0	0		292	227

民俗資料	2020 年度				累 積	
	登録数	寄贈・提供数	受入総数	整理状況・作業内容・公開など	登録資料数	収蔵概数
生活生業用具	23	1,574	1,574		4,156	4,164
漁撈用具(船関係用具を含む)	51	341	341		2,639	2,653
二次資料	0	0	0		0	108
小 計	74	1915	1915		6,795	6,925

環境資料	2020 年度					累 積	
	登録数	提供数	寄贈数	受入総数	整理状況・作業内容・公開など	登録資料数	収蔵概数
水環境調査資料	0	0	0	0		0	74
生活用具類	0	0	0	0		0	37
民具類	0	0	0	0		0	22 箱 と 630
二次資料 (レプリカなど)	0	0	0	0		0	23 箱 と 25
海外の湖沼船	0	0	0	0		0	4
小 計	0	0	0	0		0	45 箱 と 770

図書資料	2020 年度					累 積	
	登録数	購入数	寄贈・提供数	受入総数	整理状況・作業内容・公開など	登録資料数	収蔵概数
書籍	1,091 (※1)	20	904	924	書籍レファレンス、コピーサービス(有料)、 ファシ・ポスター管理、資料整理として 蔵書点検 13,700 点、図書装備約 1,000 冊。 その他、文献複写依頼 176 件、相互 貸借借受 2 件。	93,291	96,000
文献	1,081	0	1,081	1,081		55,981	58,000
雑誌	868	178	936	1,114		7,125(タイトル) (※2)	
小 計	2,172	198	2,921	3,119		149,272 と 7,125(タイトル)	154,000

※1 登録数が受入総数より多いのは、昨年度までに受け入れている書籍の登録があるため。

※2 雑誌は総タイトル数を表示(雑誌の総冊数は算出不可)。ニュースレターを含まない。博物館関係の雑誌を含む。

Nacsis-Cat 目録所在情報サービス	2020 年度 登録数	累積 登録資料数
図書	——(※3)	20,864
雑誌	——(※3)	24
小 計		20,888

※3 累積数は 2018 年度開始より 3 年間の累積、今年度登録数は未集計。

映像資料	2020 年度							累 積	
	登録数	撮影	移管数	寄贈・寄託数	提供数	受入総数	整理状況・作業内容・公開など	登録資料数	収蔵概数
静止画資料	32,071	0	0	71,998	0	71,998	大橋コレクションの登録準備、画像データベース 資料データの修正など	113,813	495,359
動画資料	0	0	8	0	46	54		0	9,839
小 計	32,071	0	8	71,998	46	72,052		113,813	505,198

2) 寄贈者および提供者 敬称略(点数)

【地学資料】

化石：岡村喜明(263) 長 朔男(2,000)

岩石・鉱物：滋賀県林業普及センター(300)

堆積物：竹村恵二(60)

【微生物標本】

微小生物液浸標本：大高明史(1,039)

珪藻液浸標本(洗浄処理済)：MilagrosaMartiness-Goss(30)

【動物標本】

哺乳類(その他)：村田又昭(1)

鳥類乾燥標本：東 美穂・ひかる(1) 幅野陽介(1) 高島市役所(1)

魚類液浸標本：京都産業大学・高橋純一(大阪水道局より分与)(4) 京都大学・渡辺勝敏(2)

びわこ文化公園管理事務所(1) 北野大輔(30)

昆虫乾燥標本：臼井仁司(4,103) 棚橋一郎(687) 初宿成彦(76) 川上弘子(2) 水沼哲郎(40)

市川顕彦(19) 武田 滋(7)

【植物標本】

さく葉標本：志賀 隆(2) 中井克樹(2) 森 小夜子(3) 萬野日出人(6)

【民俗資料】

生活生業用具：津田清和(59) 小森英重(1) 深尾隆太郎(69) 門野 照(1) 矢野義男(1)

青土区自治会(2) 東郷正文(3) 田中初枝(2) 内田儀一(1) 村木誠一(3)

藤澤志行(124) 大阪人権博物館(170) 比良岡七郎(1,138)

漁撈用具：畑 なみ(2) 深尾多見男(57) 田中靖志(7) 久田義則(7) 西川新吾(16)

桐畑博夫(1) 谷口善彦(1) 広岡輝治(1) 松井三男(1) 齊木 勲(2) 小川一次(218)

奥村 繁(2) 野村源四郎(2) 北川治郎右衛門(7) 阪田嘉治(17)

【図書資料】

川那部浩哉(29) 高橋啓一(20) 用田政晴(14) 志岐常正(3) 中野聰志(3) 矢野宏二(2)

北村美香(2) 篠原 徹(1) 国際日本文化研究センター(1) 老上学区まちづくり協議会(1)

日本植物画倶楽部(1) 向井 宏(1) 岡村喜明(1) 宮澤 昇(1) 尼川タイサク(1) 桑原雅之(1)

串岡慶子(1)

【映像資料】

静止画：大橋 洋(71,998)(静止画)

3) 移管資料

なし

4) 購入資料

なし

5) 水族繁殖生物

種 名	学 名	個体数
日本産魚類		
コイ科		
イチモンジタナゴ	<i>Acheilognathus cyanostigma</i>	899
イタセンパラ	<i>Acheilognathus longipinnis</i>	51
アカヒレタビラ	<i>Acheilognathus tabira erythropterus</i>	178
シロヒレタビラ	<i>Acheilognathus tabira tabira</i>	139
ゼニタナゴ	<i>Acheilognathus typus</i>	5
カゼトゲタナゴ	<i>Rhodeus smithii smithii</i>	80
デメモロコ	<i>Squalidus japonicus japonicus</i>	99
ヒナモロコ	<i>Aphyocypris chinensis</i>	150
ホンモロコ	<i>Gnathopogon caerulescens</i>	183
ウシモツゴ	<i>Pseudorasbora pugnax</i>	274
シナイモツゴ	<i>Pseudorasbora pumila</i>	2
ズナガニゴイ	<i>Hemibarbus longirostris</i>	131
ドジョウ科		
オオガタスジシマドジョウ	<i>Cobitis magnostriata</i>	100
ビワコガタスジシマドジョウ	<i>Cobitis minamorii oumiensis</i>	6
メダカ科		
ミナミメダカ	<i>Oryzias latipes</i>	140
トゲウオ科		
ハリヨ	<i>Gasterosteus aculeatus</i> subsp. 2	390
ギギ科		
ネコギギ	<i>Pseudobagrus ichikawai</i>	6
ハゼ科		
アオバラヨシノボリ	<i>Rhinogobius</i> sp. BB	152
外国産魚類		
カワスズメ科		
アウロノクラミス・デウィンディ	<i>Aulonocranus dewindti</i>	49
シュードトロフェウス・デマソニー	<i>Pseudotropheus demasoni</i>	217
クセノティラピア・フラビピンニス	<i>Xenotilapia flavipinnis</i>	9
スキアエノクロミス・フライエリー	<i>Sciaenochromis fryeri</i>	249
ジュリドクロミス・マルリエリ	<i>Julidochromis marlieri</i>	4

(2) 資料の活用

1) 資料の貸出 (研究依頼を含む) 14 件 248 点

月	日	貸出先	資料内容	利用目的
5	4	恩賜上野動物園	ジャイアントパンダ足跡型石膏型 2 点	新展示作成
5	6	川瀬 直幹	ヨツメトビゲラ目 4 点	分類研究
5	15	布村 昇	ダンゴムシ液浸標本 2 ビン	論文執筆
6	25	国立歴史民俗博物館	八日市新地遊郭関連資料 5 点	企画展での展示
7	5	渡辺 勝敏	ヨシノボリ属 87 点	分類形態学的研究
10	30	丸山 聡子	昆虫液浸標本 38 本	分類研究
12	5	伊丹市昆虫館	オサムシ標本 9 点	企画展での展示

月	日	貸出先	資料内容	利用目的
12	10	宮島水族館	ウシモツゴ 30 個体	企画展での展示
12	11	土浦市立博物館	栗津御供レプリカー式	企画展での展示
12	24	国立科学博物館	動植物化石 39 点	企画展での展示
2	14	滋賀県立安土城考古博物館	紙本着色近江名所図 1 点	企画展での展示
2	16	栃木県なかがわ水遊園	水族生体資料（ナマズ） 2 点	企画展での展示
2	18	吉村 太郎	貝類化石 27 点	古生物学研究
2	27	栗東歴史民俗博物館	琵琶湖博物館水族日報 1 点	企画展での展示

2) 資料の譲与 3 件 57 点

月	日	譲与先	資料内容	利用目的
4	10	京都市動物園	イチモンジタナゴ 50 尾	展示および希少魚繁殖
11	20	大阪府立園芸高等学校	オオサンショウウオ飼育水	学習教材および教材開発
2	27	島根県立宍道湖自然館	ヨシノボリ 6 個体	企画展での展示

3) 特別観覧

<映像資料・静止画> 2020 年度 計 26 件 総数 320 点

月	日	貸出先	資料内容	使用目的
4	17	岡村 啓二 氏 (京都府京田辺市)	二番丸錦絵 1 点	岡村氏著作出版物への掲載
4	21	滋賀県琵琶湖環境部	魚類写真 4 点	環境学習教材への使用
6	20	滋賀県琵琶湖環境部	魚類写真 3 点	環境学習教材への使用
7	14	NHK 大津放送局	災害写真 2 点	報道番組での使用
7	20	滋賀県琵琶湖環境科学研究センター	魚類写真 1 点	琵琶湖環境科学研究センター HP に掲載
7	31	株式会社 ブルームーン 阿南俊昭氏 (東京都中央区)	ジオラマ写真 1 点 魚類写真 3 点	電子書籍「日本の地理とくらし」への掲載
8	18	滋賀県立びわ湖フローティングスクール	魚類写真 23 点 水草写真 10 点 貝類写真 8 点	びわ湖フローティングスクール「学習のしおり」に掲載
9	11	株式会社 中広 呉竹紀文氏 滋賀県栗東市)	魚類写真 7 点	教科書副読本「お仕事ノート」への掲載
9	15	防災科学技術研究所 三隅良平氏 (茨城県つくば市)	水害写真 1 点	出版物等への掲載
10	14	NHK 大津放送局	災害写真 1 点	報道番組での使用
10	14	彦根市松原町自治会	大橋コレクション写真 パネル&写真 16 点	松原町文化祭において展示
10	20	三輪 さおり 氏 (滋賀県守山市)	水害写真 1 点	小学校副読本「わたしたちの守山」に掲載
10	23	甲賀市役所	魚類写真 1 点	出版物「広報こうか」に掲載
10	23	関西広域連合広域環境保全局	魚類写真 1 点	エコツアー募集チラシに掲載
11	13	滋賀県立びわ湖フローティングスクール	貝類写真 37 点 水草写真 19 点 魚類写真 81 点	びわ湖フローティングスクール HP に掲載
11	19	NHK 大津放送局	災害写真 3 点	報道番組での使用
12	11	土浦市立博物館 (茨城県土浦市)	前野隆資氏撮影写真 2 点	特別展のパネル・図録に掲載

月	日	貸出先	資料内容	使用目的
12	16	長曾根歴史勉強会 (滋賀県彦根市)	大橋宇三郎写真一式 14 点	出版物「長曾根郷土史」に掲載
1	5	三重県立熊野古道センター (三重県尾鷲市)	生物写真 17 点	企画展での展示に使用
1	29	滋賀県立大学地域共生センター	大橋コレクション写真 9 点	シンポジウム講演資料への使用
2	5	滋賀県生きもの総合調査委員会	魚類写真 48 点	「滋賀県レッドデータブック 2020」での使用
2	15	北原 なつ子氏 (千葉県市原市)	民具資料写真 1 点	広報誌「みずのわ」に掲載
2	17	山崎川グリーンマップ (愛知県名古屋市)	魚類写真 2 点	「山崎川生きもの図鑑」「なごや多様性ガイドブック」に掲載
2	17	やす地域共生社会推進協会 (滋賀県野洲市)	富江家室内写真 1 点	出版物「おたのみやす」表紙への掲載
2	23	滋賀県立琵琶湖博物館	ドンベと丸子船写真 1 点	びわ博総合案内(展示ガイド)に掲載
3	9	琵琶湖疎水アカデミー	魚類写真 1 点	琵琶湖疎水アカデミーの HP に掲載
3	26	彦根市教育委員会教育研究所	大橋コレクション写真 5 点	小学校社会科副読本「わたしたちの彦根」への掲載と彦根市教員のみ閲覧可能なデータベースへの掲載
3	31	栄町 2 丁目栄寿会	大橋コレクション写真 2 点	栄寿会総会資料の表紙に掲載

<館内閲覧・撮影> 18 件 427 点

月	日	利用者	閲覧内容	閲覧目的
6	18	吉安 裕	鱗翅目標本 50 点	分類学的研究
8	22	大津市歴史博物館	居初家文書 一式	研究にかかる撮影
9	6	国立科学博物館	中国産古脊椎動物資料 10 点	展示資料の検討
9	11	細谷 和海	アユモドキ液浸標本 1 点	研究
9	12	横須賀市自然・人文博物館	足跡化石 3 点	展示で使用するための撮影
10	21	吉永 亜紀子	ナマズ属骨格標本 3 点	形態比較研究
11	24	国立環境研究所琵琶湖分室	イシガイ科二枚貝 12 点	学術研究
12	11	滋賀県立大学	鴨猟のオトリ 8 点	演習授業での民具調査
12	11	滋賀県立大学	田植え杵 7 点	演習授業での民具調査
12	13	岐阜市歴史博物館	唐橋遺跡出土資料 12 点	企画展事前調査
12	15	北九州市立自然史・歴史博物館	ナマズ属液浸標本 約 100 点	分類形態学的研究
1	29	吉村 太郎	貝類化石 101 点	研究資料選定
2	16	大阪経済法科大学	ニゴイ類標本 87 ロット	学術研究
3	6	神戸大学	植物さく葉標本	研究
3	11	龍谷大学	ラベオ標本 3 点	研究
3	11	九州大学持続可能な社会のための決断科学センター	アユモドキ液浸標本 10 点	共同研究
3	19	びわ湖フローティングスクール	スゴモロコ、ホンモロコ等	学習資料の撮影
3	20	琵琶湖環境科学研究センター	寄生虫資料 18 点	Web 解説ページへの掲載

4) 資料の利用による成果

さまざまな形で資料は利用されるが、そのことによって多岐にわたる成果があがる。また、資料が利用されてから実際に成果が論文などの形にまとまるまでに要する時間もさまざまである。2020 年度には以下の論文・書籍が公表された。

著者	年	タイトル	雑誌名または出版物	頁	種 別	活用標本
Ohtsuka, T., Kitano, D.	2020	Diatom flora of a wet grassland on mineral soil conserved in the Ritsumeikan University Biwako-Kusatsu Campus in Shiga Prefecture, central Japan	Diatom	36:1-12	論文	微生物資料
増田富士雄・ 里口保文・ 齋藤 有・ 佐藤智之・ 谷口圭輔	2021	琵琶湖岸，烏丸コアの堆積相解析と堆積環境の変遷	琵琶湖博物館 研究調査報告 34号	7-72	論文	堆積物資料
林田 明・ 里口保文	2021	烏丸地区深層掘削試料の磁気層序	琵琶湖博物館 研究調査報告 34号	73-80	論文	堆積物資料
里口保文	2021	烏丸地区深層ボーリングコアの火山灰対比の再検討	琵琶湖博物館 研究調査報告 34号	81-94	論文	堆積物資料
増田富士雄・ 里口保文	2021	琵琶湖の古環境変遷に関する新発見：烏丸深層ボーリングコアの堆積環境解析結果から	琵琶湖博物館 研究調査報告 34号	95-109	論文	堆積物資料
中野聡志・ 里口保文 編	2021	田上ペグマタイト	琵琶湖博物館 研究調査報告 33号	174p		岩石・鉱物標本

5) 水族飼育員による生体資料の利用による成果

当館では、水族資料として生き物の生体を飼育しており、その飼育管理技術の向上に水族飼育員が取り組んでいる。今年度は、その成果を下記の通り発表した。

栗田那波・松岡由子・長田智生・桑原雅之（2020 年 6 月 25 日）カイツブリの継続展示へむけた野生個体からの卵導入の試み。日本動物園水族館協会第 86 回近畿ブロック水族館飼育係研修会，ウェブ開催，[口頭発表]。

鈴木崇大・中務裕子・吉川真一郎・金尾滋史・桑原雅之（2020 年 6 月 25 日）水槽内で繁殖したバイカル湖産カジカ科魚類 *Paracottus knerii* 稚魚の成長。日本動物園水族館協会第 86 回近畿ブロック水族館飼育係研修会，ウェブ開催，[口頭発表]。

鈴木崇大・中務裕子・吉川真一郎・金尾滋史・桑原雅之（2020 年 11 月 29 日）飼育水槽内におけるバイカル湖産カジカ科魚類 *Paracottus knerii* の自然繁殖について。第 71 回魚類自然史研究会，ウェブ開催，[口頭発表]。

安川浩史・南條花菜子・御葉袋 聡・金尾滋史（2020 年 11 月 29 日）ズナガニゴイ *Hemibarbus longirostris* の飼育下における自然産卵。第 71 回魚類自然史研究会，ウェブ開催，[口頭発表]。

武富鷹矢・吉川真一郎・松田征也・金尾滋史（2021 年 3 月 14 日）飼育環境下におけるツチフキの自然産卵を目指した飼育技術の確立。第 72 回魚類自然史研究会ウェブ大会，ウェブ開催，[口頭発表]。

6) 資料の利用（その他）

図書資料については、2020 年度には閲覧冊数が 1,759 冊、文献複写サービスの受託が 5 件、デジタル化資料送信サービスの利用は 26 件であった。

(3) 資料の保管

資料を保管する際には、ガス燻蒸、冷凍処理および二酸化炭素処理など、防虫・防黴対策を行った後に収蔵庫へ収納している。また、収蔵資料が長期間にわたり安全で良好な状態が保てるよう、目視による資料チェックや保存液の補充などを行うほか、収蔵庫の適切な保存環境を維持するため、収蔵庫内の温湿度管理、生物トラップ調査、定期的な清掃などの総合的有害生物防除管理（IPM）を行っている。

2020 年度は、収蔵庫内の温湿度を管理するため、2019 年度に引き続きデータロガーを増設し（地学・動物収蔵庫）、クラウドサーバー上でリアルタイムに監視するためのシステムを導入した。また、収蔵庫空間におけるカビ防御のため、前年に引き続き、扇風機や除湿器の設置や外気の遮断など空気環境の改善も行った。リニューアルオープンした B 展示室でも展示している文化財資料の適切な保管のため、データロガーによる温湿度のモニタリングを行った。また、2019 年度末に廊下排水口からハエ類の侵入が認められたため、全排水口の防虫ネットの更新を行った。さらに、2019 年度末に生じた収蔵庫空間トイレの排水槽での大量のチョウバエ発生への対策として、外部への逸出防止策を施した上で、業者清掃を行った。なお、この清掃以降、収蔵庫空間でチョウバエの発生が確認されていないため、今年度は乳剤散布を行っていない。

2020 年度は新型コロナウイルス感染症の流行があった。万一感染者が出た場合の収蔵庫空間での過剰な消毒作業などを避けるため、休館期間中は試料の閲覧を制限し、各収蔵庫への入庫に際しては手洗いの徹底、扉に設置した入退室記録簿の記入を徹底するようにした。

1) 収蔵空間の管理

温湿度管理	各収蔵庫定点観測を実施 ・ 時間ごとに計測し、全データを保存。一部収蔵庫では、データロガーを使用し、クラウドサーバー上でリアルタイム監視を実施。 ・ 温湿度の変化を年間通して把握し、環境の基準を設定する。
定期清掃	・ 収蔵庫の清掃：月 1 回原則として第 1 金曜日に実施 ・ 収蔵庫前廊下の清掃：当番で割り振られた範囲を週 1 回実施
特別清掃等	生物環境調査の結果から、特別清掃の実施(害虫の増加場所を対象とした一部展示室内)
生物環境調査	年 3 回の生物環境調査 ・ 2020 年 6 月 19 日～7 月 3 日 昆虫トラップ調査 241 カ所(設置・回収・分析) ・ 2020 年 11 月 13 日～11 月 27 日 昆虫トラップ調査 252 カ所(設置・回収・分析) ・ 2021 年 2 月 5 日～2 月 19 日 昆虫トラップ調査 252 ヶ所(設置・回収・分析) ＊当館の IPM 基準値 ・ 虫：非誘因性トラップで1日につき捕獲される指標種（チャタテムシ）の個体数（捕獲指数）が 1

2) 燻蒸・処理

収蔵資料が長期間にわたり安全で良好な状態を保てるよう、収蔵庫内の温湿度管理、定期清掃、トラップ調査などといった、総合的有害生物防除管理（IPM）と合わせ、必要に応じた燻蒸処理を行っている。また、昆虫トラップの結果を踏まえて、害虫の発生源となりやすい箇所等について、今後の対策の検討を行っている。

新たに収集した資料や、収蔵庫外で活用後の資料は、収蔵庫への搬入前に燻蒸処理を行っている。大型燻

蒸庫では、二酸化炭素ガスによる燻蒸を3回、エキヒューム燻蒸を2回実施した。また、密閉テント方式のエキヒューム燻蒸を2回、包み込み方式のエキヒューム燻蒸を1回実施した。その他、資料によっては冷凍庫による冷凍処理および脱酸素処理を実施している。

2 研究を進めて活かせる博物館

研究推進

琵琶湖博物館では、研究事業、交流サービス事業、情報事業、資料整備事業、展示事業という5つの事業を総合的に行なっている。その中でも研究活動が全ての博物館活動の基礎となる。すなわち、研究の成果やその発信として、展示、資料、交流活動が行なわれ、研究が魅力的であれば、博物館の他の事業も魅力的なものとなる。

研究部では2015年3月に策定された新琵琶湖博物館創造基本計画に従い、3つの役割である 1)「湖と人間」のあり方を県民とともに考え、ともに行動する博物館、2) 次代を担う人が育つ拠点となる博物館、3) 地域活性化の核となる博物館を、博物館の研究活動を通じて具現化することを目指している。そのため、2016年度から2020年度の5年間の研究活動方針および行動計画に従い、「湖と人間」のテーマのもと、琵琶湖とその周辺の多面的な価値を地域の人たちと共に探っていくことを進めている。この役割や活動は、主な3つの研究の方向性に沿って、継続していく予定である。

- ・琵琶湖地域の「湖と人間」の関係性を探る総合的な研究の推進

琵琶湖博物館の専門、共同、総合研究や外部資金による研究を組み合わせで行う。

- ・「古代湖」としての琵琶湖の価値を比べる比較研究

国際協力協定を結んでいる海外の博物館、研究機関との資料交換や共同研究を行う。

- ・「木から森へ」の博物館学の追求

博物館機能を活用して誰もが琵琶湖博物館の活動を知り、研究や事業に参加できるための博物館学研究を行う。

これまで琵琶湖博物館の研究事業では、学際的な総合研究やテーマをしばった共同研究、ならびに個々の学芸員の資質を高める専門研究に取り組んできた。2017年度に整備した当館の研究評価実施要綱に従い、総合研究と共同研究については、研究計画調書ならびに説明によって、研究審査委員会の審査を受け、その結果を踏まえて、当館で行う研究課題を定めた。また、専門研究については、内部評価委員会を設置し、研究課題を検討し、助言を行いながら、研究を推進した。2020年度は、次の研究課題が実施された。

(1) 総合研究

琵琶湖博物館の設立理念を実現することに直接結びつく研究として、次の総合研究1件を行った。

- ・過去150年間の琵琶湖とその集水域の環境変遷の解明

代表者：亀田佳代子，研究期間：2019～2023年度

(2) 共同研究

琵琶湖博物館のテーマにしたがった研究として共同研究を以下のテーマで行った。共同研究のテーマは次の12件であった。

- ・「田んぼのいきもの全種リスト」の増補更新と公開システムの構築

代表者：大塚泰介，研究期間：2017～2020年度

- ・琵琶湖南湖堆積物からみた過去2000年間の古植生解析

代表者：里口保文，研究期間：2018～2020年度

- ・幼児の博物館体験と野外体験の効果

代表者：中村久美子，研究期間：2018～2021年度

- ・フナズシの歴史的位置付けについての研究－「古フナズシ」の復元実験－

代表者：橋本道範，研究期間：2019～2021年度

- ・バイカル湖堆積物研究成果の集約・管理・公開へ向けた総合研究－バイカル資料・研究発信センターを目指して－

代表者：柏谷健二，研究期間：2019～2020年度

- ・近江の森と人の関係史－人は森をどう利用してきたのか

代表者：妹尾祐介，研究期間：2019～2020年度

- ・淡水クラゲ類の性決定の要因を探る

代表者：鈴木隆仁，研究期間：2019～2021年度

- ・希少種の健全性評価に基づく保全に関する研究：生物多様性モニタリングと域外保全によるリスク分散－

代表者：大槻達郎，研究機関：2020～2022年度

- ・地域の自然史情報の価値づけと集約の場としての博物館の機能

代表者：金尾滋史，研究機関：2020～2022年度

- ・琵琶湖博物館所蔵魚類液浸標本の新しい活用研究と管理手法の構築

代表者：田畑諒一，研究機関：2020～2022年度

- ・侵略的外来種対策を推進するための対策検証と現状把握に関する研究

代表者：中井克樹，研究機関：2020～2021年度

- ・関東平野西縁地域における鮮新－更新世の湿地林の植生復元

代表者：山川千代美，研究機関：2020～2022 年度

(3) 専門研究

各学芸職員が、自らの専門分野の研究をおこなった。

環境史研究領域

- ・甲賀層・蒲生層の境界付近の水系変化の検討（里口保文）
- ・針葉樹トウヒ属の葉化石の分類（山川千代美）
- ・地域環境史の理論的構築（橋本道範）
- ・愛知川における土砂管理手法に関する基礎的研究（山中大輔）
- ・湧水の利用と保全（楊 平）
- ・福島県における遺跡花粉分析データの時空間解析と滋賀県との比較研究（林 竜馬）
- ・漁業組合文書による近代琵琶湖漁撈史の研究（渡部圭一）
- ・伝統的知識・技能の継承における担い手に関する研究（大久保美香）
- ・土器製作実験からみた琵琶湖周辺地域の縄文土器の製作技術（妹尾裕介）
- ・滋賀県産魚類の河川間での遺伝的差異（田畑諒一）
- ・明治初期の滋賀県における普請所調査絵図の基礎的研究（島本多敬）

生態系研究領域

- ・滋賀県における鳥類生息情報の持続可能な収集・整理・蓄積手法の検討（亀田佳代子）
- ・水生双翅目昆虫アシナガバエ科の分類学的研究（桒永一宏）
- ・滋賀県多賀町の古琵琶湖層群から産出した昆虫化石（八尋克郎）
- ・希少淡水魚の人為的雄性発生（松田征也）
- ・南湖志那沖の湖底地形の把握 2（芳賀裕樹）
- ・生物多様性の保全に関する基礎的研究（中井克樹）
- ・東アジアのカイミジンコデータベースの拡大（ロビン ジェームス スミス）
- ・農業体験や農業用水路を活用した環境学習が児童の意識に与える影響について（中川信次）
- ・耳石を用いた魚類の生態解析（片岡佳孝）
- ・森林環境学習「やまのこ」事業のプログラム評価について（山本綾美）

- ・琵琶湖周辺に生息するイタチムシ類（鈴木隆仁）
- ・琵琶湖湖岸に生育する海浜植物の種子更新の解明（大槻達郎）

博物館学研究領域

- ・ディープラーニングと MT 法による珪藻同定システム構築に向けた研究（大塚泰介）
- ・地球物理学からの博物館学の展開～自然史系博物館としての特性の活用（戸田 孝）
- ・イバラモ群落の成立環境とフェノロジーに関する研究（芦谷美奈子）
- ・滋賀県における水田利用魚類のリスト化とその活用（金尾滋史）
- ・からすま半島周辺のカヤネズミの分布（中村久美子）
- ・学習内容に合わせた博物館の活用Ⅳ ～博物館有効利用のために～（奥野知之）
- ・中学校における博物館の有効な利用法について 2 ～サポートシートのねらいとは～（由良嘉基）

(4) 研究審査委員会

琵琶湖博物館総合研究・共同研究審査委員会 委員

氏 名	現 職
足立 重和	追手門学院大学社会学部 教授
浦部美佐子	滋賀県立大学環境科学部 教授
齊藤 純	天理大学文学部 教授
林田 明	同志社大学理工学部 教授
深町加津枝	京都大学農学部 准教授
細谷 和海	近畿大学 名誉教授
三木 崇史	滋賀県総合教育センター 科学教育係長
高橋 啓一	滋賀県立琵琶湖博物館 館長
馬淵 兼一	滋賀県立琵琶湖博物館 副館長

(5) 研究助成を受けた研究

琵琶湖博物館では、研究費用として外部資金を獲得することを推進している。その代表的なものは文部科学省科学研究費助成事業で、今年度は新規3件の採用と継続10件を合わせ計13件が採択された。学芸職員等が受けた外部研究助成のうち、主なものは以下のとおりである。

高橋啓一

- ・文部科学省科学研究費助成事業（基盤 B）「東アジアの古代湖「琵琶湖」の固有種成立過程の解明のための総合的研究」研究代表者（2018～2022 年度）
- ・文部科学省科学研究費助成事業（新学術領域）「パレオアジア文化史学—アジア新人文化形成プロセスの総合的研究—」研究協力者（2016～2020 年度）
- ・株式会社日立製作所との共同研究「コーンビーム CT 撮影法を用いた化石の非破壊分析手法の開発」共同研究者（2020 年 11 月～2021 年 3 月）

山川千代美

- ・文部科学省科学研究費助成事業（基盤 B）「東アジアの古代湖「琵琶湖」の固有種成立過程の解明のための総合的研究」研究分担者（2018～2022 年度）
- ・藤原ナチュラリヒストリー振興財団第 28 回学術研究助成「最終氷期最盛期における東北地方南部立谷川河床埋没林（山形県天童市）の植生復元」共同研究者（2020 年度）

亀田佳代子

- ・文部科学省科学研究費助成事業（基盤 B）「時間情報解析による在来生物カワウと人との軌跡軽減のための「温故知新」研究代表者（2020～2022年度）

- ・岐阜市長良川鵜飼習俗総合調査委員会・関市小瀬鵜飼習俗総合調査委員会「全国鵜飼習俗基礎調査」調査者（2019～2024 年度）
- ・国立民族学博物館共同研究会「日本列島の鵜飼文化に関する T 字型学際共同アプローチ－野生性と権力をめぐって」共同研究員（2020～2022 年度）

里口保文

- ・文部科学省科学研究費助成事業（基盤 B）「東アジアの古代湖「琵琶湖」の固有種成立過程の解明のための総合的研究」研究分担者（2018～2022 年度）

橋本道範

- ・文部科学省科学研究費助成事業（基盤 A）「菅浦文書」の総合調査及び村落の持続と変容の通時代的研究」研究分担者（2016年～2021年度）
- ・三菱財団人文科学研究助成「日本中世淡水魚消費の研究」研究代表者（2019 年 10 月～2021 年 9 月）
- ・京都大学人文科学研究所研究班「環境問題の社会史的研究」班員（2020～2022 年度）

山中大輔

- ・琵琶湖環境研究推進機構「在来魚介類のにぎわい復活に向けた研究」流域環境研究「在来魚保全のための水系のつながり再生に向けた研究」研究分担者（2020 年度）
- ・東京大学空間情報科学研究センターにおける研究用空間データ基盤の利用を伴う共同研究「高頻度・高精細地形情報を用いた河床における地形変化解析方法および地域住民への空間情報発信方法についての研究」共同研究員（2018～2020 年度）

林 竜馬

- ・文部科学省科学研究費助成事業（基盤 B）「東アジアの古代湖「琵琶湖」の固有種成立過程の解明のための総合的研究」研究分担者（2018～2022年度）
- ・文部科学省科学研究費助成事業（基盤 C）「東シナ海の花粉分析からみる40万年間の植生の温暖化応答と海流・モンスーンとの因果」研究代表者（2019～2021年度）
- ・文部科学省科学研究費助成事業（基盤 B）「現植生分布の基となる最終氷期最盛期における植生の定量的復元」研究分担者（2019～2022 年度）

渡部圭一

- ・文部科学省科学研究費助成事業（基盤 B）「生活変化/生活改善/生活世界の民俗学的研究：日中韓を軸とした東アジアの比較から」研究分担者（2017～2020年度）
- ・文部科学省科学研究費助成事業（基盤 B）「里山における自然資本の意識化とネットワークのための地域参加型研究」研究分担者（2018～2020年度）
- ・文部科学省科学研究費助成事業（基盤 C）「低植生環境における村の生存維持に関する研究：近世～近代の琵琶湖地域を事例として」研究代表者（2018～2020 年度）
- ・文部科学省科学研究費助成事業（基盤 C）「農閑期副業における手工業生産の考察－釜と籠生産を中心に」研究分担者（2020～2022 年度）
- ・人間文化研究機構総合地球環境学研究所「人口減少時代における気候変動適応としての生態系を活用した防災減災（Eco-DRR）の評価と社会実装」共同研究者（2018～2019 年度）

大久保実香

- ・文部科学省科学研究費助成事業（若手 B）「他出者・他出二世による山村集落継承の可能性」研究代表者（2019～2022 年度）

妹尾祐介

- ・文部科学省科学研究費助成事業（基盤 B）「和食の成立過程の解明」研究分担者（2018～2021年度）

田畑諒一

- ・文部科学省科学研究費助成事業（若手）「淘汰・浸透を経験したミトゲノムと核ゲノム内関連遺伝子の共進化プロセスの解明」研究代表者（2018～2020 年度）
- ・文部科学省科学研究費助成事業（基盤 B）「東アジアの古代湖「琵琶湖」の固有種成立過程の解明のための総合的研究」研究分担者（2018～2022 年度）
- ・文部科学省科学研究費助成事業（基盤 B）「淡水魚類の保全ゲノミクス：自然史と危機診断を結ぶ枠組みの構築」研究分担者（2020～2022 年度）
- ・文部科学省科学研究費助成事業（国際共同研究強化 B）「カタツムリにおける左右二型現象の起源と進化動態」研究分担者（2020～2024 年度）
- ・文部科学省科学研究費助成事業（基盤 C）「ゲノム情報で解き明かすジュズカケハゼ種群の多様性と進化プロセス」研究分担者（2019～2021 年度）
- ・公益財団法人クリタ水・環境科学振興財団国内研究助成「改良版MIG-Seq法を用いた琵琶湖生態系に属する希少種の遺伝的診断と保全」研究分担者（2020年度）

島本多敬

- ・立命館大学アート・リサーチセンター 文部科学省共同利用・共同研究拠点「日本文化資源デジタル・アーカイブ研究拠点」共同研究「鴨川古写真 GIS データベース」の構築と河川環境の変遷分析に関する研究」研究分担者（2018～2020 年度）

梶永一宏

- ・文部科学省科学研究費助成事業（基盤 C）「アフリカ大陸における海洋性双翅目昆虫の分散と進化」研究代表者（2018～2020 年度）

中井克樹

- ・文部科学省科学研究費助成事業（基盤 C）「侵略的外来生物管理制度における「迅速な対応」成立の社会的条件に関する国際比較研究」研究分担者（2019～2021 年度）
- ・環境省生物多様性保全回復施設整備交付金「滋賀県生物多様性保全回復整備事業」実施担当者（2017 年度～）
- ・環境省生物多様性保全推進交付金および滋賀県侵略的外来水生植物戦略的防除事業費「琵琶湖外来水生植物対策協議会事業、ならびに環境省生物多様性保全回復施設整備交付金「滋賀県事業」事務局担当者（2014 年度～）

スミス、ロビン ジェームス

- ・文部科学省科学研究費助成事業（基盤 C）「Native or invasive? Biodiversity, distribution and systematics of Ostracode (Crustacea) in Japanese rice fields」研究代表者（2020～2022 年度）
- ・文部科学省科学研究費助成事業（基盤 C）「節足動物の超多様性の謎の解明：貝形虫を用いた進化精子学の創立に向けて」研究分担者（2020～2022 年度）

大槻達郎

- ・文部科学省科学研究費助成事業（若手）「マメ科植物の地域適応に関与する根粒菌のゲノム進化－共生関係の創出維持機構の解明－」研究代表者（2018～2020 年度）
- ・文部科学省科学研究費助成事業（基盤 B）「東アジアの古代湖「琵琶湖」の固有種成立過程の解明のための総合的研究」研究分担者（2018～2022 年度）
- ・公益財団法人クリタ水・環境科学振興財団国内研究助成「改良版MIG-Seq法を用いた琵琶湖生態系に属する希少種の遺伝的診断と保全」研究代表者（2020年度）

金尾滋史

- ・文部科学省科学研究費助成事業（基盤 C）「希少淡水魚アユモドキの水田水域への産卵遡上に適する魚道構造の研究」研究分担者（2019～2021 年度）

中村久美子

- ・文部科学省科学研究費助成事業（若手）「博物館における幼児期の学びを定量的に評価する手法」研究代表者（2019～2021 年度）

天野一葉

- ・文部科学省科学研究費助成事業（基盤 C）「侵略的外来種ソウシチョウにおける捕獲技術の高度化と管理ユニット策定」研究代表者（2019～2021 年度）

辻川智代

- ・文部科学省科学研究費助成事業（基盤 C）「農閑期副業における手工業生産の考察－釜と籠生産を中心に」研究代表者（2020～2022年度）

中野正俊

- ・文部科学省科学研究費助成事業（基盤 C）「汎用性のある博物館・学校・地域等連携実践の新たな開発と普及」研究代表者（2018～2020 年度）

<研究調査業務受託>

- ・京都府いなべ市 天然記念物ネコギギ飼育増殖業務 松田征也

(6) 研究員の受け入れ

- ・池田 勝 2020年4月1日～2021年3月31日
テーマ：幼児期の自然体験型教育プログラムの開発とその実践研究
- ・北村美香 2020年4月1日～2021年3月31日
テーマ：博物館における「交流」についての再考察－琵琶湖博物館を事例として－
- ・辻川智代 2020年4月1日～2021年3月31日
テーマ：考古学的手法を用いた民具の分類とその歴史的変遷を通じた地域文化研究
- ・黒岩啓子 2020年4月1日～2021年3月31日
テーマ：インフォーマルラーニングの場としての博物館と評価
- ・柏尾珠紀 2020年4月1日～2021年3月31日
テーマ：滋賀、琵琶湖周辺農山村におけるジェンダーの社会学的考察
- ・廣石伸互 2020年4月1日～2021年3月31日
テーマ：蛍光抗体法によるアオコ単独細胞の検出に関する研究
- ・中野聰志 2019年4月1日～2020年3月31日
テーマ：琵琶湖南部地域を中心とした地域地質研究：特に、田上ペグマタイトを含む後期白亜紀火成活動について
- ・天野一葉 2020年4月1日～2021年3月31日
テーマ：外来種ソウシチョウの形態・遺伝学的研究
- ・藤岡康弘 2020年4月1日～2021年3月31日
テーマ：琵琶湖固有種の分類ならびに生態に関する研究、および琵琶湖博物館の総合研究「過去 150 年間の琵琶湖とその集水域の環境変遷の解明」
- ・中野正俊 2020年4月1日～2021年3月31日
テーマ：児童の活用型学力と学びの有用感を高める理科・環境学習：「主体的・対話的で深い学び」を博物館連携学習へどう生かすか
- ・寺本憲之 2020年4月1日～2021年3月31日
テーマ：ブナ科植物を寄主とする鱗翅目昆虫相と食性に関する研究／伝統文化産業「蚕糸業」の指導／地域ぐるみによる野生動物管理などの指導／環境保全型農業などの指導

- ・岩木真穂 2020年4月1日～2021年3月31日
テーマ：水位変動に関連する諸現象の観測的解明を通じた、琵琶湖の物理現象を「よりよく伝える」方法の探求
- ・山本充孝 2020年4月1日～2021年3月31日
テーマ：琵琶湖の魚貝類の飼育技術ならびに生態に関する研究
- ・楠岡 泰 2020年4月1日～2021年3月31日
テーマ：「共生藻類をもつ繊毛虫の生態」および「淡水クラゲ類の性決定要因の分析」
- ・鈴木真裕 2020年4月1日～2021年3月31日
テーマ：二次的自然における水生生物群集の形成過程と多様性に関する研究
- ・根来 健 2020年4月1日～2021年3月31日
テーマ：浄水処理に障害を及ぼすプランクトン等（水道障害生物）の体系の再構築
- ・今井一郎 2020年4月1日～2021年3月31日
テーマ：有毒アオコ *Microcystis aeruginosa* の制御に有効な水生植物由来の殺藍藻細菌の生態に関する研究
- ・柏谷健二 2020年4月1日～2021年3月31日
テーマ：湖沼堆積物を利用した長期環境変動の解析
- ・真柄 侑 2020年4月1日～2020年8月31日
テーマ：近江湖東地方における生業および暮らしの再検討とその民俗的背景に関する調査研究
- ・Corey Tyler NOXON 2020年4月1日～2021年3月31日
テーマ：Exploring factors related to sedentism; Analysis of Lake Biwa Jomon period sites
- ・桑原雅之 2020年4月1日～2021年3月31日
テーマ：ビワマスを保全するための近縁種アマゴの遺伝的集団構造と滋賀県集団の由来の解明
- ・草加伸吾 2020年4月1日～2021年3月31日
テーマ：モンゴル、半乾燥地での森林再生促進研究／伐採、シカ食害やナラ枯れによる森林植生衰退の水系への影響／湿地の植物と水質、水循環の関わり研究

<名誉学芸員>

- ・布谷知夫 2019年4月1日～2024年3月31日
テーマ：住民による公立博物館への期待とその社会的役割についての研究
- ・前畑政善 2016年4月1日～2021年3月31日
テーマ：水田魚類の研究
- ・中島経夫 2020年4月1日～2025年3月31日
テーマ：コイ科魚類の咽頭歯からみた湖と人の関わりについての研究
- ・用田正晴 2016年4月1日～2021年3月31日
テーマ：湖沼環境が果たした歴史的機能・評価に関する考古学的研究
- ・マーク J グライガー 2017年4月1日～2022年3月31日
テーマ：甲殻類分類学、魚類寄生虫調査、田んぼにすむエビ類の様々な研究と海洋寄生虫

研究発信

(1) 公表された主な研究業績

学芸職員等が公表した研究に関する著作物のうち、学術雑誌や書籍などで公表されたオリジナルな論文あるいはそれと同等なものをあげた。研究業績全体については、琵琶湖博物館インターネットページ (<http://www.biwahaku.jp/research/publication>) に掲載している。

<学術論文>

- 高橋啓一 (2021) 徳永重康 著「東京にて発掘した象化石 (地学雑誌 1933)」を読むー日本銀行本店から発見されたナウマンゾウ化石の再検討ー. *化石研究会会誌* (化石研究会), 53 (2) : 61-71.
- Xuan, C., Jin, Y., Sugisaki, S., Satoguchi, Y. and Nagahashi, Y. (2020) Integrated Pliocene-Pleistocene magnetostratigraphy and tephrostratigraphy of deep-sea sediments at IODP Site U1424 (Yamato Basin, Japan Sea). *Progress in Earth and Planetary Science*, 7: 60. DOI: 10.1186/s40645-020-00373-9
- Suganuma, Y., Okada, M., Head, M. J., Kameo, K., Haneda, Y., Hayashi, H., Irizuki, T., Itaki, T., Izumi, K., Kubota, Y., Nakazato, H., Nishida, N., Okuda, M., Satoguchi, Y., Simon, Q. and Takeshita, Y. (2021) *Formal ratification of the Global Boundary Stratotype Section and Point (GSSP) for the Chibanian Stage and Middle Pleistocene Subseries of the Quaternary System: the Chiba Section, Japan*. Episodes. DOI: 10.18814/epiiugs/2020/020080
- 橋本道範 (2020) 消費論からみた中世菅浦. *史学雑誌*, 129-6 : 986-1002.
- I Inoue, J., Okuyama, C., Hayashi, R. and Inouchi, Y. (2021) Postglacial anthropogenic fires related to cultural changes in central Japan, inferred from sedimentary charcoal records spanning glacial-interglacial cycle. *Journal of Quaternary Science*, 36: 628-637.
- Hayami, K., Sakata, M. K., Inagawa, T., Okitsu, J., Katano, I., Doi, H., Nakai, K., Ichiyanagi, H., Gotoh, R. O., Miya, M., Sato, H., Yamanaka, H. and Minamoto, T. (2020) Effects of sampling seasons and locations on fish environmental DNA metabarcoding in dam reservoirs. *Ecology and Evolution*. 10 (12): 5354-5367, doi:10.1002/ece3.6279.
- Kamigawara, K., Nakai, K., Noma, N., Hieda, S., Sarat, E., Dutartre, A., Renals, T., Bullock, R., Haury, J., Bottner, B. and Damien, J. -P. (2020) What kind of legislation can contribute to on-site management?: Comparative case studies on legislative developments in managing aquatic invasive alien plants in France, England, and Japan. *Journal of International Wildlife Law & Policy*, 23: 83-108, doi:10.1080/13880292.2020.1788778.
- Peng, P., Zhai, D., Smith, R. J., Wang, Q., Guo, Y. and Zhu, L. (2021) On some modern Ostracoda (Crustacea) from the Tibetan Plateau in SW China, with descriptions of three new species. *Zootaxa*, 4942 (4): 501-542. <https://doi.org/10.11646/zootaxa.4942.4.2>
- Matzke-Karas, R. and Smith, R. J. (2020) A review of exceptional preservation in fossil ostracods. *Marine Micropaleontology*. <https://doi.org/10.1016/j.marmicro.2020.101940>
- Smith, R. J. and Chang, C. Y. (2020) Taxonomic assessments of some Cyprinotinae Bronstein, 1947 species (Crustacea: Ostracoda) from Japanese and Korean rice fields, including (re-) descriptions of six species and a review of the type species of the subfamily. *Zootaxa*, 4795 (1), 001-069. <https://doi.org/10.11646/zootaxa.4795.1.1>
- Ohtsuka, T. and Kitano, D. (2020) Diatom flora of a wet grassland on mineral soil conserved in the Ritsumeikan University Biwako-Kusatsu Campus in Shiga Prefecture, central Japan. *Diatom*, 36 : 1-12. <https://doi.org/10.11464/diatom.36.1>
- 山本真里子・大塚泰介 (2020) 藤前干潟の珪藻植生に関する報告. *Diatom*, 36 : 13-21. <https://doi.org/10.11464/diatom.36.13>
- Iwaki, M., Yamashiki, Y., Muraoka, K., Toda, T., Jiao, C. and Kumagai, M. (2020) Effect of precipitation-influenced river influx on Lake Biwa water levels: time scale analysis based on an impulse response function. *Inland Waters (International Society of Limnology)*, 10(2): 283-294. <https://doi.org/10.1080/20442041.2020.1712952>

夏原由博・中西康介・藤岡康弘・山本充孝・金尾滋史・天野一葉・李 美花・片山直樹 (2020) 滋賀県および愛知県の環境保全型稲作の生物多様性保全効果. *日本生態学会誌*, 70 : 231-242.

<専門分野の著作>

- Takahashi, K. (2020) Terrestrial Vertebrate Fossils from the Kobiwako Group: Their Significance for the Plio-Pleistocene Fauna of Japan. In: Kawanabe, H., Nishino, M. and Maehata, M. eds. *Lake Biwa: Interactions between Nature and People (second edition)*, Springer: 25-36.
- 高橋啓一 (2021) MIS 6 の動物の渡来を探索. 門脇誠二 編, *パレオアジア文化史学計画研究 2020 年度 A02 班研究報告*: 64-68.
- 山川千代美 (2021) 滋賀県立琵琶湖博物館が展示交流空間のリニューアルで目指すもの. *博物館研究*, 56 (4) : 20-23.
- Kameda, K. O. (2020) 7.2.4 Population increase of the Great Cormorant *Phalacrocorax carbo* and measures taken to reduce its damage to the fisheries and forests of Lake Biwa. In: Kawanabe, H., Nishino, M., Maehata, M. eds., *Lake Biwa: Interactions between Nature and People (second edition)*, Springer, pp.603-608.
- Hashimoto, H., Sugawa, H. and Kameda, K. O. (2020) 2.9 Characteristics of avifauna of Lake Biwa and its long-term trends. In: Kawanabe, H., Nishino, M. and Maehata, M. eds., *Lake Biwa: Interactions between Nature and People (second edition)*, Springer, pp.237-242.
- Satoguchi, Y. (2020) Geological history of paleo- and present Lake Biwa. Kawanabe, H., Nishino, M. and Maehata, M. eds. *Lake Biwa: Interactions between Nature and people (second edition)*, Springer, pp.17-24. DOI: 10.1007/978-3-030-16969-5
- 里口保文 (2021) 琵琶湖博物館所蔵の田上ペグマタイト鉱物. *琵琶湖博物館研究調査報告*, (34) : 171-174.
- 里口保文 (2021) 本研究調査報告の趣旨. *琵琶湖博物館研究調査報告*, (34) : 5-6.
- 増田富士雄・里口保文・齋藤 有・佐藤智之・谷口圭輔 (2021) 琵琶湖岸, 烏丸コアの堆積相解析と堆積環境の変遷. *琵琶湖博物館研究調査報告*, (34) : 7-72.
- 林田 明・里口保文 (2021) 烏丸地区深層掘削試料の磁気層序. *琵琶湖博物館研究調査報告*, (34) : 73-80.
- 里口保文 (2021) 烏丸地区深層ボーリングコアの火山灰対比の再検討. *琵琶湖博物館研究調査報告*, (34) : 81-94.
- 増田富士雄・里口保文 (2021) 琵琶湖の古環境変遷に関する新知見: 烏丸深層ボーリングコアの堆積環境解析結果から. *琵琶湖博物館研究調査報告*, (34) : 95-109.
- Hashimoto, M. (2020) History of Funazushi. In: Kawanabe, H., Nishino, M. and Maehata, M. eds. *Lake Biwa: Interactions between Nature and People (second edition)*, Springer, pp.473-477.
- 橋本道範 (2021) 地域環境史の自然観論—琵琶湖産フナ属のコード化をめぐる—. 石井美保・岩城卓二・田中祐理子・藤原辰史 編, *環世界の人文学*, 人文書院: 313-350.
- 楊 平・八尋克郎 (2020) 持続的な環境教養の広がり実践はいつにできるのか—日本・琵琶湖地域の環境活動の取り組みから考える—. *国際論壇宜蘭地域博物館環境教育*: 29-32.
- 楊 平 (2020) 複合生態農業システムからみる中国の農耕文明. 中村慎一・劉斌 編, *河姆渡と良渚*, 雄山閣: 179-187.
- 林 竜馬 (2020) 人新世と 10 万年スケールの森の歴史. *談*, 119 : 35-62.
- 林 竜馬・村澤真保呂・伊達浩憲・宮浦富保・中川晃成・太田真人 (2021) 座談会: 里山研と人新世. *龍谷大学里山学研究センター2020 年度年次報告書*: 3-16.
- 渡部圭一 (2019) 御幣の祭りから提灯の祭りへ—秋祭りの変貌と祭祀組織—. 御所市教育委員会 編, *御所の献灯行事—御所市内ススキ提灯行事調査報告書—* (御所市文化財調査報告書第 57 集), 御所市教育委

- 員会：39-57.
- 三桝友梨香・渡部圭一（2019）御霊神社の秋祭り（大字増）. 御所市教育委員会 編, *御所の献灯行事—御所市内ススキ提灯行事調査報告書—*（御所市文化財調査報告書第57集）, 御所市教育委員会：170-180.
- 三桝友梨香・渡部圭一 編（2019）御所市の秋祭り関係文書. 御所市教育委員会 編, *御所の献灯行事—御所市内ススキ提灯行事調査報告書—*（御所市文化財調査報告書第57集）, 御所市教育委員会：405-411.
- 渡部圭一（2020）宮座. 吉原健一郎・西海賢二・滝口正哉 編, *郷土史体系VI 宗教・教育・芸能・地域文化*. 朝倉書店：62-70.
- Watanabe, K. and Mimasu, Y. (2020) Survey of tools used by “stonecutters” at the foot of Mt. Hira. In: *Traditional and Local knowledge of Eco-DRR at the foot of Hira Mountains: Disaster Response as Learned from Local History*. Research Institute for Humanity and Nature: 46-51.
- 渡部圭一（2020）般若心経の戦後史. *書物・出版と社会変容*, 「書物・出版と社会変容」研究会, 25：37-60.
- 渡部圭一（2020）多賀の祭りを支えた人びと 第3回. *多賀*, 多賀大社, 64：6-7.
- 渡部圭一（2021）多賀の祭りを支えた人びと 第4回. *多賀*, 多賀大社, 65：6-7.
- 渡部圭一（2021）「はげ山」研究の新しい論点. *現代民俗学研究*, 現代民俗学会, 13：78-83.
- 妹尾裕介・長友朋子（2020）近畿地方における造りつけ竈定着以前の米蒸し調理. *日本考古学協会第86回（2020年度）総会発表要旨*, pp. 100-101.
- 渡辺勝敏・田畑諒一（2021）(4) 琵琶湖サイト. *モニタリングサイト1000 陸水域調査 湖沼・湿原 2009-2017年度とりまとめ報告書*, 環境省 自然環境局 生物多様性センター, pp. 66-69.
- 島本多敬（2020）2019年学界展望 地図. *人文地理*（人文地理学会）, 72（3）：295-298.
- DOI. https://doi.org/10.4200/jjhg.72.03_295
- 島本多敬（2021）第2節 目黒山形と野帳. 松野町教育委員会 編, *松野町文化的景観調査報告書—目黒の農山村景観—*, 松野町教育委員会, 愛媛県北宇和郡松野町, pp. 115-124.
- 松田征也（2020）硬骨魚類の繁殖 淡水魚（日本産）（追記）. *新・飼育ハンドブック 水族館編 1 繁殖／餌料／病気*, 公益社団法人 日本動物園水族館協会：21-25.
- 松田征也（2021）ワタカ；ニッポンバラタナゴ. 滋賀県生き物総合調査委員会 編, *滋賀県で大切にすべき野生生物—滋賀県レッドデータブック2020—*, サンライズ出版.
- 松田征也（2021）淡水貝類の概要（イケチョウガイ；カワネジガイ；オトコタテボシガイ；オバエボシガイ；セタシジミ；マシジミ；マツカサガイ；サガノミジンツボ；ドブシジミ；ヒダリマキモノアラガイ；ヒラマキミズマイマイ；ヒラマキガイモドキ；ヒロクチヒラマキガイ；マメタニシ；オウミガイ；カドヒラマキガイ；ササノハガイ；タテボシガイ；ビワコミズシタダミなど）. 滋賀県生き物総合調査委員会 編, *滋賀県で大切にすべき野生生物—滋賀県レッドデータブック2020—*, サンライズ出版.
- 八尋克郎・坂田俊之（2020）滋賀県におけるアカギカメムシの記録. *Came 虫*, 203：18.
- 八尋克郎（2021）昆虫類の概要. *滋賀県で大切にすべき生き物—滋賀県レッドデータブック2020年版—（滋賀県自然環境保全課）*：418.
- 八尋克郎（2020）オオクワガタ；セアカオサムシ；クロカタビロオサムシ；オオヨツボシゴミムシ；オサムシオドキ；クロケブカゴミムシ；コキベリアオゴミムシ；ヒメボタル；ムナグロチャイロテントウ；アキオサムシ；シガラキオサムシ；サメメクラチビゴミムシ；イシダメクラチビゴミムシ；オオヒョウタンゴミムシ；キベリマルクビゴミムシ. *滋賀県で大切にすべき生き物—滋賀県レッドデータブック2020年版—（滋賀県自然環境保全課）*, 676pp.
- 酒井陽一郎・石川可奈子・佐藤祐一・井上栄壮・芳賀裕樹（2020）水草管理による生態系再生に向けた研究. *琵琶湖環境科学研究センター研究報告書（H29～R1）*, 滋賀県, 16：122-139.
- 焦春萌・石川可奈子・芳賀裕樹・酒井陽一郎・高村健二・高村典子（2020）地方創生共同研究 湖沼の生態系の評価と管理・再生に関する研究～琵琶湖南湖の物理環境の変化が生態系に与える影響の把握～. *琵琶湖環境科学研究センター研究報告書（H29～R1）*, 滋賀県, 17：122-139.

- Masunaga, K. (2020) The Dragonfly and Damselfly Faunas of Lake Biwa and their Long-term Changes. In: Kawanabe, H., Nishino, M. and Maehata, M. eds., *Lake Biwa: Interactions between Nature and People (second edition)*, Springer, pp.183-184.
- Masunaga, K. (2020) Appendix 2.23. List of Odonata (Hexapoda) in Lake Biwa and its adjacent waters. In: Kawanabe, H., Nishino, M. and Maehata, M. eds., *Lake Biwa: Interactions between Nature and People (second edition)*, Springer, pp.774-780.
- Nakai, K. (2020) Countermeasures against invasive alien species, In: Kawanabe, H., Maehata, M. and Nishino, M. (eds.) *Lake Biwa: Interactions between Nature and People - Second Edition*, pp. 583-584. Springer.
- Nakai, K. (2020) Countermeasures against invasive alien species. In: Kawanabe, H., Maehata, M. and Nishino, M. (eds.) *Lake Biwa: Interactions between Nature and People - Second Edition*, pp.583-584. Springer.
- Nakai, K. (2020) Countermeasures against invasive alien species: Regulations and control, Ditto, pp.585-592. Springer.
- Nakai, K. and Kaneko, Y. (2020) Non-indigenous species in and around Lake Biwa. Ditto, pp.299-312.
- Takigawa, Y., Kato, S., Nakano, T., Nakai, K., Tomikawa, K., Ishiwata, S., Fujita, T., Hosoya, K., Kawase, S., Senou, H., Yoshino, S. and Nishino, M. (2020) The *Vega* collection at the end of the Nineteenth-Century survey of Lake Biwa. Ditto, pp.247-257.
- 嶺田拓也・中井克樹・林 紀男・丸井英幹 (2020) 農業被害をもたらす侵略的外来水草の対策と課題. *水土の知* (農業農村工学会誌), 88 : 887-891.
- 中井克樹 (2021) ナガタニシ; マルタニシ; オオタニシ; カワムラムメシジミ; ビワコドブシジミ; 陸産貝類の概要; サドヤマトガイ. In: 滋賀県生きもの総合調査委員会 (編), *滋賀県で大切にすべき野生生物 滋賀県レッドデータブック 2020 年版*, サンライズ出版, 彦根, p.612; 612; 614; 619; 620; 626; 638.
- 中井克樹・金尾滋史・石田末基 (2021) ナガオカモノアラガイ. 同上, p.640.
- 中井克樹・金尾滋史・大谷ジャーメンウィリアム (2021) フトキセルガイモドキ; イブキゴマガイ類. 同上, p.641; 643.
- 中井克樹・大谷ジャーメンウィリアム (2021) オクガタギセルガイ; トノサマガセルガイ; トウカイヤマトガイ; アツブタガイ; コガネマイマイ (オカノマイマイ); ゴマオカタニシ. 同上, p.627; 628; 631; 634; 637; 638.
- 中井克樹・大谷ジャーメンウィリアム・石田末基 (2021) ニシキマイマイ; ミヤマヒダリマキマイマイ (ヒラヒダリマキマイマイ). 同上, p.641; 641.
- 中井克樹・大谷ジャーメンウィリアム・金尾滋史 (2021) ヤマタカマイマイ; クロイワマイマイ. 同上, p.642; 643.
- 中井克樹・大谷ジャーメンウィリアム・金尾滋史・宮井卓人 (2021) ギュリキマイマイ (イセノナミマイマイ). 同上, p.647.
- 石田末基・中井克樹・大谷ジャーメンウィリアム (2021) ニクイロシブキツボ. 同上, p.628.
- 金尾滋史・石田末基・大谷ジャーメンウィリアム・中井克樹 (2021) ナタネキバサナギガイ. 同上, p.631.
- 金尾滋史・中井克樹 (2021) シリボソギセルガイ; ナタネガイモドキ; ホラアナゴマオカチグサガイ; ミカドギセルガイ. 同上, p.630; 631; 632.
- 金尾滋史・大谷ジャーメンウィリアム・石田末基・中井克樹 (2021) ケシガイ類. 同上, p.644.

- 金尾滋史・大谷ジャーメンウィリアム・宮井卓人・中井克樹 (2021) カタマメマイマイ. 同上, p. 629.
- 金尾滋史・大谷ジャーメンウィリアム・中井克樹 (2021) カナマルマイマイ ; ヤコビマイマイ. 同上, p. 627; 628.
- 宮井卓人・中井克樹 (2021) タワラガイ. 同上, p. 644.
- 宮井卓人・中井克樹・金尾滋史 (2021) オウミケマイマイ. 同上, p. 635.
- 大谷ジャーメンウィリアム・石田未基・中井克樹 (2021) アズキガイ, コシタカコベソマイマイ ; ニッポンマイマイ類 ; ピロウドマイマイ類 ; マメマイマイ類. 同上, p. 627; 637; 645; 646; 646.
- 大谷ジャーメンウィリアム・金尾滋史・中井克樹 (2021) ヤママメタニシ ; ウメムラシタラガイ ; コンボウギセルガイ ; チャイロオトメマイマイ類 ; ムシオイガイ類. 同上, p. 633; 634; 638; 644 ; 646.
- 大谷ジャーメンウィリアム・宮井卓人・中井克樹・金尾滋史 (2021) ツルガマイマイ. 同上, p. 640.
- 大谷ジャーメンウィリアム・中井克樹 (2021) オオコウラナメクジ ; キョウトギセルガイ ; クチマガリマイマイ ; ココロマイマイ ; ホソヒメギセルガイ ; イボイボナメクジ ; オオギセルガイ ; カサネシタラガイ ; キセルガイモドキ ; クチマガリスナガイ ; クリイロキセルガイモドキ (エチゴキセルガイモドキ) ; コウベマイマイ ; スジキビガイ ; タカキビガイ ; ツムガタギセルガイ ; ナガナタネガイ ; ヤマコウラナメクジ ; キヌツヤベッコウ ; ハクサンベッコウ ; ヒラベッコウ ; ヤマクルマガイ. 同上, p. 629; 629; 630; 630; 632; 634; 635; 635; 636; 636; 636; 637; 639; 639; 639; 640; 642; 643; 645; 645; 647.
- 大谷ジャーメンウィリアム・中井克樹・金尾滋史・宮井卓人 (2021) コベソマイマイ. 同上, p. 647.
- Tuji, A. and Ohtsuka, T. (2020) Topic 2 Fossil diatoms from Lake Biwa and their phylogeny. In: Kawanabe, H., Mishino, M. and Maehata, M. (eds), *Lake Biwa: Interactions Between Nature and People (second edition)*, Springer, pp.61-66.
- Ohtsuka, T. and Tuji, A. (2020) Topic 4 Endemic diatoms of Lake Biwa. In: Kawanabe, H., Mishino, M. and Maehata, M. (eds), *Lake Biwa: Interactions Between Nature and People (second edition)*, Springer, pp.99-101.
- Ohtsuka, T. (2020) List of diatoms newly described from Lake Biwa. In: Kawanabe, H., Mishino, M. and Maehata, M. (eds), *Lake Biwa: Interactions Between Nature and People (second edition)*, Springer, pp.642-644.
- 大塚泰介・嶺田拓也 (2020) はじめに. In: 大塚泰介・嶺田拓也 編, *なぜ田んぼには多様な生き物がすむのか*, 京都大学学術出版会, pp. ix-xii.
- 大塚泰介 (2020) 第1章 田んぼの小さな生物の見えざる多様性. In: 大塚泰介・嶺田拓也 編, *なぜ田んぼには多様な生き物がすむのか*, 京都大学学術出版会, pp. 3-22.
- 藤田裕子・大塚泰介 (2020) 第2章 種類も生きざまも多様な水田の藻類. In: 大塚泰介・嶺田拓也 編, *なぜ田んぼには多様な生き物がすむのか*, 京都大学学術出版会, pp. 23-46.
- 大塚泰介 (2020) コラム1 水田で稚魚の生残率が高い理由. In: 大塚泰介・嶺田拓也 編, *なぜ田んぼには多様な生き物がすむのか*, 京都大学学術出版会, pp. 127-130.
- 金尾滋史・大塚泰介 (2020) コラム2 絶滅した地域個体群を他地域からの導入により 復活させることの意義と問題点—水田地帯の生き物を事例に. In: 大塚泰介・嶺田拓也 編, *なぜ田んぼには多様な生き物がすむのか*, 京都大学学術出版会, pp. 208-213.
- 大塚泰介 (2020) 第12章 田んぼにしかない生物は, 田んぼができる前には どこにいたのか. In: 大塚泰介・嶺田拓也 編, *なぜ田んぼには多様な生き物がすむのか*, 京都大学学術出版会, pp. 255-273
- Toda, T. (2020) How “Natural History Museums” Can Perform as “Science Centers”. In: *Traditions of Sustainable Future” : 47th Conference of CIMUSET*, ICOM- CIMUSET: International Committee for Museums and Collections of Science and Technology, Paris, 69-73,

- 芦谷美奈子 (2021) With コロナの時代に博物館体験の質をどう確保するか～琵琶湖博物館での取り組み～.
研究発表大会予稿集, 28, 全国科学博物館協議会: 15-18.
- 金尾滋史 (2020) 図書紹介「岐阜県の魚類 第二版 向井貴彦 (編著)」. 魚類学雑誌, 67 (1): 137-138.
- 金尾滋史 (2020) 魚たちの様々な水田利用法. 大塚泰介・嶺田拓也 編, なぜ田んぼには多様な生き物がすむのか, 京都大学学術出版会, pp. 104-126.
- 金尾滋史・大塚泰介 (2020) 絶滅した地域個体群を他地域からの導入により復活させることの意義と問題点.
大塚泰介・嶺田拓也 編, なぜ田んぼには多様な生き物がすむのか, 京都大学学術出版会, pp. 208-213.
- 金尾滋史・吉本瀧侍 (2020) 滋賀県大津市南部で確認された外来種ムネアカハラビロカマキリ. *Came 虫* (滋賀むしの会), 203: 23-24.
- 日比野友亮・金尾滋史・萩原富司 (2021) 絶滅に瀕するタナゴ文化: 特に食文化に関する素描. 魚類自然史研究会会報ボテジャコ, 25: 27-50.
- 金尾滋史・川瀬成吾・山野ひとみ・根来 央・魚類自然史研究会事務局 (2021) 魚類自然史研究会ウェブ大会開催奮闘記. 魚類自然史研究会会報ボテジャコ, 25: 51-55.
- 金尾滋史 (2021) 淡水魚類の概要. 滋賀県生きもの総合調査委員会 編, 滋賀県で大切にすべき野生生物ー滋賀県版レッドデータブック 2020ー, サンライズ出版, pp. 576.
- 金尾滋史 (2021) 淡水魚類の解説 (オオガタスジシマドジョウ, ハリヨほか計 13 種). 滋賀県生きもの総合調査委員会 編, 滋賀県で大切にすべき野生生物ー滋賀県版レッドデータブック 2020ー, サンライズ出版, pp. 577-602.
- 金尾滋史 (2021) 淡水貝類の解説 (オグラヌマガイ, カタハガイほか計 9 種). 滋賀県生きもの総合調査委員会 編, 滋賀県で大切にすべき野生生物ー滋賀県版レッドデータブック 2020ー, サンライズ出版, pp. 605-623.
- 金尾滋史ほか (2021) 陸産貝類の解説 (カナマルマイマイ, ヤコビマイマイほか計 22 種). 滋賀県生きもの総合調査委員会 編, 滋賀県で大切にすべき野生生物ー滋賀県版レッドデータブック 2020ー. サンライズ出版, pp. 627-649.
- 中村久美子・北村美香 (2020) 「出会いの場」であり続ける展示室 ー展示交流ってなに? から 10 年ー. 全科協ニュース, 50 (4): 5.

(2) 新琵琶湖学セミナー

琵琶湖博物館の研究成果発信の一環として、「新琵琶湖学セミナー」を開催している。2020 年度は、企画展示「守りたい! 少なくなった生き物たち ー未来につなぐ地域の宝物ー」に関連させ、人々の生活と密接に関わってきた琵琶湖やその集水域では、今どのような変化が起きているのか、琵琶湖と集水域の現状調査から、各テーマにおける最新の研究成果を紹介し、琵琶湖や私たちの身近な未来について考えるセミナーとした。新型コロナウイルス感染拡大防止のため、第 1 回、第 2 回は中止し、第 3 回は会場をホールとして、感染症の動向を見ながらの開催案内となり、当館学芸員のみによる短縮講演プログラムで行った。一般参加者数は 32 名であった。具体的内容は下記の通り。

開 講 日: 3月27日(土) 13:30~15:15 「外来生物の現状と守りたい生き物たち」 参加総数: 57人
中井克樹「滋賀県の外来種対策: 琵琶湖のおかげでできたこと、できなかったこと」
松田征也「守りたい、地域の宝もの ー希少生物の保全ー」

(3) 研究セミナー・特別研究セミナー

1) 研究セミナー

学芸職員および特別研究員の研究発表と研究交流の機会として、原則毎月第 3 金曜日 13:15~15:15 に、

研究セミナーを開催している。2020 年度は以下の通り実施した。会場は第 11 回が琵琶湖博物館のホール、それ以外は全てセミナー室である。

第 1 回 4 月 17 日

新型コロナウイルス感染症の感染拡大を受け中止。

第 2 回 5 月 15 日

新型コロナウイルス感染症の感染拡大を受け中止。

第 3 回 6 月 19 日 26 人

R. J. スミス「淡水カイミジンコの生殖について」

中野 聡志（特別研究員）「田上ペグマタイトー歴史・実態・記録：いま、ここで、なぜ、田上ペグマタイトなのか」

島本 多敬「狭山池浚渫計画の再検討ー18 世紀中期の河内国南部における個別領主の土砂堆積対応ー」

第 4 回 7 月 17 日 35 人

金尾 滋史「滋賀県内における希少淡水魚ハリヨの現状と課題」

八尋 克郎・林 成多「多賀町四手の第 5 次～7 次発掘調査の昆虫化石および平安時代の塩津港遺跡の昆虫遺体」

戸田 孝「地域博物館での「科学館」的知識～課題の再整理～」

第 5 回 8 月 21 日 34 人

芦谷 美奈子「「レイクモンスター」という切り口で見える様々な水辺の姿」

中井 克樹「地域の生物の保全をテーマにした第 28 回企画展示の紹介」

真柄 侑（特別研究員）「民俗学の立場から考える「人が働き生きること」ー野洲市三上における暮らしと生業、新たな課題ー」

第 6 回 9 月 18 日 39 人

田畑 諒一「ニゴイとコウライニゴイの遺伝的集団構造と系統地理」

芳賀 裕樹「南湖の沈水植物は生えたのか？」

橋本 道範「「源五郎鮒」と「紅葉鮒」ー地域環境史の自然観論」

第 7 回 10 月 16 日 35 人

大槻 達郎「琵琶湖湖岸に生育する絶滅危惧植物の種子更新の解明」

大塚 泰介「田んぼにしかない生物の謎」

亀田 佳代子・島本 浩平「鵜飼の鵜として飼育されるウミウの行動と生態」

第 8 回 11 月 20 日 37 人

渡部 圭一「共有山の開発と砂防：湖西比良山麓の事例から」

妹尾 裕介「生業と集落動態からみた弥生時代から古墳時代の琵琶湖周辺地域の変化」

第 9 回 12 月 18 日 26 人

梶永 一宏「霧多布湿原におけるアシナガバエの多様性」

片岡 佳孝「飼育水温がイワナのふ化に与える影響ー飼育水温と在来イワナ受精卵の生残ー」

鈴木 隆仁「マミズクラゲの培養皿から見つかったイタチムシ類」

第 10 回 1 月 15 日 40 人

中川 信次「農村集落での環境学習が児童の意識に与える影響について」

山本 綾美・近藤 順子「森林環境学習「やまのこ」事業におけるプログラム評価方法について」

臨時 1 月 22 日 31 人

楊 平「地域コミュニティの形成と地域再生の可能性」

山川 千代美「鮮新ー更新世の水辺植生の復元」

林 竜馬「福島県における遺跡花粉分析データの時空間解析と滋賀県との比較」

里口 保文「古琵琶湖堆積盆からの水の流出方向変化のメカニズムの検討」

第11回 2月19日

45 人

NOXON, Corey, Tyler (特別研究員)「住居から見た縄文中期の人口と定住性 Population and Mobility in the Middle Jomon Period Viewed from Pithouse Remains」

由良 嘉基「中学校における博物館の有効な利用法について～サポートシートのねらいとは～」

山中 大輔「河川の維持管理における河道内樹木伐採の新たな試みについて」

第12回 3月19日

43 人

奥野 知之「学習内容に合わせた博物館の活用Ⅳ」

草加 伸吾(特別研究員)「「倒木遮蔽更新」仮説を応用した再生促進技術の開発」

松田 征也「希少生物の保全」

なお、2020年度は特別研究セミナーの開催はなかった。また、中止とした第1・2回を補うため、発表スケジュールを組み替え、2021年1月に通常日程に加えて臨時の研究セミナーを開催した。

(4) 琵琶湖博物館ブックレット

「琵琶湖博物館ブックレット」(サンライズ出版)は、2016年からシリーズ出版されており、年に1～2冊発行されている。2020年度は、「近江路をめぐる石の旅」(2021年1月出版)と「琵琶湖と古墳 東アジアと日本列島からみる」(2021年3月出版)の2冊が刊行された。

第12号「近江路をめぐる石の旅」

長 朔男(湖国もぐらの会)

第13号「琵琶湖と古墳 東アジアと日本列島からみる」

用田 政晴(琵琶湖博物館名誉学芸員)

研究交流

(1) 協力協定(MOU: Memorandum of Understanding)に基づく連携

琵琶湖博物館では、地域に根ざしながら広く世界を視野に入れ、研究活動および展示の国際化を推進するため、協力協定(MOU: Memorandum of Understanding)の締結に基づく研究・交流のネットワークを確立し、国内外の関係機関との連携を強化している。協定の締結内容としては、次の5項目である。このほかに、研究および資料、展示についての具体的な協力が行われる場合は、別途協議して協定を結ぶものとしている。

①研究者等博物館職員の交流

②共同研究プロジェクト、シンポジウム、展示等に関する交流

③専門技術や方法論に関する情報交換

④出版物、資料、標本等の交換(生きた生物を含む)

⑤両館で合意を得た博物館活動に関する他の事柄の交流

2020年度までに、フランスのパリ国立自然史博物館、ロシアのバイカル博物館、北マケドニアの国立オフリド水生生物研究所、中国の中国科学院水生生物研究所と湖南省博物館、韓国の国立洛東江生物資源館、京都大学野生動物研究センターの7つの博物館・研究機関とMOUを締結している。

これらを踏まえ、2020年度は次のような活動を展開した。

1) 韓国国立洛東江生物資源館(韓国慶尚北道尚州市)

韓国国立洛東江生物資源館(資源館)は、韓国の淡水生物を研究する専門機関で、淡水生物の発掘、培養、遺伝的特性、生理活性、産業化などの研究を行っている。また、これらの内容に関連した様々な動物、植物、微生物の展示や教育プログラムの開発を、韓国国民を対象に行っている機関でもある。2017年4月21日に

協力協定(MOU)を締結し、年1回、交互に、合同セミナーやワークショップなどを開催して情報交換を行い、共同研究や事業を進展させていくこととしている。

今年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、毎年行っている合同セミナーやワークショップの開催を見送った。人的交流の代わりに、研究資料・展示資料の相互交換などを積極的に展開した。特に研究では、資源館の進める生物多様性調査に必要な情報（河川における重金属汚染、環境影響評価や生態系の変化に関する情報）を提供した。また、展示物では、2019年度企画展示「海を忘れたサケービワマスの謎に迫る」に関する資料利用に関する取り決めを交わし、資源館の資料を本館で展示できる準備を進めるとともに、現在両機関の出版物を交換する準備をしているところである。

(2) 研究機関との連絡活動

1) 県内試験研究機関

県立の8つの試験研究機関が琵琶湖や滋賀県の環境に関する相互の試験研究の円滑な推進や情報の発信を図ることを目的として、琵琶湖と滋賀県の環境に関する試験研究機関連絡会議（事務局：滋賀県琵琶湖環境科学研究センター）が設置運営されている。その後、目的を環境に限らず滋賀県立の試験研究機関相互間の連絡調整を行い、その試験研究の円滑な推進や広く情報の発信を図ることとなった（2018年1月25日本会議）。

各機関が行っている研究やその成果について、広く一般に知ってもらうために、発表会を毎年開催しているが、今年はコロナ禍のあおりで中止になった。幹事会は2020年10月15日（木）にオンライン開催され、発表会の中止と、2月頃に勉強会と本会議を琵琶湖博物館で行う方針を決定した。しかしその後の新型コロナウイルス感染拡大により、勉強会は中止、本会議は書面開催となった。本会議は2021年3月2日（火）までに書面開催され、研究会・勉強会の中止と設備機器相互利用実績が報告されるとともに、次年度の行事予定が承認された。

滋賀県における新型コロナウイルス感染状況の分析が喫緊の課題となったため、滋賀県試験研究機関連絡会議の統計・モデリングを扱う有志が集まって、新型コロナウイルス感染症対策班 情報・疫学統計チームが組織され、琵琶湖博物館からは大塚泰介が参加した。その研究成果を、滋賀県試験研究機関連絡会の応用統計学学習会と滋賀県 EBPM 研修会の合同大会（7月22日（水）、県庁新館）で「滋賀県における新型コロナウイルス感染状況の数理解析とその応用」として、滋賀県琵琶湖環境科学研究センターの佐藤祐一氏が代表で発表した。

(3) 海外活動

1) 研究に関する国際用務

2020年度は、新型コロナウイルス感染拡大により海外渡航ができなくなったため、特記すべき国際用務はなかった。

研究部活動

(1) 研修

琵琶湖博物館は、日本学術会議声明「科学者の行動規範」改訂版（平成25年1月25日）および「博物館関係者の行動規範」（日本博物館協会平成23年3月）に準拠した「滋賀県立琵琶湖博物館における研究活動に係る行動規範」（2016年7月）を定め、公正な博物館活動を推進している。また、研究活動の不正行為を防止する一環として、毎年研究倫理研修を行っている。2020年度は次のような研修を実施した。

1) 第1回研究部研修「研究倫理研修」

参加者：37名

日時：10月31日（土）13：30～15：30

場所：琵琶湖博物館ホール

内容：「学術剽窃がもたらすもの」

講師：堀 和生 氏 （京都大学名誉教授）

現実に発生した剽窃事案を素材として、学術剽窃が研究者の人生にどのような影響をもたらすのかについて講義を受けた。また、共同研究のあり方についても見直すきっかけとなった。

2) 日本学術振興会 研究倫理 e ラーニングコース(e-Learning Course on Research Ethics)の受講

実施期間：3月1日～3月31日まで

受講時間：約1時間半

受講人数：42名（学芸職員の他、特別研究員10名を含む）

(2) 薬品類の管理

滋賀県立琵琶湖博物館化学薬品安全管理規程（2017年4月1日より施行）の第4章に記述されている通り、化学薬品の保管状況および毒劇物等の使用状況について確認を行うことを目的に、1月7日から8日までの期間で、薬品の棚卸し作業を行った。その結果、毒物、劇物、有害物質、指定物質、第一種指定化学物質について、すべての在庫を確認した。薬品瓶の重量（容器込み）を測定し、薬品管理使用簿に記入した。棚卸しの結果は、化学薬品管理報告書にまとめ、化学薬品管理委員会の委員長に報告した。

(3) 研究備品の管理

研究備品の適切な管理のため、博物館全体の研究備品を計画的に確認することとしている。今年度は、総務部総務課の持つ県の備品台帳の情報を元に、取得金額により対象を区分して備品の確認を行った。その結果に基づき、特に取得年代の古い備品の動作確認や処分等の検討を行っている。今後も継続して確認作業を実施し、将来に向けての計画的な備品整備を目指す計画である。

3 新たな参加と発見ができる博物館

展示活動

(1) 常設展示の主な更新

1) A 展示室

第3期リニューアル対象展示室。新型コロナウイルス対策等のため予定より遅れたが、2020年10月10日にリニューアルオープンした。以前の展示室の内容や展示物を残しながらも、展示室全体としては、400万年という琵琶湖のおいたちの時間の中で変わってきた自然環境を、大地と湖、生き物、気候と森のコーナーにわけて紹介している。また、以前の展示でも実施してきた地域の人びとと一緒につくる展示コーナーは、リニューアル後もその考え方を引き継ぎ、独立した展示コーナーとして設置し、今後も運営を行っていく予定である。

1. 琵琶湖のものがたりのはじまり

- 1-1 現在の琵琶湖の風景
- 1-2 琵琶湖のまわりにある昔の環境を伝えるもの
- 1-3 山をつくる岩石

2. 琵琶湖と生き物のものがたり

- 2-1 うつり変わる湖
- 2-2 ものがたりがねむるところ
- 2-3 ゾウのいる森

3. うつり変わる大地と湖

- 3-1 北へ動いてきた湖
- 3-2 湖を記録するもの
- 3-3 長生きする湖
- 3-4 琵琶湖の下にねむる山
- 3-5 昔の環境を記録した地層（地層コレクション）
- 3-6 400万年の川のつながりの変化
- 3-7 研究デスク：地層研究者

4. うつり変わる生き物

- 4-1 古琵琶湖層群から発見された化石
- 4-2 研究デスク：生物進化研究者

5. うつり変わる 気候と森

- 5-1 くり返す気候と森
- 5-2 変わる気候とメタセコイアの森
- 5-3 研究デスク：植物化石研究者

6. 琵琶湖の生い立ちと私たち

- 6-1 琵琶湖の生い立ち 10大事件
- 6-2 地域の人びとによる展示
- 6-3 地域を調べてきた人びとの資料



1. 琵琶湖のものがたりのはじまり



4. うつり変わる生き物

・ 地域の人びとによる展示

「琵琶湖の生い立ち」や「地盤の成り立ち」に関係する事柄で、地域の人々が自ら調査や採集をした資料や情報をもとに、琵琶湖地域のおもしろさや、展示する人の想いや興味が伝わるような展示を目指している。展示関係者による展示室での解説や交流を不定期に開催する予定だったが、感染症対策のため今年度は実施しなかった。

1. 古琵琶湖層群と周辺の化石

展示した人：飯村強さん

期間：2020年10月10日～2021年4月3日

内容：飯村さんがこれまでに調査、採集されてきた滋賀県および周辺の化石標本の展示と、産出地の概要地図、化石採集の注意事項、展示者をパネルで紹介した。

2) B 展示室

2020年10月10日にリニューアルオープンを行った。新しいB展示室は、「湖の2万年と私たちー自然と暮らしの歴史ー」と題して、今につながる、私たちと自然の関わりの歴史をみていくなかで、これからの自然とのつきあい方を考えるきっかけとなる展示を目指して、6つのゾーンで構成した。具体的な展示コーナーは以下の通り。

1. 私たちの暮らしのはじまり

- 1-1 近江にすむ龍
- 1-2 葛籠尾崎湖底遺跡
- 1-3 栗津湖底遺跡

2. 森

- 2-1 森にくらす
- 2-2 森をひらく
- 2-3 森をつくる
- 2-4 森にいのる

3. 水辺

- 3-1 水辺をつかう
- 3-2 水辺にいきる
- 3-3 水辺でかせぐ

4. 湖

- 4-1 湖をとおる
- 4-2 湖からみる
- 4-3 湖をつかう

5. 里

- 5-1 人をむすぶ
- 5-2 座につどう
- 5-3 暮らしをまもる
- 5-4 里にすむ

6. 今の私たちの暮らしへ



2. 森（撮影 乃村工藝社）



3. 水辺（撮影 乃村工藝社）

・収蔵資料展示「学芸員のこだわり展示」

B展示室では、2020年10月のリニューアルオープンを機に、展示室内の館蔵品紹介コーナーにおいて「学芸員のこだわり展示」と題した展示を実施することとした（毎回の会期1～2か月程度、年間6～10回程度の実施を予定）。当館の歴史系分野（考古、歴史、民俗）における資料の収集・保存・整理・公開活動または研究成果に関わる資料を、トピック展示として順次紹介する。これは、展示リニューアル前のB展示室「蔵ケース」で開催していた展示を継承して行うものである。

期 間	タイトル・展示資料名
10月10日（土）～ 11月22日（日）	第1回 学芸員のこだわり展示 明治後期、名所絵図の出版 ・「近江八景湖水名所図絵」1898年（明治31年） 当館蔵 ・「近江八景湖水名所図絵」1908年（明治41年） 個人蔵
12月1日（火）～ 1月17日（日）	第2回 学芸員のこだわり展示 いまとは違った江戸時代のフナズシ ・「合類日用料理抄」1689年（元禄2年） 個人蔵 ・現代のフナズシレプリカ 当館蔵
1月23日（土）～ 3月14日（日）	第3回 学芸員のこだわり展示 徹底解説！地引き網漁 ・「滋賀県管下近江国六郡物産図説一」1872年（明治5年） 当館蔵
3月16日（火）～ 5月16日（日） （前期）3月16日（火）～ 4月18日（日） （後期）4月20日（火）～ 5月16日（日）	第4回 学芸員のこだわり展示 名所図会にみる「湖のながめ」 ・『近江名所図会 巻二』1814年（文化11年）（前期のみ） ・『伊勢参宮名所図会 附録一』1797年（寛政9年）（後期のみ） ・『近江名所図会 巻三』1814年（文化11年） ・『近江名所図会 巻四』1814年（文化11年）（前期のみ） ・『木曾路名所図会 巻一』1805年（文化2年）（後期のみ）

3) C展示室

① 「川から森へ」コーナー

「琵琶湖の川と森を守る人々」コーナー展示において、川を守る活動をしている人びとや団体を紹介しており、6月2日に玉一アクアリウムと山内エコクラブのパネル展示を更新した。

② 「生きものコレクション」コーナー

「生きものちがいと変化」の「移り変わり」の展示品であるオオクチバスとブルーギルの剥製標本を、企画展示「守りたい！少なくなった生き物たちー未来につなぐ地域の宝物」の期間中、企画展示室へ移動させて展示した。

③ 「これからの琵琶湖」コーナー

毎年更新する「これからの琵琶湖コーナー」にある研究スタジアムは、10月6日に第5期に更新された。各ブースの展示担当は、高橋館長、金尾、鈴木、大久保、榊永である。

4) 水族展示室

季節ごとに常設展示の展示替えを行った。また、展示パネルの更新および魚名板の位置に種の見分け方やその種を取り巻く現状について紹介するためのパネルを設置した。このほか、一部の水槽照明をLED照明へと変更した。

6月2日～	下流域の魚たち水槽	アユの展示開始
6月2日～	湖底の生き物水槽	アナンデールヨコエビの展示開始
6月2日～	マイクロアクアリウム	パネル展示「帰ってきたミクロのスーパーヒーロー」 展示開始
6月15日～	下流域の魚たち水槽	ハス、ニゴイの展示開始

8月1日～	マイクロアクアリウム	マミズクラゲの展示開始
8月4日～	琵琶湖の主	ビワコオオナマズ稚魚の展示開始
9月1日～	下流域の魚たち水槽	アユへ展示替え
10月10日～	マイクロアクアリウム	ミクロの生き物水槽展示再開
11月3日～	下流域の魚たち水槽	アユからビワマスへ展示替え
12月22日～	下流域の魚たち水槽	ビワマスからワカサギへ展示替え
1月14日～	トンネル水槽	ウグイ未成魚、ハス未成魚、ホンモロコの展示開始
1月29日～	湖底の生き物水槽	アナンデールヨコエビの展示開始
2月21日～	トンネル水槽	ビワマス成魚展示開始
3月12日～	コアユ水槽	展示個体入れ替え
3月15日～	下流域の魚たち水槽	ワカサギからウグイへ展示替え

5) D展示室 ディスカバリールーム

「子どもと大人が一緒に楽しむ体験と発見」をテーマに、2018年7月6日リニューアルし、新しい展示構成となった（展示構成は以下の表のとおり）。リニューアルでは、「琵琶湖博物館の入口」となる展示室という方針は継承し、新たに五感や実物標本を使った体験型展示により学び発見する喜びを知ってもらえる場とした。具体的には、五感を使う展示、だれもが楽しめる展示、本物を体験する展示、身近なものをテーマにした更新展示を軸に構成し、小さなころから博物館に親しむことでミュージアムマナーも身につけられるような場を目指している。

	コーナータイトル	内 容	概 要
1	さわってみよう	化石・レプリカ・石	触覚を使い、材質による手触りの違いを知る
2	聞いてみよう	コオロギ、アマガエル、コウモリの模型	聴覚を使い、生き物が音を出す仕組みを知る
3	におってみよう	季節の植物の匂い抽出液、オオサンショウウオの匂い（人工）	嗅覚を使い、生き物が出す匂いや意味を知る
4	大きくしてみよう	昆虫類、植物、鳥のハネ、アザラシのひげなど	視覚を使い、普段と違う視点で拡大して見る
5	さがしてみよう	カラス・フクロウ・スズメ・カワセミを双眼鏡で探す	発見する楽しみを知る導入として、室内の生き物を探す
6	見つけてみよう ー生き物のすみかー	キツネ、タヌキ、ネズミ、モグラの剥製など	空間的に配置した剥製を体感しながら生き物のすみかを知る
7	見つけてみよう ー生き物のかたちー	タヌキの剥製、骨格標本、信楽焼きのタヌキ	目線近くに配置した剥製をじっくり観察し、頭の中のイメージとの違いに気づく
8	のぞいてみよう ー魚の世界ー	ナマズ、コイ、ニゴロブナ	間近でじっくり観察し、さらに人それぞれの見え方の違いに気づく
9	人形げきじょう	季節ごとのパペット	新しいびわこの仲間のパペットを加えた
10	おばあちゃんの台所	井戸、いろり、かまどなど	昭和の古民家を再現
11	ザリガニになろう	ザリガニ大型模型	ザリガニになった気持ちでエサを獲る
12	ディスカバリーコーナー	季節ごとのディスカバリーボックス	館内の多様なテーマごとに詰め込んだボックス
13	イノシシの歯、コウモリの歯	2種のアゴの動き方模型	歯の役割、仕組みを知る
14	みんなのたからもの	来館者が見つけた宝物	参加型の展示コーナー
15	ブックコーナー	図鑑類	学芸員が子どもの頃読んでいた本の紹介
16	糸描きコーナー	毛糸で絵を描くボード	
17	かげえボックス	影絵用のライトとスクリーン	

各コーナーで季節に合わせた展示物の入れ替えを次の表の通り実施した。

【季節展示】

展示場所	展示内容	展示期間
おばあちゃんの台所	夏 version	6 月 23 日～6 月 26 日
	七夕	6 月 30 日～7 月 7 日
	土用	7 月 8 日～7 月 10 日
	お月見	9 月 15 日～10 月 1 日
	秋 version	10 月 3 日～12 月 11 日
	冬至	12 月 15 日～12 月 21 日
	お正月	12 月 22 日～12 月 26 日
	七草	1 月 6 日～1 月 14 日
	節分	1 月 15 日～2 月 2 日
	ひな祭り	2 月 4 日～3 月 3 日
	春 version	3 月 4 日～3 月 31 日
きいてみよう	コオロギの映像	9 月 23 日～3 月 31 日
ブックコーナー	学芸員の紹介本 前期	6 月 23 日～11 月 26 日
	学芸員の紹介本 後期	11 月 27 日～3 月 31 日
生きものの展示	ナマズ	6 月 23 日～7 月 3 日 9 月 15 日～3 月 31 日
	コイ	常設
	フナ	常設
	ウナギ	7 月 7 日～7 月 10 日
	カイコ	7 月 7 日～7 月 10 日 9 月 15 日～9 月 25 日
みつけてみよう	ライトボックス あじさい	6 月 23 日～7 月 10 日
	ライトボックス 稲 2 種	9 月 15 日～3 月 31 日
	タヌキ(人形)4 体	7 月 7 日～3 月 31 日
	昆虫(レプリカ)	10 月 14 日～3 月 31 日
	ヤマカガシ(レプリカ)	3 月 11 日～3 月 31 日
ディスカバリーコーナー	ボックス 5 種	6 月 23 日～3 月 31 日
	ボックス・カタツムリ追加	7 月 7 日～3 月 31 日
	ボックス・土器パズル追加	9 月 15 日～3 月 31 日

【常設展示】今年度新規製作した展示物

1. 龍のひみつ：龍は九つの動物で出来ているという九似説をもとに、どの部分がどの動物かあみだくじの手
法で展開する。
2. くらべてみよう：ネズミとヒトのくるみの食べ方の違いを、実物のクルミで呈する。
3. ウナギの神通力：滋賀の民話をイラスト入りで紹介する。
4. 昆虫をさがそう：昆虫のシルエットをたよりに昆虫(レプリカ)を探す。
5. こんなのできたよ：糸描きコーナーの横に来館者が作った糸描きの作品を画像で掲示する。

【期間展示】

1 月 6 日～1 月 15 日「ウシ年クイズ 2021」干支(ウシ)展示。ウシの頭骨(レプリカ)を置いた周囲に各展示室
にいるウシをクイズ形式で紹介



1. 龍のひみつ



2. くらべてみよう



3. ウナギの神通力



4. 昆虫をさがそう



5. こんなのできたよ



期間展示：ウシ年クイズ 2021

【その他】

・新任研修

日時：4月14日

対象：新任職員、新規展示交流員

内容：ディスカバリールームの主旨とリニューアル後の展示室における展示交流員の業務内容を中心に研修をした

6) E展示室 おとなのディスカバリー

おとなの好奇心を刺激して、おとなが心から楽しめる展示室で、第2期リニューアルにより2018年7月6日に新しく誕生した。より体験的な展示と、博物館で活動している人たちの出会い・集いの場、そしてフィールドへ出たくなるような空間で、繰り返し利用されることを目指した部屋で、しらべるゾーン、質問コーナー、オープンラボ、交流コーナー、滋賀県本コーナーの5つのゾーンから構成されている

「しらべるゾーン」の展示更新と交流活動は以下の通りである

【スケッチテーブル】

11月24日からスケッチテーブルにて「冬の琵琶湖に集まるカモたち」として、ホシハジロ(♂♀)、スズガモ(♂♀)、ハシビロガモ(♂♀)、ヒドリガモ(♂)、オオバン(♂)の剥製を展示した。

【植物】

・植物標本

7月 イブキフウロ フウロソウ科

・植物細密画

6月 はしかけ「湖(こ)をつなぐ会」 杉野由佳さん 植物細密画の世界 スイレン、ノアザミ他16作品

11月 はしかけ「森人」矢原 功さん 植物細密画の世界

晩秋の植物ノブドウ、サネカズラ、ジュズダマ他 20 作品

1月 出口武洋さん 樹冠トレイル虹景

3月 出口武洋さん 山桜

・植物写真（大型）

7月 湖岸の夏風景

9月 初期の紅葉

10月 紅葉終盤

12月 冬の太古の森

2月 琵琶湖の雪景色（ケヤキ）

3月 桜とヒヨドリ

・植物（映像）

6月 夏の植物 36点 はしかけ「森人」福岡敏雄さん、はしかけ「温故写真」村山和夫さん

9月 秋の植物 24点 はしかけ「森人」福岡敏雄さん、はしかけ「温故写真」村山和夫さん

12月 冬の植物 39点 はしかけ「森人」福岡敏雄さん、はしかけ「温故写真」村山和夫さん

3月 春の植物 37点 はしかけ「森人」福岡敏雄さん、はしかけ「温故写真」村山和夫さん

・ハンズオン

7月 キカラスウリ、ハス、ヘクソカズラ、ドクダミ、オニグルミ

10月 キンミズヒキ、ハウチワカエデ、カツラ、イチイガシ、ツユクサ

1月 ヤツデ、サザンカ、ロウバイ、ナンキンハゼ、オニグルミ、クズ、ヌルデ

3月 セイオユタンポポ、カラスノエンドウ、コメツブツメクサ、シロツメクサ、クスノキ、ヒメオドリコソウ、ムラサキサギゴケ、ヤツデ、カツラ、ハウチワカエデ、フウ、メタセコイア

・正面展示

6月 ホタルに関係する草花、ホテイアオイ

10月 コイブキアザミ

1月 羽子板と羽根（ムクロジ）

2月 セイヨウタンポポとカンサイタンポポ（レプリカ）

・正面展示周辺

12月 クリスマスリース はしかけ「緑のくすり箱」吉野千栄子さん

・棚（季節の植物：博物館に生える植物・生物）

6月 コモチマンネングサ

9月 ホソツクシタケの仲間

【岩石・鉱物・化石】

5月 29日 箱にはいった岩石を展示棚に配置し、棚にビニールカバーをつけて、カバーごしに観察する展示に変更した

【質問コーナー】

2020年10月17日～2021年3月7日 質問コーナーに展示しているハクビシンの剥製を企画展示で外来生物の展示として使用

「オープンラボ」での実演や交流活動等の使用実績は102件あり、詳細は以下の通りである。

日付	内容	担当
6月15日～2月16日	滋賀大・科学研究会 (Zoom) 11件	橋本
6月17・20日	タンポポの花粉の写真撮影の練習 2件	フィールドレポーター中野
6月22日	京都大学人文科学研究所研究会 (Zoom)	橋本
6月26日・2月26日	展示係ミーティング 2件	展示係
6月26日	交流係ミーティング	交流係
6月26日・7月3日	オンライン講座 2件	環境学習センター
7月2日	Web会議	環境学習センター
7月9日	打ち合わせ	片岡
7月13日・10月2日	環境ほっとカフェ (Zoom) 2件	環境学習センター
7月22日	打ち合わせ	楊
8月5日	はしかけ登録講座資料作成	中川
8月11・17日	Zoom研究会	橋本
8月18日	はしかけ調査報告	楊
8月26日	水研発表	楊
9月6日	大阪歴史科学研究会 (Zoom)	橋本
9月9日～3月18日	植物化石同定作業 6件	はしかけ 大津の岩石調査隊
9月11日～2月12日	Zoom接続確認 7件	環境学習センター
9月13日	古代食シンポジウム (Zoom)	橋本
9月17日	タンポポ作業	芦谷
9月24日	はしかけ温故写真 活動打合せ	金尾
10月7日	関西大学・質問	片岡
10月13日～11月24日	標本作成実演 3件	榊永
10月19日	京大講義 (Zoom)	橋本
10月21日	はしかけ登録講座資料作成	中川
10月25日	顕微鏡観察	大塚
10月25日	ナマズ骨格標本閲覧	田畑
10月27日～3月21日	剥製のスケッチ 4件	はしかけ 淡海スケッチの会
10月29日	タンポポの同定	芦谷
10月31日・11月1日	魚類学会 Web 大会	金尾
11月3日	大阪自然史オンラインシンポジウム	金尾
11月4日	打ち合わせ	環境学習センター
11月11・18日	環境ほっとカフェ (Zoom) 2件	環境学習センター
11月23日	民俗学会 web シンポジウム	渡部
11月29日	魚類自然史研究会 Web 大会	金尾
12月2日	打ち合わせ	中川
12月18日	Web 会議	環境学習センター
12月20日	水田研究会	金尾
1月7日	DNA 実験	田畑
1月13日	プランクトン観察	鈴木

日付	内容	担当
1月14日	DNA実験	田畑
1月19日	オンラインセミナー	松岡
1月20日	琵琶湖博物館総合案内の撮影	榊永
1月21日	滋賀グリーン活動ネットワーク	金尾
1月24日	DNA実験	田畑
2月3日	嶺南教育フォーラム Zoom会議	田中
2月5日	Web会議	環境学習センター
2月6・7日	日本動物園水族館教育研究科 Web大会 2件	金尾
2月11・12日	プランクトン観察 2件	鈴木
2月18日	サンプルの切り出し	亀田
2月18日	打ち合わせ（朝日新聞）	田中
2月21日	グループ紹介のパワーポイント製作	はしかけ 淡海スケッチの会
2月22日	フナズシ研究会	橋本
3月3日	Web会議	亀田
3月5日	Web会議	松岡
3月7日	関西自然保護機構	金尾
3月10日	会議	中山
3月11・12日	プランクトン観察 2件	鈴木
3月14日	魚類自然史研究会	金尾
3月19・20日	日本生態学会大会 2件	金尾
3月23日	顕微鏡写真撮影	鈴木
3月23日	標本整理	田畑
3月24日	著作権セミナー	橋本
3月25日	地域連携の打ち合わせ	楊
3月29日	膳所高校生物班の質問対応	金尾・鈴木
3月29日	Zoom研究会	橋本
3月30日	研究交流（長崎大学）	大久保

「交流コーナー」での使用実績は2件あり、詳細は以下の通りである。

日付	内容	担当
9月9日	活動打ち合わせ	はしかけ 大津の岩石調査隊
12月2日～	「冬の琵琶湖に集まるカモたち」として オナガガモ(♂)、ヨシガモ(♂)、キンクロハジロ(♂)、コガモ(♂)の剥製を展示した	榊永・天野

7) 屋外展示

・樹冠トレイルと屋外展示の森を活用した展示交流活動

樹冠トレイルと屋外展示の森を活用し、はしかけグループ「森人（もりひと）」とともに、展示交流活動と植物の管理をはじめとした屋外展示の整備活動を行った。

・樹冠トレイルサブルートの特検

樹冠トレイルのサブルートを対象として、メーカーによる初期不良の確認点検を実施した。床板部、高欄部、構造部において、ボルト類のゆるみ、部材の破損、ゆがみ等がないかの点検の結果、異状は認められなかった。

・生態観察池周辺の柵更新

生態観察池の周辺にある木柵の一部は、老朽化し施設管理上更新した方が好ましい状況であった。このため、このような木柵を撤去しロープ柵を設置した。なお、今後の維持管理が容易なように、汎用品の材料を用いた。



(2) 企画展示・水族企画展示

1) 第28回企画展示「守りたい！少なくなった生き物たち ―未来へつなぐ地域の宝物―」

Conservation of Endangered Species as Local Treasures for the Future

① 主旨

2010年に愛知県、名古屋市で第10回生物多様性条約締約国会議（CBD-COP10）が開催されてから10年が経ちました、わが国でも「生物多様性」という言葉が定着し、その重要性和言葉の持つ意味が少しずつ知られるようになってきました。しかし、生物多様性そのものについての理解と、それを身近なものとして認識し、保全するための取り組みは、まだ十分とは言えないのが現状です。

本企画展では、生物多様性の構成員でありながら生息数が減少している滋賀県の希少生物を紹介するとともに、市民グループ、企業、神社、学校、動物園、水族館などで取り組まれている希少生物を守るための保全活動と、活動に至った動機を紹介して、生物多様性を身近なものとしてとらえ、地域在来の生物と生物多様性を守ることが、それとともに育まれてきた人の生活文化を尊重することにつながることを、理解するための材料を提供した。

② 概要

主 催：滋賀県立琵琶湖博物館

期 間：令和2年10月17日（土）～令和3年3月7日（日）＊実質開催日数116日

新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から開催時期が延期され、開館時間も短縮された。また、一日の入館者数も制限された。

開館時間 10：00～16：30（16：00 最終入館）

観覧料金：小・中学生150円（120円）、高・大学生240円（190円）、大人300円（240円）

※（ ）は団体料金

※企画展示を観覧するには、常設展示の観覧券が必要

観覧者数：49,695人

展示企画、制作：松田征也（主担当）、中井克樹（副担当）、松岡由子（副担当）、芦谷美奈子（副担当）、大槻達郎（副担当）、出口武洋（トータルデザイン）、つきのむらくも（挿絵）

展示施工：株式会社 本庄

展示協力：秋山廣光、安宅範子、安藤博之、五十嵐正俊、伊藤雅男、稲垣和美、岩田明久、上原一彦、

宇野道雄、遠藤真樹、大久保卓也、太田博己、岡 毅弘、沖 幸祐、小山内孝、川瀬成吾、紀平 肇、川那部浩哉、岸田幸治、北島淳也、木下こづえ、草加伸吾、後藤健宏、小林圭介、小林 徹、齊藤 修、相樂充紀、佐原雄二、関慎太郎、高石清治、高田昌彦、多賀 恵、武田 滋、武田 繁、谷口明博、地村佳純、鳥飼香子、中尾博行、長尾充徳、西田雅人、西村知記、野中 碧、萩原富司、花木久実子、原田美紀、平田剛士、藤本秀弘、藤本泰文、堀 彰男、本郷 峻、本多和夫、三浦和伸、水野敏明、宮地保子、宮原義則、三好順子、村上宣雄、村地登紀子、八坂圭悟、柳 哲平、山中裕樹、山根 猛、山本充孝、吉岡俊彦、若林郁夫、渡邊共則、旭化成株式会社、石山寺、いなべ市教育委員会、愛媛県立とべ動物園、NPO 亀岡 人と自然のネットワーク、FoE Japan、オビラメの会、株式会社ダイフク、オムロンエキスパートリンク株式会社、株式会社琵琶湖みらい研究所、京都市動物園、京都大学ガボン研究グループ、京都大学野生生物研究センター、草津市立水生植物公園みずの森、神戸市立王子動物園、公益財団法人 東京動物園協会 恩賜上野動物園、公益財団法人 東京動物園協会 多摩動物公園、湖南企業いきもの応援団、滋賀県獣医師会滋賀県農村振興課、滋賀大学教育学部附属小学校、滋賀のオオサンショウウオを守る会、生物多様性びわ湖ネットワーク、積水樹脂株式会社、鳥羽水族館、長浜市、姫路科学館、琵琶湖博物館うおの会、琵琶湖博物館海浜植物守りたい、琵琶湖を戻す会、古橋のオオサンショウウオを守る会、平安神宮、ぼてじゃこトラスト、ミヤジマトンボ保護連絡協議会、山門水源の森を次世代に引き継ぐ会、ヤンマーグローバルエキスパート㈱ヤンマーミュージアム、鶴飼菜香、大久保実香、大塚泰介、片岡佳孝、金尾滋史、亀田佳代子、小山 勝、日下広美、里口保文、鈴木隆仁、鷺見満智子、妹尾裕介、高橋啓一、武政廣文、田畑諒一、戸田 孝、芳賀裕樹、橋本道範、福井ゆめ、細見喜信、中川信次、中村久美子、榊永一宏、ロビン J. スミス、渡部圭一、八尋克郎、山川千代美、楊 平（順不同・敬称略）

③ 展示内容

【概要】

豊かな自然に恵まれた滋賀県ですが、環境の物理的変化、外来生物の侵入、在来生物の異常繁殖などさまざまな要因や、こうした要因の複合により生息数が少なくなった種や、絶滅の危機に瀕する種、あるいは絶滅してしまった種などがあります。一方、このような生き物たちを保全し、絶滅の危機を回避しようと努力している人々がいます。その取組を紹介するとともに、これから生き物たちとともに未来に向かうためにはどうすればよいのかを考えるための材料を提供しました。

【各コーナー】

* 滋賀の豊かな自然と生き物たちの減少

豊かな自然に恵まれた滋賀県の自然を紹介します。特に、400 万年の世界的にも古い歴史を誇る琵琶湖には、湖内で進化した固有種が多数生息しています。ところが、人間活動を主とする湖を取り巻く環境変化により、生息数が減少して絶滅の危機に瀕している種もあるのです。滋賀県では、県内で少なくなっている生物を、滋賀県版レッドデータブックとして公表しています。

1. 生物の宝庫 滋賀県の自然（写真、説明パネル、滋賀県版レッドデータブック）

「滋賀の豊かな自然（生物的特徴、地理的特徴、レッドデータブック）」

2. レッドリストの生き物たち（写真、説明パネル、デルビジョン、標本、剥製等）

①陸生貝類 ②水生植物 ③哺乳類 ④爬虫類、両生類（音声展示：カエルの鳴き声クイズ）⑤鳥類

⑥昆虫類 ⑦淡水生貝類・陸生植物 ⑧魚類（イチモンジタナゴの稚魚：デルビジョン）、宮地傳三郎博士の手紙）

＊ 生き物たちにせまる危機 ―なぜ希少生物はいなくなったのか？―

在来生物たちが減少した理由には、生息地の物理的改変、生息するための脅威となる外来生物の侵入、近縁種の侵入による遺伝子攪乱、在来種の異常繁殖による生態系の攪乱などさまざまな理由があり、それらが複合的に生物種の減少に絡んでいることを紹介する。

1. 生物を取り巻く環境が改変したことによる減少（ビデオ映像「淡海と生きる」、説明、パネル展示）
2. 移入生物による脅威（写真、説明パネル展示、デルビジョン、標本展示等）

国外外来生物：アライグマ、ハクビシン、ヌートリア、オオクチバス、ブルーギル、オオバナミズキンバイ、ナガエツルノゲイトウなど。国内外来種（オヤニラミ：デルビジョン）、ツチフキ、ハリヨなど目立たない侵入者：カワヒバリガイ、ウスイロオカチグサガイ、ヒメマルマメタニシなど。

3. 在来生物たちの増殖による脅威（標本展示、写真、説明パネル展示）
カワウ、シカ、イノシシ

＊ 生き物たちがいなくなると

生物たちが増えたり減ったり、でも市民生活に直接的に影響することには関心が寄せられるが、そうでないものはほとんどが知られていない。そして誰も困らない。しかし、人間を含めた生態系で考えると、どこかに歪みが生じていることがある。生物多様性がなぜ重要なのかを考える材料を提供する。「生き物たちを「地域の宝物」として未来へ、生物多様性と生態系サービス、もともたいた「顔ぶれ」を大切に、変わりつつある世界で」

＊ 生き物たちを守る取り組み

生物たちの減少を食い止めることは、その減少要因が複合的であるがゆえに難しい。しかし、県内では多くの人たちが生物たちの減少を食い止めたいと活動している。こうした活動にはどのようなものがあるのか、活動する上での課題はないのか、またなぜ取り組むのか、活動者たちの思いを紹介する。

1. 生息内保全（写真、説明パネル展示、剥製）

「ハマエンドウ・ハマゴウ海浜植物を守って、アサザ 貴重な集団を守る、オオサンショウウオを守りたい、ヤマトサンショウウオ 地域の宝を未来に残したい！、魚のゆりかご水田、住民が参加した淡水貝類の保全、オグラヌマガイ ため池で発見！、「奥びわ湖・山門水源の森」の保全活動、ミヤジマトンボの復活、イタセンパラ 保全の取組、イチモンジタナゴ 平安神宮神苑での保全、アユモドキ 京都府亀岡市での保全、ネコギギ 員弁川水系での保全、ユキヒョウの保全（剥製：神戸市立王子動物園）、コウノトリ（剥製：姫路科学館）」など

2. 生息域外保全（写真、説明パネル展示）

「ヤマトサンショウウオの保全、屋根の上のビオトープ、アユモドキ 小学校での保全、イチモンジタナゴ オムロン野洲事業所の取り組み、ハリヨを守りたい！スナメリの保全、ウシモツゴ 岐阜県下池地域での保全、ゼニタナゴ 生息域外保全と野生復帰、ニシゴリラの保全（剥製：京都市動物園）、アムールトラの保全（剥製：琵琶湖博物館）、琵琶湖博物館 保護増殖センター、日本動物園水族館協会魚類作業部会など、ジャイアントパンダ（剥製：多摩動物公園）」

3. 20年前と現在の保全活動（テレビモニターと解説パネル）

20年前に寄贈作成されたビデオ映像から、その後の活動を紹介する。オビラメの会（イトウ：北海道）、シナイモツゴ郷の会（シナイモツゴ：宮城）、淀川の魚（大阪）、岡山の魚（岡山）

＊ 生き物たちの四方山話（写真、説明パネル展示、一部標本）

生物の保全に関わる様々なトピックスを、分かりやすく、簡潔に紹介することで、興味を来館者に持ってもらう。

関係する各展示コーナーで紹介する。

「水質浄化のひみつは表面にあり、タチスズシロソウ 攪乱が重要だった、ミズアオイ埋土種子からの復活、倒木を活用した森林火災跡地の再生促進、ニホンカワウソ 俳句に込められた生息情報、あなたの善意間違っているかも？、ニホンイシガメ ワシントン条約規制対象種、ナゴヤダルマガエル日本の絶滅危惧種滋賀県では普通種？、ハエは地球の立役者！、ヒナモロコ 遺伝的攪乱による絶滅、魚道のお米、琵琶湖漁業の意味、殺生禁断と Conservation、琵琶湖における過剰漁獲を防ぐ待ち受け型の漁具、琵琶湖の深呼吸、食べて守る 琵琶湖八珍、過去を知ることによって現在と未来を読み解くなど」など

＊ 生き物たちと未来へ（写真、説明パネル展示、実物、レプリカ）

生物の保全には、様々な研究の裏付けが必要である。例えば法律的に種を保全するためには、分類学的に種小名が与えられていることが重要である。また、淡水魚の場合地域により遺伝子が異なる場合があり、種の保存から地域個体群の保存へとシフトすることも DNA 解析の進展からその必要性が認められつつある。こうした生物保全のための研究を紹介する。「琵琶湖を戻す会、トンボ 100 大作戦～滋賀のトンボを救え～、身近な川の生き物を流域の中小企業の協働で調べる、琵琶湖博物館うおの会の魚類調査、保全分類学、水田地域における生態系保全に向けた研究、精子の凍結保存（液体窒素保存タンク：近畿大学）、環境 DNA：水をくんで生き物の分布を調べる、少なくなった生き物を守るためのルール」など

＊ 結び

野生生物を取り巻く環境が、CBD-COP10 が開催された 10 年前と比較しても改善されたとはいえない状況であるが、そうした中でも地道に少しずつでも保全を推進する活動が様々な人の手により実施されている。生物の保全では多くの人に関心をもってもらうことが重要であることを主催者のメッセージとして伝えた。



企画展示室入口



ジャイアントパンダ剥製



展示室の様子

④ 印刷物

- ・展示解説書 編集責任者：松田征也

著者：芦谷美奈子、安藤博之、稲垣和美、上原一彦、宇野道雄、遠藤真樹、大久保卓也、太田博己、大塚泰介、大槻達郎、岡井克之、片岡佳孝、金尾滋史、亀田佳代子、川瀬成吾、北島淳也、木下こづえ、草加伸吾、後藤健宏、齊藤 修、里口保文、鈴木隆仁、関慎太郎、高田昌彦、高橋啓一、田畑諒一、地村佳純、戸田 孝、中井克樹、中尾博行、長尾充徳、中川信次、中村久美子、西田雅人、萩原富司、橋本道範、本多和夫、榊永一宏、松岡由子、松田征也、三浦和伸、三好順子、村地登紀子、八尋克郎、柳 哲平、山門水源の森を次の世代に引く継ぐ会、山中裕樹、山根 猛、若林郁夫、渡邊共則、NPO 亀岡 人と自然のネットワーク

デザイン・イラスト：出口武洋、パラパラマ漫画：つきのむらくも

仕様：A4 サイズ 96 ページ 総カラーページ 1,000 部 10 月 17 日発行

販売価格 800 円 印刷：モリワキ印刷

- ・企画展示ポスター A1 サイズ 表カラー 1,000 枚 9 月 4 日発行

デザイン：出口武洋 印刷：(株) 柳印刷

- ・企画展示チラシ A4 サイズ 両面カラー 20,000 枚 9 月 4 日発行

デザイン：出口武洋 印刷：モリワキ印刷

⑤ 関連事業

○オープニングセレモニー

10 月 17 日（土）10：00 から企画展示室前にて開催、展示に協力していただいた方から 3 名の方（稲垣和美 積水樹脂株式会社、宇野道雄 元 NPO ネイチャーズ新海浜、山根 猛 株式会社琵琶湖みらい研究所）を招いて、館長挨拶、来賓挨拶、担当学芸員による展示紹介、テーブルカットを行った。その後、担当学芸員による展示の案内を実施した。

○関連イベント

計画していた講演会等は、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から中止した。

新琵琶湖学セミナー

2021 年 3 月 27 日（土）：みんなで調べて守りたい生き物

中井克樹「琵琶湖畔で外来種問題を考える」

松田征也「守りたい、地域の宝ものー希少生物の保全ー」

○来場者 3 万人記念式典

12 月 12 日に来場された方が 3 万人目となり、高橋館長の挨拶、展示解説書および記念品などの贈呈式典をおこなった。

⑥ トンボ 100 大作戦 ～滋賀のトンボを救え～

期間：1 月 23 日（土）～2 月 21 日（日）

主催：生物多様性びわ湖ネットワーク（略：BBN）（旭化成㈱、旭化成住工㈱、オムロン㈱、

積水化学工業㈱、積水樹脂㈱、ダイハツ工業㈱、㈱ダイフク、ヤンマーグローバルエキスパート㈱）

・滋賀県立琵琶湖博物館

場所：琵琶湖博物館 アトリウム

内容：滋賀県内に所在する企業がトンボを保全するために結成した「生物多様性びわ湖ネットワーク」の活動の成果を展示した。生息数が減少しているトンボを工場敷地内のビオトープで保全し、滋賀県内に生息する 100 種全種のトンボの確認を目指した調査を実施したことなどを紹介した。また、フォトコンテストも開催し、1 月 19 日に表彰式を開催した。

(3) トピック展示等

1) トピック展示

① 第44回「ごはん・お米とわたし」 図画の部 滋賀県入賞作品展示

期間：2020年6月2日（火）～7月19日（日）

主催：滋賀県農業協同組合中央会

場所：琵琶湖博物館アトリウム

内容：滋賀県内の小・中学校から応募された図画部門の作品の中から選ばれた入賞作品を展示した

② 日本農業遺産「琵琶湖システム」

期間：2020年7月22日（水）～9月30日（水）

主催：滋賀県 農政水産部 農政課 世界農業遺産推進係

場所：琵琶湖博物館アトリウム

内容：日本農業遺産に認定され、世界農業遺産を目指す「琵琶湖システム」に関して、ポスターとジオラマを使った展示を行った。琵琶湖システムに関するクイズも出題された

③ 伊藤忠商事×琵琶湖博物館 企業の日「近江商人と三方よし」

期間：2020年10月24日（火）～11月23日（月祝）

共催：伊藤忠商事株式会社

場所：琵琶湖博物館アトリウム

内容：今も息づく“近江商人の精神”を学べる展示が登場

④ 海と日本プロジェクト in 滋賀県 ～滋賀と海のつながり調査隊～ ポスター展示

期間：2020年11月24日（火）～12月6日（日）

主催：海と日本プロジェクト in 滋賀県実行委員会

場所：琵琶湖博物館アトリウム

内容：滋賀県の小学5年生20名からなる調査隊が、滋賀と海のつながりを意識しながら、森、びわ湖、海の現状を調査した。その最終日に調査隊が琵琶湖博物館で作成した、まとめのポスターの掲示である

⑤ 淡海こどもエコクラブ 活動成果ポスター展示

期間：2020年12月8日（火）～2021年1月8日（金）

場所：琵琶湖博物館 アトリウム（企画展示室側）

内容：淡海こどもエコクラブの活動でつくられた絵日記と壁新聞を展示した。終了後、掲示した全作品を全国こどもエコクラブのエコ活コンクールに応募した

⑥ 世界にはばたけ彦根城ー彦根城を世界遺産にー

期間：2020年12月22日（火）～2021年1月17日（日）

主催：彦根城歴史博物館

場所：琵琶湖博物館 アトリウム

内容：彦根城の世界遺産登録を目指して、彦根城の価値と、登録に向けた取り組みの内容を紹介した。また、彦根市で実施した小学生彦根城ポスターコンクールの応募作品を展示した

⑦ トンボ 100 大作戦 ～滋賀のトンボを救え～

期間：2021年1月23日（土）～2月21日（日）

主催：生物多様性びわ湖ネットワーク（略：BBN）（旭化成㈱、旭化成住工㈱、オムロン㈱、積水化学工業㈱、積水樹脂㈱、ダイハツ工業㈱、㈱ダイフク、ヤンマーグローバルエキスパート㈱）

・滋賀県立琵琶湖博物館

場所：琵琶湖博物館 アトリウム

内容：先述のとおり

⑧ 令和2年度「ごはん・お米とわたし」図画の部 入賞作品展示

期間：2021年3月23日（火）～4月11日（日）

主催：滋賀県農業協同組合中央会

場所：琵琶湖博物館アトリウム

内容：滋賀県内の小・中学校から応募された図画部門の作品の中から選ばれた入賞作品を展示した

2) 共催展

福井県立年縞博物館「湖ラボ展」 琵琶湖博物館の「移動博物館」のキットの展示

期間：2021年3月5日（金）～4月19日（月）

場所：福井県年縞博物館（福井県三方上中郡若狭町鳥浜 122-12-1）1階ロビー

主催：福井県立年縞博物館・滋賀県立琵琶湖博物館

内容：2020年7月30日に開催された滋賀県・福井県知事懇談会における合意事項に基づき、広域的な交流の促進を目的として、福井県年縞博物館において、滋賀県立琵琶湖博物館と福井県年縞博物館との連携事業を実施した。福井県年縞博物館の1階ロビーで琵琶湖博物館の「移動博物館」の展示キットを展示するとともに、展示の開催に合わせて、年縞と関連のある分野の専門家として当館学芸員による講座「サイエンスカフェ」が実施された。

サイエンスカフェ：3月5日（金）

「湖にねむる森と気候と海のものがたり」

林 竜馬（琵琶湖博物館主任学芸員）

展示解説：3月6日（土）

林 竜馬（琵琶湖博物館主任学芸員）

(4) 連携展示

・学習船「うみのこ」展示

滋賀県では、県内全ての小学5年生が学習船「うみのこ」に乗船し、びわ湖を舞台に体験学習を行う「びわ湖フローティングスクール」を実施しており、令和2年度末までに約58万人が乗船した。昭和58年に就航した初代の学習船「うみのこ」の老朽化に伴い、平成30年に2代目「うみのこ」が運航開始した。これを記念して、世代を越えて「うみのこ」で学んだ思い出を共有すること、また、滋賀県が誇る「びわ湖フローティングスクール」を県内外へ紹介し、びわ湖や郷土について身近に感じてもらうことを目的として、学習船「うみのこ」に関する展示が始まった。

展示開始日：2021年1月26日

展示場所：A展示室横の壁面および休憩コーナー

展示内容：初代「うみのこ」の備品、学習船「うみのこ」の活動を紹介する映像

初代、2代目「うみのこ」の模型、乗船校の校旗、「湖の子」新聞、他

※初代「うみのこ」の木甲板を再利用し、県立彦根工業高等学校、県立八幡工業高等学校、安曇川高等学校の生徒が椅子を製作



展示室における新型コロナ対策

(1) 常設展示室における新型コロナ対策

1) 常設展示室の公開

博物館全体の運営方針として2020年2月28日から6月2日までの臨時休館を経て再開館した後は、可能な限り展示公開を継続することとなったため、各展示室の状況に合わせて次のとおり展示を公開、再開した。

<展示室の公開状況>

- ・A展示室 2020年10月10日より一般公開開始（第3期リニューアル）
- ・B展示室 2020年10月10日より一般公開開始（第3期リニューアル）
- ・C展示室 2020年6月2日より一部（富江家の一部）制限の上再開
- ・水族展示室 2020年6月2日より一部（ふれあい体験室、マイクロアクアリウム）制限の上再開
- ・ディスカバリールーム 2020年6月23日より再開（平日のみ）、7月14日に再び閉室、9月15日より再度公開（平日のみ）。再開にあたり、人数制限（20人）、時間制限（展示の消毒のため／状況に応じて時間枠は変更）を設けた。
- ・おとなのディスカバリー 2020年6月23日より再開（平日のみ）、7月14日に再び閉室、9月8日より再度公開（平日のみ）、9月26日より土日含めて全面的に公開した。人数制限（20人程度）、休室時間（12:00～13:00）を設けた。
- ・屋外展示 2020年6月2日より再開。一部（生活実験工房トイレなど）立ち入り禁止。

2) 対応方針

常設展示室では、次の2点に留意して対応を実施した。

① 展示物等の対応

展示室内の展示物および展示装置に関しては、関わり方により次のように分類して対応した。

- ・目鼻口を使って体験する展示 → 休止、撤去
- ・手で触るあるいは体で体験する展示 → アルコールで消毒清掃不可のものは休止あるいは撤去
- ・見る展示 → そのまま

② 運営（人的対応など）の概要

各展示室の設備、什器、展示物については、開館前および開館時間中に展示交流員や館職員が巡回を行い、必要に応じてアルコールあるいは洗剤等を使用して消毒および清掃を実施した。換気については、屋外への開口部を開放すると展示物に影響がでるので、建物の空調を主体にして、通路などに適宜サーキュレーターを設置して空気の循環をするようにした。また、来館者に関しては、各展示室の入口などにアルコール消毒装置を設置し、展示室の出入りの際に手指の消毒をお願いした。

③ 展示物や展示装置に関わる対応

展示室ごとに実施した対応をまとめた。

A 展示室

ゾーン名	展示箇所	対応内容	対応開始日	年度末の状況
琵琶湖と生き物のものがたり	発掘調査の服を着る	一式（ヘルメット、上着、手袋、長靴）を撤去	10月10日	継続
うつり変わる大地と湖	手に取ってみる琵琶湖の湖底模型縮小版	撤去		継続
うつり変わる生きもの	ワニ頭骨レプリカ	ケースに入れて展示		継続
うつり変わる気候と森	寒冷期の夏の気温体験	使用中止	10月10日	継続
	寒冷期の冬の気温体験	使用中止		継続

B 展示室

ゾーン名	展示箇所	対応内容	対応開始日	年度末の状況
プロローグ	縄文人と考古学者なりきり	ハンズオン展示一式（衣装・ヘルメット）を撤収	10月10日	継続
森	どんぐりの分類ハンズオン	ハンズオン展示の一部（仕分け用のカゴ）撤収、別の容器内にどんぐり実物を展示、誘導サインのグラフィックに修正上貼り。		継続
	森をつくるコーナー・マツタケの匂い展示	ふたをビニールカバーで覆い、その上から展示中止中のサインを貼りつけ		継続
水辺	水辺にいきるコーナー・シジミ汁の匂い展示	ふたをビニールカバーで覆い、その上から展示中止中のサインを貼りつけ		継続
里	休憩ベンチ	ソーシャルディスタンスのサイン（龍メッセージ）を設置		継続

C 展示室

ゾーン名	展示箇所	対応内容	対応開始日	年度末の状況
全体・共通	アトリウム渡り廊下手前など	コロナ対策のための案内看板を設置	6月2日	継続
琵琶湖へ出かけよう	ビワレンジャー（タッチパネル）	減数	6月2日	継続
	琵琶湖アルバム	減数		継続
	空から見た琵琶湖パウチ	撤去		再開
	水位全記録	撤去		再開
	ベンチ・椅子	ソーシャルディスタンスを掲示		継続
ヨシ原に入ってみよう	匂ってみよう（ヨシ）	使用停止	6月2日	継続
	カヤネズミなにしている？	様子を観察するマグネット撤去		継続
	ヨシズを編んでみよう	ヨシズ編み1台撤去、ハンズオン引き出し撤去		継続
	触るレリーフ（ネズミ、カエル、ツバメ）	カバーを付け「触れないで」表示		再開
	交流テーブル上の資料	撤去		継続
田んぼへ	たんぼのいきものめくりパネル	台座を取り外す	6月2日	再開
	田んぼの四季パウチ	展示交流員デジタルサイネージに変更		再開
	ハッタミミズのめくり	めくりをはずす		めくり再開

ゾーン名	展示箇所	対応内容	対応開始日	年度末の状況
田んぼへ	ダルマガエルめくり	めくりをはずす	6月2日	めくり再開
	たんぼの中をのぞくルーペなど	ローピング		継続
	交流テーブル	資料		継続
	カメ水槽裏のめくりパネル	めくりをはずし、クイズは上部に着ける		めくり再開
川から森へ	川と琵琶湖の石	触らないで表示	6月2日	対応終了
	琵琶湖のつながりパウチ	撤去		再開
	コリント・ゲーム	球を抜く。使用停止の表示		再開延期
	カワウとエサ	オープンラボにあるカワウを展示、餌の展示はパネルに変更		継続
	カワウのすむ森の情景パウチ	撤去		再開
	チェーンソーと記念写真	手袋+めがね+ヘルメット+服の撤去、チェーンソーの持ち手を消毒		継続
	めくりパネル	めくりをはずす		一部再開
	匂ってみよう	カバーをかける。使用停止表示		継続
	はしご	登らないで表示		再開延期
	テーブル・いす	長椅子にソーシャルディスタンスを掲示		継続
私たちの暮らし	スイッチを押すと	触らないで表示	6月2日	再開
	家電付近	ローピング		継続
	洗い場	ローピング		継続
	リアカー	触らないで表示		対応終了
	富江家トイレ	上がらないで表示		対応終了
	富江家の部屋	部屋には上がらせない(表示)。部屋にあったものを上り口付近に展示		再開
	水ファイル	撤去		再開延期
	環境おみくじ	撤去		再開
生き物コレクション	生き物コレクション	触らないで表示	6月2日	めくりを戻す
	クイズ(めくり)	外して質問を上貼る		再開延期
	植物／どんぐり	撤去		めくりを戻す
生き物コレクション	探してみよう(めくり)	外して質問を上貼る	6月2日	再開延期
	ルーペ	撤去		再開延期
	触ってみよう(貝)	触らないで表示		再開延期
	ガラスケース(鳥・哺乳類等)	ガラスには触らないで表示		継続
	絶滅危惧種の本	撤去		再開延期
これからの琵琶湖	研究スタジアム	鉛筆・紙などの撤去、来館者のオピニオンボード使用を中止し展示交流員や学芸員からのメッセージを提示	6月2日	継続
	モニター付き顕微鏡	火山灰顕微鏡(カバーをかける)。カバーに使用停止		再開
	テーブル・いす	長椅子にソーシャルディスタンスを掲示		継続

水族展示室

ゾーン名	展示箇所	対応内容	対応開始日	年度末の状況
全体・共通	入口	コロナ対策のための案内看板を設置	6月2日	継続
	各水槽	「すいそうにさわらないで」パネルを設置		対応終了
	椅子（内湖・ヨシ原にすむいきものたち水槽前、下流域にすむ魚水槽前、中流域にすむ魚水槽前、バイカルアザラシ前、マラウィ湖水槽前）	間隔を空けて座るためのソーシャルディスタンシング表記のパネルを設置		継続
	連れてこられた生き物たち、琵琶湖の漁具、川魚屋魚滋、古代湖の世界	展示ケース上部に防指紋フィルムを設置	9月14日	継続
琵琶湖の中へ出かけよう	内湖・ヨシ原にすむ生き物たち	水槽に触れないよう、ヨシ原の写真を簡易のバリケードを設置	6月2日	終了
	内湖・ヨシ原にすむ生き物たち	アクリルガラス面に防指紋フィルムを設置	10月6日	継続
	トンネル水槽	間隔をとって観覧してもらうための看板を設置	6月2日	継続
	琵琶湖の主、ビワコオオナマズ	触れるビワコオオナマズの模型を撤去		継続
	コアユ水槽	「さわらないで」看板を設置		継続
	コアユ水槽	アクリルガラス面に低反射フィルムを設置	11月9日	継続
暮らしの中の魚	川魚屋魚滋	ふなずしの臭い装置体験中止、パネル展示「ふなずしのいろいろな食べ方」に変更	6月2日	継続
	川魚屋魚滋	トロ箱の魚にアクリル板を設置	10月6日	継続
川の中へ	上流域の魚たち水槽	結露防止フィルム設置	9月14日	継続
	中流域にすむ魚水槽	アクリルガラス面に低反射フィルムを設置	11月9日	継続
	下流域にすむ魚水槽	アクリルガラス面に低反射フィルムを設置	2021年2月1日	継続
琵琶湖の水鳥	カイツブリ水槽	水槽に触れないよう、ヨシ原の写真を簡易のバリケードを設置	6月2日	終了
古代湖の世界	バイカルアザラシ水槽	水槽に触れないよう、パーティションを設置	6月2日	継続
	古代湖の世界	バイカル湖小水槽1、小水槽2においてアクリルガラス面に結露防止フィルム設置	8月3日	継続
ふれあい体験室	ふれあい体験室	閉鎖（9月15日より再開、後に再び閉鎖）	6月2日	継続
マイクロアクリウム	水槽エリア	水槽を閉鎖、パネル展示「帰ってきたミクロのスーパーヒーロー」に変更	6月2日	対応終了、水槽展示再開
	マイクロシアター	椅子を一部撤収		継続
	マイクロバー	顕微鏡を使用禁止		継続
	マイクロワールド	物理学 ハンドルを停止		対応終了

ディスカバリールーム

対応区分	展示箇所	対応内容	対応開始日	年度末の状況
展示	におってみよう	匂いが嗅げる箇所を板で塞ぐ。使用不可の表示	6月23日	継続
	大きくしてみよう	虫眼鏡を4個から2個に減らす。使用上の注意表示、顕微鏡にカバーをかけ使用不可の表示		継続
	ブックコーナー	130冊を6冊に減らす		継続
	道具のような歯	消毒しやすくするため、スイッチにカバーをつける		継続
	さがしてみよう	双眼鏡を貸し出し制にし、使用后すぐに消毒し、消毒済みのみ貸し出し		継続
	ディスカバリーコーナー	カウンター机にビニールシートで飛沫除けの衝立をつける。BOXをアルコール消毒可能なものから6個を選択		継続
	おばあちゃんの台所	食品レプリカ、着物を撤去。アルコール消毒可能な展示物だけ展示。井戸ポンプの水を抜く		継続
	ザリガニになろう	常時サーキュレーターを稼働し換気、各回退室後の消毒		継続
	糸描きコーナー	糸を毎日交換する		継続
	魚の世界	スケッチの中止。水槽に触れないよう促す表示		継続
	人形げきじょう	パペット撤去。人形劇をするスペースも封鎖し、民話をよむ展示物を設置		継続
	影絵	使用中止		継続
	みつけてみよう	タヌキトンネル封鎖し使用を中止。スケッチの中止		継続
運営	展示室全体	時間と人数で入室制限を実施。定期的に換気と消毒（サーキュレーター7台・空気清浄機5台）、椅子を減らす（52脚を13脚にする）		継続
	入口	時間制限の情報（入室タイムスケジュール）、注意事項の掲示板を設置。手指消毒用アルコールを設置		継続
	出口	換気のための網をはり、閉鎖。トイレ前扉をあらたに出口として使用。手指消毒用アルコールを設置		継続

おとなのディスカバリー

ゾーン名	展示箇所	対応内容	対応開始日	年度末の状況
しらべるゾーン	鳥類	引き出しの調査用具展示をアクリル板でカバー	6月23日	継続
	哺乳類	毛皮を透明シートでカバー		継続
	民俗	ハンズオン展示撤去		継続
	考古	ハンズオン展示撤去		継続
	文書	こ上がりコーナー休止、資料一部撤去		継続
	岩石・鉱物・化石	標本ボックス使用停止（中身を棚に展示して前面カバー）		継続
	スケッチテーブル	椅子撤去		継続
	スケッチテーブル	机上の描画装置や塗り絵プレート等を撤去		継続
	スケッチテーブル	「冬の琵琶湖に集まるカモたち」を展示	11月24日	継続

ゾーン名	展示箇所	対応内容	対応開始日	年度末の状況
他ゾーン・共通	質問コーナー	飛沫よけシールド設置	6月23日	継続
	交流コーナー	椅子一部撤去		継続
	交流コーナー	「冬の琵琶湖に集まるカモたち」を展示	12月2日	継続
	滋賀県本コーナー	図書資料の一部撤去、ベンチ一部使用停止	6月23日	継続
	しらべるゾーン共通	椅子一部撤去、図書資料一部撤去		継続

展示交流

(1) コロナ禍における展示交流の構築

開館以来、展示室内での交流活動の1つとして、学芸員による展示解説「フロアトーク」を行ってきたが、新型コロナウイルス感染症対策（コロナ対策）のために中止された。また、ハンズ・オン展示が多用されている当館では、コロナ対策として、来館者が安全に展示を利用する環境を整える必要が生じた。

臨時休館中の取組等

臨時休館中には、展示交流員と学芸員が協働して展示物に対する感染症対策を講じた。展示交流員は、展示室における 1) 安全確保、2) 快適な環境の提供、3) 展示室での発見のサポート(展示交流)といった3つの働きをしている。そのため、来館者の特性を踏まえた誘導法や展示の撤去・制限について率先して意見を出してもらい、それらの意見を反映させたコロナ対策を構築した。

展示交流員は本来毎年12月から3月の間には、来館者との交流の充実をはかるために「展示交流員と話そう」という展示解説・交流を実施していた。しかし、今年度はコロナ対策のため、中止することを余儀なくされた。そこで、これまでの実績を生かし、物理的に来館者と展示物の仲介者としてより安全な展示利用を促進する役割を担えるような取り組みとして、「展示交流補助ツール」を企画、開発、制作した。このツールは、展示交流員を4班にわけ、各々が得意とする分野について学芸員と協力しながら制作した。

展示交流補助ツール 制作内容

班	タイトル	場所	内容
1	田んぼに来る魚たち	C展示田んぼ、水族、生活実験工房など	田んぼと魚を紹介、ゆりかご水田に関する写真パネル、ゆりかご水田の今昔
	滋賀の山々	C展示森林コーナー、生き物コレクション	山の中の自然(動植物)を観察、山について交流
	富江家と植物	C展示富江家	富江家に植わっている植物と用途
	C展示室クイズラリー	C展示室全体	入口でクイズ用紙を渡してのツアー
2	ザリガニ捕獲キット	生き物コレクション	釣り遊びで外来種と在来種を見分ける
	ウンチの中から動く宝石を見つけよう	生き物コレクション	オオセンチコガネについて
	コロナがおさまったら外遊び	富江家「カワヤ」	昔の水利施設の説明、県内で実際に見られる場所を紹介
	C展リレークイズ	C展示室全体	ヨシ原、田んぼ、カワウ、富江家、生き物コレクションなどで
	ミミズ情報	田んぼゾーン	大きなミミズいろいろ
	博物館のまわりの鳥たちを見つけよう	生き物コレクション	博物館のまわりで見られる鳥の写真パネルを3種類見て名前をあててもらおう

班	タイトル	場所	内容
3	滋賀県にいる身近な鳥ビンゴ	C 展示室全体	C 展示室をめぐりながら展示の中の鳥を探すビンゴ
	田んぼの生き物	田んぼゾーン、壁面写真	コガムシ、ナゴヤダルマガエルの成長過程をしてみる
	暮らしの移り変わり	C 展「暮らしはかわる」	年表の中で、テレビ、服装などをとりあげカード化して年代順に並べる
	C 展でハナをみつけよう	C 展示室全体	各コーナーにハナのパネルを立てて探しながら観覧してもらう
4	今と昔の違い	富江家	今と昔の違いを対比してもらう（パネル、モノの移動、雑学豆知識）
	たまご・巣さがし	ヨシ原	ヨシ原で卵さがし、巣さがし

開館後の取組

展示交流員は、来館者が密閉、密集、密接といった3密状態にならないように展示誘導を行うとともに、展示物の清掃・消毒を行うことでコロナ対策をした。また、臨時休館中に「展示交流補助ツールとして作成したフェイスシールドを装着し、コロナ対策を徹底した。

(2) ディスカバリールームのイベント

今年度は新型コロナウイルス感染症対策として、例年実施しているイベントの多くは中止した。イベントのうち「森の宝物をさがそう！」は、机イスおよび手指のアルコール消毒を徹底し、マスクの着用とグループ間で十分な距離をとるといった対策したうえで実施した。無事にイベントは終了し、参加型展示ケースの更新準備が整った。

【イベント実施一覧】

イベント開催日	イベント名	参加人数
1月24日～2月3日	節分☆オニのお面をつくろう！	23組
2月26日～3月3日	おひなさまをつくろう！	33組
3月20日	森の宝物をさがそう！	6組



節分☆オニのお面をつくろう！



おひなさまをつくろう！



森の宝物をさがそう！

(3) デジタルサイネージ

琵琶湖博物館では、来館者向け利用案内の向上を目的としてデジタルサイネージを導入、運用しており、現在9台を運用している（表）。

特に今年度は、新型コロナウイルス感染症予防の観点から、正面入り口、券売カウンター横のデジタルサイネージにおいて来館者に向けた注意事項を表示した。また、C 展示室では、生体展示しているナゴヤダルマガエルに関するコンテンツを新たに作成し表示した。

【デジタルサイネージの設置場所と運用状況】

	設置場所	画面サイズ	形式	表示内容
1	券売カウンター横	55 インチ	固定	展示案内（企画展、イベント、えさやり時間など）
2	券売カウンター	43 インチ	固定	利用料金、利用上の注意（喫煙禁止・飲食禁止・ペット禁止など）
3				
4				
5	1F エスカレーター前	43 インチ	可搬	エスカレーター案内
6	正面入り口	55 インチ	可搬	利用料金、利用案内
7				利用料金、利用案内
8	C 展示室	55 インチ	可搬	展示物紹介（ナゴヤダルマガエル）
9	自由に移動させて利用	55 インチ	可搬	必要に応じてイベント案内、注意喚起など

博物館連携

(1) 滋賀県博物館協議会

滋賀県博物館協議会は県内の 70 館（2020 年 9 月末現在）で構成する団体である。広報、研修、記念事業の 3 つの委員会を持ち、ウェブによる加盟館紹介や新聞連載、年 3 回の研修・情報交換事業、5 年に 1 度の記念事業などを実施している。当館は広報委員会と記念事業委員会に各 1 名が参画し、活動の一翼を担っている。

(2) 烏丸半島活性化連携事業

琵琶湖博物館をはじめ、烏丸半島に関連する施設、企業、団体等で構成する琵琶湖・烏丸半島魅力向上活性化協議会の事業として、コロナ禍の状況の中、各構成団体それぞれにおいて、可能な限り各構成団体が連携・協力し烏丸半島への誘客を促進する取組を行った。

1) ウォーキングマップの配布

烏丸半島をめぐる一周約 3.3km のウォーキングマップを配布し、半島内の施設や見どころ、自然等を紹介した。

配布先：琵琶湖博物館来館者

2) 各種広報媒体の活用による情報発信

コロナ禍の状況の中、各構成団体それぞれにおいて、各構成団体が発行する広報やリーフレットをはじめ、パブリシティ・Facebook の活用により烏丸半島の情報を発信した。

4 体験と交流を促す博物館

一般利用者へのサービス

(1) 観察会・見学会等

2020 年度は博物館や県内各地で観察会・見学会等 3 件の事業を実施した。そのうち 1 件は事前参加申込によるもので、ほかの 2 件は当日受付による運営を実施した。事前参加申込手続きには「しがネット受付システム」及び往復はがきによって運営している。新型コロナウイルス感染症拡大の影響のため、観察会等 8 件は中止となった。

開催日	曜日	事業名	定員	参加者数	共催・協力等
4 月 11 日	土	からすま半島でタンポポを調べよう	30	中止	タンポポ調査はしかけ
5 月 20 日	水	季節の植物でアロマウォーター作ろう	5	中止	緑の薬箱
6 月 7 日	日	みんなで湖魚料理をつくろう！（コアユ・シジミ編）	20	中止	滋賀県漁協組合連合会青年会
7 月 4 日	土	希望が丘自然観察会（夏のトンボと昆虫）	30	中止	公益財団法人希望が丘文化公園
7 月 26 日	日	初心者のためのふなずし作り体験	20	中止	
8 月 9 日	日	下物ビオトープ生物観察会	30	中止	滋賀県琵琶湖保全再生課
8 月 16 日	日	マイナス 80 度から復活した微小生物	15	中止	
9 月 5 日	土	湖探検 琵琶湖に入って生き物をさがそう	20	中止	カワセミ自然の会
9 月 9 日	水	季節の植物でアロマウォーター作ろう	5	3	緑の薬箱
9 月 19 日	土	プランクトンでビンゴ	24	3	
12 月 2 日	水	季節の植物でアロマウォーター作ろう	5	5	緑の薬箱

(2) 講座

2020 年度は、以下に示した講座を実施した。

	内容	開催日	曜日	募集数	参加者数	講師
1	はしかけ登録講座	9 月 27 日 3 月 7 日	日 日	なし	45 17	中川信次
2	琵琶湖地域の水田生物研究会	12 月 20 日	日	500	112	一般発表 8 件 ポスター発表 5 件 講演 5 件
3	新琵琶湖学セミナー	3 月 27 日	土	70	57	中井克樹・松田征也

(3) 体験教室

1) 里山体験教室（担当：山本綾美・中川信次）

「里山」という言葉は知っているが、行ったことがない、子どもの頃は野山で遊んだが久しく行っていない。このような里山ビギナーの方々に、里山へ訪れるきっかけとして、里山体験教室を「はしかけ里山の会」との共催により開催している。

人里の外側に広がる田畑、草原、河辺林といった里山の空間的広がりを感じてもらうために、借地している林に留まらず、各回周辺を歩いて、季節による変化や時間の連続性を感じ、四季折々の里山の表情を楽しみながら知ってもらうため、春・夏・秋・冬年 4 回の実施を計画していたが、今年度については、秋の開催 1 回のみとなった。

春、夏はコロナ禍により実施不可、冬は雨天により中止となった。

今年度唯一の開催となった秋の開催内容について報告する。コロナ対策として、参加人数を例年の半分に減らし、飲食を伴う企画は取りやめとした。しかし、天候に恵まれ、里山散策では、キノコや木の実をたくさん見つけることが出来た。午後は、会場の草刈り、落葉かき、除伐、植栽木の手入れなど里山整備を実施し、その後、整備で得られた枝材等を用いて木工クラフトを行った。非常に好評で、冬の開催が雨天により中止になり参加者からも残念だという声をいただいたが、冬季の雨であったため、参加する子供への安全面からも中止せざるを得なかった。

回	開催日	内容	参加人数	担当者
1	4月26日	里山の春をみつけよう	中止	
2	7月12日	里山の夏を楽しもう	中止	
3	10月11日	里山の秋さがし	15	山本、中川
4	1月24日	冬の里山を楽しもう	中止	



山で栗拾いが出来ました



森の木で作ったよ

(4) 体験学習

1) 「琵琶湖博物館わくわく探検隊（体験学習の日）」の活動

(担当：由良嘉基、奥野知之)

「琵琶湖博物館わくわく探検隊」事業を博物館職員とともに運営している。博物館の設置理念である「フィールドへの誘い」をめざし、利用者の視点から「展示室のより深い理解」を参加者に届けるため、第2土曜日の午後に開催している。滋賀の人々の暮らしや身のまわりの自然に対しての興味・関心を深めてもらうことを大切にしながら「びわたん」のメンバーは、この事業におけるプログラムの開発や事業当日の参加者との交流などに関わっている。今年度は、年間9回のプログラムを計画したが、新型コロナウイルス感染拡大防止により、すべての回を中止とした。

回	月 日	館内の事業	参加者数
1	5月 9日	春の草花でしおりを作ろう！	中止
2	6月 13日	プランクトンを見よう！	中止
3	9月 12日	船 de アート！	中止
4	10月 10日	植物の化石を掘り出そう！	中止
5	11月 14日	秋の色探しをしよう！	中止
6	12月 12日	綿にふれてみよう！	中止
7	1月 9日	骨にふれてみよう！	中止
8	2月 13日	ドキ土器おしゃれ模様を楽しもう！	中止
9	3月 13日	お魚モビールを作ろう！	中止

学校連携

(1) 学校団体

団体扱いで入館した学校数・児童生徒数を以下にあげる。昨年度と比較すると、学校団体による来館者数は減少傾向にある。原因としては、9月までの学校団体利用の休止とコロナ禍にある学校の校外学習実施の自粛が大きい。しかし、県内小学校は他の施設からの変更が多く、来館数が増加することとなった。結果として、県内小学校に多く利用していただけたことは非常によかった。今後、県外からの来館数が戻ることを期待する。

1) 学校団体の受け入れ（担当：奥野知之、由良嘉基、植村隆司、塩谷えみ子、堀田博美）

地域	校 種	入館学校団体数			入館児童生徒数		
		R1 年度	今年度	増減	R1 年度	今年度	増減
県内	小学校	164	187	23	11,598	12,792	1,194
	中学校	18	14	-4	1,392	997	-395
	高等学校	14	6	-8	500	659	159
	特別支援学校	13	12	-1	227	282	55
	大学など	12	10	-2	881	674	-207
	合 計	221	229	8	14,598	15,404	806
県外	小学校	162	88	-74	13,679	6,668	-7,011
	中学校	67	32	-35	6,870	3,322	-3,548
	高等学校	36	9	-27	3,390	793	-2,597
	特別支援学校	17	5	-12	456	89	-367
	大学など	35	8	-27	1,604	268	-1,336
	合 計	317	142	-175	25,999	11,140	-14,859
総合計		538	371	-167	40,597	26,544	-14,053

2) 学校団体向け体験学習（担当：奥野知之、由良嘉基、植村隆司、塩谷えみ子、堀田博美）

学校団体向け体験学習は、展示室見学をより深く学ぶための手助けとなることを目的に行っている。しかし、短時間の来館で体験を中心に考えておられる学校団体もあり、今後見学の目的に合わせた体験学習の実施に努めていきたい。今年度は、コロナ禍で実施人数に制限をかける必要があり、希望にこたえることができないこともあった。今後は、既存の体験学習の定着を図りながら、新たな体験学習のプログラム開発に挑戦していければと考える。

校 種	主 な 活 動 内 容
小学校	講義（琵琶湖と環境、琵琶湖の生き物、昔の暮らし、博物館の展示についてなど）、化石のレプリカづくり、ヨシ笛づくり、シジミストラップ作り、プランクトンの採集と観察、外来魚の解剖、昔くらし体験（脱穀、石臼、手押しポンプ）、フローティングスクール連携、低学年による屋外展示利用、質問対応
中学校	講義（琵琶湖と環境、琵琶湖条例ができるまで、琵琶湖総合開発、博物館の展示についてなど）、プランクトン採集と観察、ヨシ笛づくり、外来魚の解剖、化石のレプリカづくり、質問対応
高等学校	講義（琵琶湖と環境、博物館の展示についてなど）、プランクトンの採集と観察、外来魚の解剖、課題研究、質問対応
特別支援学校	化石のレプリカづくり、よし笛づくり、シジミストラップ作り

■体験学習実施数

校 種	県 内		県 外		合 計	
	学校数	児童生徒数	学校数	児童生徒数	学校数	児童生徒数
小学校	35	2,474	8	753	43	3,227
中学校	6	943	2	518	8	1,461
高等学校	1	78	0	0	1	78
特別支援学校	2	19	1	11	3	30
大学など	0	0	0	0	0	0
合 計	44	3,514	11	1,282	55	4,796

■体験学習のようす



3) ミュージアムスクールの運営（担当：由良嘉基、奥野知之）

2020年度は立命館守山中学校を受け入れた。

立命館守山中学校「琵琶湖学習」の取り組み

1年生191名が参加し、1回の展示見学と講義を通して、琵琶湖や滋賀のことについて学習を深めた。特に、課題解決型学習を進めるにあたってのポイントを学び、研究の進め方の基本を知る良い機会となった。「日本一の琵琶湖に人を呼ぼう」というプロジェクトで、ターゲットを定めて琵琶湖をアピールしていこうという形で学習を進められます。発表形式は、動画を作成したりパンフレットになったりなど様々な形を考えておられます。

① 2020年9月24日（木）於：琵琶湖博物館 ホール人数制限のため2グループに分かれて聴講

- ・10:10～10:50 講義「琵琶湖の概要、琵琶湖博物館の概要」（由良）：ホール
- ・10:55～11:35 講義「琵琶湖の概要、琵琶湖博物館の概要」（由良）：ホール

② 2021年3月15日（月）於：立命館守山中学校

学習発表会

- ・琵琶湖博物館やフィールドで調べたことを発表
- ・講評（由良）

■ミュージアムスクールのようす



4) 自然調査ゼミナール（担当：由良嘉基、奥野知之）

この活動は、毎年夏休みに滋賀県中学校教育研究会理科部会環境教育研究委員会に所属する教員が中心となり、滋賀県内の中学生に対し、自然調査の手法を身につける機会の提供をしている。自然環境とじっくり向き合い、身に付けた自然調査の手法を自らの得意分野やフィールドで活かすことができる滋賀の子どもを育てることを目指し、1977年より開催されている自然観察研修会である。1997年からは琵琶湖博物館を会場として開催してきた。主催：琵琶湖博物館、共催：滋賀県中学校教育研究会理科部会、後援：滋賀県教育委員会で行っている。2020年度は新型コロナのため中止となった。

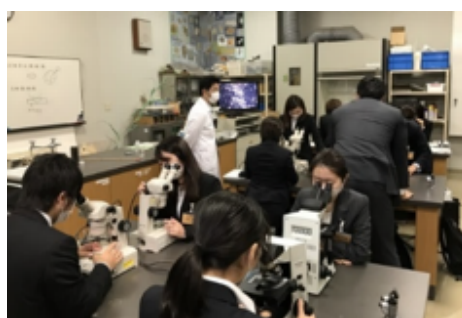
(2) 教育指導者等研修（担当：奥野知之、由良嘉基）

1) 教職員研修

本年度もフローティングスクール連携に関わる出張講座、滋賀県教育委員会や県総合教育センターなどと連携した研修を行った。県内の学校の先生方に琵琶湖博物館を知っていただくよい機会となった。博物館を有効に活用いただくきっかけになればと考えている。

実施日	曜日	講座名	受講者数	共催・後援
7月 2日	木	FS 連携 FS 所員研修会	4	滋賀県フローティングスクール
7月 12日	日	FS 連携「びわ湖学習」研修会	1	甲賀市立土山小学校
8月 27日	木	FS 連携「びわ湖学習」研修会	2	甲賀市立伴谷小学校
10月 24日	土	FS 連携「びわ湖学習」研修会（乗船）	10	彦根市立鳥居本小学校 他
11月 5日	木	初任者研修	41	滋賀県総合教育センター
11月 10日	火	初任者研修	46	滋賀県総合教育センター
11月 12日	木	初任者研修	41	滋賀県総合教育センター
11月 17日	火	初任者研修	45	滋賀県総合教育センター
11月 24日	火	FS 連携 FS 所員研修会	8	滋賀県フローティングスクール
1月 12日	火	FS 連携「びわ湖学習」研修会（乗船）	10	甲賀市立土山小学校 他
3月 14日	日	滋賀の教師塾	192	滋賀県教育委員会

■教員研修の様子（初任者研修）



企業連携

今後の博物館の運営を継続させていくためには、企業との連携は欠かせないものの1つである。博物館は企業が行う研修や社会貢献活動を通じて、参加者に博物館の理念である湖・自然と人間のよりよい関係を考える機会を提供し、また学術的な観点から正しい認識を伝えていく必要がある。また、外部資金を獲得する方法のひとつと位置づけ、これまで企業連携の強化を図ってきたが、2020年度は、新型コロナウイルスの影響により制約の多い中で非常に限定的な連携となった。

○ 連携事業

2020年度は、次のような連携事業を展開した。

月 日	企業・団体名	連携内容
8月～10月	株式会社コクヨ工業滋賀	グランドオープン内覧会記念品共同制作
10月24日 ～11月23日	伊藤忠商事株式会社	「近江商人と三方よし(伊藤忠商事×琵琶湖博物館)」 「企業の日」アトリウム展示
1月23日 ～2月21日	生物多様性びわ湖ネットワーク (県内企業8社)	「トンボ100大作戦～滋賀のトンボを救え!～」展示
3月23日～	滋賀県農業協同組合中央会	「ごはん・お米とわたし」絵画コンクール作品展開催

研修・実習

(1) 国際交流

1) 海外からの視察・研修

2020年度は、新型コロナの影響で視察や研修はごくわずかだった。

*JICA ; (独法)国際協力機構

月	日	視察者	依頼者	人数	対応者
11	13	JICA 地域理解プログラム	(独法)国際協力機構	30	スミス・中井

(2) 視察対応 (国内)

月	日	視察者	人数	対応者
7	16	静岡市海洋文化都市推進本部	4	芳賀・鈴木
9	15	横須賀市自然・人文博物館	4	里口・亀田・渡部
10	29	土岐市教育委員会	6	八尋
11	5	独立行政法人水資源機構	3	芳賀
11	13	千葉市動物公園子ども動物園	2	金尾
11	19	かごしま環境未来財団	2	八尋・芳賀

(3) 博物館実習

・期間：11月21日（土）～11月25日（金）までの5日間

大学生が学芸員の資格を取得するための実習を開催した。国内12大学、15名を対象に、琵琶湖博物館の基本理念・活動方針と、それに基づく資料整備、広報、展示などの活動について、講義および実習を行った。なお、実習3日目に学生一名の発熱が確認されたため、対面式の実習を中止し、在宅での実習とした。

・実習日程と内容

月 日	内 容 (午前)	内 容 (午後)
11 月 21 日 (土)	・全体オリエンテーション ・講義「琵琶湖博物館の使命と概要」 ・講義「琵琶湖博物館の研究活動」 ・講義「博物館のweb利用」	・講義「博物館の展示」 ・実習Ⅰ「私の展示室紹介」
11 月 22 日 (日)	・講義「博物館のコレクション」 ・講義「IPMについて」 ・実習Ⅱ「博物館資料について考える」	・実習 午前の続き
11 月 23 日 (月)	・講義「企画展示をつくる」 ・講義「博物館の広報・営業活動」 ・実習Ⅲ「Insutaguram・Twitter・Facebookをつくろう」	・実習 「成果発表準備」
11 月 24 日 (火)	・実習Ⅳ「環境学習プログラムをつくる」 (在宅)	・実習 「成果発表準備」 (在宅)
11 月 25 日 (水)	(在宅)	(在宅)

・実習生の大学と人数：12 大学・15 名（内訳）

所 属	人 数	所 属	人 数
高知大学	2	東海大学	1
京都橘大学	1	近畿大学	1
成安造形大学	1	奈良女子大学	1
東京農業大学	1	滋賀県立大学	2
京都先端科学大学	1	京都芸術大学	2
広島大学	1	京都精華大学	1
		合 計	15

5 対話と応援ができる博物館

利用者主体の事業

(1) フィールドレポーター

フィールドレポーター制度とは、滋賀県内の自然とくらし・文化について、地域の方々に身の回りの調査をしていただき、得られた情報を博物館の展示、交流、研究活動に活かす「地域学芸員」のような制度である。博物館に登録票を提出すれば誰でも参加できる。任期は1年で、更新すれば何年でも引き続き行うことができる。2020年度の登録者数は175名（2019年度登録更新者176名）であった。

フィールドレポーターの主な活動は、月2回（原則第1・3土曜日）の定例会の開催、1年に2回程度のアンケート型調査の企画・実施とその結果をまとめた報告書「フィールドレポーターだより」の編集・印刷・発行、館内の展示および更新、自由交流型調査のまとめと掲示板発行、館内外で開催される交流会・イベントなどの実施・参加である。これらの活動は、フィールドレポーターの有志からなる「フィールドレポータースタッフ」によって支えられている。2020年度の活動は新型コロナウイルス感染症拡大による影響、また当館の臨時休館により、活動の大幅な変更を余儀なくされたが、臨時休館中はメールを使用した情報共有を行い、6月より毎月第1・3土曜日（原則）のフィールドレポータースタッフ定例会等の会合・行事を計18回開催した。

2020年度の調査として、3月から5月にかけて「タンポポ調査」、2月から3月にかけて「えっ!?こんなところにもヌートリア」調査を実施した。調査票の作成や報告書執筆に関しては、タンポポ調査はフィールドレポータースタッフの前田雅子氏、ヌートリア調査はフィールドレポーター担当学芸員の金尾と同スタッフの中野敬二氏とが中心になって行った。なお、ヌートリア調査では、従来の調査票を郵送する方式に加えて、オンラインでの回答フォームを準備し、インターネットを通じた回答が可能となったほか、それらの報告状況をリアルタイムで可視化できるよう博物館ホームページのフィールドレポーター紹介ページで報告のあった分布図を公開した。また、2019年度の「セミ調査」、2020年度の「タンポポ調査」について、報告書として「フィールドレポーターだより」計2号（通巻53, 54号）を発行し、琵琶湖博物館ウェブサイトで公開した。

自由な内容で身近な情報を随時報告する「自由交流型調査」については、「フィールドレポーター掲示板」計1号（通巻99号）を発行し、琵琶湖博物館ウェブサイトで公開した。フィールドレポーター掲示板の編集長は、フィールドレポータースタッフの中野敬二氏が務めた。また、次号が記念すべき100号となるため、それらの出版にむけて準備を進めている。

フィールドでの観察会や調査会としては、2008年から継続している「アキアカネふるさと探し」調査を計画した。このうち、びわこバレイ蓬莱山頂付近でのアキアカネのマーキング調査については、新型コロナウイルス感染症対策のため中止とし、大津市伊香立での調査（10月3日）のみを実施した。

このほか、タンポポ調査のまとめとして、2021年3月7日に開催された「地域自然史と保全研究大会2021（オンライン大会）」において、前田雅子氏が「琵琶湖博物館フィールドレポーター調査で明らかになった滋賀県のタンポポの分布とその特徴」と題したポスター発表を行い、フィールドレポーター調査による成果を紹介した。

回	月	日	出席者数	内容	
1	6	20	9	定例会	セミ調査、近江の食調査のまとめ報告、2020年度の活動内容についての議論
2	7	4	8	定例会	タンポポ調査のまとめ報告、掲示板99号の編集について
3	7	18	8	定例会	セミ調査まとめ状況報告、タンポポ調査中間報告
4	8	1	9	定例会	掲示板99号の編集、掲示板100号記念号について

回	月	日	出席者数	内 容	
5	8	22	8	定例会	フィールドレポーター掲示板 100 号記念号について
6	9	5	8	定例会	赤とんぼ調査について
7	9	19	7	定例会	掲示板 99 号発送作業
8	10	3	22	調査	融神社（大津市伊香立）にて、アキアカネ調査
9	10	17	8	定例会	アキアカネ調査の報告、掲示板 100 号記念号について
10	11	7	8	定例会	掲示板 100 号記念号について
11	11	21	8	定例会	タンポポ調査中間報告、第 2 回調査について
12	12	5	8	定例会	ヌートリア調査について準備
13	12	19	8	定例会	タンポポ調査まとめについて、掲示板 100 号記念号について
14	1	9	6	定例会	ヌートリア調査準備作業、フィールドレポーター便り 53 号まとめ作業
15	1	23	5	定例会	フィールドレポーター便り第 53 号発送作業
16	2	13	5	定例会	ヌートリア調査発送作業
17	3	6	5	定例会	タンポポ調査報告まとめ
18	3	7	1	研究発表	地域自然史と保全研究大会（オンライン）にてポスター発表
19	3	2	5	定例会	ヌートリア調査実施中間報告

(2) はしかけ制度

「はしかけ制度」は、琵琶湖博物館の理念に共感し、博物館活動をともに創っていかうとする利用者のための登録制度として、2000 年 8 月に発足した。「はしかけ」という名称は、様々な活動を通して博物館と地域との橋渡し役となってもらうことを希望してつけられた。この制度に登録すると、博物館の様々な事業・研究にかかわることができ、さらに新しい活動を提案して自ら展開することも可能である。活動に参加するためには、最初に琵琶湖博物館の理念とはしかけ制度の概要を理解するための登録講座を受講し、加えてボランティア保険に加入する必要がある。また、活動は原則としてグループで行うこととしている。登録更新票の提出とボランティア保険への加入により、1 年毎に何回でも更新できる。

2020 年度は登録講座を、9 月 27 日（日）、3 月 7 日（日）の 2 回実施した。このうち、3 月 7 日（日）の実施分についてはオンラインで行った。それぞれ 35 名、13 名の新規登録者があり、2020 年度末の会員数は 372 人となった。

はしかけの各グループは、それぞれのテーマをもって多岐にわたる活動を行い、琵琶湖博物館の設置理念と、中長期基本計画の核心である「地域だれでも・どこでも博物館」の実現への推進力となってきた。ただ、2020 年度末には、これまで 20 年以上にわたり活動を続けてきた「湖（こ）をつなぐ会」が、活動を終了することになった。2021 年度からは 25 グループでの活動となる。

各グループの活動

〇うおの会

会長：中尾博行

担当学芸員：松田征也

会員数：81 名

〔設立の趣旨〕 「魚を愛し、魚採りを楽しもう。魚とその棲息環境を将来に残そう。魚とその棲息環境の現状を調査し、その姿を証拠として記録しておこう」という目標のもと、魚採りが大好きな人々が集まって結成されたうおの会。魚つかみを楽しみながら調査結果を記録として残し、身近な環境を見つめなおすことを目的としている。2000 年の発足以来、お魚採りが大好きな会員が結集し、博物館を活動の拠点としながら、調査によって得られた成果を活用し、身近な環境に棲息している魚たちの情報を 21 世紀初頭の記録として残し、博物館資料とすることを目指している。

〔活動の概要〕 4 月から 12 月に月一回、定例調査を琵琶湖流域の各地で開催し、その他に臨時的な活動や観

察会支援を実施している。また各会員は日常的に調査活動を実施し、うおの会のデータとして記録を残している。活動計画の立案や他団体への協力、調査活動の運営、活動上の諸課題の解決等は、12名の運営委員が中心となって行っている。2020年度は4、5月の調査が新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から中止となり、また12月の調査は荒天のため中止となった。限られた活動となったが、全136件の採集データを残すことができた。冬季は勉強会を計画していたが、これも中止となった。例年は調査活動の他、琵琶湖博物館行事や自治会等の各種団体による自然観察会、環境学習等への協力を行っているが、今年度は中止が相次ぎ、草津市の自治会での観察会1件のみであった。なお、2019年度には当会の活動が評価され、日本水環境学会の「水環境文化賞」を受賞した。2020年3月の岩手県での学会年会で表彰される予定であったが、新型コロナウイルスの影響で年会自体が中止となった。その後2020年6月に東京で表彰式が行われることになったが、結局これも中止となり、表彰状と記念品は琵琶湖博物館に郵送され、ようやく受け取ることができた。

「うおの会」のおもな活動

- ・定例調査などの活動一覧（のべ参加人数121名・全89データ）

活動日	内 容	参加者数
4 19	（中止）第149回定例調査 大戸川、信楽川（甲賀市）	一名
5 17	（中止）第150回定例調査 長浜市内小河川（長浜市）	一名
5 30	春季チャネルキャットフィッシュ調査（瀬田川）	5名
6 21	第151回定例調査 大戸川、信楽川（甲賀市）※淡海湖の予定を変更	19名
7 19	第152回定例調査 石田川、北川（天増川）（高島市）	11名
8 29	夏季チャネルキャットフィッシュ調査（瀬田川）	9名
9 20	第153回定例調査 蛇砂川（八日市市）	17名
10 18	第154回定例調査 比良、北小松周辺小河川（大津市、高島市）	20名
11 15	第155回定例調査 余呉川（長浜市）	22名
12 20	（中止）第156回定例調査 善光寺川、祖父川、惣四郎川等（竜王町）	現地確認 1名
1 17	（中止）勉強会	一名
2 21	（中止）勉強会	一名
3 28	総会 場所：琵琶湖博物館ホール	25名

※上記以外に運営会議を2回開催（うち1回はオンライン開催）

※個人調査データ 47件

- ・各種行事・団体への参加・協力一覧

活動日	内 容	参加者数
11 7	草津市不動浜自治会「ふるさと環境を守る会」にて観察会講師、講演	1名

○近江 巡礼の歴史勉強会

世話役：福野憲二・吉井 隆・関谷和久・長 昭男 担当学芸員：橋本道範・渡部圭一 会員数4名

〔設立の趣旨〕 近江の巡礼について、歴史的背景や現状確認を視野に入れ調査を行い、宗教、郷土史、教育文化、行政など各種専門分野の人々と勉強会、見学会などを行うことを目的として「近江 巡礼の歴史勉強会」を設立した。“近江の祈り”をテーマに、甲賀市で発見された福野家古文書「甲賀准四国設立由来」と「朱印帳」をもとに写し四国八十八ヶ所(注)の調査活動を行う。

(注) 甲賀准四国八十八ヶ所は、滋賀県の四国巡礼として明治45年に設立された唯一の「写し四国八十八ヶ所」である。真言宗の寺院だけでなく宗派を超えた組織を構成していることは特筆すべきことであるが、現在は残念ながら霊場巡礼の慣習が薄れ、その存在も忘れられかけている。しかし、今も多く寺院には設立当時の掛額や弘法大師像、札所の石碑などが残されており、その現状を調査し

記録することに意義があると考え。

[活動の概要]

- ・「甲賀准四国設立由来」に基づき 8 名の発起人を訪ね甲賀准四国に関する資料等の発掘を行い設立の経緯と巡礼の拡がりを調べる。
- ・各寺院を訪問し住職と面談することで、甲賀准四国の現在の状態を把握し、あわせて新たな資料を発掘する。
- ・朱印帳などを手掛かりに拡がり具合を調査し人々を巡礼に駆り立てる要因を探る。
- ・西国三十三所や近江西国三十三所の観音信仰との関連について調査し巡礼の実態を探る。
- ・専門分野だけでなく広く一般に活動の展開を図る。

[2020 年度活動結果報告] 活動会員数 (のべ) 12 名、一般参加者数 (のべ) 95 名

- ・甲賀准四国対象寺院の住職との面談と調査は 2 寺院で実施できた。

対象寺院 98 ケ寺のうち、調査可能な寺院数は兼帯の寺院も合わせて 92 ケ寺、廃寺・老朽化で調査不可能な寺院数は 6 ケ寺である。その中で 2021 年 3 月までに住職との面談が実施できた寺院数は 26 ケ寺（進捗率 30.2%）である。

- ・NHK 中部放送局制作の中部ネイチャーシリーズに出演・撮影協力をした。

「伊賀と甲賀 忍者を生んだ山野」と題して飯道山の行者道を案内、また、飯道寺の歴史や修験道に関する資料を提供し取材に協力した。

- ・新型コロナウイルス感染拡大の影響で当初計画の下記 5 項目が実施できなかった。

1. 甲賀市岩上地区文化祭でパネル展示を実施して調査結果を発表する。
2. 地元の歴史講座や講演活動、県職員の近江地元学研修で成果を報告する。
3. 甲賀准四国の関係者や巡礼の専門家との第二回目勉強会を開催する。
4. 年度末に近江巡礼の歴史勉強会の報告会を開催する。
5. 琵琶湖博物館はしかけ活動紹介パネル展示にあたってのパネル作成準備を開始する

「近江 巡礼の歴史勉強会」のおもな活動

活動日	内容	場所
7 9	飯道山でNHK中部ネイチャーシリーズ撮影 8/9 まで	甲賀市信楽町
8 17	馬頭観音の御開帳（新城観音堂）	甲賀市水口町
10 12	甲賀町善應寺の本尊御開帳	甲賀市甲賀町

※「近江 巡礼の歴史勉強会」活動の参加人数について

年 度	活動日数	活動会員数	一般参加者数	合 計
発足前	25	51		51
2017 年	37	76	82	158
2018 年	21	42	*627	669
2019 年	19	44	*543	587
2020 年	3	12	95	107
合 計	105	225	1,347	1,572

*甲賀市岩上地区文化祭でパネル展示実施して調査結果を発表した。岩上自治振興会の歴史講座や研修を実施した。(2018 年・2019 年)

○淡海スケッチの会

担当学芸員：榊永一宏 会員数：6 名

[設立趣旨] 「外へ誘う博物館」を实践し、滋賀県内の各所へ赴き、絵画等により風景やものを観察、写生することで記録を残すことを目的とする。

[活動概要] 月1回（基本的に第3日曜日）、滋賀県内各地でスケッチ会等を開催。また、気候が厳しい真夏や真冬、雨天時は琵琶湖博物館内でスケッチを行う。2015年秋に設立。風景に限らず植物や、博物館内の剥製、水族展示室の魚などをスケッチし、専門家の話を伺う機会も設けている。

「淡海スケッチの会」のおもな活動

活動日	内 容	場 所	参加者数
4 26	写生会	新型コロナウイルス感染症対策のため中止	- 名
5 24	写生会	新型コロナウイルス感染症対策のため中止	- 名
6 28	写生会	琵琶湖博物館（雨天のため）	6 名
7 19	写生会	琵琶湖博物館	2 名
8 23	写生会	琵琶湖博物館	2 名
9 27	写生会	琵琶湖博物館	5 名
10 25	見学会	御猟野牧場（近江八幡市）	6 名
11 22	写生会	琵琶湖博物館	4 名
12 20	ミーティング	琵琶湖博物館	4 名
1 24	写生会	琵琶湖博物館	3 名
2 21	パワーポイント作成	琵琶湖博物館	4 名
3 21	館内活動	琵琶湖博物館	5 名

○近江はたおり探検隊

運営：辻川智代 担当学芸員：渡部圭一

[設立の趣旨] 2004年度、民俗資料展「糸を紡いで布を織る」での機織り体験講座がきっかけとなり、展示終了後、結成。「地域に残された人とモノから近江の機織り文化を探究し、現在、失われてしまった近江の良さを再発見し、地域の人々とともにその良さを伝えていく」ことを目的に活動している。

[活動の概要] 博物館に収蔵される機織り用具の調査を通じ、地域に残る機織りの技を再現することを目標とし、織姫の会、研究会、はたおり探検などの活動を行っている。平成18年度から「野良着部会」で琵琶湖南部特有の縞柄の藍染木綿の復元を進めている。

「近江はたおり探検隊」のおもな活動

活動日	内 容	場 所	参加者数
4 11	博物館休館に付き、活動中止		
4 22	博物館休館に付き、活動中止		
5 9	博物館休館に付き、活動中止		
5 27	博物館休館に付き、活動中止		
6 6	織姫の会	生活実験工房	7 名
6 24	織姫の会	生活実験工房	2 名
7 4	織姫の会	生活実験工房	2 名
7 22	織姫の会	生活実験工房	7 名
9 12	織姫の会	生活実験工房	3 名
9 30	織姫の会	生活実験工房	4 名
10 10	織姫の会	生活実験工房	2 名
10 28	織姫の会	生活実験工房	4 名
11 4	藍染（湖南省紺喜染織）	紺喜染織	3 名
11 11	織姫の会	生活実験工房	3 名
11 28	織姫の会	生活実験工房	3 名
12 19	織姫の会	生活実験工房	5 名

活動日		内 容	場 所	参加者数
1	6	織姫の会	生活実験工房	5 名
1	30	織姫の会	生活実験工房	8 名
2	13	織姫の会	生活実験工房	5 名
2	24	織姫の会	生活実験工房	3 名
3	10	織姫の会	生活実験工房	3 名
3	24	見学会(京都・堺町画廊、上世屋の藤織り工房のの展)	京都市内	4 名
3	27	織姫の会	生活実験工房	5 名

○大津の岩石調査隊

代表者：梅澤正夫 担当学芸員：里口保文 顧問：中野聡志 会員数：19名

[設立の趣旨] 市街地から近い音羽山の地域を中心に歩いて、ハイキングするような心持ちで、地域の岩石など地質の勉強をしながら調査を行なっていきたい。

[活動の概要] 今年度は、新型コロナウイルス対策のために、通常の活動ができなかったが、感染対策を行いながら、野外調査や室内での勉強会を進めた。今年度の野外調査は、興味がある地域を隊員が持ち寄って、各地域の調査をその隊員が担当者となって調査を実施している。また、勉強会は地学の基礎知識を得るために、高校の教科書を使った勉強会を、各回の担当者の順番を決めて実施しはじめた。また、継続的に調査を続けている地点について、学会誌へ投稿する準備をした。

「大津の岩石調査隊はしかけ」のおもな活動

活動日			内 容	場 所	参加者数
6	20	土	近江八幡市・綴山南部の地質調査	近江八幡市・綴山～観音正寺	11 名
7	25	土	勉強会（調査まとめ、今後の予定）	琵琶湖博物館	13 名
9	27	日	地学勉強会（会員による持ち回り講義）	琵琶湖博物館	10 名
10	25	日	大津市・相模川源流域の調査	大津市・相模川源流域	10 名
11	15	土	湖南市岩根旧採石場見学・岩石調査	湖南市岩根	10 名
12	12	土	地学勉強会（第 2 回）	琵琶湖博物館	8 名
1	23	土	地学勉強会（第 3 回）	琵琶湖博物館	8 名
2	28	日	地学勉強会（第 4 回）、来年度計画検討	琵琶湖博物館	8 名
3	21	日	雨天のため調査中止。調査地点の室内勉強会	琵琶湖博物館	7 名

○温故写新

連絡係：谷口雅之 担当学芸員：金尾滋史 会員数：25 名

[設立の趣旨] 写真とカメラを愛し、撮影を楽しむ人たちのはしかけグループ。主に滋賀県内における感動的な美しい生命の活動、人の生活や自然の移りゆく様を記録に残し、写真を通じて博物館活動に貢献することを主旨とする。

[活動の概要] 今年度は新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、メンバー同士が会合の交流が大幅に制限された。そのような中、博物館休館中にメーリングリストを立ち上げ、各メンバーが撮影した写真の情報交換などを行った。活動は 7 月から開始し、主に、撮影会は、当館の映像資料である大橋コレクションの撮影地巡りを行った。また、同時並行で大橋コレクションの活用に向けた写真選定作業を月に 1 回開催し、10 年以上の年月を経て、2021 年 2 月に約 40,000 枚の整理作業を完了させることができた。

「温故写真」のおもな活動

活動日			内 容	場 所	参加者数
7	25	土	総会の開催、今年度の活動計画策定	博物館実習室 2	8 名
8	18	火	大橋コレクション整理作業	博物館実習室 2	4 名
8	22	土	9 月～11 月撮影会の準備 大橋コレクションの写真と同じアングルの写真を撮るため、主に彦根市内の写真をチェックし、どのようなルートで回るかを検討した。 大橋コレクション整理作業	博物館実習室 2	9 名
9	24	木	大橋コレクション整理作業	博物館研究交流室	4 名
9	26	土	おでかけ撮影会 in 彦根 レンタサイクルを使って彦根城周辺、琵琶湖湖岸などを周り、大橋コレクションと同じ場所でおおよそ 20 カットを撮影した	彦根	7 名
10	15	木	大橋コレクション整理作業	博物館研究交流室	2 名
10	24	土	おでかけ撮影会 in 大津 大津駅周辺、長等公園、大津市内の商店街などの風景撮影を行った	大津	9 名
11	19	木	大橋コレクション整理作業	博物館研究交流室	4 名
11	28	木	おでかけ撮影会 in 彦根第 2 弾 天候不良につき、中止		-名
12	12	土	これまでの撮影した写真の整理作業を行い、メンバーが撮影した写真をスクリーンに映して紹介した	博物館実習室 2	9 名
1	14	木	大橋コレクション整理作業	博物館研究交流室	5 名
1	30	土	おでかけ撮影会 in 多賀町 多賀大社、胡宮神社、SL パークなど大橋コレクションの撮影地巡りを行った	多賀町	5 名
2	18	木	大橋コレクション整理作業	博物館研究交流室	4 名
2	27	土	博物館周辺の風景・自然撮影	博物館周辺	8 名
3	13	土	総会：2020 年度の活動振り返りと、2021 年度の活動計画を立てた	博物館実習室 2	9 名

○暮らしをつづる会

代表：中尾京子 担当学芸員：大久保実香 会員数：1 名

〔設立の趣旨〕 地域の生活のあり方を考えながら地域の生活話を記録に残し、伝えていくことを目指している。

〔活動の概要〕 2020 年度は活動休止

○古琵琶湖発掘調査隊

会長：堀田博美 事務局長：安原 輝 担当学芸員：山川千代美 会員数：35 名

〔設立の趣旨〕 多賀町四手で計画された 180～190 万年前の古琵琶湖層群調査(多賀町古代ゾウ発掘プロジェクト)において、市民参加の方々に指導し、自らも研究できるような人材になることを活動の目的としている。

〔活動の概要〕

【定例活動】

・例年参加している「多賀町古代ゾウ発掘プロジェクト」(場所：滋賀県犬上郡多賀町)は、本年度は実施されなかったため、参加できなかった。

【フィールド活動】

- ・野洲川(滋賀県湖南市)での活動に向けての現地見 (8月2日 参加者:5名)
- ・柱状図の書き方の実習と足跡化石・地層の観察 (場所:滋賀県湖南市・野洲川)(12月13日 参加者:13名)
- ・粒度表作成のための土の採集 (3月13日実施予定だったが、雨のため次年度に順延)

【屋内活動】(場所:琵琶湖博物館)

- ・総会 (7月19日 参加者:8名)
- ・「多賀町古代ゾウ発掘プロジェクト」の発掘現場で採取した土から微小な化石を探す作業
(計19回 参加者(のべ):55名)
(6月11日、6月27日、6月30日、7月18日、7月26日、8月18日、9月18日、9月23日、
9月29日、10月20日、10月24日、11月25日、11月29日、1月14日、1月17日、2月13日、
2月19日、3月19日、3月23日)

【勉強会】(場所:琵琶湖博物館)

- ・野洲川(滋賀県湖南市)での屋外活動に向けての自主勉強会
内容:「野洲川(滋賀県湖南市)での活動の目的や現地の説明」、「地層の観察方法についての基礎的な知識」、
「断層と琵琶湖の移り変わり」 (10月31日 参加者:9名)
- ・粒度表作成のための検討会 (2月20日 参加者:9名)

【その他】

- ・新型コロナウイルス感染拡大防止のため、4月・5月は活動を自粛したが、その間、メンバー同士で学びを継続するために、数回、メールにてクイズの出題が行われた。
- ・「多賀町古代ゾウ発掘プロジェクト」の活動紹介として『多賀はゾウの里だぞう』(多賀町立博物館 編)が6月に発行され、古琵琶湖発掘調査隊の活動が掲載された。
- ・はしかけ登録講座での活動紹介(5月17日:中止。9月27日:滋賀県立琵琶湖博物館ホールにて活動紹介(参加者:1名)。3月7日~14日:オンラインでの開催。)
- ・メンバー間での情報共有を目的とするメーリングリストが、11月から運用開始。(登録は任意)

○湖(こ)をつなぐ会

代表:中山法子 担当学芸員:林 竜馬 会員数:5名

〔設立の趣旨〕 「うた」を通じて、琵琶湖の文化的・社会的価値を再発見することをめざす。

〔活動の概要〕 子ども達に歌ってほしい琵琶湖の歌として生まれた「生きている琵琶湖」を広く知ってもらい活動をしている。琵琶湖博物館に来館した小さな子ども達に「びわこの旅」の紙芝居を使いながら、琵琶湖といきもの達との関わりを少しでも理解してもらえるように伝え、「生きている琵琶湖」がどこかで聞いたことがある「歌」だと思ってもらえるようになればと活動を続けてきた。2020年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のために、博物館が休館し、再開後も入館者数を制限していて、来館した子ども達を一か所に集めて紙芝居を上演するということが不可能な状態となった。その中で、将来に向けてできることを模索した一年であったが、「はしかけ」としての活動は終了することにした。

○ザ! ディスカバはしかけ

担当:妹尾裕介・大槻達郎 会員数:5名

〔設立の趣旨〕 子どもからお年寄りまでディスカバリールームを訪れる方々に展示のメッセージがよりよく伝わるように分かりやすく楽しい空間を創ることをめざしている。

〔活動の概要〕 2005年度にイラストや裁縫・人形劇など展示物の作成および補修など個人から始まった活動。大人と子どもが一緒に楽しむイベント作りを目指している。

「ザ！ディスカバはしかけ」のおもな活動

活動日			タイトル	内容	参加者数
3	20	土	森の宝物をさがそう！ 11:30～・14:00～	ディスカバリールームのイベントに参加し、運営補助をした。久しぶりの博物館イベントで、夢中になって森のたからものを探す子どもたちが輝いてみえた	参加者 18 名 はしかけ 2 名

○里山の会

担当職員：山本綾美 草加伸吾 会員数：50 名

〔設立の趣旨〕 交流事業「里山体験教室」の卒業生が中心となり、2001 年から活動している。里山体験教室のホスト役を通して、一般市民への里山理解を深める活動や現代における里山利用を実践している。

〔活動の概要〕 里山の会の主な活動である里山体験教室は、2006 年度より野洲市大篠原の里山林を拠点として開催している。当初このフィールドは、林縁部がマント群落に覆われ、枯アカマツが点在し、亜高木のソゴやヒサカキに埋め尽くされた暗い林であったが、数年にわたり、小径木、灌木を伐採し、落ち葉をかくことで、少しずつ明るさを取り戻し、林床には芽生えが確認されるようになった。このような雑木林と周辺の自然環境の中で、春の山菜料理、夏の昆虫・生物観察、秋色探し、冬の焚き火（伐採した木々を使い、火おこし術、花炭など里山の燃料を使った遊び）など四季いろいろの里山の恵みや利用を通して里山の価値を感じている。このフィールドを共に利用している他の団体から「はしかけの森」と呼ばれるようになり、活動地域での認知度も高まっている。また、琵琶湖博物館内でそば、きのこ栽培など里山関係の企画を提案し博物館活動に参加している。

「里山の会」のおもな活動

活動日		内 容	場 所	参加者数
4	18	里山体験教室（春）下見 はしかけの森近隣ハイキング	野洲市大篠原 はしかけの森	中止
4	26	里山体験教室（春）本番「里山の春をみつけよう」	野洲市大篠原 はしかけの森	中止
5	1	山菜パーティ	野洲市市三宅 地先	中止
6	8	潮干狩り	三重県津市 御殿場浜	中止
6	26	はしかけの森整備活動	野洲市大篠原地先	5 名
7	4	里山体験教室（夏）下見	野洲市大篠原 はしかけの森	中止
7	12	里山体験教室（夏）本番	野洲市大篠原 はしかけの森	中止
8	8	そうめん流し、道具類虫干し	琵琶湖博物館	8 名
9	21 22	杉玉づくり	多賀町	中止
10	3	里山体験教室（秋）下見	野洲市大篠原 はしかけの森	16 名
10	11	里山体験教室（秋）本番「里山の秋さがし」	野洲市大篠原 はしかけの森	29 名
10	17	びわ博フェス	琵琶湖博物館	中止
12	5	押花灯りづくり	琵琶湖博物館	8 名
1	16	里山体験教室（冬）下見	野洲市大篠原 はしかけの森	15 名
1	24	里山体験教室（冬）本番	野洲市大篠原 はしかけの森	中止
2	25	スウェーデントーチ制作	野洲市大篠原地先	6 名
3	13	里山の会総会、キノコ菌打ち体験	琵琶湖博物館	21 名

○植物観察の会

代表者：辻 いずみ 担当学芸員：芦谷美奈子 会員数：23 名

〔設立の趣旨〕 2004 年に開催した企画展示「～植物がうごくとき～のびる・ひらく・ひろがる」の準備期間

中に、企画展の趣旨に沿って、植物の情報を収集し植物を好きになる人を増やすのを目標に設立した。長年にわたり年に数回の外部観察会のみを行ってきたが、「はしかけ」本来の自主的活動とするため、2017年からメンバー登録し、月に1度「定例会」、年に数回「お出かけ観察会」を行う形とした。

[活動の概要] 2017年4月から登録制とし、月に1回定例会を行った。定例会では、博物館の周りの観察、持ち寄ったものの観察、芦谷学芸員に水草について教えて頂く会など、季節や天候によって変えながら行った。はしかけ全体へ呼びかける「お出かけ観察会」は、新型コロナにより「密」を避けるため、今年度からしばらく行わないこととした。6月、9月の「お出かけ観察」は、メンバーのみで行った。新型コロナ感染拡大による緊急事態宣言のため、2020年3月から臨時休館や外出自粛の関係で会としての活動回数が減ったり、室内での活動を自粛したりした。

「植物観察の会」のおもな活動

活動日			内 容	場 所	参加者
4	5	日	中止		-名
5	10	日	中止		-名
6	7	日	お出かけ観察「みなくち子どもの森 初夏の里山を歩こう」	甲賀市水口 みなくち子どもの森 屋外のみ	4名
7	5	日	博物館の周り、湖岸の観察	琵琶湖博物館 烏丸半島 屋外のみ	10名
8			猛暑のため お休み		-名
9	5	土	お出かけ観察「水草をみようⅢ」	長浜市豊公園の湖岸	7名
10	14	日	水草観察の報告、持ち寄り観察、屋外観察	琵琶湖博物館 実習室1、屋外	8名
11	1	日	博物館の周り、湖岸の観察	琵琶湖博物館 烏丸半島 屋外のみ	6名
12	6	日	樹冠トレイル、博物館の周りの観察	琵琶湖博物館 屋外のみ	3名
1	10	日	中止		-名
2			お休み		-名
3	7	日	中止		-名

[活動の振り返り、来年度へ向けて]

- ・ひとつのものを見ても、多くの疑問や発見が出てくる。そして、次に見たいものや行きたい場所が次々と出てくる。1人では分からないこともメンバーが集まれば、分かってくる。集まれなくてもメールでのやりとりで解決することも多く、すぐに聞けるのも良い。今年度は集まる機会が少なかったため、「みんなで歩きながら植物の話がしたい〜」とメールで会話。
- ・4月5月は「密」を避け、各自が1人で自主活動。フィールドレポーターのタンポが調査があったため、室内に引きこもらずに済み、単独行動でも楽しみがあった。
- ・活動の出来ない間、グループメールで情報交換ができたことで、植物に触れる機会となった。内容は、①「癒されてください〜」という感じで、日常の植物との出会いを画像と共に配信 ②「ここへ行って来ましたー」とその様子、咲いていた植物の報告 ③「教えてくださいー」の質問とそれへの返信。もちろん配信も返信も強制ではない。
- ・芦谷学芸員に教えていただく「水草観察（お出かけ）Ⅲ」を昨年に続き行うことができた。湖水へ安全に入ることができること、気温水温のこと、植物の生育状況が見やすいことなどを考えると、時期は9月に限定されてくることが予想できる。そのため、毎年この時期に合わせて芦谷学芸員にお願いする形にした。
- ・他の活動を兼ねているメンバーが多く、視点を変えた新しい観察ができることも楽しみである。来年度からも「密」を避け、十分な感染対策を取りながら、少しずつ「お出かけ観察」の回数を増やしたい。各自の日常散歩コースなどをメンバーに紹介する「お出かけ観察」もやってみたい。

○たんさいぼうの会

会長：津田久美子 担当学芸員：大塚泰介 会員数：21名(年度内の入退会者を含む延べ人数)

〔設立の趣旨〕 珪藻を中心に、微小生物のハイ・アマチュア研究者の育成を目指す。

〔活動の概要〕 2002年5月に「珪藻の会」として発足し、研究対象の拡大をねらって「たんさいぼう（単細胞）の会」と改名した。発足以来、珪藻など微小生物の調査・観察・研究を行い、学会発表や研究論文として成果を公表してきた。活動によって得られた標本および成果物は、琵琶湖博物館に提供される。今年度は、会員を主著とする1本の論文（短報）および3本の学会発表を行ったが、いずれも、たんさいぼうの会名義の発表でない。2020年5月に計画されていた日本珪藻学会第41回大会に、2人の会員がそれぞれ藤ヶ鳴湿原（岡山県岡山市）の珪藻、およびメダカ水槽に発生する珪藻の研究報告でエントリーしていたが、新型コロナウイルス感染拡大のあおりで大会が中止となったため、先行して論文執筆を進めることにした。ともに2021年3月末時点で種同定や図表の整理などを終え、本文の修正段階に入っている。また、瀬田公園（滋賀県大津市）の珪藻についても一通りの種同定を終え、執筆を進めている。他にも、愛知県の鈹質土壌湿地群、野田沼・曾根沼（滋賀県彦根市）などの現生珪藻植生の研究を進めている。また会員の個人研究として、琵琶湖から出現した群体がねじれるオビケイソウの研究、ミズゴケ付着珪藻の培養、古琵琶湖層群藻生層の珪藻を用いた古環境復元、古琵琶湖層群甲賀層の珪藻植生の研究などにも取り組んでいる。

「たんさいぼうの会」のおもな活動

活動日	内 容	場 所	担当者・参加者
5 17	たんさいぼうの会第62回総会	オンライン	担当：津田久美子 参加者：8名
7 4	たんさいぼうの会第63回総会	琵琶湖博物館 ＋オンライン	担当：富小由紀 参加者：3名
10 31	たんさいぼうの会第64回総会	琵琶湖博物館 ＋オンライン	担当：服部圭治 参加者：6名
12 25	論文がDiatom誌で出版され、琵琶湖博物館で撮影した顕微鏡写真が表紙を飾る		主著者：山本真里子
1 24	たんさいぼうの会第65回総会	琵琶湖博物館	担当：石井千津 参加者：10名

○田んぼの生きもの調査グループ

主担当学芸員：鈴木隆仁 会員数：約10名

〔設立の趣旨〕 滋賀県に住む人にとって最も身近な水環境である水田に目を向けて、そこに生息する大型鰓脚類などの生物の分布や生態を調査する。

〔活動の概要〕 毎年5月、6月に、滋賀県各地の水田においてハウネンエビ・カブトエビ類・カイエビ類の分布を調査し、標本を同定するとともに、採集データを登録して、分布図を作成する活動を行っている。一昨年度と昨年度に実施した広域調査により、滋賀県全体における大型鰓脚類の分布はおおむね明らかになった。そこで、本年度は、滋賀県内全体の分布調査は、3次メッシュコード単位で未調査になっているいくつかの地域における調査するにとどめ、大津市南部における2種のカブトエビの分布の経年変化を追跡する調査に主力を置いた。

大津市南部の月輪、大江、石山寺、赤尾町には、アメリカカブトエビとアジアカブトエビの2種が生息しており、両種が共存する水田も少なくない。2種が共存する水田では、しだいにアジアカブトエビが優位になるという現象が見られる地域が多いと言われていることから、田んぼの生きもの調査グループでは、2013年ごろより大津市南部地域において2種のカブトエビの生息状況の追跡調査を継続している。これらの地域の水田では5月下旬に注水が行われることから、これまでは6月10日前後の1日を選んで、会員全員による合同調査を実施してきた。しかしながら、年1回の調査では、一時的に干上がったことなどに

より大半の個体が死滅してしまったり、気温や水温の関係で多くの個体が土に潜って発見できなかったりする場合があり、両種の生息状況を正確に追跡できているとは言えない状況であった。そこで、2020年度は、これまでの調査で両種が発見された筆と、その周辺の40筆あまりに調査対象を限定し、それぞれの筆について注水から数日間隔で数回調査することにした。また、例年は車に数人が同乗して複数回調査する方法をとっていたが、新型コロナウイルスへの感染を防止するため、個人または特定の2人で繰り返し調査を行った。その後、8月末から9月初めにかけて、少人数で十分な感染対策をとりながら、調査で得られたサンプルの同定会を4回行った。本年度の調査では、採取した2種のカブトエビの全サンプルについて背甲正中線長も測定し、それぞれの成長の特徴を分析した。その結果は、大津市南部における2種のカブトエビの生息状況の追跡結果とともに、12月にオンラインで行われた琵琶湖地域の水田生物研究会において、山川が口頭発表を行った。

なお、昨年度は、新型コロナウイルス感染症対策に伴う博物館の臨時休館により総会の開催を見合わせたが、本年度は、博物館実習室において、十分な感染対策をとりながら実施することにした。

[2020年度の調査結果]

・広域調査

滋賀県道4号草津伊賀線や滋賀県道113号石部草津線沿いを中心に、全体で75筆を調査した。そのうち、3次メッシュコードで5メッシュ56筆は、初めて調査した地域である。半数余りの40筆で大型鯉脚類の生息が確認された。種別に見ると、アメリカカブトエビが6筆、ホウネンエビが8筆、カイエビが21筆、トゲカイエビが8筆で確認されている。ヒメカイエビ、タマカイエビ、アジアカブトエビは記録されなかった。

・循環灌漑による影響の調査

一昨年、昨年に続いて、循環灌漑を実施する守山市木浜町において調査を行った。調査したのは、一昨年、昨年に調査した地域より北側の22筆である。カイエビ、トゲカイエビが確認された筆はいずれも6筆で、そのうち5筆は両種が共存していた。ホウネンエビも2筆で確認されたが、カブトエビ類、ヒメカイエビ、タマカイエビは見つからなかった。

・大津市南部における2種のカブトエビ類の調査

47筆の水田について、数日の間隔をあけて3～4回の調査を行った。少なくとも1回の調査でアメリカカブトエビの生息が確認できた水田は29筆、アジアカブトエビの生息が確認できた水田は38筆であった。それらの水田のうち、両種が記録された水田は24筆である。また、35筆の水田でトゲカイエビが確認されたが、ホウネンエビがみつかった水田とカイエビが見つかった水田は、いずれも15筆であった。ヒメカイエビ、タマカイエビは確認できなかった。

月輪三丁目では、調査した6筆すべてで2種のカブトエビが共に記録された。そのうち3筆は、アジアカブトエビが本年度の調査で初めて確認された水田である。大江四・五丁目では、調査した6筆すべてでアジアカブトエビが圧倒的に優位に立っており、アメリカカブトエビは3筆の水田でわずかに生息していることが確認されただけであった。石山寺四丁目でも、調査した6筆すべてでアジアカブトエビが優位に立っていたが、そのうち3筆の水田では、アメリカカブトエビが10～20%を占めていた。石山寺三丁目では、調査した8筆のうちアメリカカブトエビの生息が確認できない水田が3筆あったが、アメリカカブトエビが大半を占める水田も2筆見られた。一方、赤尾町では9筆を調査したが、アジアカブトエビが圧倒的に優位であったのは、用排水兼用水路の最も下流側の1筆のみであり、上流側ではアメリカカブトエビが優位に立っていた。

両種が同時にみつかった水田では、アジアカブトエビの背甲正中線長の平均値の方が、アメリカカブトエビの背甲正中線長の平均値より長いことが確認された。これは、アジアカブトエビの方がアメリカカブトエビに比べて成長が早いことを示唆している。

「田んぼの生きもの調査グループ」のおもな活動

活動日	内 容	場 所	参加者
5 15	調査の準備：調査で使用する瓶の準備を行った	琵琶湖博物館	1 名
5 22	守山市の循環灌漑実施地域で分布調査を行った	守山市	1 名
5 23	栗東市荒張・御園、湖南市西寺・平松・柑子袋、甲賀市甲賀町神・甲賀町大久保で分布調査を行った	栗東市、湖南市、甲賀市	2 名
5 26	大津市石山寺三・四丁目、赤尾町でカブトエビ類の調査を行った	大津市	1 名
5 28	大津市大萱三丁目で分布調査を行った	大津市	1 名
5 29	湖南市三雲で分布調査を行った	湖南市	1 名
5 30	大津市月輪三丁目、大江四・五丁目、石山寺三・四丁目、赤尾町でカブトエビ類の調査を行った	大津市	2 名
6 1	大津市大江四・五丁目と、湖南市柑子袋、栗東市御園の2地区で、個別に分布調査を行った	大津市、湖南市、栗東市	2 名
6 4	大津市月輪三丁目、大江四・五丁目でカブトエビ類の調査を行った	大津市	1 名
6 5	大津市大江四・五丁目で分布調査を行った	大津市	1 名
6 6	大津市石山寺三・四丁目、赤尾町でカブトエビ類の調査を行った	大津市	1 名
6 9	大津市月輪三丁目、大江四・五丁目でカブトエビ類の調査を行った	大津市	1 名
6 16	大津市月輪三丁目、大江四・五丁目でカブトエビ類の調査を行った	大津市	1 名
8 27	標本同定会：採集したサンプルの同定を行った	琵琶湖博物館	2 名
8 30	標本同定会：採集したサンプルの同定を行った	琵琶湖博物館	3 名
9 6	標本同定会：採集したサンプルの同定を行った	琵琶湖博物館	4 名
9 8	標本同定会：採集したサンプルの同定を行った	琵琶湖博物館	2 名
12 20	水田研究会：琵琶湖地域の水田生物研究会において、研究結果の口頭発表を行った	琵琶湖博物館	2 名
3 28	総会：本年度の調査結果の報告、および来年度の調査の実施予定を決定した	琵琶湖博物館	7 名

[2020 年度業績]

2020 年 12 月 20 日 第 11 回琵琶湖地域の水田生物研究会 口頭発表

「大津市南部の水田における 2 種のカブトエビの共存と競争」

○タンポポ調査はしかけ

代表者：不在 担当学芸員：芦谷美奈子 会員数：8 名

[設立の趣旨] 「タンポポ調査・西日本2015」の実施に合わせて、2013年度に設立された。当初は、2年間の期間限定で設立されたグループであったが、タンポポについて深く探求するために、2016年度以降もグループを継続することとした。

[活動の概要] 2020年度は、「タンポポ調査・西日本2020」の本調査年として、調査を開始しサンプルを整理するなど活動が予定されていた。また、「タンポポ調査説明会」にて協力の依頼をする予定であったが、新型コロナウイルス対策のため、中止になった。

「タンポポ調査はしかけ」のおもな活動

活動日	内 容	場 所	参加者
4 11 土	タンポポ観察会	琵琶湖博物館および烏丸半島	中止

〇ちっちゃなこどもの自然あそび「ちこあそ」

担当学芸員：大久保実香・中村久美子（休暇中） 会員数：4名

〔設立の趣旨〕 幼児期の子どもと保護者が琵琶湖博物館生活実験工房周辺の田んぼ、畑、森などをはじめとする自然環境内で、五感を使って自然に触れ、その楽しさ、面白さを感じ、原体験となるような感動を伝えることを目指す。

〔活動の概要〕 2012年環境学習センターの「環境ほっとカフェ」イベントとして始まり、2015年度には「親子自然遊びの広場」、そして2016年9月からはしかけ活動として立ち上げた。毎月おおよそ第3水曜日に、約10組の親子が集い、ルーペを使って様々な自然を見たり、ドングリを拾ったり、畑の作物を調理して食べたり、五感を使って親子が自然に触れて、楽しめるように実施している。おおよそ2歳～4歳の幼児と保護者が楽しんでいるが、時にはお腹が大きくなったお母さんが来られ、しばらくして産まれてすぐの赤ちゃんを連れてきてくださることもあったりと0歳児から小学生高学年までと年齢幅広く、自然の中で遊んでいる。

今年度の活動は、新型コロナウイルスの感染防止のため、活動を制限せざるを得ない状況となった。昨年度3月は博物館外で実施し、今年度に入り4月5月は休みとし、2021年の3月は一般の参加は休みとした。コロナ禍のため参加者の減少もあった。そのような状況の中、子育てサロン等に出かけられない親子が参加できる場所として、大きな期待を受けていることも分かった。ちこあそは、屋外の自然の中での活動であり、少人数での活動なので、感染のリスクが低く、コロナ禍で親子での遊びが制限される状況にも答えられる場であると思われる。

一方、新しい試みも行っている。初めて8月に活動を行い、夏休み中のニーズに答えることが出来た。またメンバーのフィールドを活用して、博物館外での活動も実施している。メンバーによる野菜の栽培やオンライン会議も実施した。神戸大学との共同研究について研究内容や成果などを話し合う機会も持った。募集方法の変更を来年度から予定している。これまで少人数での活動のため、口コミのみの募集であったが、博物館イベントホームページへ掲載し、広く募集を行っていく予定である。

これまで継続して神戸大学との共同研究を実施してきた。共同研究は今年度で一旦終了するが、これからも自然に関わる際の子どもの変化を調査し、博物館における自然の関わりについて明らかにしようと考えている。

「ちこあそ」のおもな活動

活動日	タイトル	内 容	活動日	タイトル	内 容
6月2日	メンバーで野菜を植えました		6月17日	水の中に何かいるかな？	
7月15日	ハンノキの葉に虫が隠れてるよ		8月26日	夏休みちこあそを実施しました	
9月16日	虫取りしよう！		10月21日	収穫しよう！	

活動日		タイトル	内 容	活動日		タイトル	内 容
11	18	火吹き竹でフーフー		12	16	共同研究の勉強会	
1	13	冬の生き物を探そう		2	17	冬もガチャコンボンで水遊び	

○琵琶湖の小さな生き物を観察する会

会長：渡辺圭一郎 担当学芸員：大塚泰介 会員数：25名

〔設立の趣旨〕 私たちの身近に住んでいるが普段見ることの出来ない、琵琶湖などの小さな水生生物を観察・記録する。

〔活動の概要〕 琵琶湖とその周辺水域の小さな水生生物を調査して観察・記録することを目的としている。調査対象は特定の生物群に限定せず、単細胞・多細胞、動物・植物・原生生物、浮遊性・付着性を問わない。月に1回集まって、琵琶湖などの小さな生き物を採集し、琵琶湖博物館で顕微鏡観察を行う。

「琵琶湖の小さな生き物を観察する会」のおもな活動

活動日	内容	場所	参加者
6 22	採集・観察会	琵琶湖博物館	8名
7 18	採集・観察会	琵琶湖博物館	6名
8 22	採集・観察会	琵琶湖博物館	6名
9 12	観察会	琵琶湖博物館	8名
10 18	採集・観察会	琵琶湖博物館	8名
11 28	採集・観察会	琵琶湖博物館	6名
12 19	採集・観察会	琵琶湖博物館	5名

○びわたん

担当学芸員：奥野知之・由良嘉基 会員数：13名

〔設立の趣旨〕 「琵琶湖博物館わくわく探検隊」事業を博物館職員とともに運営する。博物館の設置理念である「フィールドへの誘い」をめざし、利用者の視点から「展示室のより深い理解」を参加者に届ける。

〔活動の概要〕 「琵琶湖博物館わくわく探検隊（通称：わくたん）」事業は、第2土曜日の午後に行われており、来館者に滋賀の人々の暮らしや身のまわりの自然に対する興味・関心を深めてもらうことをねらいとしている。「びわたん」のメンバーは、この事業の運営や参加者との交流などに関わっている。今年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止のためにすべてのイベントを中止とした。今後この状況が回復の方向へ進むことを期待し、来年度の計画については、今年度できなかったプログラムや新しいプログラムを中心に、後期のみとした。

「びわたん」のおもな活動「琵琶湖博物館わくわく探検隊」事業（館内）

活動日	内 容	一般参加者	びわたん
5 9	春の草花でしおりを作ろう！	中止	中止
6 13	プランクトンを見よう！	中止	中止
9 12	船 de アート！	中止	中止

活動日		内 容	一般参加者	びわたん
10	10	植物の化石を掘り出そう！	中止	中止
11	14	秋の色探しをしよう！	中止	中止
12	12	綿にふれてみよう！	中止	中止
1	19	骨にふれてみよう！	中止	中止
2	11	ドキ土器！おしゃれもようを楽しもう！	中止	中止
3	8	お魚モビールを作ろう！	中止	中止

○ほねほねくらぶ

会長：西村有巧 副会長：榎本、納屋内 広報担当：宇野 担当学芸員：松岡由子、中川信次

会員数：大人 22 名 子ども 3 名 計 25 名

〔設立の趣旨〕 現生あるいは化石の骨に関係した活動を通じて、琵琶湖博物館の研究や交流活動の支援を行い、その楽しさを広く博物館外の人々に伝えることを目的としている。

〔活動の概要〕 2002 年 7 月に発足。骨に魅せられた仲間が集まり、博物館に持ち込まれるホ乳類をはじめ鳥類や魚類など、さまざまな生き物の骨格標本を作っている。毎月 1～2 回の例会が活動の中心である。2020 年度は、4 月と 5 月の例会が感染症対策のため中止となり、その後は月の例会を 3 日間に変更し 1 日の活動時間を 3 時間程度とした。今年度は交流活動を行うことが難しく、標本制作を中心に活動を行った。

「ほねほねくらぶ」のおもな活動

活動日		内 容	場 所
4 月例会		中止	
5 月例会		中止	
6 月例会	13	イタチの徐肉、ネコの資料収集	琵琶湖博物館
	26	イタチの徐肉、フナの組み立て	
	27	イタチの徐肉	
7 月例会	5	ネコの皮剥ぎ、イタチの徐肉、フナの組み立て	琵琶湖博物館
	18	ネコの皮剥ぎ、アナグマの計測、ハクビシンの骨の整理	
	26	ネコの解剖、イタチの解剖	
8 月例会	9	ネコの解剖、イタチの解剖、フナの組み立て	琵琶湖博物館
	15	イタチの骨のクリーニングなど	
	29	ネコの解剖、クマの頭の解剖、クマの頭骨のクリーニング、ウサギの骨のクリーニング	
9 月例会	6	ネコの解剖、クマの頭骨のクリーニング、バイカルアザラシの足の骨のクリーニング	琵琶湖博物館
	27	クマの頭の骨のクリーニング、フナの組み立て、はしかけ登録会での活動紹介	
10 月例会	4	クマの頭の骨のクリーニング、フナの組み立て	琵琶湖博物館
	18	カルガモの解剖、タヌキの皮剥	琵琶湖博物館
	31	ネコの解剖、タヌキの徐肉、カメの組み立て、クマの頭骨のクリーニング	
11 月例会	8	ネコの解剖、タヌキの徐肉、カメの組み立て	琵琶湖博物館
	14	ネコの解剖、タヌキの徐肉	
	28	ネコの解剖、クマの頭骨のクリーニングと組み立て、タヌキの徐肉、写真撮影	

活動日	内 容	場 所
12 月例会	5 タヌキの徐肉	琵琶湖博物館
	20 ネコの解剖、タヌキの徐肉、クマの頭骨のクリーニング	
	26 ネコの解剖、タヌキの骨のクリーニング	
1 月例会	10 タヌキの皮なめし	琵琶湖博物館
	16 タヌキの皮なめし、クマの頭骨のクリーニング	
	24 ネコの解剖、タヌキの皮なめし	
2 月例会	6 クマの頭骨のクリーニング、鳥の骨のクリーニング	琵琶湖博物館
	21 カワラヒワ(鳥類)の仮剥製、ネコの解剖、鳥の骨の同定、鳥の骨のクリーニング	
	27 カルガモの解剖、ネコの解剖、鳥の骨のクリーニング	
3 月例会	7 クマの頭骨の組み立て、鳥の骨のクリーニング	琵琶湖博物館
	14 鳥の骨のクリーニング	
	27 ネコの解剖、鳥の解剖	

○緑のくすり箱

会長：吉野まゆみ 担当学芸員：大槻達郎 会員数：23名

〔設立の趣旨〕 薬用植物に興味を持ったアロマセラピスト 8 名で設立したグループである。薬用植物だけに限らず、身の回りにある植物を健康生活に生かそうと、普段の生活に使える利用法を実践しながら、研究している。

〔活動の概要〕 今年度の活動では、新型コロナウイルス感染予防の点から、調理や食事を伴う活動は一切行うことができなかった。その代わり滋賀県内での館外活動や、生活実験工房にて 3 密になりにくい活動を工夫した。4 月から 5 月にかけて、活動自粛の期間は、LINE のグループトークやメールで、メンバーがハーブやアロマ、園芸などの分野で、実施していることについて交流した。また、活動が再開されてからは、「With コロナ」を意識した、マスクの草木染めや、携帯石鹸作りなどの活動も行った。

「緑のくすり箱」のおもな活動

活動日	内 容	場 所	担当者・参加者
4～5 月	ハーブ・アロマ・園芸などの分野 LINE グループでの交流	なし	なし
6 7 (午前)	総会（年度計画について）	琵琶湖博物館 生活実験工房	参加者：8 名
6 7 (午後)	博物館周辺の植物観察会	琵琶湖博物館 周辺	参加者：9 名
6 28	水生植物園みずの森の観察会	草津市立水生植物園みずの森	参加者：9 名
9 6 (午前)	草木染め（マスクやシルク布）	琵琶湖博物館 実習室 2	担当：柳原・深田・元博 参加者：13 名
9 6 (午後)	携帯石鹸作り（MP ソープ）	琵琶湖博物館 実習室	担当：柳原・深田・元博 参加者：13 名
9 9	季節の植物でアロマウォーターを作ろう（日本ハッカ・楓）	琵琶湖博物館 生活実験工房	担当：山本綾 参加者：5 名
10 19	おごとハーブガーデン散策&ワークショップ	おごとハーブ ガーデン	担当：加藤・山本道 参加者：9 名
11 8	ビワの葉こんにやく湿布とハーブボール作り	琵琶湖博物館 生活実験工房	担当：加藤・山本道 参加者：11 名

活動日		内 容	場 所	担当者・参加者
12	2	季節の植物でアロマウォーターを作ろう（モミ・ローズマリー）	琵琶湖博物館 生活実験工房	担当：山本綾 参加者：8名
12	13	しめ縄作り	琵琶湖博物館 生活実験工房	担当：吉野ま・吉野千 参加者：11名
12	20	しめ縄作り（博物館実施・お手伝い）	琵琶湖博物館 生活実験工房	参加者：3名
12	21	キカラスウリの根っこ掘り	琵琶湖博物館・ 館外	担当：吉野千 参加者：5名
1	12	廃油石鹸作り	琵琶湖博物館 生活実験工房	担当：堀田・山本道 参加者：4名
2	12 (午前)	キカラスウリの根っこから天花粉を作ろう	琵琶湖博物館 生活実験工房	担当：吉野千 参加者：9名
2	12 (午後)	ススキで魔女のほうき作り	琵琶湖博物館 生活実験工房	担当：吉野千 参加者：9名
3	20	木のカタラリ作り	琵琶湖博物館 生活実験工房	担当：久国 参加者：9名
3	28	年度末総会	琵琶湖博物館 研究交流室	担当：吉野ま 参加者：7名

○虫架け

代表者：梶田聡子 担当学芸員：八尋克郎 会員数：14人

〔設立の趣旨〕 昆虫が好きな人が集まって、滋賀県内の昆虫の分布調査を行うことを大きな目標にしている。

また、採集方法等講座の開催、昆虫の分類等の講座の開催、昆虫標本の作り方教室の開催、昆虫についての基本知識の周知、博物館によるイベントの後援を行っていかうと考えている。

〔活動の概要〕 春以降新型コロナウイルスの影響を受けて、集合しての活動は自粛中止が多くなり、活動場所は遠方を避けた。また不特定多数の方と密にならないよう注意し、活動時はマスク着用など感染対策をして行った。

野外活動では、2019年度に追加した器具を活用しながら、高島市、大津市、琵琶湖博物館周辺の昆虫類の調査をした。夜間採集では気温の関係もあったのか飛来した昆虫は、蛾や水生昆虫が主であった。新型コロナの影響で自粛生活が続いていたので、久しぶりの野外での昆虫調査は息抜きともなった。採取した昆虫は同定をすすめた。

また昨年度に引き続き、博物館の生活実験工房行事のサポートも行った。行事参加者と土壌内の微小昆虫の採取観察を行なった。参加者は吸虫管を使つての採集が初めての方がほとんどで、歓声をあげつつ熱心に採取観察をしていた。

その他、メンバーの昆虫にまつわる活動近況や、昆虫についての基本知識などを定期的にメールを通じてメンバー内で情報共有した。

「虫架け」の主な活動

活動日		内容	場所	参加者
6	21	昼間及び夜間採集	大津市	13名
9	13	昼間及び夜間採集	大津市	10名
11	22	生活実験工房行事「秋の昆虫採集」のサポート	琵琶湖博物館	8名

○森人（もりひと）

代表者：福岡敏雄 担当学芸員：林 竜馬 会員数：14 名

〔設立の趣旨〕 2015 年度に「はしかフェ」の中で屋外展示の環境整備の一環として樹木説明版の設置、屋外展示のガイドツアー、勉強会や観察会などを実施した。引き続き屋外展示の活用を進めていくために森人（もりひと）として「はしかけ」に登録し 2016 年度から活動を開始した。

〔活動の概要〕 「太古の森、縄文・弥生の森の保全と観察をもとに森人同志および来館者との交流を図る。」を目的としほぼ月 2 回の活動を行ってきた。2020 年度は新型コロナウイルス感染症対策として来館者との交流活動はすべて中止し比較的感染者数が少なくなった時期に近場での観察会や屋外展示の森の整備を行った。新型コロナウイルス感染症対策及び悪天候のための活動中止が多く、活動は計 9 回にとどまった。

「森人」のおもな活動

活動日			内 容	場 所	参加者
4	11	土	新型コロナウイルス感染症対策のため活動を中止		－
4	25	土	新型コロナウイルス感染症対策のため活動を中止		－
5	9	土	新型コロナウイルス感染症対策のため活動を中止		－
5	23	土	新型コロナウイルス感染症対策のため活動を中止		－
6	13	日	琵琶湖博物館周辺の観察会 ⇒ 雨天のため中止		－
6	27	土	琵琶湖博物館周辺の観察会	職員駐車場	5 名
7	11	土	外部観察会 ⇒ 雨天のため中止	瀬田公園(大津市)	－
7	25	土	外部観察会 ⇒ 雨天のため中止	帰帆島(草津市)	－
8	8	土	外部観察会	瀬田公園(大津市)	6 名
8	22	土	新型コロナウイルス感染症、暑さ対策のため活動を中止		－
9	12	土	外部観察会	帰帆島(草津市)	4 名
9	27	日	琵琶湖博物館周辺の観察会	職員駐車場	2 名
10	10	土	外部観察会 ⇒ 雨天のため中止	びわこ文化公園(大津市)	－
10	18	日	外部観察会	びわこ地球市民の森(守山市)	3 名
11	14	土	A、B 展示の見学	琵琶湖博物館	4 名
11	28	土	つる植物除去と樹名板のメンテナンス	樹冠トレイル	4 名
12	12	土	つる植物除去と枯れ枝の除去、清掃	太古の森	6 名
1	9	土	新型コロナウイルス感染症対策のため活動を中止		－
1	23	土	新型コロナウイルス感染症対策のため活動を中止		－
2	13	土	新型コロナウイルス感染症対策のため活動を中止		－
2	27	土	新型コロナウイルス感染症対策のため活動を中止		－
3	13	土	新型コロナウイルス感染症対策のため活動を中止		－
3	27	土	琵琶湖博物館周辺の観察会	職員駐車場	4 名

○琵琶湖梁山泊

代表者：坂本大介 担当学芸員：中井克樹 会員数：15 名

〔設立の趣旨〕 地域の自然や文化を研究する中高生を中心として、2018 年に設立された新しいグループです。切磋琢磨する若者を博物館の学芸員や大人メンバーがサポートします。研究の相談や勉強会を通じて、興味関心が近い仲間や、認め合い競い合う仲間が見つかるようにと願いを込めて設立しました。

〔活動の概要〕 若者の研究活動を進めるため、博物館の学芸員や大人メンバーが相談対応や助言などの支援を行い、研究のレベルアップをめざします。当初は勉強会や研究発表会など、学校の枠を越えた相互交流を進めましたが、新型コロナウイルス感染予防への対応のため、今年度は、このような活動ができませんでした。

「琵琶湖梁山泊」のおもな活動

活動日	内 容	場 所	担当者・参加者
8	1	珪藻の同定と研究相談	琵琶湖博物館研究交流室 担当：坂本・大塚 参加者：5名
8	22	珪藻の同定と研究相談	琵琶湖博物館研究交流室 担当：坂本・大塚 参加者：5名
9	12	珪藻の同定と研究相談	琵琶湖博物館研究交流室 担当：坂本・大塚 参加者：5名

○サロン de 湖流

会長：岩木真穂 担当学芸員：戸田 孝 会員数：7名

[設立の趣旨] 琵琶湖や周辺地域の自然環境の中で起こっているさまざまな物理現象（湖流・河川流・地下水流などや気象現象など）について気軽に語り合いながら、フィールドでの観測・背景原理を確かめる実験・数学や統計などの勉強会・生物現象や化学現象あるいは人文社会事象との関連の考察・物理現象を理解するための自分なりの方法の探究などへ発展を目指す。

[活動の概要] コロナ禍のため会合が開けないことが多かったが、その中で初夏の時期には実際に湖上で水温観測や GPS を利用した流速測定、あるいは観測中に見出された潮目を挟む水温やプランクトン組成の差異を観測してみる活動が進んだ。11 月には延期されていた魚類自然史研究会がオンライン開催され、前年度末に予定していた観測計画の前提となる仮説に関する研究発表を実現することができた。年度末にはコロナ禍で参加人数が少ない状況が続いたが、その中で観測センサーを実際に室内で動作させて性能を検証する活動が行われた。

「サロン de 湖流」のおもな活動

活動日	内 容	場 所	参加者数
4	11		中止
5	9		中止
5	10	トローリングと同時に水温観測	安曇川沖琵琶湖上 1名
5	13	トローリングと同時に水温観測	安曇川沖琵琶湖上 1名
6	17	トローリングと同時に水温観測	安曇川沖琵琶湖上 1名
6	20	水中流速に関する議論、地形模型の検討	琵琶湖博物館実習室 1 4名(+1名)
6	21	水温観測、GPS を利用した流速測定	安曇川沖琵琶湖上 1名
7	11	地形模型作り、潮目に関する議論	琵琶湖博物館実習室 1 2名(+1名)
7	18	潮目と流れとプランクトンの関係を観測確認	安曇川沖琵琶湖上 1名
8	8		琵琶湖博物館実習室 1 中止
9	12	観測センサーに関する議論	琵琶湖博物館実習室 1 1名(+1名)
10	24	各メンバーの活動近況報告	琵琶湖博物館実習室 2 4名(+1名)
11	14	魚類自然史研究会準備 (Zoom 体験)	琵琶湖博物館実習室 2 ほか 4名(+1名)
11	29	魚類自然史研究会に参加	琵琶湖博物館実習室 2 ほか 3名(+1名)
12	12	試作した方角センサーの性能試験	琵琶湖博物館会議室 2名(+1名)
1	9	温度センサー試作の予備検討	琵琶湖博物館実習室 1 1名(+1名)
2	13	試作した温度センサーの性能試験	琵琶湖博物館実習室 1 1名(+1名)
3	13	ギャラリー展示のアイディアの議論	琵琶湖博物館実習室 1 1名(+1名)

参加者数の括弧内は学芸員および協力研究者

○水と暮らし研究会

代表者：中場弘二

担当学芸員：楊 平

会員数：6名

〔設立の主旨〕 琵琶湖は、生活用水、農業用水としての役割のみならず、さらには景観の構成要素として重要な役割を果たしている。琵琶湖の水を支えているのは直接的な降雨水に加え、集水エリアからの地表水、地下水である。特に琵琶湖周辺の山地から湖に至る間、様々なエリアにおいて、人々は湧水、山水、川水などのさまざまな地表水、地下水と密接な関係にかかわりあって暮らしてきた。そこには、そのかかわりあった風景と人とのつながり「文化」をみることができる。

古くから稲作の普及で農耕生活が定着し、また農民の居住地移動が困難であった時代に土地を守り、生き抜くために、各集落で各家庭の生活用水、そして各田畑等への農業用水など、湧水含め山水、川水など、水を如何に使うかが最大の関心事であったであろう。水は生活環境、自然環境において重要な役割を果たしてきたのだ。この水に育まれてきた暮らし「文化」の継承状況を調査し先人たちの水に対する「想い」を発信し記録とし、また、他地域との交流の一助とならんことを願い、研究会を立ち上げた。

〔活動の概要〕 湧水(沢水、山水、川水を含め)、名水と呼ばれる地域、地点を環境省HP、県下名水HP、その他各情報誌からリストを作成し独自の湧水実態調査表をもって調査し日時、天気、水質測定値、場所由来、現地写真、湧水量、湧水の活用状況の記録を収集していくことに加え、水とのかかわりあって生きていく暮らしにも焦点を当て、その暮らしの実態を現地調査し、ヒアリングを通じて現代人の暮らしの中での先人たちの想いを生かした生活の実態を記録し発信していく。

原則として月二回の定期調査を琵琶湖流域の各地で展開していく。

定期調査にあたっては、事前に調査先のリストを作成し、情報収集の効率アップに努め、調査終了後には各人の担当に基づく記録作成を速やかに実施する。

また、関連事項に関する講座、シンポジウム等あれば、積極的に参加する。

「水と暮らし研究会」のおもな活動

活動日	調査地域	参加者
4	活動中止	-
5	活動中止	-
6 11	草津・守山・野洲・竜王 神社勧請吊り調査	6名
7 20	米原・長浜・彦根 周辺湧水調査	6名
7 22	東近江地区 平和記念館、野々宮神社聞き取り調査	6名
8 26	滋賀県ため池サポートセンター訪問、守山 湧水2カ所調査	5名
9 16	東近江地区 溜池3カ所、旧軍掩体、神社3カ所調査	6名
10 9	永源寺町地区 蛭谷、君ヶ畑 木地師資料館聞き取り調査	6名
10 29	東近江市石塔町地区 溜池3カ所、琵琶湖逆水設備、他調査	6名
11 11	湖南、甲賀、愛荘 吉姫神社 南井水調査 山比古湧水再訪	5名
11 27	東近江 京の水、御澤神社を再訪調査、琵琶湖博物館打合せ	6名
12 16	近江八幡 野洲 天之御中主尊神社他2社 水と勧請吊調査	5名
1 14	近江八幡市内 湧水地2カ所、奥石神社、他勧請吊2カ所調査	5名
2 4	彦根、米原 甘呂神社、十王村、泉神社、居醒湧水調査	6名
2 10	野洲、守山 野洲川北流の勧請吊と往時の洪水被害調査	6名
3 12	野洲、守山 野洲川南流域神8カ所 往時の洪水被害調査	6名
3 25	琵琶湖博物館 打合せと湧水実態調査記録の製本作成	6名

○海浜植物守りたい

会長：百木義忠

担当学芸員：大槻達郎

会員数：5名

[設立の趣旨] 本来海岸に生育する海浜植物が何故か、淡水の琵琶湖に生育している。これらの植物は独自の進化をしており貴重であり、保護活動をすることにした。

[活動の概要] 主に新海浜(彦根市)における海浜植物の保護活動を行う。今年度の活動は、ハマエンドウ保護区内の雑草の除去と雑草の種類と特徴を学ぶ。

「海浜植物守りたい」のおもな活動

活動日	内 容	場 所	参加者
4 7	①メドハギ、コマツヨイグサ、チガヤ除草 ②ハマエンドウ、ハマヒルガオ、ハマダイコンの観察 ③タチスズシロソウの観察 (佐波江)	新海浜 佐波江浜	5 名
4 27	①チガヤ、コマツヨイグサ除草 ②ハマエンドウ、ハマゴウ、ハマヒルガオ観察	新海浜	2 名
5 12	①ハマエンドウ、ハマゴウ、ハマヒルガオ観察	新海浜	2 名
5 22	①ハマエンドウ、ハマゴウ、ハマヒルガオの観察 ②ハマヒルガオ、ハマゴウ、タチスズシロソウの観察	新海浜 佐波江浜 マイアミ浜	2 名
6 2	①コマツヨイグサ、メマツヨイグサ、チガヤ等除草 ②アメリカネナシカズラ駆除	新海浜	5 名
6 9	①保護区内の除草 ②アメリカネナシカズラの駆除 ③保護柵外通路拡張	新海浜	4 名
6 29	①アメリカネナシカズラの駆除。 ②メリケンムグラ、コマツヨイグサ、ムシトリナデシコの除草	新海浜	2 名
7 17	①アメリカネナシカズラの駆除。 ②メリケンムグラ等の除去	新海浜	6 名
8 4	①アメリカネナシカズラの駆除 ②メドハギ、メリケンムグラ、ムシトリナデシコの除去	新海浜	6 名
9 1	①アメリカネナシカズラの駆除 ②コマツヨイグサ、チガヤ、センダンの幼木の除去 ③保護区ロープ張り拡張	新海浜	6 名
10 13	①枯れた松 (2 本) の伐採 ②コマツヨイグサ、チガヤ、センダンの幼木の除去	新海浜	6 名
10 16	①チガヤの駆除。 ②アメリカネナシカズラの駆除	新海浜	6 名
11 3	①チガヤの除草 ②アメリカネナシカズラの駆除 2 か所	新海浜	5 名
12 1	①チガヤの除草 ②アメリカネナシカズラの駆除 ③保護区周囲測量 約 80m	新海浜	6 名
12 18	①滋賀県公園緑地課視察 畦波板敷設相談 ②チガヤ除草	新海浜	4 名
2 11	①チガヤ除草	新海浜	6 名
2 19	①チガヤ、コマツヨイグサ除草	新海浜	7 名
3 4	①チガヤ、コマツヨイグサ除草	新海浜	6 名
3 19	①チガヤ、コマツヨイグサ、ノカンゾウの除草 ②タチスズシロソウの観察 (佐波江)	新海浜 佐波江浜	5 名

地域交流活動への支援

地域や企業、大学などからの講義や観察会の講師依頼などを、地域連携事業として受けている。依頼者のニーズに応える形で講義・観察会等のテーマを絞り込み、当該分野の学芸員を講師にあてることで、学芸員の専門性を活かし、依頼者の今後の活動に資することを目指している。琵琶湖博物館では地域連携事業を地域の人たちとの協働として捉えている。

2020年度は、新型コロナウイルスの感染拡大防止のため地域連携事業が中止となった時期があった。博物館内での支援活動は19件・参加者910名、地域での支援活動では18件・参加者6,151名の活動実績となった。

(1) 博物館内での支援活動

活動日	参加団体(依頼者)	内容・テーマ	担当者	参加者数
9/25	龍谷大学農学部	滋賀県の農業・農政	中川信次	114
10/2	龍谷大学農学部	滋賀県の農業・農政	中川信次	114
10/16	龍谷大学農学部	滋賀県の農業・農政	中川信次	114
10/20	草津市コミュニティ事業団	学芸員による施設案内	林 竜馬	30
10/22	滋賀県立大学	実習指導	楊 平	40
10/23	龍谷大学農学部	滋賀県の農業・農政	中川信次	114
10/25	甲南大学	博物館実習	金尾滋史	7
10/27	滋賀県立大学	物質輸送に関する講義及び展示見学	亀田佳代子	60
11/8	びわ湖放送株式会社	滋賀と海のつながり調査隊	大塚泰介	30
11/11	京都芸術大学	見学のお願ひ	渡部圭一	20
11/14	近畿大学農学部	水産増殖学実習に伴う琵琶湖博物館見学	片岡佳孝	14
11/15	大阪府立豊中高等学校	実習および講師依頼	鈴木隆二	19
11/19	京都成安学園	学芸員の派遣	金尾滋史	6
12/6	京都芸術大学	見学のお願ひ	渡部圭一	20
12/11	湖南A区担当	高等学校などの県内研修	渡部圭一	10
1/9	びわこ学院大学	見学および講師派遣	金尾滋史	32
1/17	淡海環境保全財団	講師の派遣	亀田佳代子	20
2/6	成安造形大学	学芸員の派遣	金尾滋史	100
2/9	長浜バイオ大学	水族実習に伴う講師	金尾滋史	46

(2) 地域での支援活動

活動日	参加団体(依頼者)	内容・テーマ	地域	担当者	参加者数
6/6	栗東市教育委員会	環境講座	栗東市御園	柊永一宏	40
6/20	せせらぎの郷（須原魚のゆりかご水田協議会）	講師派遣依頼	須原蓮池の里	金尾滋史	50
7/23	勝部自治会	環境イベントの行使派遣依頼	守山市	金尾滋史	60
8/4	快適環境づくりをすすめる会	川の生き物観察会開催に伴う協力		金尾滋史	30
8/6	京セラ滋賀野洲工場	アドバイス	野洲市	金尾滋史	5
8/23	せせらぎの郷（須原魚のゆりかご水田協議会）	講師派遣依頼(オンライン)	野洲市	金尾滋史	500
8/29	長浜生活文化研究所	食卓から守る湖北の風景への出演	オンライン	金尾滋史	30
9/30	島学区まちづくり協議会	水生生物観察体験活動の講師	近江八幡市	金尾滋史	30

活動日	参加団体(依頼者)	内容・テーマ	地域	担当者	参加人数
9 10	大津市立青山中学校	キャリア教育に関わる事業所講話	大津市	橋本道範	60
10 2	レイモンド淡海保育園	琵琶湖の学びについての講師派遣	オンライン	鈴木隆仁	13
10 22	農政水産部耕地課	農業土木技術研修への講師派遣	滋賀県危機管理センター	中川信次	31
10 27	滋賀県土地改良事業団体連合会	生物環境アドバイザー研修にかかる講師のお願い	近江八幡市北津田町	松田征也	25
11 3	琵琶湖保全再生課	下物ビオトープ観察会への講師派遣	草津市下物町	金尾滋史	30
12 12	神奈川大学	常民文化研究講座の講師	神奈川大学	橋本道範	100
1 21	滋賀グリーン活動ネットワーク	実践講座における講演のお願い	オンライン	金尾滋史	70
2 22	おうみ未来塾	キャリア教育における講師の派遣	湖南省石部南小学校	松岡由子	50
3 3	滋賀県レイカディア大学	琵琶湖のプランクトン/水田の生物多様性	草津市笠山	大塚泰介	12
3 5	年縞博物館	サイエンスカフェの講師の派遣	福井県年縞博物館	林 竜馬	15

(3) 質問対応

博物館利用者からの質問や疑問、要望や相談は、直接受け付ける「質問コーナー」と、いつでもどこからでも受け付ける通信網（電子メール等）を利用した「Query」で対応している。

1) 質問コーナー

開館当初から“学芸員の顔が見える博物館づくり”を行っており、おとなのディスカバリー内に「質問コーナー」を設置し、博物館利用者からの質問や疑問、相談を直接受け付けている。質問コーナーに学芸職員が常駐することで、利用者からの質問に迅速に応えることができ、専門的な知識を直接伝えることで利用者が自ら調べることを応援している。また、博物館利用者との対話による情報交換ができる場となっている。担当学芸職員の予定については博物館ホームページやおとなのディスカバリー入口壁に掲示し、専門分野の担当者がある日に質問ができる仕組みとなっており、それぞれの質問は担当学芸職員がその場で対応するようにしている。また、専門的な内容で質問コーナー担当学芸員が回答できない質問等は、それぞれ専門の学芸職員に回答を依頼したり、調べて後日メールや電話で回答している。博物館への質問については、質問コーナーに来室される場合のほか、電話による質問や相談に応じている。

2020年度は新型コロナウイルス感染症拡大による影響で、博物館が6月1日まで臨時休館となり、博物館再開後も断続的におとなのディスカバリーの閉鎖が行われ、質問コーナー再開は6月21日より平日限定で実施した。しかし、滋賀県の新型コロナウイルス感染症対策警戒ステージの上昇により、7月14日から9月7日まで再び閉鎖となった。おとなのディスカバリー閉鎖期間中の質問対応については、総合受付で依頼を受け付け、担当学芸員が入口付近で対応した。

なお、新型コロナウイルス感染症の拡大状況を踏まえて質問コーナー担当者が実施していたフロアトークは、今年度は中止とした。また、感染症対策として質問コーナーカウンターに飛沫防止用のビニールシートによる衝立を設置した。このほか、当館の新型コロナウイルス感染症対策による入口でのアルコール消毒や来館予約の確認に対する人員応援のため、質問コーナー担当学芸員が博物館入口における応援および、展示交流員と協力しておとなのディスカバリー内における人数制限にも従事した。

質問コーナーおよび電話における質問受付数

期間	2020 年 4 月 1 日～2021 年 3 月 31 日（うち質問コーナー実施 177 日）	
総質問数	373 件	
質問形態	来訪による質問	347 件
	その他による質問	26 件

2) 通信網（電子メール「Query」）による対応

博物館との情報交換サービスを充実させるため、開館以来、質問、要望、相談などを受け付ける専用の電子メールアドレス（query@biwahaku.jp）を設定し、受付担当者が受信した電子メールの内容に応じて専門の学芸職員に転送し、回答するサービスを継続的に行っている。2020 年度は総数 276 件あった。

専門的な内容を含む質問	生物（魚貝類 31・その他水域 2・陸域の昆虫 8・その他陸域 15・植物 12） 地学 7 歴史・民俗 2 環境 2 その他 18	97 件
施設利用や行事の問合せ・案内資料請求		82 件
資料の提供・利用、収蔵資料に関する問合せ		24 件
広報掲載・取材依頼（リンク許可・サイト登録を含む）		26 件
館の運営への提案・意見・問合せ・その他（他機関のお知らせ等）		34 件
上記質問に対する再質問及びその他		13 件

(4) びわ博フェス 2020

「はしかけ」、「フィールドレポーター」が集まる交流会を中心として、普段の、はしかけ活動等を一般の来館者に広く周知するとともに、琵琶湖博物館の活動と一緒に参加したい人たちの増やす機会にすることを目的に実施しているが、今年度は新型コロナウイルス感染症対策のため中止した。

琵琶湖博物館環境学習センター

(1) 環境学習に関する相談対応・情報提供

自治会や子ども会などの地域団体、学校、NPO、企業、市町などから相談を受け、環境学習・活動に関する活動団体や講師の紹介、研修場所や企画内容等について情報提供を行うほか、ホームページやメールマガジンなどにより発信を行い、環境学習活動の推進に努めた。

1) 環境学習に関する相談対応等

相談件数 134 件 教材貸出件数 18 件（14 名）
（昨年度実績 相談件数 285 件 教材貸出件数 62 件）

2) 環境学習情報のホームページ「エコロシーが」の運用

教えてくれる人登録者 125 人 学習プログラム 178 本 学べる場所 45 か所

3) 環境学習情報メールマガジン「そよかぜ」の発行

発行回数 21 回 登録者数 1,047 人

4) ブース出展

無し

(2) 環境学習の交流の場づくり

1) 環境・ほっと・カフェ

- ・7月13日(月) 12:00~14:30 東近江市立蒲生北小学校4年生 社会科「水はどこから」
講師：滋賀県企業庁 馬渕浄水場ほか4名。コロナ禍において、浄水場の見学が困難となったため、リモートを使うことで学習の機会を提供することを目的にリモート学習を開催した。
参加：2クラス 67名
- ・10月2日(金) 10:20~12:00 守山吉身小学校5年生
総合的な学習「いきいき びわ湖のいいね！をみつけよう」
講師：琵琶湖みらい研究所 山根 猛
参加：2クラス 62名、環境学習指導者4名見学
- ・11月11日(水)、11月18日(水) 野洲市立篠原小学校6年生、5年生 「水の中の小さな生き物」
講師：根来 健(エコロシーが登録者)
参加：6年生24名・5年生32名、環境学習指導者1名見学

2) 環境学習活動者交流会

新型コロナウイルス感染拡大防止対策のため開催を延期

3) こどもエコクラブ事業

- ・淡海こどもエコクラブ活動交流会
新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、審査および表彰式のみ開催
登録数 37 クラブ メンバー 4,370人 サポーター 377人 (2021年3月末現在)
期日：12月13日(日)
場所：琵琶湖博物館 セミナー室
参加チーム：3チーム
内容：今年度から壁新聞を使ったプレゼンテーション形式に発表方法を変更した
 - ・壁新聞、絵日記の展示
期間：2020年12月8日(火)~2021年1月8日(金)
場所：琵琶湖博物館アトリウム
内容：こどもエコクラブに登録するクラブの活動成果ポスター展示
- *淡海こどもエコクラブ活動交流会の開催にあたっては平和堂財団の助成を受けた
- ・こどもエコクラブ全国フェスティバル2021はオンライン開催
2021年3月20日(土)から2021年4月10日(土)

4) その他

- ・6月26日、7月3日 同志社中学 リモート学習
同志社中学校(希望した生徒)を対象としたリモート学習を開催した。
6月26日 「魚と人との関わり」 7月3日 「琵琶湖とフナと「ふなずし」と」
- ・7月6日(月) 絶滅危惧種のイチモンジタナゴの生息域外保全に取り組む、オムロンエキスパートリンク株式会社から、大津市立逢坂小学校へ19尾が譲渡され、今後同校の環境学習活動に活用される。
- ・2021年1月23日(土)~2月21日(日) 琵琶湖博物館ギャラリー展示「トンボ100大作戦 ~滋賀のトンボを救え~」 ー生物多様性びわ湖ネットワークー 展示活動支援
琵琶湖博物館アトリウムにおいて、企業連携による生物保全活動の成果発表展示

情報発信活動

(1) 地域発見！参加型移動博物館

「地域発見！参加型移動博物館」事業は、2011 年度に「マザーレイク滋賀応援基金」を活用して制作した移動型の展示キットを、琵琶湖淀川流域をはじめとする各地で移動展示し、学芸員や交流員による対話を交えて琵琶湖や滋賀県に対する興味と関心を高め、琵琶湖博物館への誘客を図ることを目的としている。

今年度は新型コロナウイルスの影響もあり、当館が実施した県外での連携展示 1 件（福井県年縞博物館）のみだった。

開催日	イベント名	会 場	運営者
3 月 5 日～ 4 月 19 日	琵琶湖博物館との連携展示	福井県県立年縞博物館	年縞博物館・琵琶湖博物館

(2) インターネットを利用した館外への情報提供

当館は独自のインターネットウェブページを通じて展示案内・行事案内・交通案内などの利用情報を提供している。情報の更新頻度は週 10 回程度である。このほか、収蔵資料の情報も公開している。

2020 年度は、ウェブページの利便性向上のための更新と情報発信、および前年度より続くコロナ禍における博物館の情報発信力の強化を行った。収蔵資料データベースと図書資料データベースについても、引き続き外部クラウド型サービスを通して、それぞれデータベースの公開を行っており、新たに「田んぼの生きもの全種リスト」が加わった。

ウェブページの閲覧状況については、グーグルアナリティクスを利用したアクセス解析を行った。2020 年度においては、2020 年 2 月 28 日より 6 月 1 日までは新型コロナウイルス対応として臨時休館があり、10 月 10 日にはグランドオープンがあった他、web 予約による入館が開始（予約受付は 10 月 1 日から）された。前半 9 月まででは、5 月の連休は休館であったこともあり、アクセス数は伸びず、夏休み開始となる 7 月 23 日にピークが見られた。後半では、グランドオープンとなる 10 月 10 日、企画展示開始となる 10 月 17 日に大きなピークが見られた。アクセス解析の結果、博物館のホームページではトップページの閲覧について、予約ページ、料金ページ、展示ページとアクセスページの閲覧が多く、来館に必要な情報だけでなく、リニューアルされた展示の情報にも需要があることが示された。また、ホームページの閲覧端末としては、モバイル端末が 73%と最も多く、デスクトップパソコンによる閲覧が 23%、タブレット端末による閲覧が残り 4%となった。前年度と比べてモバイル比率が 17%上がっているが、これは予約システムの稼働により、モバイル端末からの予約が増えたためと予想される。

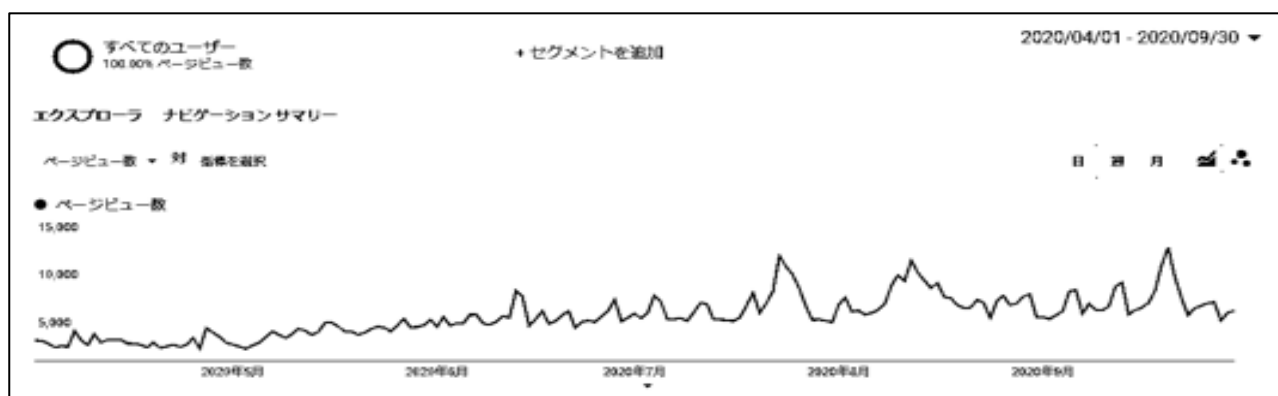


図 ページビュー数（2020 年 4 月 1 日～9 月 30 日）注：アクセス解析にはグーグルアナリティクスを用いた。

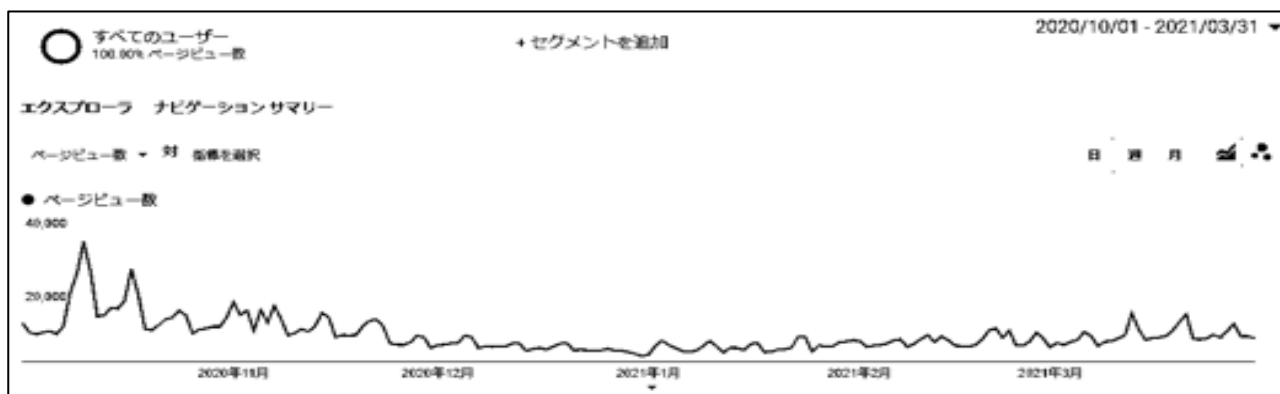


図 ページビュー数（2020年10月1日～2021年3月31日）注：アクセス解析にはグーグルアナリティクスを用いた。

(3) 印刷物

1) 情報誌「びわはく」の出版

2019年度に引き続き、2020年度には情報誌「びわはく」第4号を発行した。第2号より号ごとのテーマを前面に押し出し、研究の最前線を紹介する特集に重点を置いた紙面づくりとした。第4号のテーマは「希少生物の保全」であった。（A4、12頁、6,000部）

2) その他の印刷物

品 名	サイズ	ページ数	発行部数
企画展示「守りたい！少なくなった生き物たち」展示解説書	A4	64	1,000
企画展示「守りたい！少なくなった生き物たち」ポスター	A1		1,000
企画展示「守りたい！少なくなった生き物たち」チラシ	A4		20,000
広報用「グランドオープン」カレンダーポスター 2020	A1		2,200
広報用「琵琶湖と川の魚」カレンダーポスター 2019	A1		500
広報用「グランドオープン」ポスター	A1		2,100
リニューアルまとめパンフレット	A4	5	5,000
広報用「びわこのちからの博物館。」チラシ	A4		112,000
「びわこのちからの博物館。」手提げ袋	300mm*450mm		12,300
内覧会ハガキ	ハガキ		3,200
学校団体用説明チラシ	A4		5,000
学習ガイド	A4	4	2,000
研究調査報告 第33号 田上ペグマタイト	A4	175	280
研究調査報告 第34号 烏丸地区深層ボーリングコアの年代と堆積相	A4	109	260
びわはく 4号	A4	12	6,000

(4) コンテンツのWeb発信

2020年度は2019年度末に滋賀県の「コロナに負けないぞ！！子ども応援プロジェクト」の一環として、Web発信を行った「おうちミュージアム」の内容の拡充および整理を行った。

琵琶湖博物館におけるおうちミュージアムでは、休館中は家ででき、楽しく学べることをテーマに、過去のイベントで使用されたシートをweb用に改装したものや、展示交流員によって行われた交流員と話をうかがったシートや動画の配信を行った。また、県の警戒レベルが下がり、自宅周辺での活動が許可されるのにしたが、家の近辺で行える身近な観察手法の配信を行った。開館後も継続して更新を行っており、博物館における新たなweb発信の場として利用していく。

Ⅱ 新琵琶湖博物館の創造

新琵琶湖博物館の創造

琵琶湖博物館は、これまでの博物館像にとらわれない「湖と人間」をテーマにした新たな博物館として 1996 年に開館した。開館以来 20 年が経過し、調査・研究および資料収集が進んでいたことから、これらの成果に基づき、「湖と人間」のかかわりを過去から現在にわたってとらえ直し、「これからの共存関係」をより多くの来館者と共に、考えていく新たな展開が、琵琶湖博物館に求められていた。2012 年度から新たな博物館像の提示・展開のあり方等について検討を行い、展示・交流空間の再構築の方向性を示す「新琵琶湖博物館創造ビジョン」をまとめ、2013 年度に策定した「新琵琶湖博物館創造基本計画」に基づき、リニューアル工事を 2015 年から 2020 年まで 6 年をかけて、3 期に分けて行った。

第 1 期は、2014 年度に体感型・参加型展示や実物資料を多く取り入れた発信力の高い展示となるよう C 展示室と水族展示の実施設計を行い、2015 年度に展示および建設工事に着手し、2016 年 7 月にリニューアルオープンを行った。

第 2 期は、2016 年度に参加と発見、対話と交流を促し、次代を担う人が育つ交流拠点となるため交流空間の実施設計を行い、2017 年度に展示および建設工事に着手。2018 年 3 月にミュージアムショップ、わくわく体験スペース（企画展示室）、4 月にミュージアムレストラン、地域団体と学校向け交流・休憩ゾーン（別館）、7 月にディスカバリールーム、おとなのディスカバリー、11 月に樹冠トレイルのオープンを行った。

第 3 期は、2018 年度に A 展示室と B 展示室の実施設計を行い、2019 年度に展示工事に着手した。

2020 年度は、新型コロナウイルス感染症対策のため、当初 7 月にグランドオープンを予定していたが、博物館が 2 月 28 日から 6 月 1 日まで休館したこと、および展示施工業者の感染防止対策等から工期が延長したため、当初より 3 か月遅れの 10 月 10 日にグランドオープンを迎えることができた。

(1) 滋賀県議会への報告等

滋賀県議会に、第 3 期リニューアルおよびグランドオープンの内容の説明を行った。

- ① 環境・農水常任委員会 7 月 10 日
- ② 環境・農水常任委員会 10 月 5 日

(2) 第 3 期リニューアルにかかる業務委託の変更契約について

- ・第 3 期展示制作および設置等業務委託

当初契約日：2019 年 7 月 2 日 契約業者：(株)乃村工藝社

変更契約日：2020 年 8 月 17 日

変更内容 契約満了日 令和 2 年 8 月 31 日 →令和 2 年 11 月 30 日まで

(3) グランドオープン

- ・メディア向け内覧会 10 月 7 日 32 社 44 名参加
- ・関係者向け内覧会 10 月 8 日 1,271 名参加
- ・オープニングセレモニー 10 月 10 日 知事・議長・展示協力者によるテープカット

Ⅲ 環境の整備

1 拠点としての施設整備

(1) 利用者用施設の整備

第3期リニューアルオープンに向けて、動作が不安定だった正面玄関自動ドアを修理した。また、本館や生活実験工房の空調機を更新、漏水が激しいクーリングタワー（冷却塔）の配管を交換し、来館者が快適に観覧できる展示空間を作ることができた。

(2) 情報システムの整備

1) 端末機器の更新

2020年度は、2017年度より利用を進めている滋賀県自治体情報セキュリティクラウドの継続的な利用を進め、安全性の高い情報システム運用を行った。

2) セキュリティ等

情報システムについては、滋賀県自治体情報セキュリティクラウドの中で、常時監視を行っている。端末のセキュリティについてはウィルス等対策ソフトウェアを全機にインストールしている。このウィルス対策ソフトウェアに関して、旧バージョンのサーバが廃止となったため、旧バージョンをインストールしていたパソコンに関しては、全てバージョンアップを行った。

(3) 来館者アンケート調査

博物館利用者のニーズを的確に把握した博物館活動や運営を基盤とした利用しやすい博物館づくりを進めるため、定期的な来館者アンケート調査を年数回実施している。本年度のアンケート調査は、コロナ禍により2021年3月の一回のみの実施となった。リニューアルグランドオープン後初めての調査である。

アンケート用紙は、例年は、観覧券売り場に毎日1,000枚を準備し、発券時に手渡しで配布するとともに、アトリウム出口にも回収箱の脇に設置するという方法をとってきたが、感染拡大防止の観点から手渡しはとやめ、エントランス出口と退館ルートであるエスカレーター下の二か所に設置するのみとした。また、館員や展示交流員がアンケート調査への協力を呼び掛けた。回答数は91枚であった。

調査の内容は、来館回数、情報源、来館目的、交通手段、滞在時間、利用場所のほか、満足度および感想や改善についての意見など選択式12項目、記述式1項目の全13項目からなる。設問のうち、来館回数、きっかけ、滞在時間、満足度、記入者自身の年齢、性別、住居域は、これまで実施したアンケート調査での共通項目となっている。今回は、2021年10月にリニューアルグランドオープンした展示に対する満足度についても調査を実施した。なお、分析は2019年度3月に行ったアンケート調査（以下、「一昨年の調査」とする）の結果と比較して行う。

1) 実績

第1回 2021年3月26日（金）～28日（日）

2) 結果

来館回数：一昨年の調査では、「はじめて」が49.4%と半数を占めていたが、今回の調査では38.5%にとどまり、2回目が6.9%から20.9%と急増した。リニューアル効果との関連性が想定されるが、裏付けとなる意見はみあたらなかった。

情報源：「インターネットの情報サイト」によるものが21.1%と一昨年通り一定数を占めているが、「家族・

「親戚」によるものがそれを上回り、26.3%となった。「友人・知人」を加えると40.3%になる。口コミが依然として大きなウエイトを占めている。一方、「ポスター・チラシ」が7.2%から0.9%に急落している点が気かりである。

同行者：一昨年度と同様、「家族と」が抜きん出て多かった。なお、「配偶者・子」の組み合わせが、14.1%から28.6%と急増しているが、これはこの組み合わせの家族がアンケート調査の声掛けによく応じていただいたことが大きいと考えている。

交通手段：「自家用車」が90%超、「公共交通機関」が5%弱と、一昨年度と同様の傾向を示した。

来館目的：一昨年度と同様、「常設展示観覧」の値が最も高く、今年度は58.2%となった。リニューアルの効果との関連性が想定される。また、「近隣の観光のため」が減少する一方で、「余暇を楽しむため」、「家族や友人との団らんのため」、「学習・教養を深めるため」も増加し、琵琶湖博物館が社会的機能を果たしていることを示している。「以前に来館してよかったから」という意見が8.0%から17.6%に急増しているのは、「2回目」の来館者が増加したのと連動しているのではないだろうか。

滞在時間：「1～2時間」が28.7%から44.0%に急増し、他の滞在時間が減少している。一昨年度は「2～3時間」が42.5%であったので、滞在時間が減少したという結果となった。この理由は明らかにできなかった。

満足度：「非常に満足した」が36.8%から61.5%に急増した。その一方で、「満足した」は52.9%から35.2%に減少している。満足した利用者がアンケート調査によりご協力いただいたためとも考えられるが、それは一昨年度でも同様であったであろう。意見を見る限りほぼ満足されており、満足度が上昇したことは実証されたと考える。

不満に思うこと：特に不満がない方が67.0%で、一昨年度の70.1%と同様、高い数値となった。不満点は、「予約制」が11.0%、「道路案内」が6.9%、「交通の便」が5.5%、「レストラン」4.4%と続く。なお、「レストラン」は、5.7%から低下しており、「駐車場」も4.6%から2.2%に低下しているが、これは一昨年度にはなかった「予約制」の項目が追加されたためと見るべきであろう。なお、「予約制で安心してきました」との意見もあったことを付け加えておく。

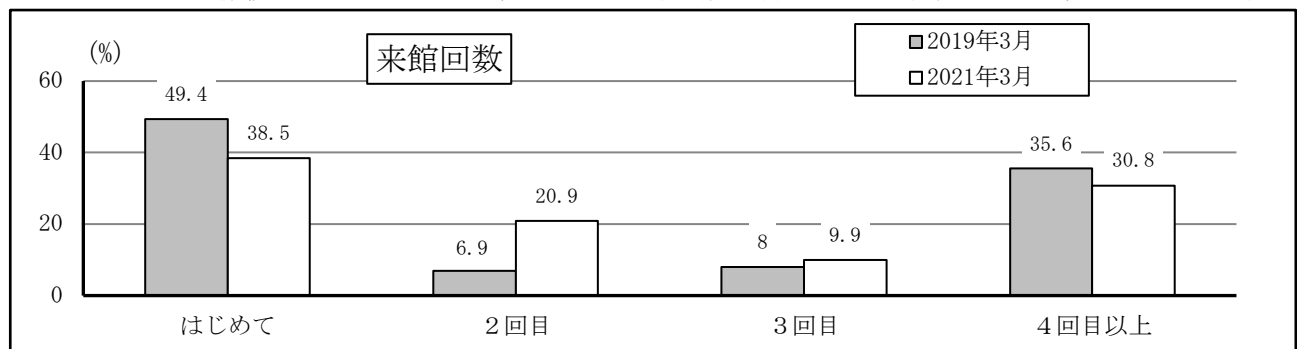
訪問予定：「道の駅」と「水生植物公園みずの森」が17.9%、11.3%と、一昨年同様高い数値を示しているが、「イオンモール草津」と「ピエリ守山」が12.3%と11.3%に急増した。観光目的ではなく、「家族と」博物館を楽しむために来館された利用者が多いことと連動しているものと考えられる。

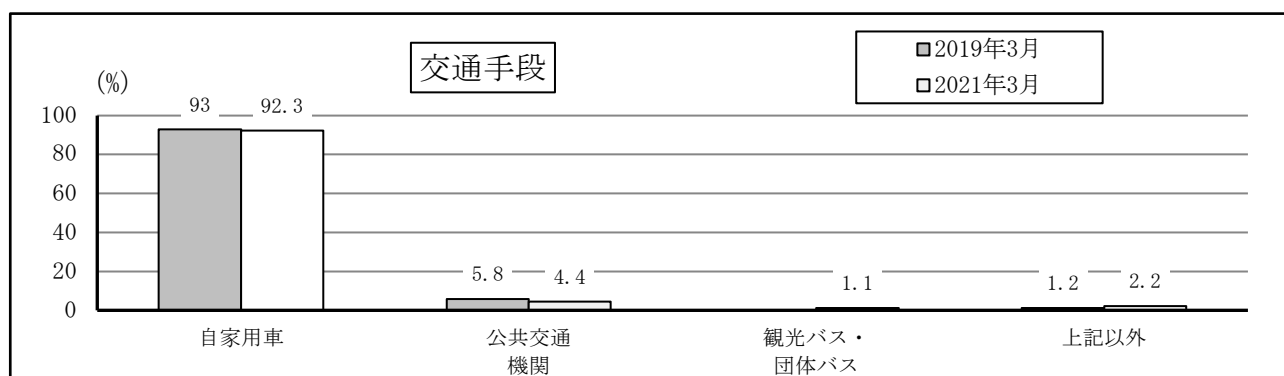
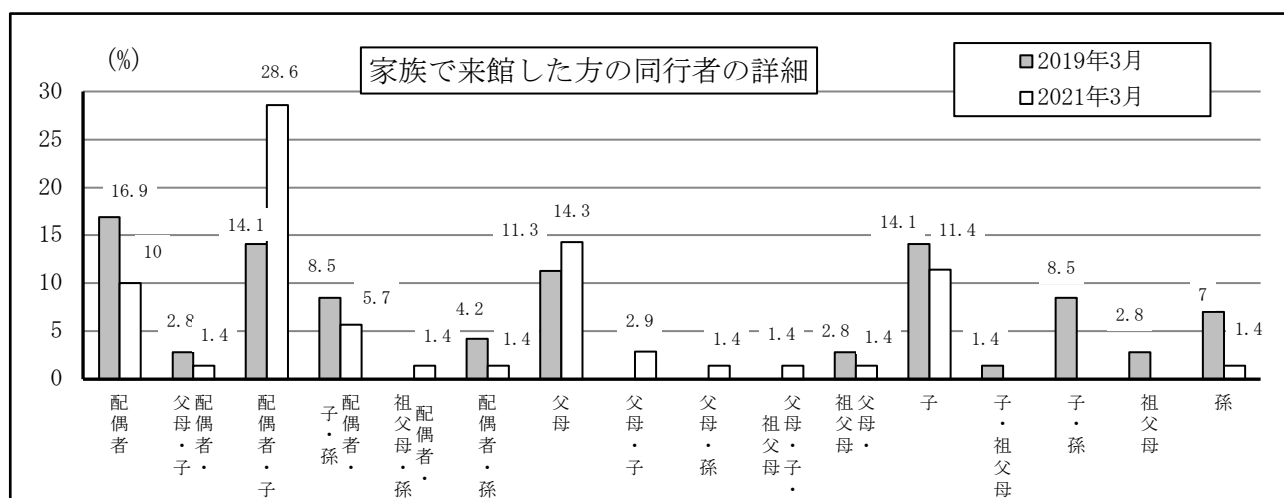
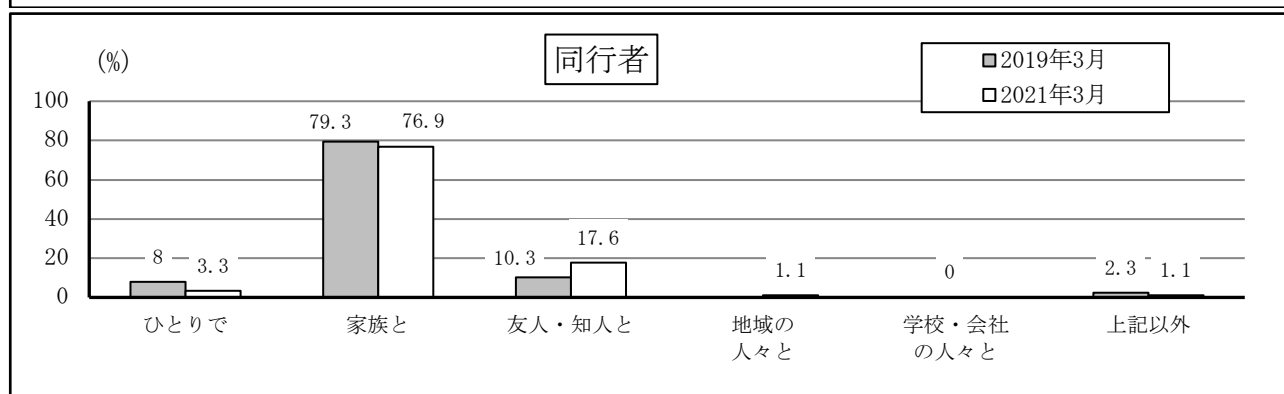
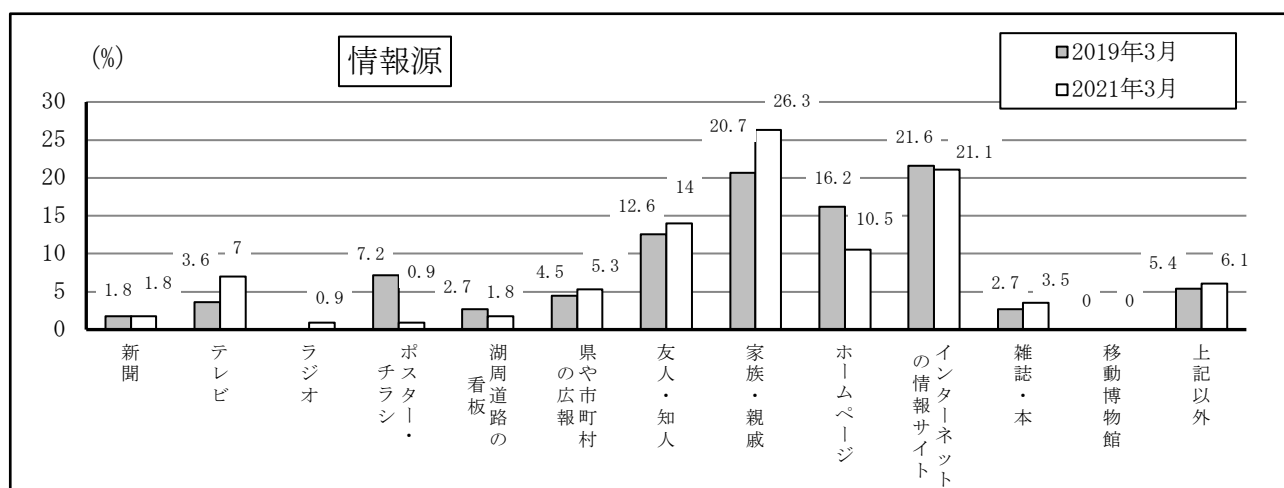
年齢：大きな変化があった。20代が5.7%から18.7%に、30代が14.9%から18.7%に、10～14才が5.7%から13.2%に、15～19才が1.1%から5.5%に増加を示した。一方で、40代、60代、70代は割合が低下している。これまで博物館が課題としていた20代が急増したことは、特筆すべきことである。

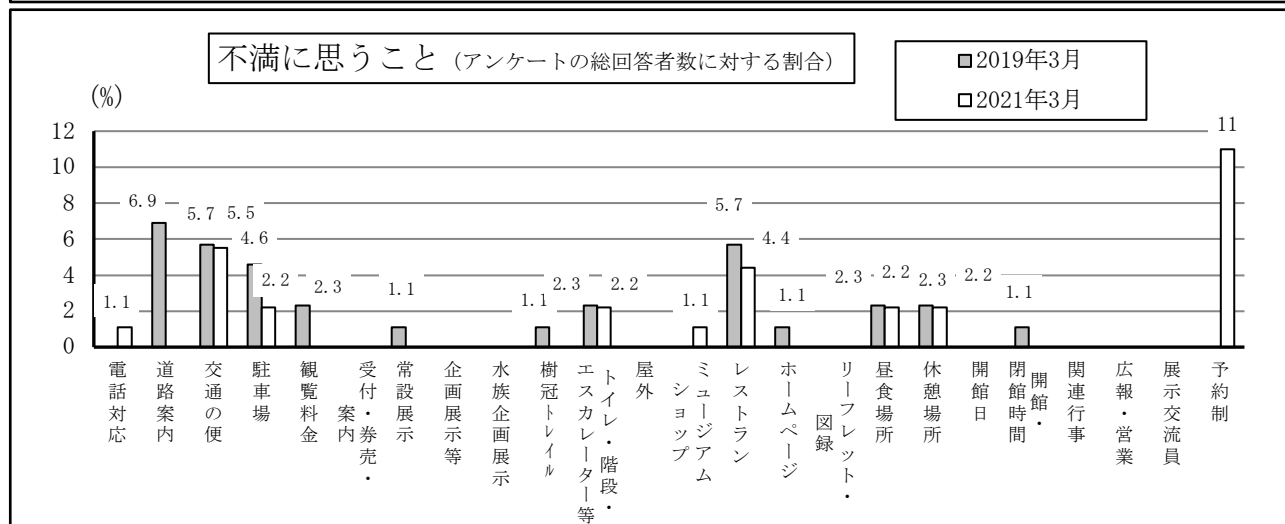
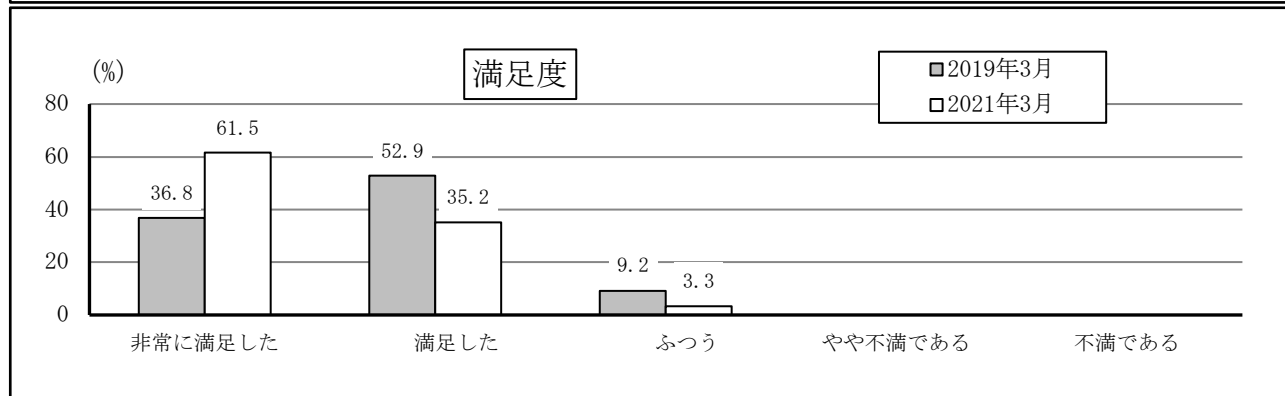
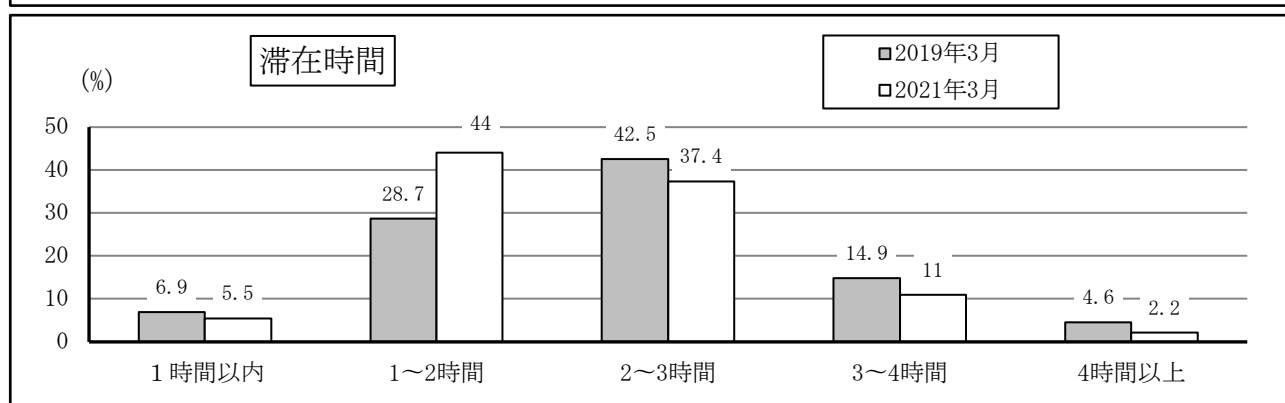
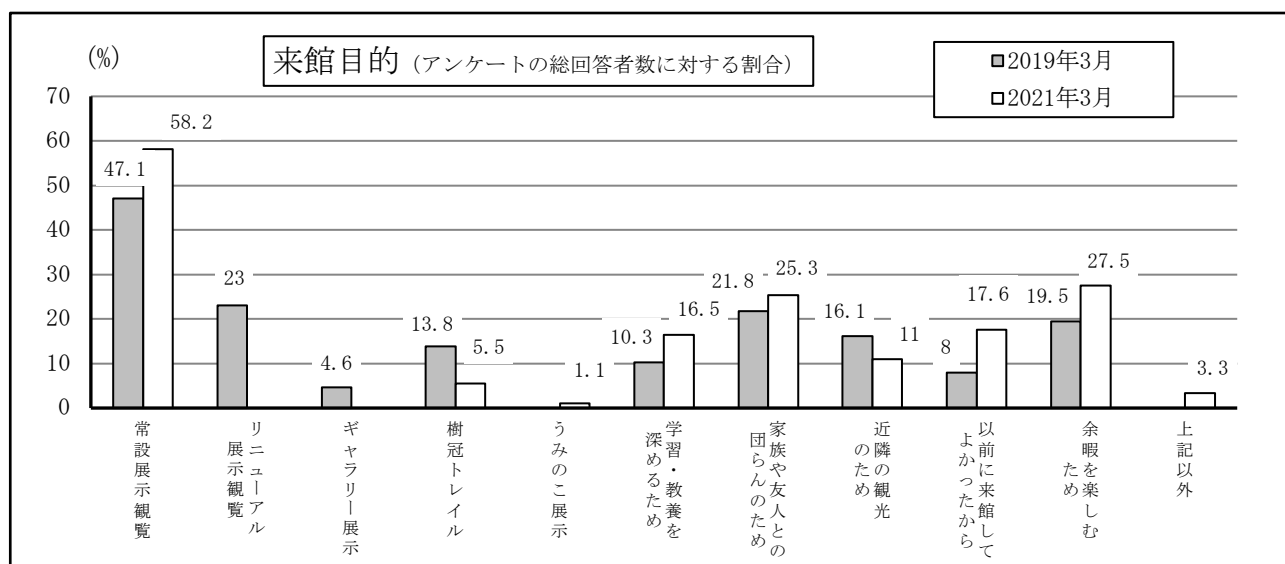
居住地：滋賀県が32.2%から19.8%にポイントが低下している。また、大阪府も低下したものの、京都府、「その他の近畿地方」が微増するという興味深い成果となった。原因は不明である。

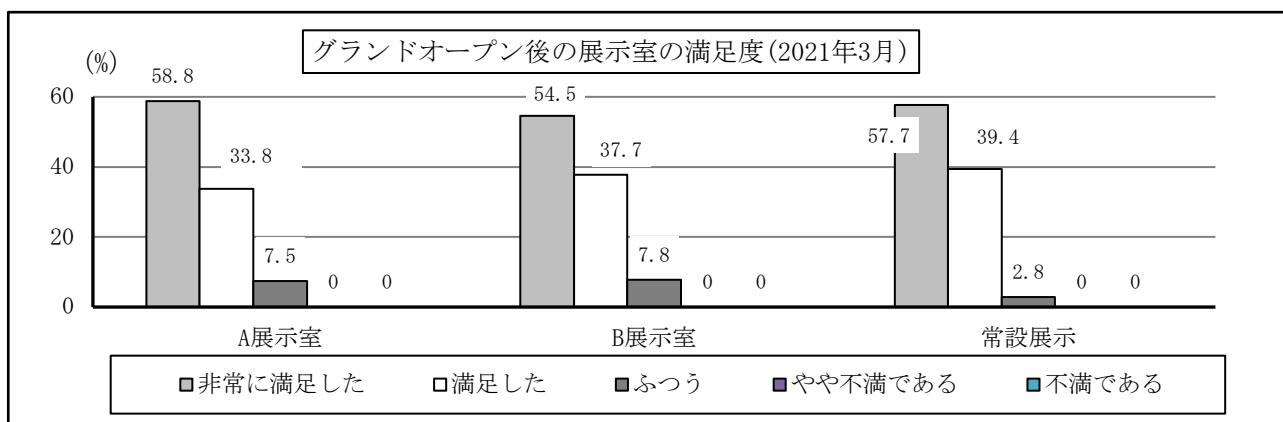
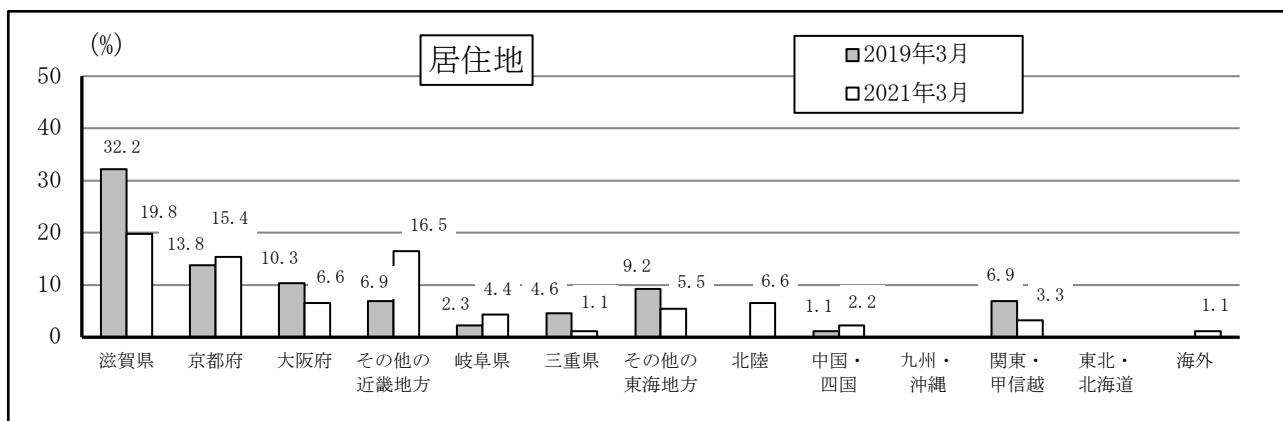
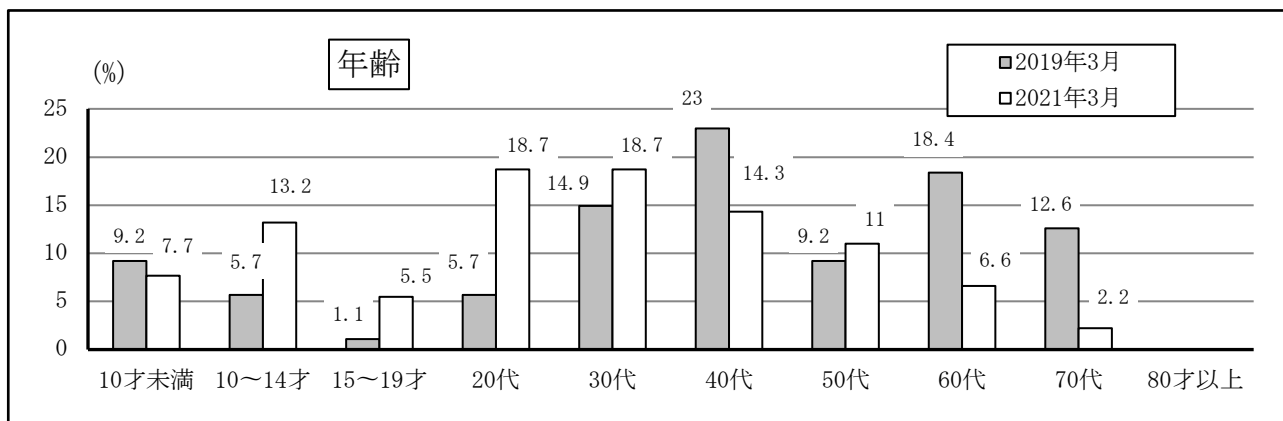
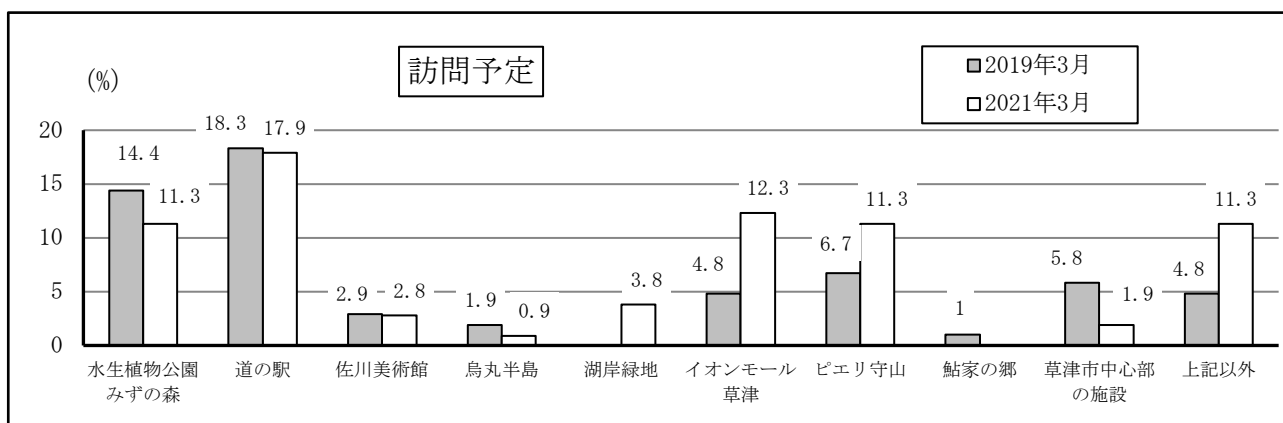
今年度は、2019年3月実施アンケートとの比較とした。

(数値は特に断りのない限り、アンケート回答者数に対する各々の回答数の割合を百分率で示したもの)



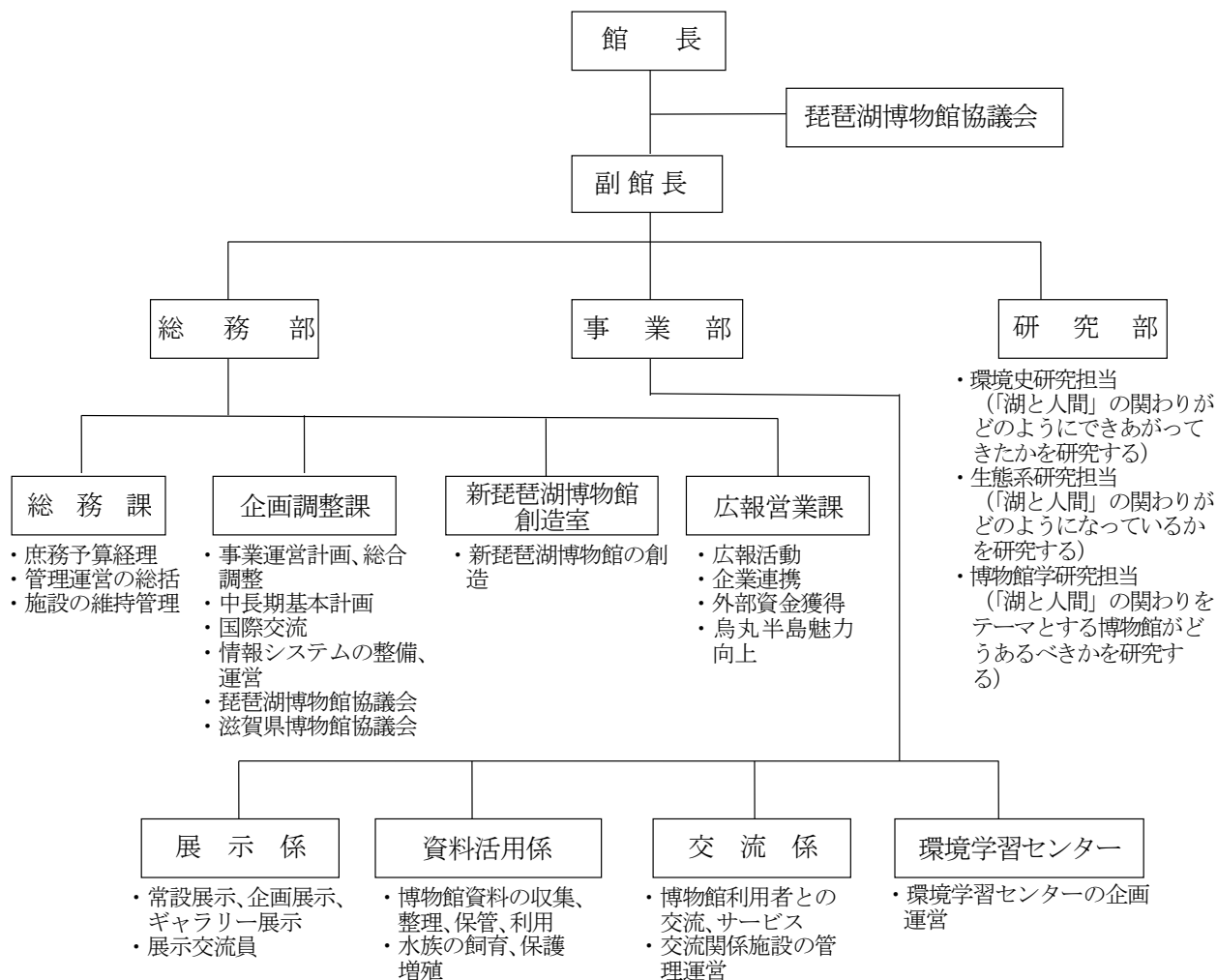






2 柔軟な運営組織

(1) 組織



職員構成（2020年10月1日現在：兼務・併任職員を含む）

区分	館長	行政職	研究職	教育職	小計	会計年度 任用職員	合計
人数（名）	1	10	29	2	42	26	68

研究職の内訳

区分	学芸	水産	農業土木	土木	林業	合計
人数（名）	25	1	1	1	1	29

(2) 職員

(2020 年 10 月 1 日現在)

○館 長	高橋 啓一
○副館長	馬淵 兼一
○上席総括学芸員	山川 千代美
○上席総括学芸員	亀田 佳代子
○参事	田中 順子

総 務 部

○部長（事務取扱） 馬淵 兼一

◇ 総務課

課 長	七里 啓史
主 幹	野崎 茂樹
副 主 幹	井関 知子
主 査	山岡 まちこ
主 事	桑田 由紀子

◇ 企画調整課

課 長（兼）	芳賀 裕樹
課長補佐（兼）	初宿 文彦
（兼）	橋本 道範
（兼）	中村 久美子
（兼）	鈴木 隆仁

◇ 新琵琶湖博物館創造室（2020 年 12 月まで）

室 長（兼）	田中 順子
（兼）	山川 千代美
（兼）	里口 保文（兼）
口 保文	
室長補佐	藤田 和也
（兼）	橋本 道範
（兼）	林 竜馬
（兼）	渡部 圭一
（兼）	大久保 実香
（兼）	妹尾 裕介
（兼）	田畑 諒一（兼）
本 多敬	
（兼）	島本 多敬

◇ 広報営業課

課 長（兼）	田中 順子
課長補佐	初宿 文彦
（兼）	中井 克樹
（兼）	福井 ゆめ

島

事 業 部

○部長（兼） 山川 千代美

◇ 展示係

係長（兼）	大塚 泰介
（兼）	芦谷 美奈子
（兼）	片岡 佳孝
（兼）	山中 大輔
（兼）	大槻 達郎
（兼）	大久保 実香
（兼）	妹尾 裕介

◇ 資料活用係

（兼）	梶永 一宏
係長（兼）	ロビン ジェームス スミス
（兼）	戸田 孝
（兼）	林 竜馬
（兼）	田畑 諒一
（兼）	島本 多敬（兼）

◇ 交流係

係長（兼）	八尋 克郎
（兼）	山本 綾美
（兼）	中川 信次
主査（併任）	奥野 知之
主査（併任）	由良 嘉基
（兼）	楊 平
（兼）	金尾 滋史
（兼）	松岡 由子

◇ 環境学習センター

所長（事務取扱）	松田 征也
主任主事	福井 ゆめ

田畑 諒

研 究 部

○部長（兼） 亀田 佳代子

◇ 環境史研究係

係長 総括学芸員	里口 保文
専門学芸員	橋本 道範
主査（兼）	山中 大輔
主任学芸員	楊 平
主任学芸員	林 竜馬
主任学芸員	渡部 圭一
学芸員	大久保実香
学芸員	妹尾 裕介
学芸員	田畑 諒一
学芸員	島本 多敬

◇ 博物館学研究係

係長 総括学芸員	大塚 泰介
専門学芸員	戸田 孝
（兼）	奥野 知之
（兼）	由良 嘉基
主任学芸員	芦谷美奈子
主任学芸員	金尾 滋史
主任学芸員	中村久美子
学芸員	松岡 由子

◇ 生態系研究係

係長 総括学芸員	榊永 一宏
総括学芸員	松田 征也
総括学芸員	八尋 克郎
総括学芸員	芳賀 裕樹
専門学芸員	中井 克樹
専門学芸員	ロビン ジェームス スミス
主任主査	片岡 佳孝
主任主査（兼）	山本 綾美
主任主査（兼）	中川 信次
主任学芸員	鈴木 隆仁
主任学芸員	大槻 達郎

会計年度任用職員

田中 里美	館長秘書	黒田 正伸	資料標本整理
菊地さとみ	電話受付・総務事務	三榊友梨香	資料標本整理
柳田けいこ	電話受付・総務事務	細川真理子	資料標本整理
中山 法子	データ整理・刊行物	塩谷えみ子	交流事業
後藤 真帆	イベント情報	堀田 博美	交流事業
江川 久雄	広報・集客	植村 隆司	学校学習
北浦 孝雄	企業連携	高木 成美	図書資料整理
高田千都子	広報発信	中西美智子	図書資料整理
中川 優	屋外展示運営	片岡のぶみ	図書資料整理
徳本 智美	展示室運営	鵜飼 菜香	環境学習
高部 千裕	展示室運営	鷺見満智子	環境学習
高石 清治	展示物維持補修	武政 廣文	環境学習
小山 勝	資料標本整理	平野 文子	研究庶務

名 誉 館 長

川那部 浩哉 篠原 徹

特別研究員

天野 一葉	池田 勝	今井 一郎	岩木 真穂	柏尾 珠紀	北村 美香	楠岡 泰
黒岩 啓子	鈴木 真裕	辻川 智代	寺本 憲之	中野 聡志	中野 正俊	根来 健
廣石 伸互	藤岡 康弘	山本 充孝	柏谷 健二	左子 芳彦	真柄 侑	
Corey Tyler NOXON		布谷 知夫	中島 経夫	前畑 政善	用田 政晴	
マーク J. グライガー						

フィールドレポーター・はしかけ登録者（掲載承諾者のみ）

◇フィールドレポーター（登録者数 175 名（うちスタッフ 8 名））

土金 慧子	楠岡 泰	松田 道一	辻 いずみ	梶島 昭紘	小野 麻代	松本 勉
矢野 典子	前田 雅子	中島 いずみ	熊谷 明生	熊谷 明美	宇野 啓明	保科 秀行
保科 雅子	保科 政秀	保科 明俊	奥村 恵子	武田 滋	中野 敬二	矢野 修
矢野 としこ	土生 陽子	山本 篤	川畑 正信	小篠 伸二	上田 修三	中場 弘二
鈴木 正範	松村 順子	吉居 晴美	藤本 昭義	平井 政一	山本 皓一郎	和田 至博
角井 俊明	加藤 美由紀	福岡 敏雄	市原 龍	山川 栄樹	山川 侑夏	山川 佳那子
遠藤 吉三	楠居 里奈	寺田 誠	前田 博美	後藤 真吾	杉田 薫	宮本 直興
川北 浩史	濱道 秀	藪内 まゆ子	佐々木由巳子	佐々木遼太郎	佐々木亜弥子	寺澤 孝之
青木 環	青木 春乃	佐々木 榮一	立川 直樹	西之園 保夫	堀田 修身	堀田 博美
畑中 清司	片山 慈敏	井野 勝行	中井 民子	谷村 啓子	大橋 義孝	三田村緒佐武
三谷 軌文	福嶋 佳子	福嶋 啓志	青山 喜博	片岡 庄一	手良村 知央	手良村 昭子
手良村 知功	飯田 俊宏	桐江 利雄	沢田 隼	岡田 宗一郎	岡田 創暉	津田 國史
村上 義信	村上 瞳	筈井 美智子	佐野 和子	佐野 隼也	佐野 裕也	八尋 由佳
岡田 徹	北側 忠次	水戸 基博	水戸 涼乃	水戸 涼介	奥村 恵津子	村野 淳
村野 やえ	久国 正吉	矢原 功	堀 英輔	阿部 一広	久保 和友	津田 久美子
北川 眞造	松本 隆	山崎 千晶	小林 隆夫	西川 俊三	吉野 和夫	山元 祐人
小山 勝	岸田 教敬	大河原 秀康	江間 瑞恵	杉江 ミサ子	井上 修一	後長 シマ子
出口 真緒	今井 洋	柿ノ木 未希	柿ノ木 理志	柿ノ木志希乃	柿ノ木 唯乃	米田 大樹
向田 直人	水相 修躬	佐藤 良太郎	尾原 直行	間所 忠昌	土田 正文	谷口 雅之
西岡 陸	厚海 秀行	三村 武士	十塚 正治	吉川 秀司	堀江 夏妃	飯田 隆行
飯田 貞美	青木 重樹	本村 香澄	本村 彦太郎	澤田 祐衣	菅原 和宏	菅原 拓斗
榊元 智子	稲葉 光太郎	稲葉 瑞穂	河原 豪	河原 絵里	高松 城栄	高松 由紀
高松 恵一	上田 洋行	上田 寿絵	上田 朋寛			

◇はしかけ（登録者数 372 名）

中野 和真	楠岡 泰	藤田 成子	山本 阿子	吉成 暁	榎本 真司	湯口 真実
山本 真里子	芦田 弘美	松田 道一	辻 いずみ	谷本 正浩	谷本 由美	北田 稔
小野 麻代	戸田 博通	戸田 歌子	中川 優	川井 久美	川井 彩音	笹生 正則
松本 勉	若代 隆行	若代 智子	石上 三雄	根来 健	松里 香織	松里 凜
矢野 典子	前田 雅子	井上 晴絵	桑垣 瑞	熊谷 明生	熊谷 明美	宇野 啓明
酒井 陽一郎	林 克子	前田 攝子	片山 康夫	山田 美智子	奥村 恵子	武田 滋
川口 涼	小松 連	松川 郁子	中野 敬二	辻川 智代	中井 菜美子	中村 一馬
矢野 修	矢野 としこ	土生 陽子	川畑 正信	小篠 伸二	上田 修三	斉藤 文子
中場 弘二	村山 和夫	樽本 祥子	樽本 直	山野井 邦彦	鈴木 正範	吉居 晴美
齊藤 眞琴	齊藤 眞由美	一瀬 諭	石田 勉	猪飼 徹	古胡 陽介	安原 輝
井上 聖花	山本 皓一郎	和田 至博	岡 隼斗	加藤 美由紀	大沢 果那	柳原 潤
清田 輝夫	福岡 敏雄	草加 伸吾	西村 有巧	木村 誠二	木村 爽	佐瀬 章男
田中 一茂	市原 龍	石井 千津	山川 栄樹	山川 侑夏	山川 佳那子	西川 美喜
中井 大介	北村 美香	遠藤 吉三	小川 千奈美	小川 哲仙	平野 文子	吉本 由花
吉本 瀧侍	吉本 凜花	田中 芳子	楠居 里奈	前田 博美	後藤 真吾	杉田 薫
吉井 隆	吉岡 伸子	富田 久仁枝	宮本 直興	伊東 文彦	伊東 彬良	池田 勝

安井 加奈惠	今井 沙知子	今井 虎ノ介	今井 花	川北 浩史	濱道 秀	石田 未基
村田 博之	藪内 まゆ子	竹元 冴矢	近持 照美	國分 政子	寺澤 孝之	神谷 悦子
佐々木由巳子	佐々木遼太郎	佐々木亜弥子	竹谷 満弘	辻 真宏	辻 実沙記	梅澤 正夫
古川 まや子	青木 環	青木 春乃	佐々木 榮一	立川 直樹	西之園 保夫	堀田 修身
堀田 博美	黒柳 信之	堀田 恵子	片山 慈敏	福永 和馬	水谷 智	山田 正樹
山田 恵美	山田 和毅	三田村緒佐武	杉山 國雄	三谷 軌文	川南 仁	福嶋 佳子
福嶋 啓志	青山 喜博	田中 治男	田中 雅也	片岡 庄一	初古 春樹	大堀 忠厚
手良村 知央	手良村 昭子	手良村 知功	肥田 嘉文	川崎 翼	古川 麻依	北野 大輔
島津 心暖	大橋 洋	寺尾 尚純	吉野 千栄子	飯田 俊宏	沢田 隼	仲谷 泰蔵
津田 美佐子	仲谷 きみ江	岡田 宗一郎	岡田 創暉	津田 國史	村上 義信	村上 瞳
北村 明子	西山 志穂	金山 正之	金山 美佐子	北野 英子	佐野 和子	佐野 隼也
佐野 裕也	鈴木 直子	八尋 由佳	岡田 徹	柳原 徳子	山本 由里子	穴蔵 雅彦
飯住 達也	川路 ゆきの	水戸 基博	水戸 涼乃	水戸 涼介	山本 道子	大岡 紀彦
深田 元子	久国 正吉	立石 文代	森田 光治	矢原 功	阿部 一広	尾崎 友輔
津田 久美子	三露 蓮太郎	北川 眞造	大喜 のぞみ	井上 陽菜	田中 喜久	松本 隆
坂本 大介	東野 誠門	山口 拓朗	小林 隆夫	神戸 道典	吉田 恵太郎	中山 法子
西川 俊三	徳永 義利	徳永 成美	徳永 優	小西 慎一	小山 勝	岸田 教敬
大河原 秀康	中尾 博行	江間 瑞恵	畠山 寿枝	吉野 まゆみ	宮崎 猛	宮崎 真
宮崎 晴香	宮崎 哲	井上 修一	百木 義忠	山口 瑞彦	中島 財	出口 真緒
後長 シマ子	今井 洋	遠藤 浩子	山本 藤樹	宇野 翔	米田 大樹	向田 直人
柿ノ木 未希	柿ノ木 理志	柿ノ木志希乃	柿ノ木 唯乃	綺田 万紀子	川村 絵美	川村 実愛
川村 郁人	川村 梓月	荒川 忠彦	尾原 直行	長 昭男	福野 憲二	三輪 祐子
関谷 和久	間所 忠昌	南 和美	谷口 雅之	高田 昌彦	西岡 陸	中西 寛子
中西 春陽	中西 優一	武田 広志	澤田 知之	西村 義隆	三村 武士	服部 圭治
佐々木 信幸	佐々木 則子	佐々木 満保	佐々木 幹朗	佐々木 結衣	十塚 正治	吉川 秀司
渡辺 圭一郎	堀江 夏妃	木下 多津江	飯田 隆行	飯田 貞美	吉田 達矢	吉田 範香
富 小由紀	中村 聡一	岩西 紗江子	斎藤 知行	納屋内 高史	大橋 正敏	澤田 祐衣
菅原 和宏	菅原 拓斗	南 悠穂	稲葉 光太郎	稲葉 瑞穂	眞部 ひろみ	高垣 重和
坪井 一代	坪井 修生	岡谷 崇宏	樋口 稔洋	樋口 幸陽	河原 豪	河原 絵里
高松 城栄	高松 由紀	高松 恵一	西尾 高尚	西尾 怜音	内貴 弓子	内貴 乃生
内貴 史乃	内貴 律	徳本 智美	井上 優菜	上田 洋行	上田 寿絵	上田 朋寛
赤野 洋史						

3 社会的支援と新しい経営

(1) 利用状況（2020 年度入館者数）

1) 総入館者数

期 間： 2020 年 4 月 1 日～2021 年 3 月 31 日

合 計： 253,750 人

開館日数： 256 日

一日平均： 991 人

月 平均： 21,146 人

入館者区分別内訳

区分	個人（人）	団体（人）	合計（人）	構成比（％）
未就学児	47,162	243	47,405	18.7
小学生・中学生	29,759	32,495	62,254	24.5
高校生・大学生	7,183	2,349	9,532	3.8
一般	130,860	3,699	134,559	53.0
合計	214,964	38,786	253,750	100.0

年 月	開 館 日 数	有料入館（人）				無料入館（人）									総 計（人）	1 日 当 り 平 均（人）
		一 般	高 大 学 生	小 中 学 生 （企画展示）	有 料 計	65 歳 以 上	障 害 者	サ ン デ ー 家 族 ふ れ あい	体 験 学 習	こ じ の 日	学 校 行 事	小 中 学 生	そ の 他	無 料 計		
2020.4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	-
5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	-
6	25	6,597	315	0	6,912	580	551	530	3	0	0	1,478	4,995	8,137	15,049	602
7	29	9,027	322	0	9,349	488	571	524	4	0	0	2,014	6,748	10,349	19,698	679
8	29	13,315	884	0	14,199	647	753	339	9	0	3	4,236	7,875	13,862	28,061	968
9	23	8,519	771	0	9,290	474	450	360	4	0	213	4,205	5,637	11,343	20,633	897
10	25	13,290	1,106	939	15,335	1,011	902	1,310	11	0	3,812	11,717	9,667	28,430	43,765	1,751
11	26	12,671	1,019	2,495	16,185	1,095	984	2,628	6	0	4,977	11,507	8,916	30,113	46,298	1,781
12	24	5,628	624	525	6,777	527	467	809	8	0	796	2,673	4,565	9,845	16,622	693
2021.1	23	5,827	503	589	6,919	423	473	588	4	0	859	2,442	5,592	10,381	17,300	752
2	24	7,063	847	744	8,654	499	436	636	7	0	699	2,544	6,319	11,140	19,794	825
3	28	9,444	1,880	172	11,496	899	562	747	12	0	88	4,443	8,283	15,034	26,530	948
計	256	91,381	8,271	5,464	105,116	6,643	6,149	8,471	68	0	11,447	47,259	68,597	148,634	253,750	991

2) 学校等入館者数

年 月		小学校		中学校		高等学校		特別支援学校		大学など		総 計	
		学校数	人数	学校数	人数	学校数	人数	学校数	人数	学校数	人数	学校数	人数
2020. 4	全 体	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	県 内	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
5	全 体	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	県 内	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
6	全 体	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	県 内	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
7	全 体	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	県 内	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
8	全 体	1	36	0	0	0	0	0	0	0	0	1	36
	県 内	1	36	0	0	0	0	0	0	0	0	1	36
9	全 体	25	1,613	8	873	1	118	1	6	3	169	38	2,779
	県 内	17	925	3	298	1	118	0	0	2	137	23	1,478
10	全 体	111	7,516	18	1,525	4	767	4	94	7	503	144	10,405
	県 内	79	5,171	4	129	2	464	3	65	5	411	93	6,240
11	全 体	92	6,969	14	1,487	5	323	3	92	2	45	116	8,916
	県 内	56	4,208	5	477	1	31	3	92	0	0	65	4,808
12	全 体	18	1,223	2	116	3	158	4	99	2	52	29	1,648
	県 内	10	686	0	0	1	38	2	66	0	0	13	790
2020. 1	全 体	11	830	0	0	0	0	2	29	3	111	16	970
	県 内	11	830	0	0	0	0	2	29	2	64	15	923
2	全 体	10	659	1	77	0	0	1	24	1	62	13	822
	県 内	9	598	1	77	0	0	1	24	1	62	12	761
3	全 体	7	614	3	241	2	86	2	27	0	0	14	968
	県 内	4	338	1	16	1	8	1	6	0	0	7	368
合計	全 体	275	19,460	46	4,319	15	1,452	17	371	18	942	371	26,544
	県 内	187	12,792	14	997	6	659	12	282	10	674	229	15,404

4) 月別・曜日別入館者数

年月	日曜・祝祭日	土曜日(祝日除く)	その他	計
2020. 4	0	0	0	0
5	0	0	0	0
6	5,252	4,616	5,181	15,049
7	7,670	5,046	6,982	19,698
8	7,737	5,756	14,568	28,061
9	7,698	4,977	7,958	20,633
10	10,808	10,849	22,108	43,765
11	16,531	8,498	21,269	46,298
12	5,595	4,046	6,981	16,622
2021. 1	8,328	3,366	5,606	17,300
2	9,223	4,701	5,870	19,794
3	8,753	4,228	13,549	26,530
計	87,595	56,083	110,072	253,750
構成割合	34. 5%	22. 1%	43. 4%	100. 0%

(2) 広報活動

2020年度は、専門業者に広報業務を委託し、3期6年にわたるリニューアル完成に伴うグランドオープンを前面に打ち出した広報活動を展開し、テレビ番組取材の誘致や、デジタル広告、SNSを通じた情報発信、有料広告の掲載(3件)、資料提供(25件)等を行った。その結果、琵琶湖博物館に関連した各種メディアでの取り扱いは、テレビ・ラジオ107件、新聞266件、雑誌等64件、インターネット847件となった。

今後は、第三次中長期基本計画に基づき、博物館の認知度を向上させるため、さらなる広報活動を展開していく必要がある。

1) 有料広告の掲載等

掲載時期	掲載誌	体裁	スペース	地域	発行部数
11月	おでかけmoa 2020年11月号	AB版	見開き2ページ	滋賀県	18万部
1月～3月	子どもとお出かけ情報サイト「いこーよ」における広告配信				
3月15日～28日	大阪市内大型ディスプレイ(大阪駅BIGデジタルサイネージ、うめだHEP前ビジョン、天王寺駅東口マルチビジョン)でのデジタル広告	大型ディスプレイ	3シーン15秒放映	大阪市内	-

2) 資料提供

	提供日	件名
1	4月24日	株式会社ニイタカ様より消毒用アルコールの寄贈を受けました
2	5月1日	グランドオープン延期のお知らせについて～でも「コロナに負けないぞ!!」～
3	5月26日	琵琶湖博物館は6月2日(火)から開館します
4	7月3日	絶滅危惧種「イチモンジタナゴ」が逢坂小学校へ譲渡されます
5	7月15日	琵琶湖博物館が動画「トンネル水槽をゆったり泳ぐ魚たち」を公開
6	7月16日	琵琶湖博物館に対する御寄附にかかる感謝状の贈呈式を開催します
7	7月27日	「世界農業遺産」認定を目指す「琵琶湖システム」のジオラマを琵琶湖博物館で紹介！子ども達の夏休みの学習テーマにも最適です！（農政課と共同）
8	8月25日	10月10日グランドオープンのお知らせ～長らくお待たせしました！琵琶湖博物館リニューアル完成～
9	9月24日	10月10日(土)から琵琶湖博物館の利用が大きく変わります
10	9月25日	環境・ほっと・カフェ「実践！リモート環境学習」参加者募集
11	10月8日	琵琶湖博物館A・B展示室が完成！10月10日(土)にグランドオープンします！
12	10月12日	琵琶湖博物館のリニューアルに対する御寄附にかかる感謝状の贈呈式を開催します
13	10月14日	第28回琵琶湖博物館企画展示「守りたい！少なくなった生き物たちー未来につなぐ地域の宝物ー」開催のお知らせ
14	10月23日	伊藤忠商事×琵琶湖博物館 企業の日「近江商人と三方よし：開催のお知らせ～今も息づく“近江商人の精神”を学べる展示が登場～
15	11月19日	「田んぼの生きもの全種データベース」を公開しました
16	11月27日	滋賀県立琵琶湖博物館協議会令和2年度第1回会議を開催します
17	12月12日	第28回琵琶湖博物館企画展示「守りたい！少なくなった生き物たちー未来につなぐ地域の宝物ー」の来場者数が3万人を突破しました！！
18	1月20日	琵琶湖博物館にて学習船「うみのこ」の常設展示がオープンします(滋賀県教育委員会と共同)
19	1月21日	ギャラリー展示「トンボ100大作戦～滋賀のトンボを救え！」を開催します
20	2月12日	琵琶湖博物館ブックレット⑫「近江路をめぐる石の旅」の出版について

	提供日	件 名
21	2 月 19 日	福井県年縞博物館との連携事業を実施します
22	3 月 1 日	「琵琶湖博物館」図柄の近畿宝くじが発売されます！（財政課と共同）
23	3 月 22 日	新琵琶湖学セミナー「外来生物の現状と守りたい生き物たち」の開催について
24	3 月 30 日	絶滅危惧種イチモンジタナゴの保全に関する協定の締結について

3) テレビ放映・ラジオ放送記録

放送日	番組名	内 容	媒 体	担当者
4 1	知ったかぶりカイツブリニュース	川原の石を調べる	びわ湖放送	斉藤 展示交流員
4 10	おうみ発 630／おうみ 845	新型コロナウイルス対策としての「おうちミュージアム」の紹介	NHK 総合(大津)	鈴木隆仁 主任学芸員
4 10	おはようニュースライブ 週間おはプラス	おうちミュージアム・ディスカバ シートの紹介	日本テレビ系 (読売テレビ)	鈴木隆仁 主任学芸員
4 25	ウィークエンド関西	新型コロナウイルス対策として「おうちミュージアム」の紹介	NHK 総合(大津)	鈴木隆仁 主任学芸員
5 4	ニュース滋賀いろ	新型コロナウイルス対応休館状況、リニューアル進捗	びわ湖放送	中井克樹 専門学芸員
5 18	さらピン！キョウト「月曜びわいち！」コーナー	新型コロナウイルス対応休館状況、おうちミュージアム	KBS 京都ラジオ	中井克樹 専門学芸員
5 18	アミンチュ淡海人 まるまる地元 ネタ「クイズ滋賀道」	カタツムリがなん十種もいる山の謎	Discover 滋賀 web	中井克樹 専門学芸員
6 2	おうみ発 630／おうみ 845	琵琶湖博物館 3 か月ぶり再開	NHK 総合(大津)	田中順子 課長
6 2	イブニングロケーション 785	(琵琶湖博物館再開)	エフエム草津	
6 6	おうみ発 630／おうみ 845	「すとろーている」琵琶湖博物館 ミュージアムショップで販売予定	NHK 総合(大津)	
6 10	おうみ発 630／おうみ 845	新型コロナ感染通知システム「もしサボ滋賀」導入	NHK 総合(大津)	田中順子 課長
6 12 13 16	かんさい熱視線「新型コロナ 第2波にどう備える？」	関西におけるコロナ対策システム 導入の現状	NHK 総合(大阪)	田中順子 課長
7 5	テレビ滋賀プラスワン「ある意味 リニューアル？な滋賀県立琵琶湖博物館」	再開された琵琶湖博物館の紹介	びわ湖放送／ インターネット TV しが	中井克樹 専門学芸員
7 6	おうみ発 630／おうみ 845	「イチモンジタナゴ」が逢坂小学校へ譲渡	NHK 総合(大津)	中井克樹 専門学芸員
7 8	放送大学	博物館情報・メディア論('18) <再放送>	BS キャンパス on (BS232ch)	高橋啓一 館長
7 9	キャッチ！：教えてびわ湖博士！ラジオで！『びわ活！』	第1回 びわ湖の誕生と生き立ち	エフエム滋賀	里口保文 総括学芸員
7 14	放送大学	博物館情報・メディア論('18) <再放送>	BS キャンパス ex (BS231ch)	高橋啓一 館長
7 16	キャッチ！：教えてびわ湖博士！ラジオで！『びわ活！』	第2回 びわ湖にしかない魚～固有種～	エフエム滋賀	田畑諒一 学芸技師
7 16 ～ 30	石田靖とぶらりて笑	国内最大級の湖をテーマにした博物館、滋賀県立琵琶湖博物館	ZTV ケーブルテレビ	中井克樹 専門学芸員

放送日		番組名	内 容	媒 体	担当者
7	23	朝生ワイド す・またん！ ZIP!「ショコ欲旺盛！キャッチ &イート ウナギ編」	琵琶湖の大ウナギ	読売テレビ	金尾滋史 主任学芸員
7	23	キャッチ！：教えてびわ湖博 士！ラジオで！『びわ活！』	第3回 びわ湖のめぐみと沖島のく らし	エフエム滋賀	渡部圭一 主任学芸員
7	25	BBC ニュース ニュース滋賀いろ	4連休で人出増 琵琶湖博物館は 4時間待ち	びわ湖放送	田中順子 課長
7	30	BBC ニュース ニュース滋賀いろ	日本農業遺産「琵琶湖システム」	びわ湖放送	大塚泰介 総括学芸員
7	30	キャッチ！：教えてびわ湖博 士！ラジオで！『びわ活！』	第4回 湖岸のヨシ原のはたらき	エフエム滋賀	芦谷美奈子 主任学芸員
8	6	キャッチ！：教えてびわ湖博 士！ラジオで！『びわ活！』	第5回 水を育む森の姿	エフエム滋賀	山本綾美 主任主査
8	12	よーいドン ロザンのうんちく	琵琶湖のヒガイ、C展示室、水族 展示室	関西テレビ	金尾滋史 主任学芸員
8	13	キャッチ！：教えてびわ湖博 士！ラジオで！『びわ活！』	第6回 びわ湖の利用の歴史	エフエム滋賀	島本多敬 学芸員
8	20	キャッチ！：教えてびわ湖博 士！ラジオで！『びわ活！』	第7回 魚が卵を産みにくる田んぼ	エフエム滋賀	金尾滋史 主任学芸員
8	27	キャッチ！：教えてびわ湖博 士！ラジオで！『びわ活！』	第8回 私たちとびわ湖～いまと未 来～	エフエム滋賀	中井克樹 専門学芸員
8	31	海と日本プロジェクト in 滋賀県 ～これからの水族館のありかた～	ウィズコロナ時代の水族館の今と これから	びわ湖放送	金尾滋史 主任学芸員
9	12	週末ライブ キモイリ！ 『滋賀・琵琶湖を堪能する大人 女子旅』	C展示室、水族展示室	KBS 京都	金尾滋史 主任学芸員
10	7	ミント！ News ミント！	特集：驚異的な繁殖力…琵琶湖の 「外来植物」	毎日放送	中井克樹 専門学芸員
10	8	報道ランナー	4mの象もいた…琵琶湖400万年 の歩み 博物館10日リニューアル	関西テレビ	高橋啓一 館長
10	8	ミント！ News ミント！	(琵琶湖博物館リニューアルオー プン)	毎日放送	福井ゆめ 主任主事
10	8	おうみ発 630/おうみ 845	琵琶湖博物館あさってリニューア ルオープン	NHK 総合(大 津)	高橋啓一 館長
10	8	BBC ニュース ニュース滋賀いろ	6年かけたリニューアル工事完了 今週末琵琶湖博物館グランドオー プン	びわ湖放送	里口保文 総括学芸員 渡部圭一 主任学芸員
10	8	やさしいニュース	6年かけたリニューアル工事完了 今週末琵琶湖博物館グランドオー プン	テレビ大阪	里口保文 総括学芸員 渡部圭一 主任学芸員
10	8	かんさい情報ネット ten.	(琵琶湖博物館リニューアルオー プン)	読売テレビ	福井ゆめ 主任主事
10	8	ちちんぷいぷい	琵琶湖博物館あさってグランドオ ープン	毎日放送	福井ゆめ 主任主事
10	9	おうみ発 630「シガトク」	琵琶湖博物館グランドオープン！ 見どころを生中継	NHK 総合(大 津)	里口保文 総括学芸員 渡部圭一 主任学芸員

放送日		番組名	内 容	媒 体	担当者
10	9	きらきん！	(琵琶湖博物館リニューアルオープン)	KBS 京都テレビ	福井ゆめ 主任主事
10	10	関西のニュース・気象情報	滋賀県立琵琶湖博物館リニューアルオープン	NHK 総合(大阪)	福井ゆめ 主任主事
10	10	かんさい情報ネット ten.	滋賀・琵琶湖博物館が6年間の改装工事で「体感型」にリニューアル400 万年前のゾウの標本など注目	読売テレビ	福井ゆめ 主任主事
10	10	ANN スーパーJ チャンネル	世界初！「ツダンスキーゾウ」標本展示 琵琶湖博物館リニューアルオープン	朝日放送	福井ゆめ 主任主事
10	10	FNN LIVE news イット！	6年掛かりの改修工事終え…琵琶湖博物館がグランドオープン	関西テレビ	福井ゆめ 主任主事
10	10	キャスト	生き物や歴史伝える、琵琶湖博物館リニューアルオープン	朝日放送	
10	15	関西ラジオワイド	グランドオープンした滋賀県立琵琶湖博物館	NHK ラジオ第一(大阪)	渡部圭一 主任学芸員
10	27	今夜はナゾトレ	「ビワコオオナマズ」映像提供	フジテレビ	中井克樹 専門学芸員
10	28	昼めし旅	琵琶湖の湖畔でご飯調査、琵琶湖に生息する魚を見に博物館へ	テレビ東京	金尾滋史 主任学芸員
10	28	news フェイス	世界初のゾウ標本！	KBS 京都テレビ	里口保文 総括学芸員
11	5	ちちんぷいぷい	先月グランド OPEN！湖岸の新スポット琵琶湖博物館	毎日放送	渡部圭一 主任学芸員
11	7	羽川英樹の土曜は旅気分「心はんなり旅気分」コーナー	大リニューアルした琵琶湖博物館	KBS 京都ラジオ	中井克樹 専門学芸員
11	15	県政プラスワン	「GRAND OPEN 琵琶湖博物館」～びわこのちからの博物館～	びわ湖放送	里口保文 総括学芸員 渡部圭一 主任学芸員
12	4	Kiss Music Presenter	川田一輝パーソナリティによる琵琶湖博物館の魅力紹介	Kiss FM KOBE	福井ゆめ 主任主事
12	23	三宅裕司のふるさと探訪	琵琶湖博物館製 魚のカレンダーポスターの番組内での紹介	BS 日テレ	福井ゆめ 主任主事
12	24	ゴゴスマ～GOGO!Smile～	ソーシャルディスタンスサイン	CBC テレビ	初宿文彦 課長補佐
1	2	しらしがテレビ	森の宝物をさがそう！	びわ湖放送	初宿文彦 課長補佐
1	13	奈良ふしぎ旅図鑑	古琵琶湖層群産トガサワラ属の球果化石の写真提供	BS-TBS	山川千代美 上席総括学芸員
1	8～11	おうみ！かわら版（滋賀）	世界にはばたけ彦根城	ZTV ケーブルテレビ	田中順子 広報営業課長
1	23	BBC ニュース ニュース滋賀いろ	ギャラリー展示「トンボ 100」開幕	びわ湖放送	初宿文彦 課長補佐
1	26	BBC ニュース ニュース滋賀いろ	「うみのこ」常設展示	びわ湖放送	初宿文彦 課長補佐
1	27	おうみ発 630/おうみ 845	「うみのこ」常設展示	NHK 総合(大津)	田中順子 課長
1	30	きしわだネイチャー探訪	久米田池を守れ オオバナミズキンバイの駆除	テレビ岸和田	中井克樹 専門学芸員

放送日		番組名	内 容	媒 体	担当者
2	3	魚が食べたいー地魚さがして 3000 港ー「滋賀県高島市海津漁 港」	アユ・ヒウオ・ゴリ・ビワマス・ ニゴロブナ・ホンモロコ・イサ ザ・寒ブリ・イワトコナマズの写 真提供	BS 朝日	田中順子 課長
2	8～ 14	羽川英樹の「ぷらっと近江ひと り旅」	企画展示の紹介	ZTV ケーブル テレビ	中井克樹 専門学芸員
2	19	Life	企画展示の紹介	エフエム滋賀	中井克樹 専門学芸員
2	24 ～ 26	おうみ！かわら版（滋賀）	企画展示の紹介	ZTV ケーブル テレビ	中井克樹 専門学芸員
2	26 ～ 28	おうみ！かわら版（滋賀）	ディスカバイイベント「ひなまつり 折り紙」の紹介	ZTV ケーブル テレビ	妹尾裕介 学芸員
3	4	キャスト	カワウ対策 30 年	朝日放送	亀田佳代子 上席総括学芸員
3	13	モモコの OH! ソレ！みーよ！ “兵動ぶらり” のコーナー	水族展示室（クイズ） および A 展 示室	関西テレビ	金尾滋史 主任学芸員
3	29	出川哲郎のクイズほお～スкуль	カタツムリのコンクリート壁での カルシウム摂取に関する質問	NHK E テレ	中井克樹 専門学芸員

4) 新聞掲載記録

月	日	記事テーマ	掲載新聞社名
4	1	感染者多い 9 都道府県 知事「訪問自粛を」 琵琶湖博物館が臨時休館を継続	朝日新聞
	3	琵琶湖生物塗ってみて ネット公開楽しく学ぶ（琵琶湖博物館「うちミュージアム」の一環 担当者のコメント）	読売新聞
	4	「日本農業遺産」に認定 琵琶湖システム ジオラマを展示 県庁の県民サロン（琵琶湖博物館が再開した後は、同館での展示を予定）	中日新聞
	5	「新型コロナ禍と闘う」 県内施設再開見通せず マスクや消毒液続く品薄状態（琵琶湖博物館では当面の間休館を継続）	中日新聞
	11	「湖岸より」 368 大津の地図屋さん 島本多敬学芸員	中日新聞
	12	「琵琶湖の魚たち」 モノトーンの美しさ シロヒレタビラ 松田征也総括学芸員	産経新聞
	14	「びわ博こだわり展示の裏話」 59 休館中は忙しの展示交流員 裏で奮闘動画も懸命に大槻達郎主任学芸員	毎日新聞
	16	うちミュージアムで学んで コロナ感染防止：琵琶湖博物館、休校の子ら支援 動画で生物紹介や工作 塗り絵も	京都新聞
	16	「びわ博セレクション ミクロの世界から」 1 マイクロバー “極小の住民” をご注文 鈴木隆仁主任学芸員	京都新聞
	17	「じょうほう箱」 「うちミュージアム」 （琵琶湖博物館が家庭で楽しめる素材をホームページで公開）	読売新聞（しが県民情報）
	18	「新型コロナ 暮らしの情報」 琵琶湖博物館＝当面休館	京都新聞
	24	「現代のことば」 現代文明の脆弱性 篠原徹名誉館長	京都新聞（夕刊）
	25	「湖岸より」 369 絶滅危惧種の発芽に意外な生物 大槻達郎主任学芸員	中日新聞
	26	「私の京都新聞評」 サイトと行き来できる工夫を 高橋啓一館長	京都新聞
	26	消毒用アルコールを琵琶湖博物館に寄贈 大阪のニイタカ	中日新聞
	28	「新型コロナ」 閉鎖の駐車場進入例も（琵琶湖博物館近くの路上に車が多数駐車する写真がツイッターに複数投稿）	朝日新聞
	30	「びわ博セレクション ミクロの世界から」 2 ホシガタケケイソウ 水中彩る “春の花” 強敵も 大塚泰介総括学芸員	京都新聞
5	2	琵琶博オープン 工事遅れで延期 展示室改装	京都新聞
	2	7 月オープンを工事中断で延期 県立琵琶湖博物館	中日新聞
	9	「湖岸より」 370 季節を感じる学びを博物館の屋外展示で 奥野知之主査	中日新聞
	10	「新型コロナ」 クリックおうち博物館 めり絵にゲーム楽しく学ぶ HP 全国 152 館傘下 県内からも 4 館 琵琶湖博物館は琵琶湖にちなんだ工作	朝日新聞
	12	県休業緩和 遠い「日常」 飲食店は客足戻らず 施設再開も一部のみ（人気スポットの琵琶湖博物館は再開のめどが立っていない 7 月に予定していたグランドオープンも延期）	京都新聞

月	日	記事テーマ	掲載新聞社名
5	12	[新型コロナ] 県施設が一部再開 図書館や博物館 大半は休館継続	毎日新聞
	14	[びわ博セクション ミクロの世界から] 3 琵琶湖の赤潮 富栄養化問題議論の原因に根来健特別研究員	京都新聞
	17	[琵琶湖の魚たち] とばけた顔で刺してくる「アカザ」 田畑諒一学芸技師	産経新聞
	19	[びわ博こだわり展示の裏話] 60 いつでもぐるぐる コアユ水槽 一年中 大ききキープ 片岡佳孝主任主査	毎日新聞
	20	「琵琶湖が映す環境異変 (2)」環境問題は人間活動の副作用：生物多様性の維持には「自然をあるべき姿にする努力」を 中井克樹専門学芸員取材記事	環境新聞
	23	[湖岸より] 371 実体験子どもに感動の連鎖を 由良嘉基主査	中日新聞
	24	[私の京都新聞評] 博物館再開 感染防止に注力 高橋啓一館長	京都新聞
	24	家庭で学ぶ琵琶湖の自然 県立博物館ネットの紹介コーナー 動画やクイズなど多彩に展開 (「おうちミュージアム」好評 担当者のコメント)	中日新聞
	27	琵琶湖博物館来月 2 日から	毎日新聞
	27	琵琶博 2 日から再開 時間短縮など感染対策	京都新聞
	28	[びわ博セクション ミクロの世界から] 4 カブトミジンコ トゲ伸ばし大きく見せる 鈴木隆仁主任学芸員	京都新聞
	30	[湖岸より] 372 鶺鴒いにみる鳥と人との関わり 亀田佳代子上席総括学芸員	中日新聞
6	1	琵琶湖博物館あすから再開	朝日新聞
	2	感染防止対策施し再開 びわ湖ホールやアイスアリーナ (2 日からは琵琶湖博物館などが再開)	京都新聞
	3	再開に子どもら笑顔 琵琶湖博物館 体験施設は停止継続 (中井克樹専門学芸員のコメント)	毎日新聞
	3	[負けない新型コロナ] 大型施設再開 にぎわう 親子連れ熱心に見学 琵琶湖博物館	京都新聞
	3	琵琶湖博物館 3 カ月ぶり再開 (担当者のコメント)	産経新聞
	4	癒しのカメ返して 大津 10 年以上飼育の飼主 いたずら? 盗難の可能性も (金尾滋史主任学芸員の話)	中日新聞
	9	[びわ博こだわり展示の裏話] 61 ソーシャルディスタンスの例え方 2 メートル=ふなずし 100 切れ 金尾滋史主任学芸員	毎日新聞
	10	コロナ追跡 ライン通知 県、きょうから 感染者接触疑いに (第 1 弾として県立琵琶湖博物館に QR コードを設置)	読売新聞
	10	[新型コロナ] 拡大防止へ「友達」登録を 県の公式 LINE きょうから通知 琵琶湖博物館利用者に感染情報	毎日新聞
	10	[新型コロナ禍と闘う] 触る、かぐ…展示に苦慮 再開の博物館 感染警戒で制限 (担当者のコメント)	中日新聞
	10	「もしサボ滋賀」きょうから運用	産経新聞
	11	[新型コロナ] 訪問施設 濃厚接触あった? 県、LINE に確認機能追加 (まずは琵琶湖博物館で利用できる)	朝日新聞
	11	[波紋新型コロナ・京滋] 「感染者と接触」LINE 通知 県、追跡システム運用開始 施設に QR コード 登録者に注意喚起 (10 日は琵琶湖博物館のみで運用開始)	京都新聞
	11	[びわ博セクション ミクロの世界から] 5 赤いミドリムシ? エネルギー熱に生存戦略 鈴木隆仁主任学芸員	京都新聞
	11	[新型コロナ禍と闘う] LINE 活用 来場者を把握 県が登録システム、陽性者接触疑いを通知 琵琶湖博物館で運用開始 (田中順子広報営業課長のコメント)	中日新聞
	13	[湖岸より] 373 淡水カイミジンコ生殖の謎 ロビン・ジェームス・スミス専門学芸員	中日新聞
	14	[琵琶湖の魚たち] 中国大陸にルーツ固有種「ワタカ」 金尾滋史主任学芸員	産経新聞
	19	[関西知探解 変わるおでかけ] 大人のワクワク満たします 仕掛けあちこち 何調べる? 琵琶湖博物館 滋賀 (高橋啓一館長と金尾滋史主任学芸員のコメント)	産経新聞
	21	水田にすむ生物観察 ニゴロフナ・カメ捕まえる 野洲 (水槽に集めた魚の生態を琵琶湖博物館の学芸員が解説)	京都新聞
	21	琵琶湖の魚 田んぼにいた! 野洲 観察会に 70 人 (とれた生き物の種類を琵琶湖博物館の学芸員が解説)	読売新聞
	23	[びわ博こだわり展示の裏話] 62 水槽の照明もリニューアル中 設置方法で演出に変化 田畑諒一学芸員	毎日新聞
	24	来月 1 日「びわ湖の日」 県産食材で水源に思いを (今年は新たに、「この夏! びわ活! ガイドブック」の電子書籍を県ホームページ上で公開 琵琶湖博物館の学芸員がラジオに出演しガイドブックを用いながら琵琶湖の生き物などを紹介する企画を実施)	中日新聞
	25	[びわ博セクション ミクロの世界から] 6 カイミジンコ 何でも食べる無敵? の体 ロビン・ジェームス・スミス専門学芸員	京都新聞
	27	[湖岸より] 374 地域博物館で科学原理を考える 戸田孝専門学芸員	中日新聞
	28	大麦ストローで 進め脱プラ 守山の画家・八尋さん開発 (琵琶湖博物館のミュージアムショップで販売を始める予定)	産経新聞

月	日	記事テーマ	掲載新聞社名
6	30	[本紙座談会 詳報 新型コロナから何を学ぶか] 嘉田由紀子参院議員(元琵琶湖博物館総括学芸員) 利他の精神 行動に移して、山中伸弥京大 IPS 細胞研究所長、谷岡郁子至学館大学長	中日新聞
7	1	蛍の光 観測数減少 都会の水は甘くない? 彦根、守山 自然残る米原では増加 (琵琶湖博物館の情報提供)	毎日新聞
	4	[水巡る]カイツブリ 「鳩の海」今は昔 たくましく駆け 亀田佳代子上席総括学芸員のコメント	京都新聞
	7	[びわ博こだわり展示の裏話] 63 リニューアル後も引き継がれた古代湖展示人の暮らしぶりも紹介 中井克樹専門学芸員	毎日新聞
	7	イチモンジタナゴ守ろう オムロン野洲事業所、小学校へ寄贈 (琵琶湖博物館から譲り受けた稚魚を繁殖、小学校へ寄贈 琵琶湖博物館のコメント)	朝日新聞
	7	[第2波への教訓湖国の新型コロナ対応] 県では3月下旬琵琶湖環境科学センターや琵琶湖博物館の研究者が県内の感染ペースを予測、シミュレーションでは予測できないクラスターが発生 想定超す感染者急増	朝日新聞
	8	アリ「が」キリギリスに? アリガタツユムシ 大津で複数発見 全国初 愛好家に注目 (琵琶湖博物館にも前後して「発見」の情報)	京都新聞
	8	37.5度超発熱で入場不可 県文化施設3カ所にサーモグラフィー 県会質疑感染者判別で疑問の声も (びわ湖ホール・琵琶湖博物館・文化産業交流会館で導入を予定)	京都新聞
	9	[びわ博セクション ミクロの世界から] 7 かび臭生物 刺激でにおいスカンクのような根来健特別研究員	京都新聞
	11	[ニュースの門@滋賀 琵琶湖 魚編] 環境保全活動 自然再生 取り組み拡大 (金尾滋史主任学芸員のコメント)	読売新聞
	11	[湖岸より] 375 ぶらぶら歩きのすすめ 高橋啓一館長	中日新聞
	12	[ニュースの門@滋賀 琵琶湖 魚編] ニゴロブナ 臭わないふなずし PR (写真資料提供『ニゴロブナ』)	読売新聞
	12	[琵琶湖の魚たち] イワナ 住む環境で変わるサイズ 片岡佳孝主任主査	産経新聞
	14	[新型コロナ・京滋 波紋] 感染者と接触可能性通知システム1ヵ月 県、QRコード1152件発行 延べ4086人利用 公共施設中心 「もしサボ滋賀」の運用が始まった琵琶湖博物館の写真	京都新聞
	16	[文化] カタツムリ 本物そっくり 500種をシリコンで再現、私設ミュージアム開く 河野 甲 (立体造形家) (琵琶湖博物館の依頼のニシキマイマイの製作がきっかけ)	日本経済新聞
	17	[ニュースの門@滋賀 琵琶湖 魚編] 外来魚 本格駆除で在来種激増 (写真提供『遊泳するブラックバス』と『ブルーギル』)	読売新聞
	17	トンネル水槽の魚 動画をネット配信 県立琵琶湖博物館 感染防止で入館制限「泳ぐ姿楽しんで」 (担当者のコメント)	産経新聞
	17	淡水クラゲ、絶やさず展示 山梨3年近く、記録更新中 (県立富士湧水の里水族館) (鈴木隆仁主任学芸員のコメント)	伊勢新聞
	21	[びわ博こだわり展示の裏話] 64 連れてこられた生き物たち 琵琶湖に“悲しい熱帯魚” 金尾滋史主任学芸員	毎日新聞
	23	[びわ博セクション ミクロの世界から] 8 ボルボックス 3世代が入れ子で同居 大塚泰介総括学芸員	京都新聞
	24	Go To 開始後初の連休 観光一定のにぎわい 証明書発行に迫られる業者 (琵琶湖博物館では入館者を1日あたり千二百人ほどに制限)	中日新聞
	25	[湖岸より] 376 絶滅危惧種と外来種の狭間で 金尾滋史主任学芸員	中日新聞
	29	大麦ストロー 脱プラへ 守山の画家・八尋さん発案 来月から販売 無農薬の県産使用/NPO 手作り (県立琵琶湖博物館や県内の喫茶店・レストランで販売)	朝日新聞
	31	鉄道遺産観光で滋賀・福井連携 自転車ルートも 初懇談で両知事合意 (琵琶湖博物館と年縞博物館が展示や講師派遣で協力関係を結ぶ)	京都新聞
8	1	魚ゆったりトンネル水槽 琵琶湖博物館が動画公開 (福井ゆめ主任主事のコメント、写真資料提供『トンネル水槽』)	毎日新聞
	1	[湖岸より] 377 塩津港遺跡の昆虫遺体 八尋克郎総括学芸員	中日新聞
	4	[びわ博こだわり展示の裏話] 65 公衆トイレでの昆虫採集 ラベルに詰まる思い出 中井克樹専門学芸員	毎日新聞
	6	[びわ博セクション ミクロの世界から] 9 ノロ 透き通る「見えない巨人」 鈴木隆仁主任学芸員	京都新聞
	7	「ゾウの里」アピールするぞう 町立博物館 化石発掘の歴史を本に (同館や琵琶湖博物館で販売中)	毎日新聞
	7	[プレミアムプラス 1] 淡水クラゲ いつでもかわいく 幼生から飼育 展示記録更新中山梨の水族館 (マミズクラゲを夏季限定で展示している琵琶湖博物館の鈴木隆仁主任学芸員のコメント)	産経新聞(夕刊)

月	日	記事テーマ	掲載新聞社名
8	9	[琵琶湖の魚たち] 稚魚は「白いダイヤ」ニホンウナギ 松田征也総括学芸員	産経新聞
	13	琵琶湖の魚、動画で (滋賀県立琵琶湖博物館)	日刊県民福井
	14	[情報 BOX] 琵琶湖の魚、動画で (滋賀県立琵琶湖博物館)	神戸新聞
	15	[湖岸より] 378 琵琶湖固有のサンネンモ 芦谷美奈子主任学芸員	中日新聞
	15	淡水クラゲ、絶やさず展示 3 年近く、記録更新中 森の中の水族館 (山梨県立富士湧水の里水族館) (鈴木隆仁主任学芸員のコメント)	中部経済新聞
	20	琵琶湖博物館動画公開 湖底の眺め おうちでも 来館 楽しく社会的距離 (金尾滋史主任学芸員のコメント)	読売新聞
	20	[びわ博セレクション ミクロの世界から] 10 マルサヤワムシ 水草の上に「石垣」を築く 渡辺圭一郎琵琶湖博物館はしかけ 琵琶湖の小さな生き物を観察する会会長	京都新聞
	20	滋賀県立琵琶湖博物館 琵琶湖の魚たち 泳ぐ動画を公開	奈良新聞
	20	琵琶湖の魚の動画 (琵琶湖博物館がユーチューブで公開)	徳島新聞
	22	[滋賀ラボ 大学×地域] 龍谷大学社会学部 脇田健一教授 琵琶湖と環境を守る仕組みづくり 市民の自治力高めたい (琵琶湖博物館で3年間学芸員)	京都新聞
	22	短命「マミズクラゲ」継続展示 3 年近くに 年中 会えます (鈴木隆仁主任学芸員のコメント)	毎日新聞 (千葉)
	23	[まると関西] 交通安全ぼくのまち 飛び出し坊や (東近江市ほか) (大久保実香学芸員のコメント)	京都新聞
	23	[関西くろすろーど] 飛び出し坊やに地域愛 滋賀生まれの交通安全看板 (大久保実香学芸員のコメント)	中国新聞
	25	[びわ博こだわり展示の裏話] 66 トンネル水槽見下ろす「のぞき窓」? 展示のつながり 示す痕跡 中井克樹専門学芸員	毎日新聞
	25	淡水魚ゆらゆら 動画で来館気分 滋賀・琵琶湖博物館初公開 (担当者のコメント)	読売新聞
	26	ビワコオオナマズ稚魚公開 琵琶博「成魚と見比べて」 (金尾滋史主任学芸員のコメント、写真資料提供:『卵から孵化した直後のビワコオオナマズ』)	読売新聞
	26	交通安全、坊やが呼び掛け 滋賀「啓発といえばこの看板」(大久保実香学芸員のコメント)	山口新聞
	28	[関西くろすろーど] 滋賀で交通安全よびかける「坊や」 よい地域に 人々の思い (大久保実香学芸員のコメント)	信濃毎日新聞
	29	[湖岸より] 379 湖岸で気になるピンクの物体 中井克樹専門学芸員	中日新聞
	30	食べて湖北の恵み知って 市民団体が催し 湖魚の弁当販売も 長浜 (対談に登壇した金尾滋史主任学芸員のコメント)	中日新聞
9	2	交通安全、坊やが呼び掛け 啓発といえばこの看板 (大久保実香学芸員のコメント)	大阪日日新聞
	3	琵琶湖システム ジオラマで再現 琵琶博 エリ漁や水田遡上	読売新聞
	3	[見・聞・楽 かんさい楽] 交通安全見守る看板「飛び出し看板」(大久保実香学芸員のコメント)	毎日新聞
	3	[びわ博セレクション ミクロの世界から] 11 アオコ 種を交代しつつ今なお発生 根来健特別研究員	京都新聞
	5	琵琶湖の魚を動画で (琵琶湖博物館がユーチューブで公開)	北日本新聞
	8	[びわ博こだわり展示の裏話] 67 博物館の「生き証人」開館当時の案内板 眺望変えた樹木の成長 中井克樹専門学芸員	毎日新聞
	8	外来ザリガニ 駆除足踏み 高島・今津 淡海湖に生息 地元では親しみ「さみしい」 専門家「生態系影響 対応を」(中井克樹専門学芸員のコメント)	読売新聞
	9	[丘峰喫茶店にようこそ] 食べることで風景を守る (長浜駅直結の複合施設「えきまちテラス長浜」のイベントで金尾滋史主任学芸員がオンラインで解説)	朝日新聞
	9	琵琶湖システム ジオラマで再現 滋賀・草津 (琵琶湖博物館にパネル・ジオラマを展示)	読売新聞 (京都)
	11	交通安全 坊やが呼び掛け 滋賀発祥「啓発といえばこの看板」(大久保実香学芸員のコメント)	毎日新聞 (愛媛・高知・徳島・香川)
	12	[湖岸より] 380 平安神宮に生き残ったイチモンジタナゴ 松田征也総括学芸員	中日新聞
	13	[琵琶湖の魚たち] 琵琶湖の固有種? ウツセミカジカ 田畑諒一学芸員	産経新聞
	16	琵琶湖の魚、動画で (琵琶湖博物館で「トンネル水槽をゆったり泳ぐ魚たち」を公開)	千葉日報
	17	[びわ博セレクション ミクロの世界から] 12 マミズクラゲ リモートでお相手探し 鈴木隆仁主任学芸員	京都新聞
	21	[名品手鑑Ⅱ 滋賀の博物館・美術館探訪] 14 県立琵琶湖文化館 休館中も1800件超を収蔵 県内博物館と連携 企画展を実施 (96年には水族部門が琵琶湖博物館に移転)	毎日新聞
	26	[湖岸より] 381 湖の周りの山奥に命をつなぐ 片岡佳孝主任主査	中日新聞
	26	完全予約制 来月グランドオープン 琵琶湖博物館	産経新聞
	29	[びわ博こだわり展示の裏話] 68 実物の殻に模型の体ハイブリットのカタツムリ 職人技で本物そっくり 中井克樹専門学芸員	毎日新聞
	29	県立琵琶湖博物館 入館は完全予約制 10 日、改装オープン (担当者のコメント)	毎日新聞

月	日	記事テーマ	掲載新聞社名
10	1	「びわ博セレクション ミクロの世界から」 13 オナガミジンコ 立体的構造観察しやすく 鈴木隆仁主任学芸員	京都新聞
	8	琵琶湖の魚、動画で（琵琶湖博物館がYouTubeで公開）	中部経済新聞（名古屋）
	8	琵琶湖博物館 10 日リニューアル 琵琶湖 400 万年の歩み 体感 3D プリンターで 古代ゾウ AR と CG リアルな丸子船（高橋啓一館長・中井克樹専門学芸員のコメント）	朝日新聞（大阪版・夕刊）
	9	「びわ博」あす新装オープン 4 メートルゾウ標本や丸子船 400 万年の歴史たどる 撮影・体感 楽しんで	朝日新聞
	9	新たな魅力探しに来て 琵琶湖博物館リニューアル 見て、聞いて、触れて あすグランドオープン（高橋啓一館長のコメント）	毎日新聞
	9	琵琶湖 400 万年の歴史 体感 琵琶博 改修終えあす公開 3D プリンターでゾウ（高橋啓一館長のコメント）	読売新聞
	9	新装県立琵琶湖博物館あすグランドオープン 移り変わる人と湖 体感（高橋啓一館長のコメント）	中日新聞
	9	琵琶博に巨大ゾウ化石 あすリニューアル開業 体験型展示 湖の歴史、学び楽しく（高橋啓一館長のコメント）	京都新聞
	9	琵琶湖博物館に新展示 半骨半身古代ゾウ AR 丸子船 あすグランドオープン（高橋啓一館長のコメント）	産経新聞
	10	太古のゾウ 標本展示 琵琶湖博物館 きょう改装オープン（高橋啓一館長のコメント）	日本経済新聞
	10	迫る 400 万年前の象 琵琶湖博物館が復元	日本経済新聞（北陸）
	10	「京滋ニュース」琵琶湖博が改装 迫力のゾウ標本 滋賀、きょう全面開業	福井新聞
	10	「湖岸より」382 はげ山と豊かな平地林 橋本道範専門学芸員	中日新聞
	11	県立琵琶湖博物館 新装オープン ゾウの標本 迫力満点（三日月大造知事らによるテープカット 高橋啓一館長のコメント）	中日新聞
	11	「琵琶湖の魚たち」自然の豊かさ示す ホトケドジョウ 金尾滋史主任学芸員	産経新聞
	13	「情報ちゅーぶ」琵琶湖博物館が新装オープン	中日新聞（岐阜・福井）
	14	「びわ博こだわり展示の裏話」69 古民家をまるごと移築「富江家」の展示 時超え感じる昭和の生活 芦谷美奈子主任学芸員	毎日新聞
	15	「びわ博セレクション ミクロの世界から」14 ケンミジンコ 脱いだらまるで別人 鈴木隆仁主任学芸員	京都新聞
	15	物流機器大手に琵琶博が感謝状 改装費一部寄付で（高橋啓一館長からダイフクに感謝状贈呈）	京都新聞
	18	生き物、未来へつなげ 琵琶博で企画展 絶滅危機の標本展示 パンダのカンカン、ランラン剥製も（松田征也総括学芸員のコメント）	毎日新聞
	18	希少な生き物守りたい 琵琶湖博物館 パンダ剥製も展示（松田征也総括学芸員のコメント）	中日新聞
	19	「琵琶湖の深呼吸」に迫る 季刊誌「湖国と文化」秋号（リニューアルオープンした琵琶湖博物館の展示内容や館所蔵の国の登録有形民俗文化財の紹介と高橋啓一館長インタビュー記事の掲載）	朝日新聞
	19	「琵琶湖の深呼吸」仕組みや現状紹介「湖国と文化」秋号（全面オープンした琵琶湖博物館の紹介や高橋啓一館長インタビュー掲載）	中日新聞
	20	「遊・You・友 美術館博物館」「守りたい！少なくなった生き物たち」（開催案内）	朝日新聞（夕刊）
	22	琵琶博、改装し全面開業 自然や歴史 体感型強化 AR 技術導入 帆を張り動く丸子船も（里口保文総括学芸員・渡部圭一主任学芸員のコメント）	京都新聞
	22	生き物、未来へつなげ 滋賀・琵琶博 絶滅危機の標本展（担当者のコメント）	毎日新聞
	24	「湖岸より」383 琵琶湖が誕生した頃の水辺植生 山川千代美上席総括学芸員	中日新聞
	26	「名品手鑑Ⅱ 滋賀の博物館・美術館探訪」16 県立琵琶湖博物館 絵画のような地層標本湖の生い立ちを紹介 里口保文総括学芸員	毎日新聞
	26	生き物、未来へつなげ 滋賀・琵琶博 絶滅危機の標本展 パンダのカンカン、ランラン剥製も（担当者のコメント）	毎日新聞（大阪）
	26	「キラリ 近江びと」脱プラ 小さな契機に 麦わらストローを商品化 八尋由佳さん(49)＝守山市（琵琶湖博物館で昆虫の標本づくりに携わる）	中日新聞
	26	新琵琶湖博物館の迫力を見よ	産経新聞（大阪）
	28	「びわ博こだわり展示の裏話」70 人気者・アメリカザリガニの悩み 忍び込んだ厄介者…？ 中井克樹専門学芸員	毎日新聞
	29	「びわ博セレクション ミクロの世界から」15 ミカヅキモ 三日月形とは限らない 大塚泰介総括学芸員	京都新聞
	29	「スイーツ & ランチ」もっちりパンケーキ レストラン「にほのうみ」（草津市）（琵琶湖博物館のレストランに新メニュー「びわ湖の龍のパンケーキ」）	読売新聞
	31	「湖岸より」384 くり返すスギの森のものがたり 林竜馬主任学芸員	中日新聞

月	日	記事テーマ	掲載新聞社名
10	31	琵琶湖の現状と将来考察 季刊誌「湖国と文化」秋号発行（全面リニューアルした琵琶湖博物館の高橋館長のインタビュー記事）	京都新聞
	31	ゾウ「プリンター」製（3DプリンターやARの技術を駆使し展示公開）	読売新聞（夕刊）
11	1	「湖国の現場 2020」 みんな楽しめる施設に 新装の琵琶湖博物館 ユニバーサルデザイン注力（林竜馬主任学芸員のコメント）	中日新聞
	4	迫力、ツダンスキーゾウ 琵琶湖博物館 改装終え開業	奈良新聞
	5	改装琵琶博が開業	日刊県民福井
	5	半身半骨のゾウ標本 滋賀（琵琶湖博物館が改装を終え全面開業）	信濃（夕刊）（長野）
	7	「さざなみ」優しい博物館 誰もが楽しめる琵琶湖博物館	中日新聞
	7	希少生物保全 広がる連携 琵琶湖博物館 企業とも歩む 寄付集めが縁 新たな活動進展期待（高橋啓一館長のコメント、写真資料提供『保護増殖センターで育てたヤマトサンショウウオ』）	京都新聞（夕刊）
	8	「琵琶湖の魚たち」養殖魚の優等生 ニジマス 片岡佳孝主任主査	産経新聞
	10	「びわ博こだわり展示の裏話」71 リニューアル後、展示・説明増やす 減少が心配なインシガメ 中井克樹専門学芸員	毎日新聞
	10	「列島 北から南から」【滋賀】改装琵琶湖博物館が開業	河北新報（夕刊）
	12	「びわ博セレクション ミクロの世界から」16 ミクラステリアス・ハーディ 「コアユ不漁の主犯」はぬれぎぬ？ 大塚泰介総括学芸員	京都新聞
	12	「目耳録」新たな風（「ユニバーサルデザイン評価会議」を設置誰もが楽しめる琵琶湖博物館、林竜馬主任学芸員のコメント）	中日新聞（夕刊）
	14	「湖岸より」385 水のつながり変えた断層運動 里口保文総括学芸員	中日新聞
	15	「今日のBBC」テレビ滋賀プラスワン グランドオープンした琵琶湖博物館を紹介	京都新聞
	15	「ご当地 info」改装琵琶博が開業	四国新聞
	19	「今日のBBC」海と日本プロジェクト in 滋賀県 琵琶湖博物館（「滋賀と海のつながり調査隊」が琵琶湖博物館で大阪湾について学ぶ）	京都新聞
	19	「BBC びわ湖」海と日本プロジェクト in 滋賀県 琵琶湖博物館（「滋賀と海のつながり調査隊」が琵琶湖博物館で大阪湾について学ぶ）	中日新聞
	21	「新型コロナ」感染予防ヘトイレ改修 県補正予算案 20 億円かけ 108 施設（琵琶湖博物館など）	朝日新聞
	26	「びわ博セレクション ミクロの世界から」17 ゾウミジンコ ゾウの鼻が2本ある？ 鈴木隆仁主任学芸員	京都新聞
	28	「湖岸より」386 近江の森をひらいた人々 渡部圭一主任学芸員	中日新聞
12	1	「びわ博こだわり展示の裏話」72 DNA からさぐる琵琶湖の魚の生い立ち 固有種 数百万年前既に 田畑諒一学芸技師	毎日新聞
	2	希少種標本 保護に思いを 琵琶博で100点 パンダなど国内外の生物	読売新聞
	2	国会議員に聞く学術会議問題（上）嘉田由紀子 参院議員（無所属）権力行使、禁欲になるべき（元琵琶湖博物館研究顧問）	京都新聞
	5	琵琶湖博物館リニューアル好評 平均滞在3時間半 1.7 倍に 運営協報告「展示分かりやすく」（協議会本年度初会合開催）	京都新聞
	5	「北から 南から」琵琶湖博物館が改装オープン	北日本新聞（富山）
	6	「琵琶湖の魚たち」土をふきだす魚!? ツチフキ 松田征也総括学芸員	産経新聞
	8	障害者の旅行支援の情報誌「みんなの滋賀たび」第6号発行へ 地元・草津に焦点 車いすで空の旅を（展示物が全面リニューアルした琵琶湖博物館など定番スポットの情報をバリアフリー情報とともに掲載）	京都新聞
	10	「びわ博セレクション ミクロの世界から」18 サヤツナギ 黄金に輝く泳ぐほうき 大塚泰介総括学芸員	京都新聞
	12	「湖岸より」387 琵琶湖に生きた縄文人の暮らし 妹尾裕介学芸員	中日新聞
	15	「びわ博こだわり展示の裏話」73 外来魚の剥製 館内でお引越し 連れてこられ「居場所」確保 中井克樹専門学芸員	毎日新聞
	17	「美術館・博物館」滋賀県立琵琶湖博物館（催しとして「守りたい！少なくなった生き物たちー地域の宝物ー★予約優先制」を紹介）	毎日新聞
	19	「文化」地球と生物 優しい神話『よんひゃくまんさいのびわこさん』 梨木香歩×挿画・小沢さかえさん（博物館に足を運び太古の生物界について教えるを請いながら描く）	毎日新聞（夕刊）
	24	「びわ博セレクション ミクロの世界から」19 コドネラ 「土器」作り自身を防御 鈴木隆仁主任学芸員	京都新聞
	24	外来水草駆除へ 鳴門市が対策協 大津町を重点区域指定 ナガエツルノゲイトウ（中井克樹専門学芸員のコメント）	徳島新聞
	25	⑩ 琵琶湖博物館 リニューアル完了	京都新聞
	26	「湖岸より」388 DNA 分析から分かった希少種の現状 田畑諒一学芸技師	中日新聞

月	日	記事テーマ	掲載新聞社名
12	29	[凡語] (絶滅危惧種の象徴的存在として、剥製標本が琵琶湖博物館の企画展会場に来年3月まで特別展示されている)	京都新聞
	29	[湖国この一年] 2020 ⑤ 琵琶博リニューアル 10月10日 (3期6年間をかけた大規模なリニューアルを終え、全面開業)	京都新聞
	29	[湖国この一年] 回顧 20201 (10月10日改修を終えた県立琵琶湖博物館が本格オープン)	中日新聞
1	9	[湖岸より] 389 ラムサール登録湿地の同級生 榊永一宏総括学芸員	中日新聞
	10	[麻生圭子の湖畔暮らし、始めました] 残したい琵琶湖の伝統漁法 えり (「えり」の漢字を知り琵琶湖博物館で納得)	朝日新聞
	14	[美術館・博物館] 滋賀県立琵琶湖博物館 (催しとして「守りたい! 少なくなった生き物たちー未来につなぐ地域の宝物ー★」の紹介)	毎日新聞
	14	[びわ博セレクション ミクロの世界から] 20 ウロコイタチムシ 全身が六角形の逆鱗 鈴木隆仁主任学芸員	京都新聞
	19	[びわ博こだわり展示の裏話] 74 新設「漁具コレクション」コーナー イラスト駆使「わざ」再現 渡部圭一主任学芸員	毎日新聞
	19	[美術館・博物館] 滋賀県立琵琶湖博物館 (催しとして「守りたい! 少なくなった生き物たちー予約制」の紹介)	朝日新聞(夕刊)
	21	[美術館・博物館] 滋賀県立琵琶湖博物館 (催しとして「守りたい! 少なくなった生き物たちー未来につなぐ地域の宝物ー★」の紹介)	毎日新聞
	21	うみのこカレー限定販売 学習船の思い出 コンビニで 26日から 琵琶湖博物館での展示記念	中日新聞
	23	湖上の味召し上がれ 学習船「うみのこ」名物カレー再現 県内セブンで販売へ「乗ってみたいという人にも」 (琵琶湖博物館で常設展示が始まることを記念してセブン-イレブン・ジャパンが販売)	毎日新聞
	23	[湖岸より] 390 3視点で見る田んぼの生物多様性 大塚泰介総括学芸員	中日新聞
	23	[情報ちゅーぶ] 思い出のカレー限定販売 (琵琶湖博物館で常設展示が始まるのを記念して限定販売)	中日新聞 (岐阜)
	24	学習船「うみのこ」カレー 湖上の味 ホットに再現 26日から 県内セブンで限定販売 (琵琶湖博物館で常設展示が始まるのを記念してセブン-イレブン・ジャパンで限定販売)	読売新聞
	24	びわ博に「うみのこ」常設展 26日から 船内カレーもコンビニ発売	朝日新聞
	24	知事も太鼓判 思い出の「うみのこカレー」(琵琶湖博物館で常設展示が始まるのを記念しての販売)	毎日新聞
	24	湖国トンボ100種紹介 琵琶博	読売新聞
	24	[琵琶湖の魚たち] メダカの学校は学区が大事 ミナミメダカ 金尾滋史主任学芸員	産経新聞
	24	知事も太鼓判 思い出の「うみのこカレー」 環境学習の味 26日から限定発売 (うみのこの常設展示が県立琵琶湖博物館でオープンすることを記念しての販売)	産経新聞
	25	琵琶湖博物館「トンボ100大作戦」展示始まる 新たに3種生息 残り22種に	中日新聞
	26	うみのこカレー コンビニで発売 県学習船昼食再現 (うみのこを紹介する常設展示が琵琶湖博物館内にオープンする記念に県学習船の昼食を再現)	京都新聞
	27	「うみのこ」甲板を再利用 琵琶湖博物館で常設展示始まる	中日新聞
	28	[美術館・博物館] 滋賀県立琵琶湖博物館 (催しとして「守りたい! 少なくなった生き物たちー未来につなぐ地域の宝物ー」の紹介)	毎日新聞
	28	[びわ博セレクション ミクロの世界から] 21 シナンテリナとアキクルス 群体生活のお邪魔ムシ 渡辺圭一郎琵琶湖博物館はしかけ 琵琶湖の小さな生き物を観察する会会長	京都新聞
	28	うみのこカレー コンビニで発売 県学習船昼食再現 (うみのこを紹介する常設展示が琵琶湖博物館内にオープンする記念)	京都新聞
	30	[湖岸より] 391 寒い冬ほど「琵琶湖の深呼吸」 芳賀裕樹総括学芸員	中日新聞
2	1	湖上の思い出共有して 琵琶博「うみのこ」常設展示	読売新聞
	2	[びわ博こだわり展示の裏話] 75 希少生物たちを守る 活動紹介 剥製パンダがお出迎え 松田征也総括学芸員	毎日新聞
	2	県内小学生の環境学習船「うみのこ」 琵琶博に常設コーナー 初代船資材も利用 活動や歴史伝える	京都新聞
	3	うみのこカレー圧倒的人気 セブン-イレブン各店舗で連日完売 (琵琶湖博物館での常設展示に合わせ、県教委と本社が連携して開発したカツカレー)	中日新聞
	4	[美術館・博物館] 滋賀県立琵琶湖博物館 (催しとして「守りたい! 少なくなった生き物たちー未来につなぐ地域の宝物ー」を紹介)	毎日新聞
	10	ヨシの未来 女性の視点で 講演と座談会、草津で20日 (シンポジウム「ヨシの未来を考える〜女性の視点から見た『魅力』と『可能性』」琵琶湖博物館、たねや、滋賀銀行などでヨシの活用や保全に取り組む女性たちが座談会で語り合う)	中日新聞
	11	[美術館・博物館] 滋賀県立琵琶湖博物館 (催しとして「守りたい! 少なくなった生き物たちー未来につなぐ地域の宝物ー」を紹介)	毎日新聞

月	日	記事テーマ	掲載新聞社名
2	11	〔びわ博セレクション ミクロの世界から〕 22 スズキケイソウ 琵琶湖最小の固有種 大塚泰介総括学芸員	京都新聞
	11	「滋賀の美」発信へ 4 本柱 県立近美改革や文化館後継建設 新生美術館計画代替 県がプラン原案提示 (琵琶湖博物館など県内の美術館・博物館 70 館と連携し統一テーマで展示やワークショップを行う)	京都新聞
	13	〔湖岸より〕 392 森から湖へ川が運ぶ土砂 山中大輔主査	中日新聞
	14	〔琵琶湖と生きる〕 琵琶湖博物館の壁面イラスト制作 洞智子さん 多様な生物 興味持っ	中日新聞
	16	〔びわ博こだわり展示の裏話〕 76 日本の淡水魚保護活動 20 年を経た五つの物語 中井克樹専門学芸員	毎日新聞
	18	〔美術館・博物館〕 滋賀県立琵琶湖博物館 (催しとして「守りたい! 少なくなった生き物たちー未来につなぐ地域の宝物ー」を紹介)	毎日新聞
	21	〔琵琶湖の魚たち〕 スゴモロコとその仲間たち 田畑諒一学芸員	産経新聞
	25	〔美術館・博物館〕 滋賀県立琵琶湖博物館 (催しとして「守りたい! 少なくなった生き物たちー未来につなぐ地域の宝物ー」を紹介)	毎日新聞
	25	〔びわ博セレクション ミクロの世界から〕 23 ペラゴディレプタス 細胞内に“家庭菜園” 鈴木隆仁主任学芸員	京都新聞
3	27	〔湖岸より〕 393 「やまのこ」で学習 森ってすごい 山本綾美主任主査	中日新聞
	2	〔びわ博こだわり展示の裏話〕 77 「客寄せパンダ」もあとわずか 7 日閉幕「非日常」の展示 中井克樹専門学芸員	毎日新聞
	4	〔美術館・博物館〕 滋賀県立琵琶湖博物館 (催しとして「守りたい! 少なくなった生き物たちー未来につなぐ地域の宝物ー」を紹介)	毎日新聞
	5	「びわ博」図柄の宝くじ 23 日まで販売	毎日新聞
	7	琵琶湖と水月湖 共通点など解説 若狭で講演会 (琵琶湖博物館の林竜馬主任学芸員が講師、福井県年縞博物館との連携事業の一環として企画)	中日新聞
	7	琵琶湖や水月湖 自然環境を説明 三方青年の家で講演会 (琵琶湖博物館の林竜馬主任学芸員が講師、福井県年縞博物館との連携事業の一環として企画)	日刊県民福井
	7	「生物多様性びわ湖ネットワーク」日本自然保護大賞受賞 トンボに着目、5 年で 78 種確認 (琵琶湖博物館で展示報告するなど積極的に発信)	産経新聞
	8	琵琶湖博学芸員招き 気候変動に理解深め 若狭町 26 人講演聴講 (琵琶湖博物館が所有する「アケボノゾウ足跡レプリカ」など年縞博物館で展示)	福井新聞
	11	〔びわ博セレクション ミクロの世界から〕 24 サヤミドロ 水質浄化や豊作もたらす 大塚泰介総括学芸員	京都新聞
	12	大賞にびわ湖ネット 日本自然保護協が表彰 トンボ 100 大作戦を評価 (観察会や琵琶湖博物館での展示など企業の枠を超えた教育活動を評価)	京都新聞
	13	〔湖岸より〕 394 3 密を避けて深い実体験を 中川信次主任主査	中日新聞
	16	〔びわ博こだわり展示の裏話〕 78 「デルビジョン」最後の舞台 企画展示閉幕後の作業 中井克樹専門学芸員	毎日新聞
	21	〔琵琶湖の魚たち〕 アブラボテ 油汚れはついてません 松田征也総括学芸員	産経新聞
	25	〔びわ博セレクション ミクロの世界から〕 25 アボカルケシウム・ロゼッタム 水中の打ち上げ花火 鈴木隆仁主任学芸員	京都新聞
	25	琵琶湖周辺の生物や衛星写真で広さ体感 若狭の博物館展示 (福井県年縞博物館で展示する企画展開催 林竜馬主任学芸員のコメント)	中日新聞
	26	道の駅草津 再整備へ 市、25 年度開設目指す 農産加工品やレストラン検討 烏丸半島と一体的活用を	京都新聞
	27	〔湖岸より〕 395 ヒゲクジラのようなバイカルアザラシ 松岡由子学芸員	中日新聞
	28	琵琶湖の外来生物対策 固有種保護への意識を 草津で講演会「担い手の育成大事」(中井克樹専門学芸員と松田征也総括学芸員が講演会「新琵琶湖学セミナー」)	京都新聞
	29	特徴的な石紹介 ブックレット出版 草津・琵琶湖博物館 (「近江路をめぐる石の旅」の出版)	中日新聞
	29	生きもののテーマに講演 外来種の対策など紹介 博物館で学芸員 (琵琶湖博物館主催「新琵琶湖学セミナー」中井克樹専門学芸員と松田征也総括学芸員が講演)	中日新聞
	29	4 月から新規格多彩に 「びわ湖からフィールドへ」(全面リニューアルを終えた琵琶湖博物館の各展示コーナーの話題を解説)	京都新聞
	30	〔びわ博こだわり展示の裏話〕 79 A・B 展示室グランドオープン of the 思い いにしえを見て今を知る (山川千代美上席総括学芸員)	毎日新聞
	31	〔なるほどドリ〕 滋賀のタンポポ、在来種は多いの? 外来種と合わせて 8 種類確認 広範囲に分布、交雑種の増加も (事務局の琵琶湖博物館が調査方法の紹介や調査票の配付)	毎日新聞

5) 雑誌等掲載記録

月	記事テーマ	掲載雑誌社名
4	「田んぼ体験（5月）」「季節の植物でアロマウォーターを作ろう！」の案内	博物館研究 vol. 55 No. 5 (No. 624 号)
4	滋賀県立琵琶湖博物館 続々リニューアル！進化を続ける博物館	まっぷる 滋賀・びわ湖（長浜・彦根・大津）'21
4	[情報発信] コロナに負けないぞ!! 子ども応援プロジェクト 「おうちミュージアム」おうちでたのしくまなべるよ	パリッシュ vol. 256
4	滋賀 [米原市～大津市] 英国生まれのクレイアニメの世界と湖畔の博物館で自然を満喫 滋賀県立琵琶湖博物館	遊・悠・West 5・6月号（西日本高速道路情報誌）
4	01 烏丸エリア 湖と人間の未来を考える 琵琶湖博物館	びわこ・くさつ びわ湖・草津観光ガイドマップ
4	「琵琶湖が映す環境異変（1）」生物多様性の宝庫たるゆえんとその価値・生態保全は未来世代への責任 中井克樹専門学芸員取材記事	環境新聞（4/29）
5	コロナに負けないぞ!! 子ども応援プロジェクト おうちミュージアム 琵琶湖博物館	滋賀プラス1（県広報誌）5・6月号 vol. 185
6	[ズームアップ]「おうちミュージアム」で楽しもう！ / グランドリニューアルオープン、企画展示「守りたい！少なくなった生き物たち-未来につながる地域の宝物-」、水族企画展示「レッドリストの魚たち」の延期のお知らせ / 「季節の植物でアロマウォーターを作ろう！」「初心者のためのふなずし作り体験」「田んぼ体験（7月）」「マイナス80度から復活した微小生物」「下物ビオトープ観察会」「湖探検 琵琶湖に入って生き物をさがそう」「七夕☆短冊に願い事をかこう！」「みんなで「かいこ絵日記」をつくろう！」の中止のお知らせ	れいかる（湖国文化情報）7・8月号 vol. 117
6	琵琶湖真景図（部分）琵琶湖博物館蔵	石丸 正運 編『近江の画人 海北友松から小倉遊亀まで』
6	滋賀県立琵琶湖博物館 ただでかいだけじゃなかった！琵琶湖 400 万年の歴史がここに	ポパイ 7月号
7	人事異動 高橋啓一館長（4月1日付）	博物館研究 vol. 55 No. 8 (No. 627 号)
7	中村久美子（主任学芸員）・北村美香（特別研究員）：「出会いの場」であり続ける展示室 ー展示交流ってなに？から 10 年ー	全科協 NEWS vol. 50 No. 4 (No. 293 号)
7	琵琶湖博物館などがある、からすま半島の案内	からすまウォーキングマップ（琵琶湖・烏丸半島魅力向上活性化協議会）
7	2020 夏旅 NEWS 滋賀県立琵琶湖博物館 2020 年リニューアル／水の生き物を間近に観察！水族館 かわいいあの子に会いに行こう！琵琶湖に棲む生きものを間近で観察 滋賀県立琵琶湖博物館／みんなで GOGO★夏旅!! 絶景広がるびわ湖を一望！「湖と人間」がテーマの体験型博物館 滋賀県立琵琶湖博物館	まっぷる家族でおでかけ（夏休み号）京阪神・名古屋発
7	ホテル周辺の見どころ 滋賀県立琵琶湖博物館	びわ湖・草津 宿泊ガイド（草津市観光物産協会）
7	しがの自然を体感する 子ども編集委員勝手にランキング第 2 位滋賀県立琵琶湖博物館	わくわくどきどきしが探検！（滋賀県観光振興局・公益社団法人びわこビジターズビューロー）
8	2020 年 10 月グランドオープン！、企画展示「守りたい！少なくなった生き物たち-未来につながる地域の宝物-」 / 「湖探検 琵琶湖に入って生き物をさがそう」「田んぼ体験（9・10月）」「季節の植物でアロマウォーターを作ろう！」「プランクトンでビンゴ」「はしかけ登録講座」「船 d e アート！」の紹介	れいかる（湖国文化情報）9・10月号 vol. 118
8	大人も子どもも夢中 ハマる！科学読み物と図鑑 推薦者 琵琶湖博物館図書室担当 高木成美さん（会計年度任用職員）	リビング滋賀 1730 号
8	BIWAKO DRIVE MAP 滋賀県立琵琶湖博物館	GRAN TIMES vol. 146（（株）大倉）
8	「令和 2 年 7 月豪雨」植物標本レスキュー支援活動開始 全国の自然史系博物館・大学が連携協力	科学新聞（8/7）
8	第 3 期改装完成 10 月 10 日に開館 琵琶湖博物館 琵琶湖博物館 改装終え 10 月 10 日 グランドオープン	観光経済新聞（8/29）
9	[天眼鏡] 動画や音声で楽しむ“芸術の秋”（琵琶湖博物館が YouTube でトンネル水槽動画を公開）	野村週報（9/21）（野村證券（株））
10	企画展示「守りたい！少なくなった生き物たち-未来につながる地域の宝物-」「田んぼ体験（11月）」の紹介	博物館研究 vol. 55 No. 11 (No. 630 号)
10	企画展示「守りたい！少なくなった生き物たち-未来につながる地域の宝物-」 / 「季節の植物でアロマウォーターを作ろう！」「田んぼ体験（11・12月）」の紹介	れいかる（湖国文化情報）11・12月号 vol. 119

月	記事テーマ	掲載雑誌社名
10	滋賀県立琵琶湖博物館 約 6 年の歳月をかけてリニューアルを行ってきた琵琶湖博物館が 2020 年 10 月 10 日オープン！	教育しが No. 79 2020 年 10 月号
10	新琵琶湖博物館創造室長・田中順子 未来へつなぐ「湖の 400 万年」 琵琶湖博物館、グランドオープン／[インタビュー 湖と生きる] 琵琶湖博物館館長・高橋啓一 身の回りのおもしろさ、立ち止まって考える	湖国と文化 173 号 2020 年秋号
10	[特集] 琵琶湖博物館 第 3 期リニューアル！ インタビュー(1) A 展示室リニューアルについて 滋賀県立琵琶湖博物館 学芸員 里口保文さん／インタビュー(2) B 展示室リニューアルについて 滋賀県立琵琶湖博物館 学芸員 渡部圭一さん／インタビュー(3) 琵琶湖博物館リニューアルについて 滋賀県立琵琶湖博物館 館長 高橋啓一／[新撰 淡海木間撰] 81 柴 滋賀県立琵琶湖博物館 渡部圭一	滋賀の文化情報誌 Duet 2020 秋 vol. 136
10	山の万能薬“自然薯料理” ご賞味と琵琶湖博物館グランドオープン!! 琵琶湖博物館の紹介	両備バスフレンズバックツアー総合カタログ (2020. 12～2021. 1)
10	リニューアルした「琵琶湖博物館」に世界初の展示が登場！ツダンスキーゾウの半身半骨標本 琵琶湖博物館の紹介	関西冬ウォーカー2021 No. 79
10	表紙写真撮影 (おとなのディスカバリー)	ポップリード 2020. 10 vol. 121
10	琵琶湖のすべてが学べるミュージアムがリニューアル	Discover Japan
11	[特集]6 年にわたるリニューアルがついに完了！琵琶湖博物館グランドオープン A 展示室 湖の 400 万年と私たち～変わり続ける琵琶湖～ 里口保文総括学芸員 / B 展示室 湖の 2 万年と私たち～自然と暮らしの歴史～ 渡部圭一主任学芸員 / 五感で感じる、発見を楽しむ。びわ湖の魅力を丸ごと体感できる博物館へ！ 中井克樹専門学芸員 / 琵琶湖博物館は、びわ湖のすべてを感じるミュージアム 高橋啓一館長 [お知らせ]琵琶湖博物館などの県立施設を無料開放 [ほっとサロン]琵琶湖博物館ペアチケット&ビワコオオナマズぬいぐるみ プレゼント	滋賀プラス 1 (県広報誌) 11・12 月号 vol. 188
11	[リニューアル情報]琵琶湖博物館グランドオープン 田中順子創造室長 / 企画展示「守りたい！少なくなった生き物たち-未来につなぐ地域の宝物-」「季節の植物でアロマウォーターを作ろう！」「田んぼ体験 (しめ縄作り)」の紹介	博物館研究 vol. 55 No. 12 (No. 631 号)
11	関西文化の日入館無料施設の紹介	関西文化の日チラシ
11	リニューアルした琵琶湖博物館へ	滋賀民報 (11/1)
11	戦国武将ゆかりの地を巡る 観光グルメ巡り リニューアルを終え、グランドオープンした琵琶湖博物館の紹介	滋賀県観光キャンペーン「ガイドブック」戦国ワンダーランド 滋賀・びわ湖 (近江戦国絵巻)
11	[国政刻刻] 科学と学問の価値を軽視する日本の未来を憂う 嘉田由紀子参議院議員元琵琶湖博物館研究顧問	滋賀報知新聞 (11/12)
11	滋賀県立琵琶湖博物館 独自に進化を遂げた古代湖のアザラシ バイ・バイカルアザラシ (ほか 8 種の魚類等を紹介)	水族館めぐり (株) G. B.)
12	企画展示「守りたい！少なくなった生き物たち-未来につなぐ地域の宝物-」の紹介	博物館研究 vol. 56 No. 1 (No. 632 号)
12	企画展示「守りたい！少なくなった生き物たち-未来につなぐ地域の宝物-」の紹介 / 琵琶湖博物館招待券プレゼント	冬びあ (関西版)
12	琵琶湖博物館リニューアルオープン	美術の窓 No. 447 12 月号
12	琵琶湖博物館がグランドオープン新コンセプト「びわこのちからの博物館」	月刊教育旅行
12	企画展示「守りたい！少なくなった生き物たち-未来につなぐ地域の宝物-」、ギャラリー展示「トンボ 100 大作戦 -滋賀のトンボを救え！- (仮)」/ 「田んぼ体験 (2 月)」 「はしかけ登録講座」 「森の宝物をさがそう！」 「節分☆オニのお面をつくろう！」 「おひなさまをつくろう！」 の紹介	れいかる (湖国文化情報) 1・2・3 月号 vol. 120
12	[国政刻刻] リニューアルした琵琶湖博物館は学問研究を住民生活につないだ成果 嘉田由紀子参議院議員元琵琶湖博物館研究顧問	滋賀報知新聞 (12/10)
12	巨大ゾウの標本展示を見に行こう リニューアルを終えた琵琶湖博物館の紹介	関西ウォーカー 1 月増刊号
12	琵琶湖博物館で展示中の饗庭野断層 (高島市から寄贈) の紹介	広報たかしま 12 月号 No. 251
12	琵琶湖のすべてを体感し学べる「琵琶湖博物館」がリニューアルを終え 10 月グランドオープン	Travel & Life (JTB トラベルニュース) 2020. 12-2021. 1
1	企画展示「守りたい！少なくなった生き物たち-未来につなぐ地域の宝物-」「田んぼ体験 (2 月)」の紹介	博物館研究 vol. 56 No. 2 (No. 633 号)
1	[関西深発見]琵琶湖博物館の紹介	電気と保安 (関西電気保安協会広報誌) No. 501 1・2 月号

月	記事テーマ	掲載雑誌社名
1	琵琶湖博物館の紹介とバリアフリー情報	「みんなの滋賀たび」草津をめぐる 2021 新春号 (vol. 6)
1	滋賀の縄文・弥生に触れてみよう 案内人妹尾裕介学芸員	かけはし (滋賀銀行広報誌) 2021 年新春号 (vol. 297)
1	魅力的にリニューアル! 湖にまつわるあれこれを知ろう リニューアルオープンした琵琶湖博物館の紹介	春夏秋冬びあ 日帰り遊び 2021 (東海版)
1	館内と屋外展示で琵琶湖のすべてを体感 リニューアルオープンした琵琶湖博物館の紹介	東海ウォーカー 2021 年 2 月号
1	琵琶湖博物館「トンボ 100 大作戦 - 滋賀のトンボを救え! -」展開催	滋賀報知新聞 (1/28)
2	企画展示「守りたい! 少なくなった生き物たち-未来につなぐ地域の宝物-」 「おひなさまをつくろう!」 「はしかけ登録講座」の紹介	博物館研究 vol. 56 No. 3 (No. 634 号)
2	リニューアルでさらに充実した「びわ博」へ! 琵琶湖博物館の紹介	春夏秋冬びあ 日帰り遊び 2021 (関西版)
2	6年にわたるリニューアルがついに完了! 琵琶湖博物館グランドオープン 琵琶湖博物館の紹介	おうみの風 (滋賀県人会連合会会報誌) 2021. 2 月号 No. 58
3	表紙 琵琶湖博物館リニューアルオープン	滋賀プラス 1 (県広報誌) 3・4 月号 vol. 190
3	滋賀県立琵琶湖博物館が展示交流空間のリニューアルで目指すもの 山川千代美 上席総括学芸員兼事業部長	博物館研究 vol. 56 No. 4 (No. 635 号)
3	「琵琶湖博物館」図柄宝くじ	近畿宝くじ
3	(表紙) 富江家座敷	おたのみやす (70 歳からのタウン情報誌) 3 号
3	滋賀大津・草津 リニューアルした琵琶湖博物館の紹介	東海ウォーカー 2021 年 4 月号
3	[EVENT NEWS] 年縞博物館で琵琶湖博物館の所蔵品を展示「琵琶湖×水月湖 湖ラボ展」	(月刊) きらめきくらぶ (敦賀・美浜地域 みつちやく生活情報誌) 2021. 4 vol. 154

(3) 予算

2020 年度歳入 (円)

科 目	決 算 額
使 用 料 及 び 手 数 料	92,377,591
財 産 収 入	273,810
諸 収 入	6,040,834
合 計	98,692,235

2020 年度歳出 (円)

事 業 名	事 業 内 容	決 算 額
管理運営費	施設維持費、烏丸半島整備費、事務費、広報費	553,316,120
調査資料収集事業費	研究費、研究備品、資料収集製作、資料整理保管、 水族飼育	105,052,741
展示事業費	企画展示、常設展示、展示維持管理、展示用印刷物 展示交流空間再構築事業	569,034,113
情報交流事業費	情報システム管理、データ入力、図書整備、交流事業開催、 フィールドレポーター	9,744,456
環境学習推進費	環境学習センターの運営	824,471
合 計		1,237,971,901

(4) 寄付など

20件 4,020千円

リニューアルサポーター	10件	2,990千円
水槽サポーター	5件	605千円
樹冠トレイルサポーター	0件	0千円
メンバーシップ	4件	2,750千円
キャンパスメンバーズ	1件	150千円

4 存在基盤の確立

(1) 琵琶湖博物館協議会

第1回

開催日時 2020年12月11日（金） 13:10～15:10

場 所 琵琶湖博物館セミナー室

- 議 題 ① 令和2年度の博物館活動について
 ② 新琵琶湖博物館創造基本計画にかかる行動計画
 令和2年度取組状況について
 ③ 第三次中長期基本計画について

第2回

開催日時 2021年2月4日（木）（コロナ禍により書面開催）

- 議 題 ① 第三次中長期基本計画について

第13期委員

（任期：2020年9月1日～2022年8月31日）

氏 名	区分	現 職（令和3年3月現在）
山崎 賢	学校教育	草津市立老上小学校校長
古川 昌弘	学校教育	大津市立田上中学校校長
中野 栄美子	社会教育	NPO 法人カーボンシンク代表理事
鹿田 由香	家庭教育	滋賀子育てネットワーク代表
荒井 紀子	環境保全	ホタルの学校代表
村上 由美子	文化財保護	京都大学総合博物館研究部資料基礎調査系准教授（考古学）
土井 通弘	学識者	就実大学人文科学部表現文化学科教授
池田 千晶	学識者	中日新聞大津支局長
中坊 徹次	学識者	京都大学名誉教授
中川 毅	学識者	立命館大学 総合科学技術研究機構古気候学研究センター長（教授）
岡田 佳美	その他	（株）コクヨ工業滋賀開発グループ グループリーダー 課長
田淵 千恵子	その他	手話通訳士
遠藤 正一	その他	公募委員
龍見 瑞季	その他	公募委員

(2) 企画・計画

1) 新琵琶湖博物館創造基本計画 行動計画

3期6年にわたるリニューアルによって琵琶湖博物館が目指すべき姿を示したものが平成26年（2014年）3月に策定した「新琵琶湖博物館創造基本計画」である。この計画の実現に向けて、具体的な達成目標と進捗計画を記した「新琵琶湖博物館行動基本計画 行動計画」を平成29年（2017年）3月に策定した。

計画は「常設展示の再構築」「交流空間・交流機能の再構築」「利用者の利便性・快適性を高める施設整備」「多様な主体との連携」「広報・営業活動の強化」「資料を利用しやすい博物館への進化と飼育生物の計画的繁殖」「『湖と人間』の関係を考える研究の推進」の7つの柱からなり、全体で66の目標と、各年度における進捗目標を掲げている。

令和2年度は「新琵琶湖博物館創造基本計画」の最終年度であり、それ以降については令和2年度中に策定する「第三次中長期基本計画」に引き継いでいく。

2) 琵琶湖博物館広報・経営戦略

2020年度は、コロナ禍のため、先の読めない中での広報ではあったが、3期6年にわたるリニューアルのグランドオープンという時宜を得て、広報コンセプト・キービジュアルの一新を図り、広報物（ポスター、チラシ、リーフレット、パンフレット等）をはじめ、チケットデザインや館内外の装飾物、博物館周辺（烏丸半島入口や道の駅等）での看板、内覧会配付物のマスク等に至るまで、統一感を持って展開したことにより、効果的な広報PRを実施することができた。

上半期は、新型コロナウイルス感染対策による2020年2月28日から6月1日までの臨時休館対応のため、休館中でも楽しめるコンテンツの情報（「おうちミュージアム」の公開・充実）、臨時休館後の再開の情報やリニューアル工事の3カ月遅れに伴うグランドオープン延期情報の提供など、その都度、必要なタイミングで広報対応を行ってきた。

下半期は、10月10日のグランドオープンの前には、これまでは同時に行っていた内覧会を、メディア向け内覧会（10月7日）と関係者向け内覧会（10月8日）に分け、丁寧なメディア対応を実施することにより、グランドオープン後の取材継続にもつなげることができた。また、グランドオープン以降導入した事前予約制についても、可能な限り情報発信に努めた。

新しい広報用チラシ・ポスターの配布、ホームページによる情報発信、広報担当職員による県内外小中学校訪問などを行うと共に、旅行関係者や観光関係者との連携をはじめ、旅行誌やグルメショッピング情報誌・フリーペーパーを使った広告、JR大阪駅・梅田駅・天王寺駅での交通広告、インターネット・SNSの広告やWebメディアへの記事掲載等を行い、広域的な広報活動や情報拡散にも力を注いだ。また、年間を通じて、新聞各紙の寄稿枠を活用した広報を展開することにより、切れ目のない広報や話題づくりを展開した。

IV 2020 年度をふり返って

1 研究部

琵琶湖博物館では、開館以来、研究活動は博物館の根幹であると位置づけ、「湖と人間」のテーマのもと、琵琶湖とその周辺の多面的な価値を地域の人たちと共に探る研究を行ってきた。2020 年度は、2016 年度に策定した新琵琶湖博物館創造基本計画の最終年度として、研究活動方針に沿って行動計画の研究事業を進めた。具体的には、(1) 琵琶湖地域の「湖と人間」の関係性を探る総合的な研究の推進、(2) 「古代湖」としての琵琶湖の価値を探る比較研究、(3) 「木から森へ」の博物館学の追求という三つの方向性を掲げ、それらの研究を具体的に推進していくことを目指した。

2020 年度は、新型コロナウイルス感染症拡大により、博物館の業務全般が大きな影響を受けた。新琵琶湖博物館創造基本計画の柱であり、開館以来 20 年以上の研究成果の発信である常設展示のリニューアルは、2020 年度に第 3 期の A・B 展示室リニューアルを終え、7 月にグランドオープンを迎える予定であったが、感染防止対策のための緊急事態宣言のため、工事が遅れて 10 月のオープンとなった。同じく、研究成果発信の一つと位置づけている企画展示「守りたい！少なくなった生き物たちー未来につなぐ地域の宝物ー」も、展示室の三密を避けるため、グランドオープンと同様 3 か月遅れでの開催となった。来館者の入場制限を行う中でのオープンということで、ある程度人数が抑えられた中ではあったが、常設展示、企画展示ともに好評を博した。新琵琶湖学セミナーについては、企画展示に関連した内容を取り上げ、通常 3 回のところを 1 回に絞り、外部講師は呼ばずに当館学芸員 2 名の講演をホールで開催した。

その他一般向けの研究発信としては、琵琶湖博物館ブックレットの第 12 号と第 13 号を発刊した。また、引き続き中日新聞連載コラム「湖岸より」や、京都新聞連載「ミクロの世界から びわ博セレクション」などにおいて、博物館学芸員や特別研究員などの研究成果を分かりやすく発信した。新聞記事だけでなく、雑誌の連載も始まり、季刊誌「湖国と文化」に、「琵琶湖 センス・オブ・ワンダー 湖と人とは織りなす歴史と今」と題して、学芸員の研究成果とプロのカメラマン撮影の写真とのコラボレーション企画を掲載していくこととなった。

研究交流については、新型コロナウイルス感染症拡大により、毎年行ってきた韓国国立洛東江生物資源館との合同セミナーやワークショップの開催が不可能となった。しかし、研究資料や展示資料、出版物などの相互交換については積極的に行い、国際的な交流を継続している。国内の研究機関との連携については、毎年開催してきた滋賀県試験研究機関連絡会議の発表会が中止になった。しかし、日頃の研究交流が活かされ、統計・モデリングを扱う有志による新型コロナウイルス感染症対策班 情報・疫学統計チームが組織され、県の感染症対策に大きく貢献した。

データで見ると、今年度の研究発信は、学術論文 14 件、専門分野の著述 89 件、一般向けの著述 125 件、学会発表は 97 件であった。2020 年度は、展示のグランドオープンに加えて新型コロナウイルス感拡大防止のために研究活動が大幅に縮小されたため、研究成果発信の低迷はしばらく続く可能性がある。しかし、文部科学省科学研究費補助金では 3 件の新規採択があり、継続を合わせて 13 件という結果となり、博物館の総合研究、共同研究とあわせて、研究費を効率良く使い、研究時間を確保しながら、研究を推進していく方策を検討していきたい。

研究施設管理としては、薬品類の管理方法を見直し、より効率良く薬品の保管状況や使用状況を把握し管理しやすくした。備品管理についても、特に取得年代の古い備品についての動作確認や廃棄等の検討を行っている。引き続き、研究棟の空調設備の老朽化や故障などの改善も進めていきたい。

2 事業部

(1) 展示

2020 年度は当初から新型コロナウイルス感染症の影響により臨時休館をしており、展示室も閉鎖されていた。臨時休館中に展示室の新型コロナ対策、展示交流員を対象とした新型コロナ感染症対策の研修、展示交流員による「展示交流補助ツール」の企画・開発・制作など再開館に向けた準備を行い、日本全国の新型コロナ新規感染者数が十分に少なくなった 6 月 2 日に再開館した。ただし再開館以降も、常に入館人数を制限しながらの開館となった。展示室での感染対策は現在も継続しており、特に飛沫感染のリスクを十分に下げたための対策を徹底している。一方、ものを介した接触感染のリスクが、従来考えられていたほど大きくないことがわかってきたので、ハンズオン展示の一部再開なども行った。第 3 期リニューアル工事（A・B 展示室）もコロナ禍により大きく遅れたため、当初 7 月を予定していたリニューアルグランドオープンが 10 月 10 日までずれ込んだ。新しくなった A 展示室では、400 万年という琵琶湖のおいたちの時間の中で変わってきた自然環境を、大地と湖、生き物、気候と森のコーナーにわけて紹介している。同じく B 展示室では「湖の 2 万年と私たち—自然と暮らしの歴史—」と題して、今につながる、私たちと自然の関わりの歴史をみていくなかで、これからの自然とのつきあい方を考えるきっかけとなる展示を目指している。第 28 回企画展示「守りたい！少なくなった生き物たち—未来へつなぐ地域の宝物—」は、当初 7 月開始の予定であったが、コロナ禍による準備の遅れが生じたため、10 月 17 日からの開催となった。滋賀県を中心に世界の希少生物を紹介するとともに、市民グループ、企業、神社、学校、動物園、水族館などで取り組まれている希少生物を守るための保全活動と、活動に至った動機を紹介し、生物多様性を身近なものとしてとらえ、地域在来の生物と生物多様性を守ることが、それとともに育まれてきた人の生活文化を尊重することにつながることを理解するための材料を提供した。第 2 期リニューアルに伴う「集う・使う・創る新空間」の廃止に伴って、ギャラリー展示やアトリウムでの展示に関する館外からの希望が急増している。2020 年度は 6 月以降の 10 か月間だけで、計 8 件のトピック展示と 1 件の企画展示関連展示が行われ、うち 7 件は琵琶湖博物館以外の主催展示であった。

(2) 資料の整備・活用

2020 年度は、収蔵庫内の温湿度を管理するため、2019 年度に引き続きデータロガーを増設し（地学・動物収蔵庫）、クラウドサーバー上でリアルタイムに監視するためのシステムを導入した。また、収蔵庫空間におけるカビ防御のため、前年に引き続き、扇風機や除湿器の設置や外気の遮断など空気環境の改善も行った。

新型コロナウイルス感染症の流行により、万一感染者が出た場合の収蔵庫空間での過剰な消毒作業などを避けるため、休館期間中は試料の閲覧を制限し、各収蔵庫への入庫に際しては手洗いの徹底、扉に設置した入退室記録簿の記入を徹底するようにした。

これまでに収集し、当館に収蔵されている資料は 143 万点を超え、そのうち登録資料は 67 万点を超えることとなったが、収蔵資料の半数以上がまだ登録されていないことから、今後の利用を考えた資料の整理および登録を着実に進めていく必要がある。

(3) 交流・サービス活動

博物館周辺や県内各地で、計 3 件の観察会等を実施した。また、3 種類の講座を計 4 回行い、231 人を集めた。なお、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、観察会等 8 件、講座 1 件は中止となった。依頼に応じて講義や観察会などを行う地域連携事業は、19 件・参加者 864 名、館外では 18 件・参加者 6,15 名の活動実績となった。学校行事で来館した入館学校数は 371 校、児童生徒数は 26,544 人で、前年度より 167 校、14,053 人減少した。これに関しては、新型コロナウイルスの影響で 8 月末まで学校団体を受け入れていなかったことが関係しているが、学校団体の受け入れを再開した 9 月以降は、入館制限のなか、多くの学校団体を受け入れることができた。特に県内小学校が多く、1 学期に行けなかった学校が 2 学期にずらすなどしたためと

考えられる。体験学習を実施した学校数は 55 校、受講者数は 4,796 人であった。フィールドレポーターはアンケート型調査として「タンポポ調査」「えっ!?こんなところにもヌートリア」調査の 2 件を行った。登録者数は 175 名であった。「はしかけ」制度の登録者は年度末時点で 372 名であった。

3 総務部

(1) 来館者の状況

新型コロナウイルス感染拡大防止のため前年度末（2020 年 2 月 28 日～）から臨時休館しており、2020 年度も年度当初より休館を続けた。6 月 2 日から開館したが、開館時間の短縮、入館者数の制限、展示の一部公開休止などを措置しつつの開館であり、来館者が対前年度同月比で下回る月が続いた。第 3 期リニューアル工事を終え 10 月 10 日にはグランドオープンし、A・B 展示室を開室した。また 10 月 10 日からは 6 月 2 日の開館から続けていた整理券配布方式を完全事前予約方式に変更、感染対策をとる中で来館者の利便性の向上を図った。さらには、企画展示「守りたい！少なくなった生き物たちー未来につなぐ地域の宝物ー」（10 月 17 日～3 月 7 日）を開催、11 月～12 月は来館者が対前年度同月比で上回った。しかしながら、年が明けた 1 月から減少傾向を示し、2020 年度の来館者は 253,750 人と目標としていた 59 万人を大きく下回り、対前年度比較でも約 20 万人の減となった。

(2) 企業・団体との連携

CSR や SDGs 等の環境保全の取り組みが大きな社会的役割を果たすようになり、これまで博物館においても企業・団体等を重視すべきパートナーと位置づけ、「リニューアルサポーター制度」や「メンバーシップ制度」、「水槽サポーター制度」「樹冠トレイルサポーター制度」を運用してきたが、コロナ禍においては、積極的な働きかけを行うことができず、やむを得ず、制約の多い中、限られた形での企業連携活動となった。そうした中で、10 月グランドオープン前の関係者向け内覧会（10 月 8 日）においては、75 社 149 名の企業・団体の招待者をお迎えすることができた。また、コロナ禍の合間を縫って、対象者への感謝状の贈呈を行った。

(3) 広報戦略

2020 年度は、3 期 6 年にわたるリニューアル完成、グランドオープンを機に、広報コンセプト・キービジュアルの一新により、新しく生まれ変わった琵琶湖博物館を前面に打ち出し、様々なメディアを通じて、広報 PR 活動を展開した。

広報戦略としては、グランドオープンを機に、専門的な知識や豊富な実践経験を持つ民間業者で、これまでとは違ったアプローチの提案を行った業者に委託し、新しい広報コンセプト「びわこのちからの博物館。」を軸として、訴求したいターゲットに伝えたい情報を、適切な手法で届けていくという方針のもと、様々なメディアへのアプローチをはじめ、グランドオープンをはじめとする情報発信を行った結果、コロナ禍の状況下において、集中した形で、わかりやすく効果的な広報 PR 活動を展開することができた。

(4) 施設整備

施設の老朽化により、様々な設備修繕を行った。クーリングタワー（冷却塔）配管、大型チラー（冷却水循環装置）、取水ポンプの更新により失われていた能力の回復を進め、来館者の快適性や試験研究環境の向上を図った。また、火災報知器、非常用放送設備、二酸化炭素消火設備等の人命にかかる機器、中央監視装置にかかる無停電電源装置、非常用蓄電池電源、電気室真空遮断器交換等、設備の保護にかかる機器を更新し、来館者、職員、試験研究データ等の安全性を高めている。

(5) 新琵琶湖博物館創造

琵琶湖博物館は、1996 年の開館以来、環境学習の拠点として、展示・交流活動を通じて、琵琶湖の価値を再発見し、琵琶湖や地域に関心をもつ人づくり・地域づくりに努め、着実に成果をあげてきた。

この間、新たな環境課題の顕在化、暮らしと環境に対する県民の考え方の多様化により地域での取り組みも活発化していた。しかしながら当館で進展した調査・研究、蓄積した知見、収集された多くの資料や標本を伝える大規模な展示更新が行われていない状況であった。

県政の課題や高度化・複雑化した情報をわかりやすく知りたい、体験・交流の機会を求める県民のニーズに応え、琵琶湖博物館が拠点施設として次の時代に向けて「湖と人間」のこれからのかわりを問い続けていくために、展示と交流の情報発信力を高めるとともに、次世代を担う人材を育成する交流機能を充実する必要があった。

こうしたことから、2012 年度にリニューアルの方向性を示す「新琵琶湖博物館創造ビジョン」をまとめ、2013 年度に「新琵琶湖博物館創造基本計画」を策定し、2015 年から 2020 年まで 6 年をかけ、3 期に分けてリニューアル工事を行なった。

第 1 期として、2014 年度には、体感型・参加型展示や実物資料を多く取り入れた発信力の高い展示となるよう C 展示室と水族展示の実施設計を行い、2015 年度に展示および建設工事に着手し、2016 年 7 月のリニューアルオープンにより C 展示室と水族展示の再構築を図った。

第 2 期として、2016 年度に参加と発見、対話と交流を促し、次代を担う人が育つ交流拠点となるため交流空間の実施設計を行い、2017 年度に展示および建設工事に着手し、2018 年 3 月のミュージアムショップ、わくわく体験スペース（企画展示室）、4 月のミュージアムレストラン、地域団体と学校向け交流・休憩ゾーン（別館）、7 月のディスカバリールーム、おとなのディスカバリー、11 月の樹冠トレイルのオープンにより交流空間の再構築を図った。

さらに、第 3 期として、2018 年度に A 展示室と B 展示室の実施設計を行い、2019 年度に展示工事に着手した。

2020 年度は、新型コロナウイルス感染症対策のため、当初 7 月に予定していたグランドオープンが、博物館が 2 月 28 日から 6 月 1 日まで休館したことや、展示施工業者の感染防止対策等から工期が延長した。当初より 3 か月遅れたが、10 月に A・B 展示室が完成し、10 月 10 日にグランドオープンのセレモニーを行った。

琵琶湖博物館 年報
第 25 号 2020 年度（令和 3 年度）

令和 3 年（2021 年）10 月発行

編集：滋賀県立琵琶湖博物館

発行：滋賀県立琵琶湖博物館

〒525-0001 滋賀県草津市下物町 1091 番地

電話 077-568-4811